秋田県文化財調査報告書第316集

# 中　谷　地　遺　跡

―― 日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ ――

２００１・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

# 中谷地遺跡

なかやち

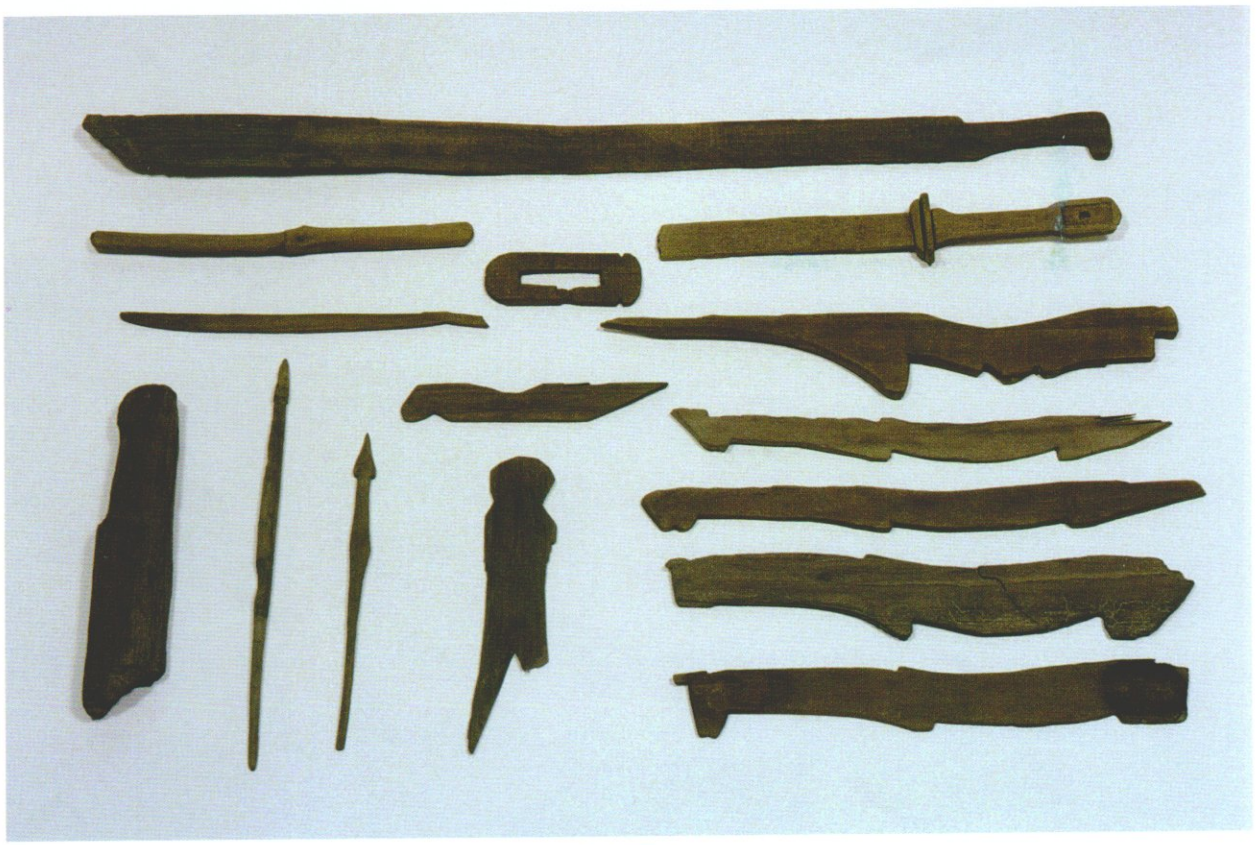
―― 日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ ――

２００１・３

秋田県教育委員会

航空写真（上が北西）

黒色処理された土師器



木製祭祀具

# 序

秋田県は豊かな自然に恵まれております。この豊かな自然の中で先人たちが育み、築き上げた歴史と文化がいろいろな形で受け継がれております。県土に刻まれた埋蔵文化財もそのひとつであります。

現代に生きる私たちは、産業や経済を発展させ生活の利便性を高め、より豊かな地域社会を形成したいという望みをもっております。と同時に、先人たちが築き上げた遺産の認識と保護を託されており、受け継がれてきた歴史と文化を損なうことなく、未来へと伝えて行くべき使命もあります。

高速交通体系の整備の一環として日本海沿岸東北自動車道建設事業が進められておりますが、当教育委員会では埋蔵文化財の保護と建設事業の円滑な推進を図るため、各種の調査結果をもとに事業者側と協議を進めて参りました。

工事区域内には、古代の集落跡である中谷地遺跡が存在することから、記録保存のため、平成11年度に発掘調査を実施しました。

調査の結果、古代の掘立柱建物跡、板材列、土坑などの遺構をはじめ、河川跡からはたくさんの墨書土器、祭祀具、木製品などの遺物が検出されました。

本書は、中谷地遺跡の調査記録をまとめたものでありますが、古代の集落跡を研究するうえでいささかでも役立てば幸いです。

最後に、発掘調査から本書の刊行に至るまで御協力いただきました日本道路公団東北支社秋田工事事務所、五城目町教育委員会をはじめ関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成13年３月

秋田県教育委員会
教育長　小　野　寺　清

# 例　言

1．本報告書は平成11年度に行われた中谷地遺跡の埋蔵文化財発掘調査の成果を収めたものである。

2．本報告書は日本海沿岸東北自動車道に係る埋蔵文化財発掘調査報告書としては第７冊目にあたる。

3．調査結果については、秋田県埋蔵文化財調査報告会資料（平成12年３月）等でも公表してきたが、本報告書の内容がそれらに優先する。

4．本報告書の草稿執筆は遺構については河田が、そのほかは三嶋が行い、編集は三嶋が行った。

5．第５章自然科学的分析のうち、第１節放射性炭素年代測定・樹種同定、第２節種実同定はパリノ・サーヴェイ株式会社に、第３節樹種同定、第４節定性定量分析は株式会社吉田生物研究所に委託し、その報告を掲載した。

6．一部の遺物の実測・トレースおよび写真撮影は、株式会社シン技術コンサルに業務委託した。

7．一部の木製品の保存処理を株式会社吉田生物研究所に委託した。

8．墨書土器の解読は平川南氏（国立歴史民俗博物館）、三上喜孝氏（米沢女子短期大学）よりご教示をいただいた。

9．建築材の資料検討は宮本長二郎氏（東北芸術工科大学）よりご教示をいただいた。

10．漆紙文書の解読は熊田亮介氏（秋田大学）、渡辺育子氏（秋田大学医療技術短期大学部）よりご教示をいただいた。

11．漆紙文書の赤外線写真は西谷隆氏（秋田城跡調査事務所）に撮影していただいた。

12．中国陶磁器の同定は、平泉町文化財センター八重樫忠郎氏、近世陶磁器の同定は（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの羽柴直人氏よりご教示をいただいた。

13．本報告書の作成にあたり、以下の方々・諸機関からご指導・ご助言をいただいた。記して謝意を表する。（敬称略・五十音順）

秋田城跡調査事務所、伊藤武士、大野憲司、岸本直文、小松正夫、坂井秀弥、庄内昭男、冨樫泰時、新野直吉、西谷隆、日野久

14．本報告書に使用した地形図は、国土地理院発行50,000分の１「五城目」である。

15．本報告書における土層注記中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修の「新版標準土色帖」（1997年版）によった。

# 凡　例

1．本報告書に収録した遺構実測図の方位は、真北を示す。原点（ＭＡ50）における真北と磁北との偏角は、西に13°30′である。

2．本報告書に収録した遺構実測図の縮尺は１/40・１/80を原則とした。

3．土層注記は、基本層位にローマ数字（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・・・）、遺構堆積土にはアラビア数字（１・２・３・・・）を用いた。

4．遺構番号は、その種別を問わず、プラン検出順に01から始まる２桁の連番を付したが、精査の過

程において遺構でないと判断したものは欠番となっている。

5．遺物実測図の縮尺は、土器は1/3を基本としたが、適宜異なる縮尺も用いた。木製品は1/3・1/4を基本としたが、柱状材・板状材は1/10・1/15、その他遺物の性格上これらに入らないものは縮尺を変えた。挿図にはそれぞれスケールを付した。

6．挿図の遺物実測図には、種別・器種を問わず通し番号を付した。それらは写真図版中の番号と対応する。

7．須恵器と土師器を区別するため、挿図中の須恵器の実測図断面を黒く塗りつぶした。

8．実測図以外の破片拓影図では、両面を採択した場合拓影は右側に外面、左側に内面を配した。外面のみの採択では、左側に配した。また底部の拓影は、上方に内面、下方に外面を配した。

9．木製品の実測図は正面図および横断面図を示すことを基本とし、必要により追加・省略した。木製品の木目は断面図の中に模式的に示した。

10．観察表中の番号は、遺物番号である。また内外面調整の口・胴は、それぞれ口縁部・胴部を示し、分類の項目は、本文中の分類である。

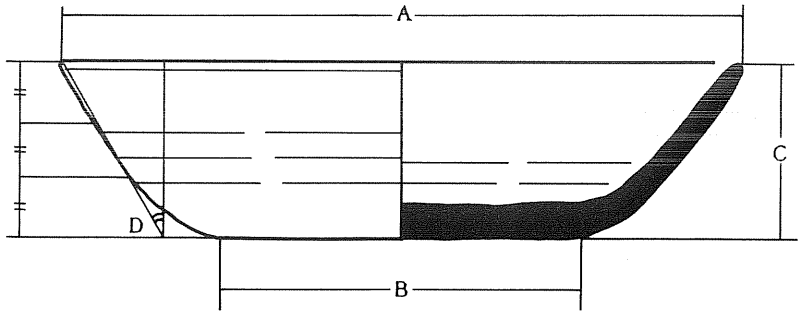
11．遺構の種類を表す際、下記の略号を用いる。

〈遺構〉　ＳＢ……掘立柱建物跡　　ＳＡ……板材列・柱列　　ＳＫ……土坑
　　ＳＴ……捨て場　　ＳＤ……溝跡　　ＳＬ……河川跡
　　ＳＫＰ……柱穴様ピット

12．挿図に使用したスクリーントーンは、下記の通りである。

炭化物の範囲　　柱根　　地山
炭化部分　　漆付着部分　　黒色処理

13．坏の法量計測基準は下図の通りである。




Ａ：口径　　Ｂ：底径　　Ｃ：器高　　Ｄ：外傾度

底径指数：$\frac{B}{A}$　　高径指数：$\frac{C}{A}\times 100$

坏の法量計測基準

# 目　次

巻頭図版
序
例言・凡例
目次
挿図目次・表・図版目次
第１章　はじめに ……1
　第１節　調査に至る経過 ……1
　第２節　調査の組織と構成 ……1
第２章　遺跡の立地と環境 ……2
　第１節　遺跡の位置と立地 ……2
　第２節　遺跡の歴史的環境 ……2
第３章　発掘調査の概要 ……8
　第１節　遺跡の概観 ……8
　第２節　調査の方法 ……8
　第３節　調査経過 ……10
第４章　調査の記録 ……11
　第１節　基本層位 ……11
　第２節　古代の遺構 ……11
　　1　掘立柱建物跡　2　板材列　3　杭列　4　柱列　5　土坑
　　6　捨て場　7　溝跡　8　河川跡
　第３節　古代の出土遺物 ……49
　　1　土器　2　木製品　3　土製品　4　石製品　5　金属製品
　　6　文字資料
　第４節　中世・近世の遺構 ……174
　　1　溝跡
　第５節　中世・近世の出土遺物 ……181
　　1　陶磁器　2　木製品　3　銭貨
第５章　自然科学的分析 ……202
　第１節　放射性炭素年代測定・樹種同定 ……202
　第２節　種実同定 ……204
　第３節　樹種同定 ……208
　第４節　定性定量分析 ……213
第６章　まとめ ……214
報告書抄録

# 挿　図　目　次


第１図　遺跡の位置 ……2
第２図　遺跡周辺の地形分類図 ……3
第３図　遺跡周辺の表層地質図 ……4
第４図　周辺の遺跡分布図 ……5
第５図　グリッド設定図 ……9
第６図　基本土層図……11
第７図　遺構配置図……12
第８図　ＳＢ15・73掘立柱建物跡 ……14
第９図　ＳＢ20掘立柱建物跡 ……15
第10図　ＳＢ31掘立柱建物跡 ……16
第11図　ＳＢ33掘立柱建物跡、ＳＤ40溝跡 ‥17
第12図　ＳＢ39掘立柱建物跡 ……18
第13図　ＳＢ41掘立柱建物跡 ……19
第14図　ＳＢ58掘立柱建物跡 ……20
第15図　ＳＢ60掘立柱建物跡 ……21
第16図　ＳＡ24板材列 ……23
第17図　ＳＡ24板材 ……25
第18図　ＳＡ24・29板材 ……26
第19図　ＳＡ48・49・61板材列、ＳＡ57杭列 27
第20図　ＳＡ28・29・32柱列 ……29
第21図　ＳＡ70・71柱列 ……30
第22図　ＳＫ02・05・09・10・25土坑……36
第23図　ＳＫ13・21・22・23土坑……37
第24図　ＳＫ35・36・37・43・44土坑……38
第25図　ＳＫ46・47・50土坑 ……39
第26図　ＳＫ51･52･53･54･55･59･64土坑 ‥40
第27図　ＳＫ62・66・69土坑、ＳＴ63捨て場 41
第28図　遺構内出土遺物（１） ……42
第29図　遺構内出土遺物（２） ……43
第30図　遺構内出土遺物（３） ……44
第31図　遺構内出土遺物（４） ……45
第32図　遺構内出土遺物（５） ……46
第33図　ＳＤ18・68溝跡 ……48
第34図　ＳＬ17河川跡全体図 ……50
第35図　ＳＬ17河川跡断面 ……51
第36図　ＳＬ17河川跡遺物出土状況（１）‥‥52
第37図　ＳＬ17河川跡遺物出土状況（２）‥‥53
第38図　ＳＬ27河川跡全体図 ……54
第39図　ＳＬ27河川跡断面 ……55
第40図　ＳＬ27河川跡遺物出土状況（１）‥‥56
第41図　ＳＬ27河川跡遺物出土状況（２）‥‥57
第42図　ＳＬ27河川跡遺物出土状況（３）‥‥58
第43図　ＳＬ27河川跡遺物出土状況（４）‥‥59
第44図　ＳＬ17河川跡出土遺物（１）……69
第45図　ＳＬ17河川跡出土遺物（２）……70
第46図　ＳＬ17河川跡出土遺物（３）……71
第47図　ＳＬ17河川跡出土遺物（４）……72
第48図　ＳＬ17河川跡出土遺物（５）……73
第49図　ＳＬ17河川跡出土遺物（６）……74
第50図　ＳＬ17河川跡出土遺物（７）……75
第51図　ＳＬ17河川跡出土遺物（８）……76
第52図　ＳＬ17河川跡出土遺物（９）……77
第53図　ＳＬ17河川跡出土遺物（10）……78
第54図　ＳＬ17河川跡出土遺物（11）……79
第55図　ＳＬ17河川跡出土遺物（12）……80
第56図　ＳＬ17河川跡出土遺物（13）……81
第57図　ＳＬ17河川跡出土遺物（14）……82
第58図　ＳＬ17河川跡出土遺物（15）……83
第59図　ＳＬ17河川跡出土遺物（16）……84
第60図　ＳＬ17河川跡出土遺物（17）……85
第61図　ＳＬ17河川跡出土遺物（18）……86
第62図　ＳＬ17河川跡出土遺物（19）……87
第63図　ＳＬ17河川跡出土遺物（20）……88
第64図　ＳＬ17河川跡出土遺物（21）……89
第65図　ＳＬ17河川跡出土遺物（22）……90
第66図　ＳＬ17河川跡出土遺物（23）……91
第67図　ＳＬ17河川跡出土遺物（24）……92
第68図　ＳＬ17河川跡出土遺物（25）……93
第69図　ＳＬ17河川跡出土遺物（26）……94
第70図　ＳＬ17河川跡出土遺物（27）……95
第71図　ＳＬ17河川跡出土遺物（28）……96
第72図　ＳＬ17河川跡出土遺物（29）……97
第73図　ＳＬ17河川跡出土遺物（30）……98
第74図　ＳＬ17河川跡出土遺物（31）……99
第75図　ＳＬ17河川跡出土遺物（32）……100
第76図　ＳＬ17河川跡出土遺物（33）……101
第77図　ＳＬ17河川跡出土遺物（34）……102
第78図　ＳＬ17河川跡出土遺物（35）……103
第79図　ＳＬ17河川跡出土遺物（36）……104
第80図　ＳＬ17河川跡出土遺物（37）……105
第81図　ＳＬ17河川跡出土遺物（38）……106
第82図　ＳＬ27河川跡出土遺物（１）……107
第83図　ＳＬ27河川跡出土遺物（２）……108
第84図　出土木製品（１）……122
第85図　出土木製品（２）……123
第86図　出土木製品（３）……124
第87図　出土木製品（４）……125
第88図　出土木製品（５）……126
第89図　出土木製品（６）……127
第90図　出土木製品（７）……128

第 91 図　出土木製品（8）　……129
第 92 図　出土木製品（9）　……130
第 93 図　出土木製品（10）　……131
第 94 図　出土木製品（11）　……132
第 95 図　出土木製品（12）　……133
第 96 図　出土木製品（13）　……134
第 97 図　出土木製品（14）　……135
第 98 図　出土木製品（15）　……136
第 99 図　出土木製品（16）　……137
第100図　出土木製品（17）　……138
第101図　出土木製品（18）　……139
第102図　出土木製品（19）　……140
第103図　出土木製品（20）　……141
第104図　出土木製品（21）　……142
第105図　出土木製品（22）　……143
第106図　出土木製品（23）　……144
第107図　出土木製品（24）　……145
第108図　出土木製品（25）　……146
第109図　出土木製品（26）　……147
第110図　出土木製品（27）　……148
第111図　出土木製品（28）　……149
第112図　出土木製品（29）　……150
第113図　出土木製品（30）　……151
第114図　出土木製品（31）　……152
第115図　出土木製品（32）　……153
第116図　出土木製品（33）　……154
第117図　出土木製品（34）　……155
第118図　出土木製品（35）　……156
第119図　出土木製品（36）　……157
第120図　出土木製品（37）　……158
第121図　出土木製品（38）　……159
第122図　出土木製品（39）　……160
第123図　出土木製品（40）　……161
第124図　出土木製品（41）　……162
第125図　出土木製品（42）　……163
第126図　出土木製品（43）　……164
第127図　出土木製品（44）　……165
第128図　出土木製品（45）　……166
第129図　出土木製品（46）　……167
第130図　出土木製品（47）　……168
第131図　遺構外出土遺物（1）　……170
第132図　遺構外出土遺物（2）　……171
第133図　遺構外出土遺物（3）　……172
第134図　遺構外出土遺物（4）　……173
第135図　金属製品　……173
第136図　文字資料（1）　……175
第137図　文字資料（2）　……176
第138図　文字資料（3）　……177
第139図　文字資料（4）　……178
第140図　文字資料（5）　……179
第141図　文字資料（6）　……180
第142図　ＳＤ12・19溝跡　……182
第143図　ＳＤ14溝跡　……183
第144図　出土遺物（1）　……184
第145図　出土遺物（2）　……185

# 表　目　次

第１表　周辺の遺跡　……6
第２表　遺構内出土遺物観察表　……186
第３表　ＳＬ17河川跡出土遺物観察表　……186
第４表　ＳＬ27河川跡出土遺物観察表　……193
第５表　木製出土品観察表　……193
第６表　遺構外出土遺物観察表　……199
第７表　金属製品観察表　……200
第８表　墨書土器観察表　……200
第９表　ヘラ書土器観察表　……201
第10表　漆紙文書付着土器観察表　……201

# 図　版　目　次

巻頭図版
図版１　調査風景
図版２～６　検出遺構
図版７～11　出土土器
図版12～17　出土木製品
図版18～19　文字資料
図版20　自然科学的分析（木材・種実遺体）

# 第１章　はじめに

## 第１節　調査に至る経過

日本海沿岸東北自動車道は、平成９年２月に新潟市～青森市までの全区間が路線の指定を受けている。秋田県におけるそれまでの路線名は、日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線（象潟～秋田間）及び秋田琴丘線となっていた。中谷地遺跡に係る昭和町～琴丘町間の20.7kmについては、平成３年12月に整備計画区間に決定され、平成５年12月の実施計画認可を経て平成６年11月に路線が発表された。日本道路公団では、この計画路線内に埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、文化財保護法に基づき秋田県教育委員会に調査と指導を依頼した。

これを受けて秋田県教育委員会は、路線上の埋蔵文化財の確認のため平成８年の９・12月に分布調査を実施し、周知の遺跡３カ所と新たに発見した遺跡16カ所の計19遺跡を確認し、いずれも範囲確認調査が必要であるとの結果を提出した。

中谷地遺跡の範囲確認調査は、68,000㎡を対象として平成10年５月に実施し、この結果遺跡は奈良～平安時代の集落跡であり、工事区域内遺跡面積は8,100㎡であることがわかった。なお、今回の調査の対象となったのは、このうちの２車線部分の7,700㎡である。

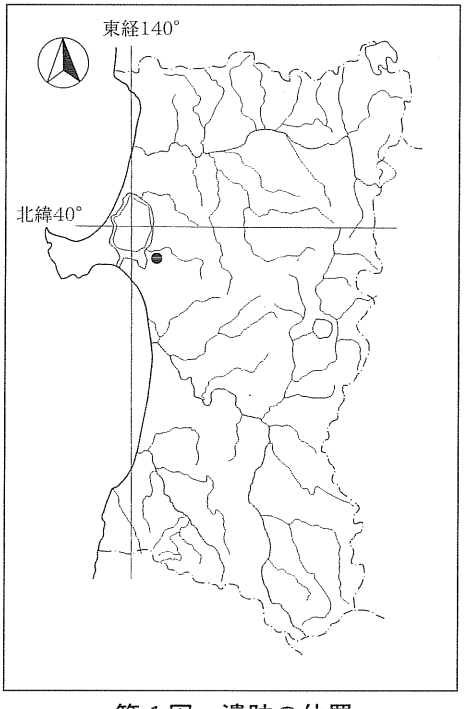
## 第２節　調査の組織と構成

| | |
|---|---|
| 遺　跡　名 | 中谷地遺跡（なかやちいせき）（略号４ＮＹＴ） |
| 所　在　地 | 秋田県南秋田郡五城目町大川谷地中字谷地６外 |
| 調査期間 | 1999（平成11）年５月13日～10月22日 |
| 調査目的 | 日本海沿岸東北自動車道秋田琴丘線建設事業 |
| 調査面積 | 7,700㎡ |
| 調査主体者 | 秋田県教育委員会 |
| 調査担当者 | 三嶋　隆儀　（秋田県埋蔵文化財センター調査課秋田北分室学芸主事） |
| | 河田　弘幸　（　同　調査課秋田北分室学芸主事） |
| | 成田　雄毅　（　同　調査課秋田北分室非常勤職員） |
| | 浅野　耕平　（　同　調査課秋田北分室非常勤職員） |
| 総務担当者 | 佐藤　　悟　（　同　総務課長） |
| | 菅原　　晃　（　同　総務課主査：現県立横手工業高等学校事務長補佐） |
| | 荒井　信行　（　同　調査課秋田北分室主査：現県立二ツ井高等学校事務長補佐） |
| | 嶋田　敏輝　（　同　調査課秋田北分室主査） |
| | 佐々木敬隆　（　同　総務課主事） |
| | 八文字　隆　（　同　総務課主事） |
| 調査協力機関 | 日本道路公団東北支社秋田工事事務所　　五城目町教育委員会 |

# 第２章　遺跡の立地と環境

## 第１節　遺跡の位置と立地

中谷地遺跡の所在する秋田県南秋田郡五城目町は、秋田県のほぼ中央部の日本海沿岸寄り八郎潟の東部に位置する。本町は古くから県北と中央を結ぶ五城目街道の要衝として発展してきた町で、現在でも毎月行われる朝市は、海や山からの人や物資が集まる約500年続く伝統ある行事である。中谷地遺跡は、町の南隣の井川町から国道285号線を北上してすぐの五城目町役場から南西約1.5km、ＪＲ奥羽本線八郎潟駅から南東約３kmの地点にある。地理的には、北緯39°55′46″、東経140°06′30″に位置する。



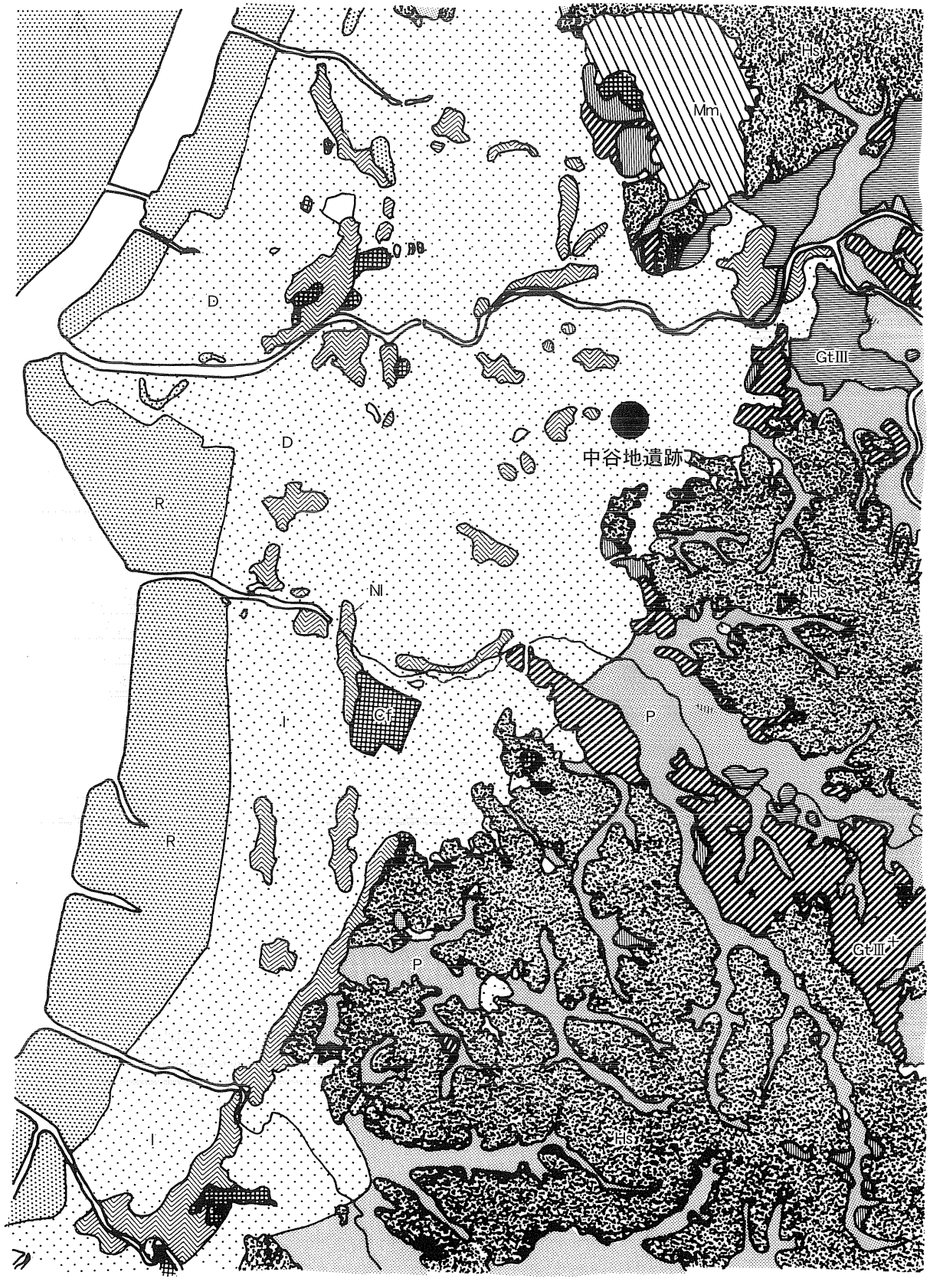
**第１図　遺跡の位置**

遺跡周辺の地形は、『土地分類基本調査五城目』によると、東部山岳地帯から八郎潟残存湖に向けて大きく山地、丘陵地、段丘、低地に分けられる。東部の山地は、南北方向に延長性をもつ俎山（781.8m）山地、薬師山（394.3m）山地、赤倉山（397.8m）山地に三区分される。これら山地の西に、ほぼ120m～160mの等高線を境にして高度50m～100mの定高性をもつ一連の等頂丘陵面が発達する。この山地、丘陵地に源を発して鯉川川、馬場目川、井川、豊川および馬踏川の５河川がすべて八郎潟にそそぎ、河谷にはそれぞれ高低数段の河成段丘面が発達する。丘陵地の西縁崖直下には海抜高度10m以下の湖東沖積低地が発達する。この低地は、北は山本郡琴丘町鯉川より南の秋田市金足まで、東は丘陵地末端崖線直下より西の八郎潟残存湖湖岸線まで広がる、縄文海進以降の海面低下に伴って形成された湖岸平野である。中谷地遺跡は、馬場目川下流域左岸の標高６m前後の湖岸平野の河原、旧河道、自然堤防の発達した中にある。

本遺跡付近は最も上層である新生代第四紀沖積世の沖積層からなり、表層地質は軟弱な粘土、シルトなどを主とした泥がち堆積物（ｍａ）と砂がち堆積物３（ｓａ３）で、腐植物、砂、礫などを介在することもある。また周辺の土壌は水稲の生産に適する強グライ系のもの（富曽亀統、田川統、東浦統）で、ほとんどが水田として利用されている。

## 第２節　遺跡の歴史的環境

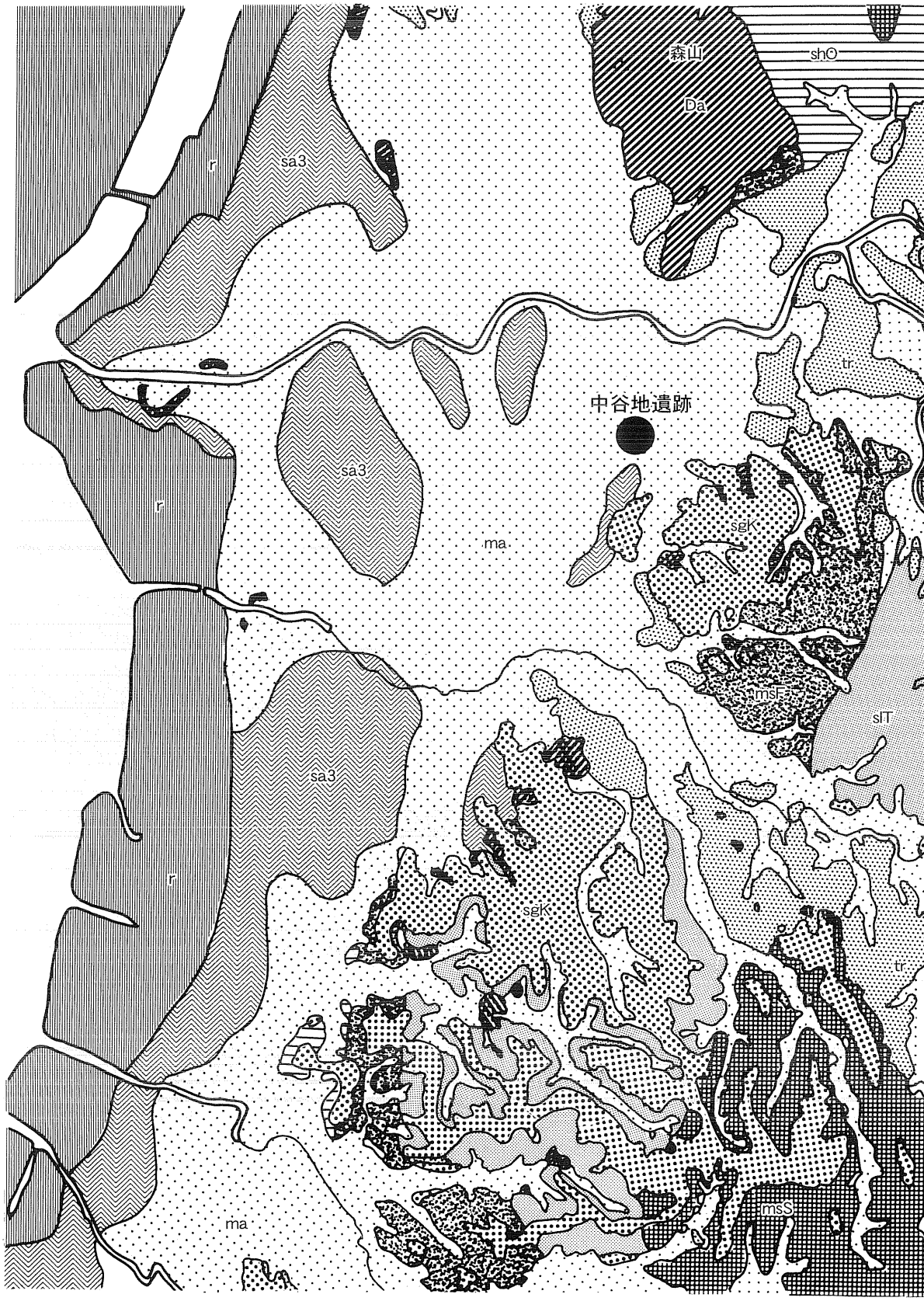
中谷地遺跡のある湖岸平野では縄文時代の遺跡は確認されておらず、中谷地遺跡を含む古代以降の遺跡が存在する。縄文時代の遺跡はこの湖岸平野の東側段丘・丘陵地に存在する。ここでは中谷地遺跡周辺の縄文時代から近世にかけての主な遺跡を概観してみる（第４図、第１表）。




I(湖岸平野)、D(三角州)、R(干拓)、NI(自然堤防)
Hs(丘陵地Ⅱ)、P(谷底平野)、GtⅢ$^{+}$(砂礫段丘Ⅲ$^{+}$)
Mm(中起伏山地)

0　(1:50,000)　2.5km

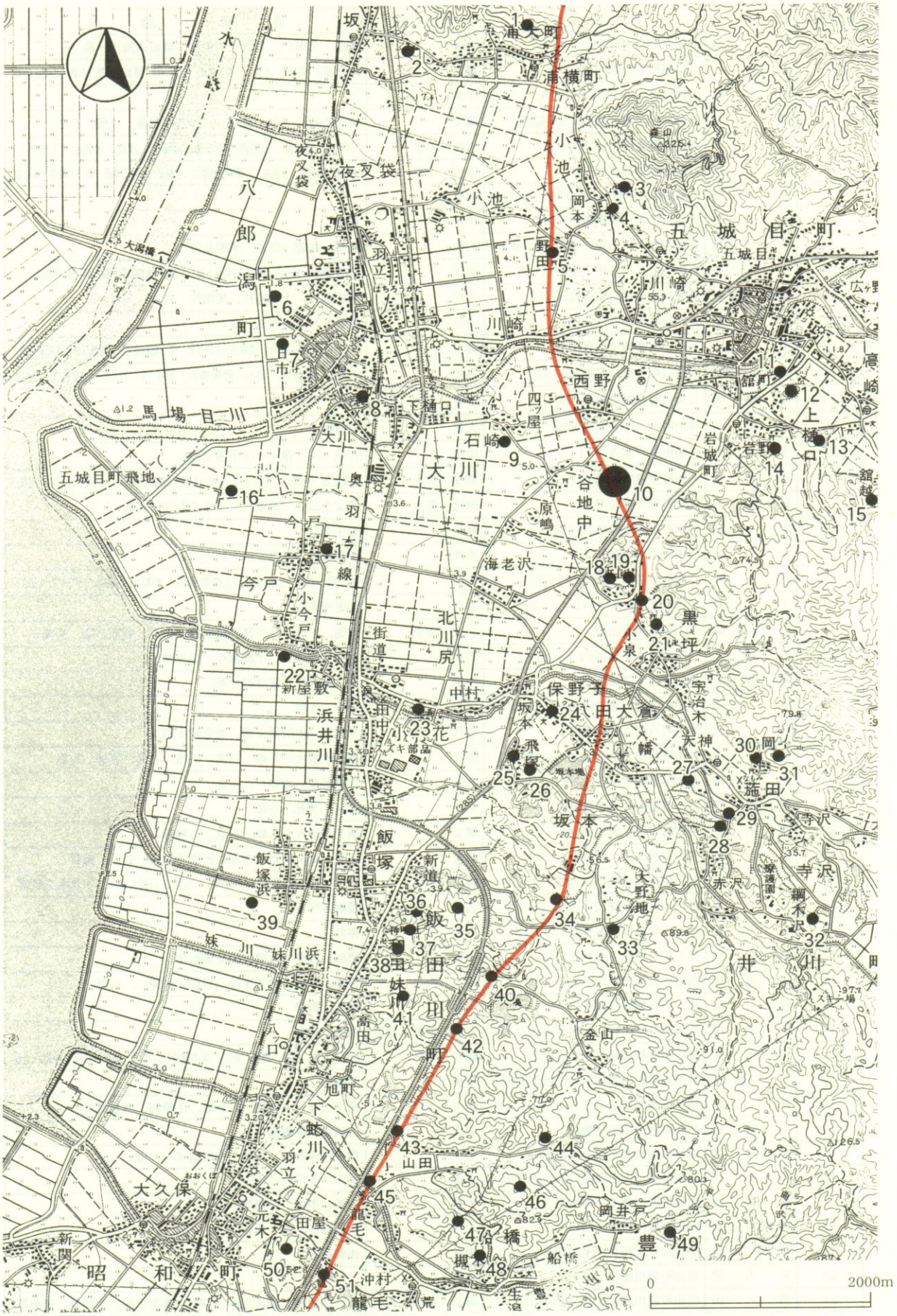
第２図　遺跡周辺の地形分類図




ma（泥がち堆積物）、sa3（砂がち堆積物3）、r（泥・砂および礫）
sgK（砂礫層）、msF（泥岩）、tr（砂および礫）、Da（石英安山岩）
shO（珪質頁岩）、slT（シルト岩）、msS（泥岩）

0　(1:50,000)　2.5km

第３図　遺跡周辺の表層地質図




第４図　周辺の遺跡分布図

| 地図番号 | 遺　跡　名 | 所　在　地 | 主な時代 | 遺　構　・　遺　物 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 浦　城 | 八郎潟町浦大町字里ヶ久38 | 中世 | 青磁、黄瀬戸、志野・明染付、越前系陶片　他 |
| 2 | 沢　田　Ⅰ | 八郎潟町真坂字沢田43外 | 縄文 | 縄文土器片（中期）、土偶、三角土製品、三脚石器、滑車型耳飾、石鏃、石匙、石篦 |
| 3 | 岡　本　城 | 五城目町小池字森山下83外 | 中世 | |
| 4 | 岡　本 | 五城目町小池字森山下88-45外 | 縄文 | 縄文土器片（中・後期）、竪穴住居跡、土偶、石器 |
| 5 | 北 | 五城目町野田字北38外 | 古代・中世 | 井戸跡、便所跡、土師器、須恵器、陶磁器、漆器、木製品（木簡等） |
| 6 | 蒲　沼 | 八郎潟町字蒲沼151外 | 古代・近世 | 土師器、須恵器、土製品、初期伊万里染付、木製品、唐津系陶器、瀬戸系陶器、陶磁器 |
| 7 | 押　切　城 | 八郎潟町字中嶋338外,字嶋ノ内179外 | 中世 | |
| 8 | 大　川　城 | 五城目町大川字東屋布138外 | 中世 | 板碑 |
| 9 | 石　崎 | 五城目町大川下樋口字道の下10外 | 古代 | 柵列、柱脚、陶硯、木製品等 |
| 10 | 中　谷　地 | 五城目町大川谷地中字谷地６外 | 古代 | 掘立柱建物跡、板材列、河川跡、墨書土器、木製品（人形、田下駄、鋤、槽、曲物等）他 |
| 11 | 雀館古代井戸 | 五城目町上樋口字堂社30-3 | 古代 | 須恵器片、土師器片、黒陶片、枠木、矢板 |
| 12 | 雀　館 | 五城目町高崎字八田7外 | 中世 | 青磁片、黄瀬戸片、礎石 |
| 13 | 中　山 | 五城目町高崎字中泉田26 | 縄文 | 縄文土器（後期・晩期）、漆製品（木胎漆器、櫛、籃胎漆器）、漆濃し布、漆液容器類 |
| 14 | 岩野山古墳群 | 五城目町上樋口字樽沢214外 | 古代 | 土師器、須恵器、勾玉、腰帯飾石、蕨手刀、刀子、毛抜大刀、鉄鏃 |
| 15 | 館　越　館 | 五城目町館越字館回72外 | 中世 | 空堀、帯郭 |
| 16 | 大　関　尻 | 井川町今戸字大関尻潟端 | 古代 | 木製鍬 |
| 17 | 寺　ノ　内 | 井川町今戸字寺内34ノ1 | 中世 | 古銭（開元通宝、活平通宝他） |
| 18 | 新　間　Ａ | 井川町黒坪字新間177、178 | 縄文・弥生 | 縄文土器（晩期）、弥生土器（内、３個が籾痕土器片）、石鏃、石斧、石錘 |
| 19 | 新　間　Ｂ | 井川町黒坪字新間197 | 縄文・弥生 | 縄文土器片（晩期）、弥生土器片、石匙 |
| 20 | 越　雄 | 井川町黒坪字越雄16-1外 | 弥生 | 弥生土器 |
| 21 | 小　泉 | 井川町黒坪越雄３～５ | 古代 | 土師器片、須恵器片、丸玉 |
| 22 | 洲　崎 | 井川町浜井川字洲崎271～335 | 中世 | 井戸跡、掘立柱建物跡、人魚供養札、木製品（曲物、サバマス等） |
| 23 | 下　村 | 井川町北川尻字下村24-1～24-3 | 古代 | 墨書須恵器 |
| 24 | 坂本湊城 | 井川町坂本字山崎 | 古代・中世 | 空堀、土塁、井戸跡、須恵器、刀子、黄瀬戸片、木椀 |
| 25 | 飛　塚　Ⅰ | 井川町坂本字飛塚24-1～24-50 | 古代 | 墨書土師器及び土師器片、須恵器片 |
| 26 | 飛　塚　Ⅱ | 井川町坂本字飛塚50-7 | 中世 | 鉢、壺破片、擂鉢破片等 |
| 27 | 築　館 | 井川町九田大倉字南台234,237,238 | 中世 | 空堀、土塁 |
| 28 | 南　台 | 井川町八田大倉字南台 | 古代 | 骨蔵器（土師器１個、須恵器１個） |
| 29 | 野　畑 | 井川町蓮田字野畑114-1～130 | 縄文 | 縄文土器片、石鏃、石匙、石槍、石斧、石錘、石皿 |
| 30 | 羽　根　田 | 井川町施田字羽根田79-1、79-2 | 古代 | 土師器壺（骨壺）、人骨 |
| 31 | 館　岡　館 | 井川町施田字羽根田89外 | 中世 | 腰郭、帯郭、空堀 |
| 32 | 綱　木　沢 | 井川町寺沢字綱木沢165-1 | 縄文 | 縄文土器片、石鏃、石匙、石錘等 |
| 33 | 大　野　地 | 井川町坂本字大野地300～305 | 縄文 | 土坑、縄文土器（中期）円筒下層式、石器、獣骨 |
| 34 | 古　開　Ⅱ | 飯田川町和田妹川字古開241-1外 | 縄文・古代 | 竪穴住居跡、縄文土器（中期）、石匙、石篦、磨石、土師器、須恵器 |
| 35 | 古　開 | 飯田川町和田妹川字古開250-1外 | 古代 | 須恵器坏 |
| 36 | 小　玉　館 | 飯田川町飯塚字水神端134、135 | 中世 | 帯郭 |
| 37 | 築　掛　館 | 飯田川町飯塚字僧ヶ沢63-3 | 中世 | 帯郭、空堀、板碑（南北朝紀年） |
| 38 | 鷲　尾　館 | 飯田川町和田妹川字坂の下20 | 縄文・中世 | 帯郭、空堀、縄文土器（後期・晩期）、石鏃 |
| 39 | 観　音　寺 | 飯田川町飯塚字観音尻60、61 | 中世 | 礎石、板碑 |
| 40 | 鹿　来　館 | 飯田川町和田妹川字鹿来20－１外 | 古代・中世・近世 | 帯郭、空堀 |
| 41 | 鬼　王　館 | 飯田川町和田妹川字大宮沢５ | 縄文・中世 | 帯郭、空堀、段築、焼米、鉄滓、唐津焼破片、石鏃、縄文（後期・晩期）土器 |
| 42 | 六ツ鹿沢 | 飯田川町和田妹川字六ツ鹿沢53外 | 中世 | 陶磁器 |
| 43 | 西　野 | 昭和町豊川山田字家ノ上118－１外 | 縄文・古代 | 縄文土器片（後期）、石鏃、土師器、須恵器片 |
| 44 | 八　幡　台 | 昭和町豊川山田字畳沢 | 中世 | 五輪塔風空輪部 |
| 45 | 毘　沙　門 | 昭和町豊川龍毛字上斉藤田12 | 近世 | 掘立柱建物跡、古銭（永楽通宝）、桶 |
| 46 | 山　田　館 | 昭和町豊川山田字滝の沢、砂子沢 | 中世 | 焼米、茶臼受け皿片 |
| 47 | 極　楽　館 | 昭和町豊川龍毛字塩辛田１ | 中世 | 主郭、帯郭、空堀等 |
| 48 | 槻木盛土墳 | 昭和町豊川槻木字塔田７ | 古代 | 須恵器片、壺、葺石 |
| 49 | 岡井戸館 | 昭和町豊川岡井戸字前田外 | 中世 | 帯郭数段 |
| 50 | 元　木　館 | 昭和町豊川龍毛字開沢 | 中世 | |
| 51 | 後　山 | 昭和町豊川龍毛字後山25－3外 | 縄文・弥生・古代 | 竪穴住居跡、縄文土器（中期）、弥生土器、土師器、須恵器 |

**第１表　周辺の遺跡**

縄文時代では、前期中葉の井川町の大野地遺跡（33）と中期前葉の集落遺跡である八郎潟町の沢田遺跡（２）がある。それぞれ円筒土器と大木式土器が共伴し、南北の土器の交流を検討する上で貴重な資料となった。後期末から晩期にかけての遺跡として五城目町の中山遺跡（13）がある。中山遺跡は古くから知られていた遺跡で、1982・83（昭和57・58）年に開発計画に伴って発掘調査が行われ、湿地帯の泥炭層の中から縄文時代晩期前半の編布（アンギン）、籃胎漆器、木胎漆器、赤色漆塗り丸木弓、乾漆櫛、樹皮製品などが発見された。

弥生時代の遺跡では、井川町の新間Ａ・Ｂ遺跡（18・19）がある。新間Ａ遺跡からは籾痕のついた弥生土器が発見され、八郎潟の対岸である若美町の志藤沢遺跡に次いで秋田県では二番目の稲作農耕を裏付ける資料となった。越雄遺跡（20）は新発見の遺跡で2000（平成12）年発掘調査された。

古代の遺跡としては、中谷地遺跡との関連で注目される遺跡が二つある。一つは、岩野山古墳群（14）で1961（昭和36）年より３回にわたって調査が行われ、８世紀中ごろから10世紀にかけての古墳を含む遺構が30基確認された。もう一つは、1967（昭和42）年から三次にわたって調査された石崎遺跡（9）である。調査の結果柵列や櫓跡が確認され、秋田郡衙跡あるいは秋田城の可能性があると考えられている。中谷地遺跡は、この二つの遺跡のほぼ中間地点にあり、しかも時代が近いことからその関連性が注目される。そのほか、須恵器坏や黒色処理された土師器壺などが出土した平安時代初期と考えられる五城目町の雀館古代井戸（11）などがある。

中世以降の遺跡としては、1997・98（平成９・10）年に発掘調査された洲崎遺跡（22）がある。洲崎遺跡では、多くの井戸跡や掘立柱建物跡などの遺構が発見され中世の大規模な集落跡であることがわかった。また多量に出土した遺物の中で杉板に墨書された人魚供養札は全国的にも注目された。北遺跡（５）は新発見の遺跡で、1999（平成11）年の発掘調査で15基の井戸跡が発見された。そのほか、八郎潟南東部には中世から近世にかけての板碑と城館跡が多く周知されている。

参考文献

秋田県農政部農地整備課　『土地分類基本調査　五城目』　1973（昭和48）年

五城目町　『五城目町史』　1975（昭和50）年

秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図（中央版）』　1990（平成２）年

井川町教育委員会　『大野地遺跡発掘調査報告書』　1988（昭和63）年

五城目町教育委員会　『中山遺跡発掘調査報告書』　1983（昭和58）・1984（昭和59）・1990（平成２）年

小武海松四郎　『籾痕土器をともなう秋田県南秋田郡井川町新間遺跡遺物について』　1977（昭和52）年

五城目町教育委員会　『岩野山古墳群第３次発掘調査報告書』　1975（昭和50）年

五城目町教育委員会　『石崎遺跡発掘調査報告　第１－第３回合報』　1975（昭和50）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第291集　1999（平成11）年

秋田県教育委員会　『洲崎遺跡発掘調査報告書－県営ほ場整備事業（浜井川地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』　秋田県文化財調査報告書第303集　2000（平成12）年

# 第３章　発掘調査の概要

## 第１節　遺跡の概観

中谷地遺跡は、五城目町の中央南端、八郎潟南東部に注ぐ馬場目川下流域左岸の標高６ｍ前後の平坦な沖積平野に位置する。馬場目川は古来幾度となく氾濫を繰り返し、遺跡周辺に旧河道や自然堤防の痕跡を残している。遺跡の東側は直線距離0.75kmで平坦な丘陵地帯につきあたり、西側は広大な水田地帯が広がり4.75kmで八郎潟残存湖に至る。前述の岩野山古墳群・石崎遺跡とは、直線距離にしてそれぞれ東北東0.75km、西北西0.5kmに位置する。

遺跡の現況は遺跡中央の農道と水路に挟まれた部分が畑地であとはすべて水田である。今回の調査区域は計画路線内の7,700㎡であるが、遺跡は調査区の両側に広がると予想される。

## 第２節　調査の方法

### １　調査区の設定

調査はグリッド法でおこなった（第５図）。対象面積全域にグリッドを設定するため、計画路線の基準杭ＳＴＡ．No．91＋00中心杭を原点（ＭＡ50）とし、この原点から真北方向に基準点を選定し、この基準点に直行する４ｍ×４ｍのグリッドを設定した。また18ヶ所の杭をレベル原点とした。グリッド杭には東から西に向かって東西方向を示す…ＬＳ・ＬＴ・ＭＡ・ＭＢ…というアルファベットと、南から北に向かって南北方向を示す…48・49・50・51…の２桁の数字を組み合わせた記号を記入し、各グリッド杭に両者を組み合わせ、各グリッドの呼称は南東隅の記号（ＭＡ50など）を用いた。

### ２　発掘方法及び記録作成

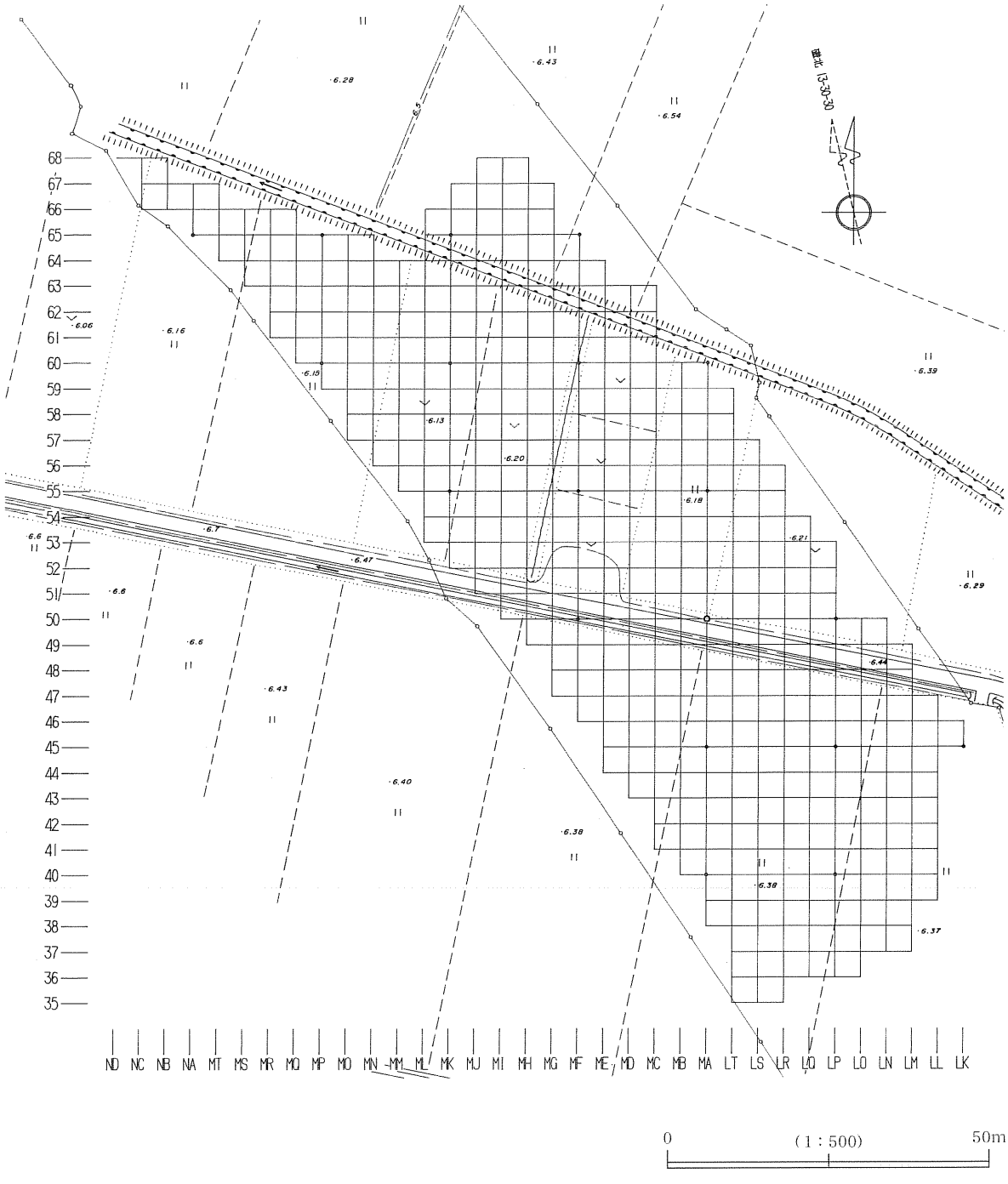
調査は範囲確認調査の結果に基づき、重機を用いて表土除去を行い、その後にグリッド杭を打設した。遺構確認面で精査を行い、遺構の確認および遺物の取り上げ等を行った。

遺構は種類別に略号を付し、検出順に連番で遺構番号を付けた。原則として半截または十字に土層断面観察用のベルトを残して、２または４分割法による精査を行った。河川跡については、２～３ヶ所にベルトを残し土層観察を行った。

遺物はグリッド単位に取り上げ、出土した層位、グリッド名または遺構名、年月日を記入した耐水性荷札を添付した。遺物番号を付したものの一部は、トータルステーションで出土地点及び出土レベルを測定した。

実測図の作成は、トータルステーションとグリッド杭と間尺とを組み合わせた手測量で遺構の平面図を作成した。断面図には土色・堅さ・しまり・土性・混入物を注記し、必要に応じてエレベーション図も作成した。遺構の平面・断面図は、基本的に１／20とした。

発掘調査における写真撮影は、遺跡や遺構・遺物を対象とする地上撮影を行い、発掘終了の際には全景を写すためローリングタワーを使用した。写真は、35mmのモノクロフィルム、ネガカラーフィルム、カラーリバーサルフィルムを使用した。




第５図　グリッド設定図

## ３　室内整理

各遺構は、現場で作成した図を第１原図とし、これを遺跡管理システムに取り込んで第２原図を作成し、トレースした。

遺物は、洗浄・注記の後、報告書に記載する遺物の選別を行い、その後基本的に１/１、建築材は１/２で実測図を作成し、報告書に掲載するにあたっては適宜縮尺を変えトレースした。図にはスケールを入れて示してある。また、土器片などは拓影図の作成をあわせて行い、これらの作業の後、写

真撮影を行った。

## 第３節　調査経過

調査に先立ち、調査区内の表土除去を４月27日から30日まで実施した。表土除去が終了した後にグリッド杭打設を行った。

５月13日：調査開始。発掘機材等の搬入、環境整備を行った。５月24日：庄司文化課長・武藤学芸主事来跡。ＳＫ01・02土坑確認。５月31日：ＳＤ14溝跡確認。

６月４日：小林達雄氏、冨樫泰時図書館長、大野文化課課長補佐、武藤学芸主事来跡。６月８日：ＳＢ15掘立柱建物跡確認。６月17日：道路公団側から調査区西側部分にパイロット道路を早めに通したいとの要請があり、調査区西側部分７ｍ幅部分の調査を優先して行うこととなった。６月23日：ＳＤ19溝跡より「寛永通寶」出土。ＳＬ17河川跡・ＳＢ20掘立柱建物跡確認。６月28日：発掘作業員健康診断。６月29日：五城目町文化財審議委員来跡。

７月５日：遺構外より墨書土器出土。板材列をＳＡ24板材列とした。７月６日：ＳＬ27河川跡の掘り下げを開始した。７月９日：ＳＬ27河川跡より田下駄出土。７月22日：ＳＬ27河川跡より刀鞘出土。７月27日：最高気温35度を記録した。ＳＬ27河川跡より53cmの刀形祭祀具出土。７月28日：ＳＬ27河川跡より樺皮を巻いた刀鞘とヘラ状木製品出土。

８月２日：小玉薫馬場目小学校教諭、秋田県埋蔵文化財センターチャレンジ研修開始～６日、ＳＬ17河川跡より鋤出土。８月４日：三浦所長、櫻田課長補佐来跡。ＳＬ17河川跡より「太」の字の焼印の入った曲物が２個並んで出土。８月18日：調査区西側パイロット道路部分の調査をすべて終了した。８月23日：ＳＫ44確認面より勾玉出土。

９月８日：新野直吉博物館長、庄内昭男博物館課長補佐来跡。９月９日：ＳＬ17河川跡より人形祭祀具、墨書土器「井」・「手」・「玉」出土。９月13日：ＳＬ17河川跡より馬形祭祀具出土。９月16日：秋田市教育委員会小松正夫氏来跡。９月22日：文化庁調査官岸本直文氏、武藤学芸主事来跡。９月27日：ＳＬ17河川跡より篦・刳物（槽）・鐙・櫛出土。９月29日：文化庁調査官小林克氏来跡。ＳＬ17河川跡より長さ114cm、幅47cmの槽出土。

10月４日：冨樫泰時図書館長来跡。10月５日：文化庁調査官坂井秀弥氏、武藤学芸主事来跡。10月12日：秋田城跡調査事務所長日野久氏来跡。10月16日：現地説明会を行った。100名以上の参加者が訪れた。10月18日：馬場目小学校教諭１名、児童４名を引率し来跡。10月20日：ラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。10月21日：大川小学校教諭１名、児童14名を引率し来跡。10月22日：調査終了。

# 第４章　調査の記録

## 第１節　基本層位

遺跡調査区の現況は、遺跡中央部に畑地が見られるほかは大部分が水田として利用されていた。遺跡の基本層位は、微高地である畑地部分（主にＳＬ17・ＳＬ27河川跡に挟まれた地域）と低湿地帯である水田部分では大きく異なる。以下畑地部分と水田部分を分けて略述する。

畑地部分　Ⅰ層　黒褐色（10ＹＲ3/1）土、耕作土で層厚は0.4～0.5m

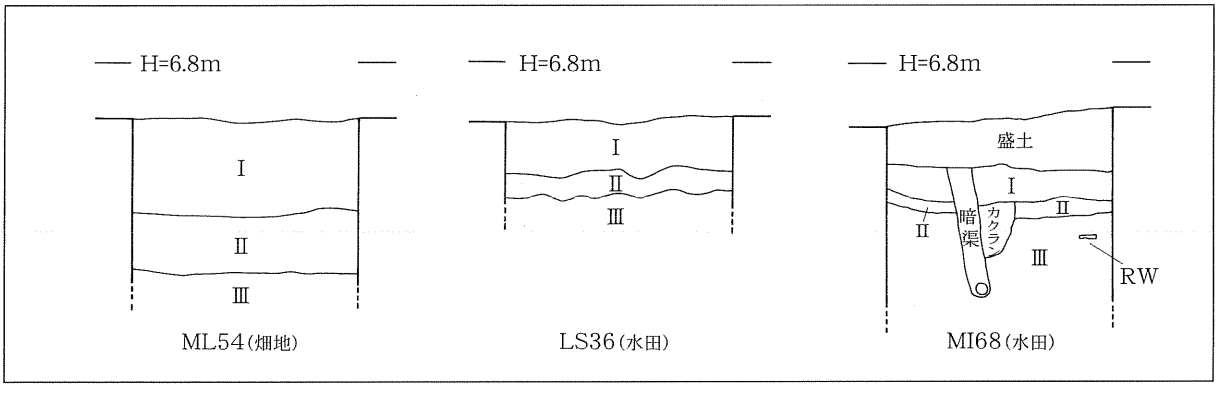
Ⅱ層　にぶい黄褐色（10ＹＲ4/3）土、地山で層厚は0.25～0.3m

Ⅲ層　緑灰色（５Ｇ5/1）土、強粘質土

水田部分　Ⅰ層　黒褐色（10ＹＲ3/1）土、耕作土で層厚は0.2～0.3m

Ⅱ層　黒色（7.5ＹＲ2/1）土、攪乱をうけていて層厚は0.05m程度で部分的にはなくなる古代の遺物を含む

Ⅲ層　暗緑灰色（7.5ＹＲ3/1）土、粘質土で植物遺体を多量に含む




**第６図　基本土層図**

## 第２節　古代の遺構

検出遺構は、掘立柱建物跡９棟、板材列４列、杭列１列、柱列５列、土坑27基、捨て場１カ所、溝跡２条、河川跡３条で、微高地部分に遺構が集中している。

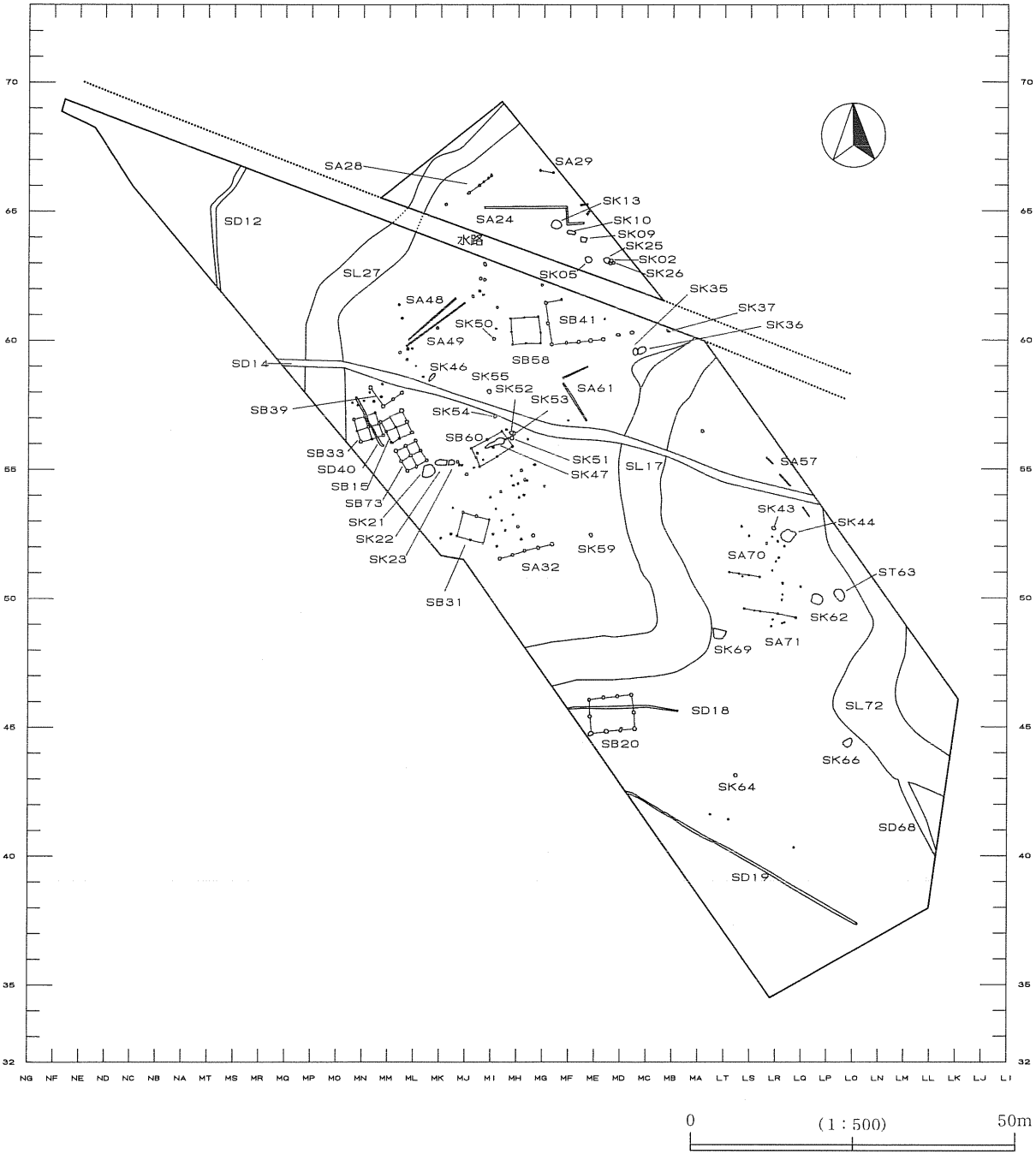
### １　掘立柱建物跡

**ＳＢ15・73掘立柱建物跡**（第８図、図版２）

《位置》　ＭＫ55・56、ＭＬ54・55グリッドに位置する。

《確認》　地山面で柱穴17基を確認し、桁行５間×梁行２間の掘立柱建物跡として調査したが、整理段階で２間×２間の掘立柱建物跡が２棟並んでいることがわかった。

《規模》　いずれも２間×２間の総柱の掘立柱建物跡であり、ＳＢ15が南西－北東3.6～3.7m、北西




**第７図　遺構配置図**

－南東3.6m、ＳＢ73が南西－北東3.5～3.6m、北西－南東3.4～3.5mとＳＢ73が若干規模が小さい。主軸方向は、いずれも東側の柱列でＮ－ 37°－Ｗを示す。

《柱穴》　平面形は、ＳＢ15は径0.30mのほぼ円形、ＳＢ73はＰ４だけ長軸0.50m×短軸0.34mの楕円形で、その他のピットは径0.36～0.58mのほぼ円形を呈する。深さはいずれも地山面より0.30m前後である。ＳＢ15のＰ７では柱痕を確認した。Ｐ１とＰ６の間には柱穴は検出されなかった。またＳＢ73のＰ１・２・３・５・６には柱根の一部が残存する。

《出土遺物》　ＳＢ15のＰ６の柱穴掘り方より土師器坏破片が出土した。

**ＳＢ20掘立柱建物跡**（第９図、図版２）

《位置》　ＭＥ44～47、ＭＣ44～47グリッドに位置する。

《確認》　地山面で柱穴10基を確認した。

《重複》　掘立柱建物跡内の桁行方向にＳＤ18溝跡があるが、新旧関係は不明である。

《規模》　桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡で、桁行6.5～6.9m、梁行5.2～5.3mを測る。主軸方向は、北側の柱列でＮ－ 86°－Ｅを示す。

《柱穴》　Ｐ１の平面形は長軸0.80m、短軸0.60mの隅丸方形で、Ｐ２～６、Ｐ８～10の平面形は径0.48～0.66mの円形を呈する。Ｐ７の平面形は、柱穴が２基つながる形をしていた。深さは地山面より0.30～0.52mである。

《出土遺物》　Ｐ２を除く柱穴掘り方から土師器坏・甕破片が出土した。

**ＳＢ31掘立柱建物跡**（第10図、図版２）

《位置》　MI52・53、ＭＪ52・53グリッドに位置する。

《確認》　地山面で柱穴６基を確認した。

《規模》　桁行２間×梁行１間の掘立柱建物跡で、桁行4.1～4.2m、梁行3.7～3.8mを測る。主軸方向は、北側の柱列でＮ－ 73°－Ｗを示す。

《柱穴》　Ｐ１・Ｐ３～Ｐ６の平面形は、径0.24～0.28mのほぼ円形を呈する。深さは地山面より0.10～0.24mである。Ｐ２の平面形は、柱穴が２基つながる形をしていた。

**ＳＢ33掘立柱建物跡**（第11図、図版２）

《位置》　ＭＮ56・57、ＭＭ56・57グリッドに位置する。

《確認》　精査中に地山面で柱穴９基を確認した。

《重複》　掘立柱建物跡の中央やや東側にＳＤ40溝跡があるが新旧は不明である。

《規模》　２間×２間の総柱の掘立柱建物跡で、南北3.5～3.7m、東西3.5～3.7mを測る。主軸方向は、東側の柱列でＮ－ 19°－Ｗを示す。

《柱穴》　Ｐ２の平面形は長軸0.28m×短軸0.20mの楕円形で、Ｐ６は長軸0.50m×短軸0.40mの楕円形を呈する。その他のピットは、径0.30～0.50mのほぼ円形を呈する。深さは地山面より0.30m前後である。Ｐ１～３、Ｐ６～８には、柱根の一部が残存する。Ｐ３の残存する柱根は、径約25cm、高さ約45cmのもので、柱根下部は約45°の角度で斜めに切られていた。

**ＳＢ39掘立柱建物跡**（第12図）

《位置》　ＭＬ57・58、ＭＭ57・58、ＭＮ57・58グリッドに位置する。

《確認》　地山面で柱穴４基を確認した。

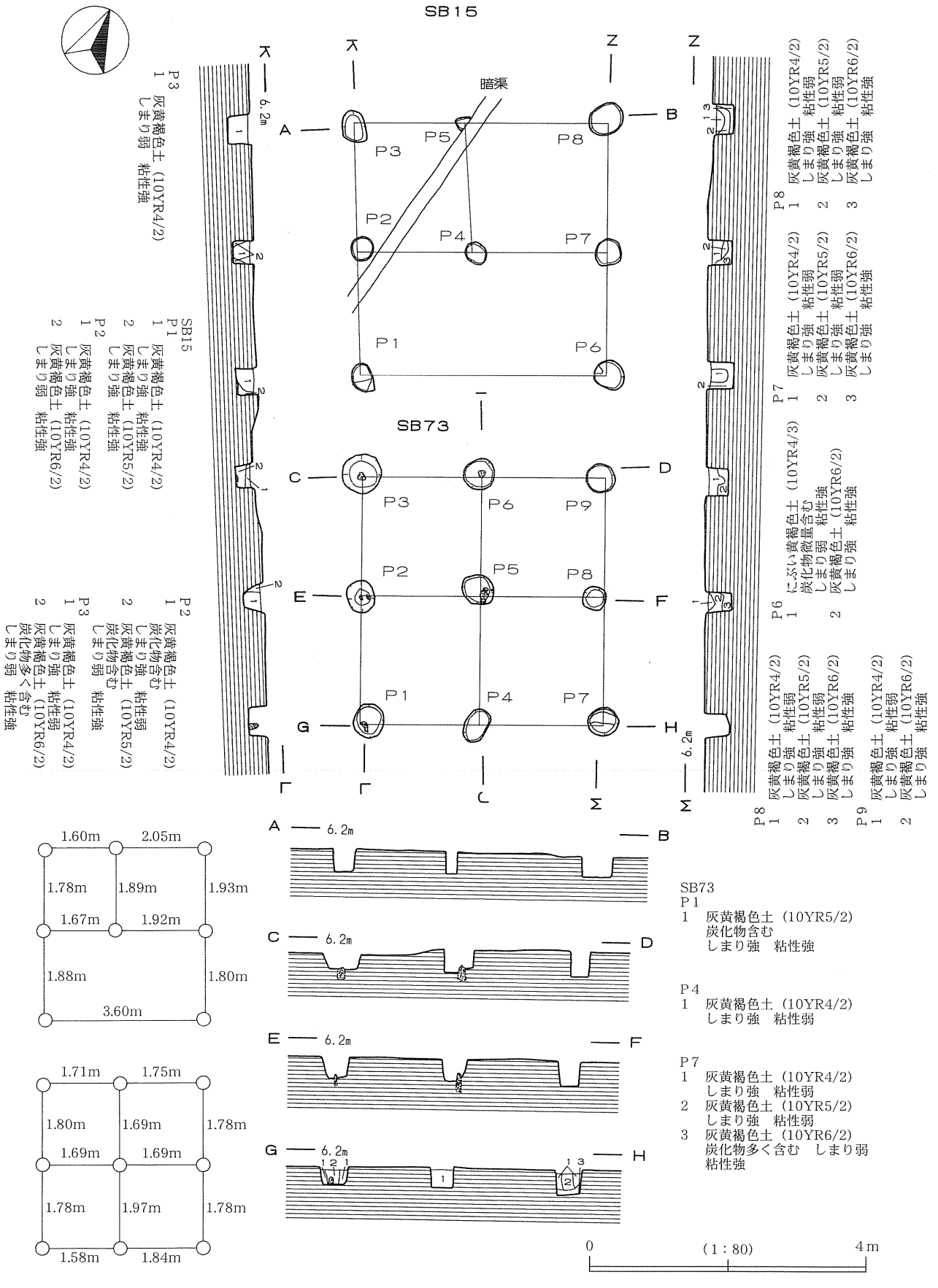
《重複》　北側をＳＤ14溝跡に切られていた。

《規模》　柱穴４基しか確認できず、規模は不明である。方向は、南側の柱列でＮ－ 54°－Ｅを示す。

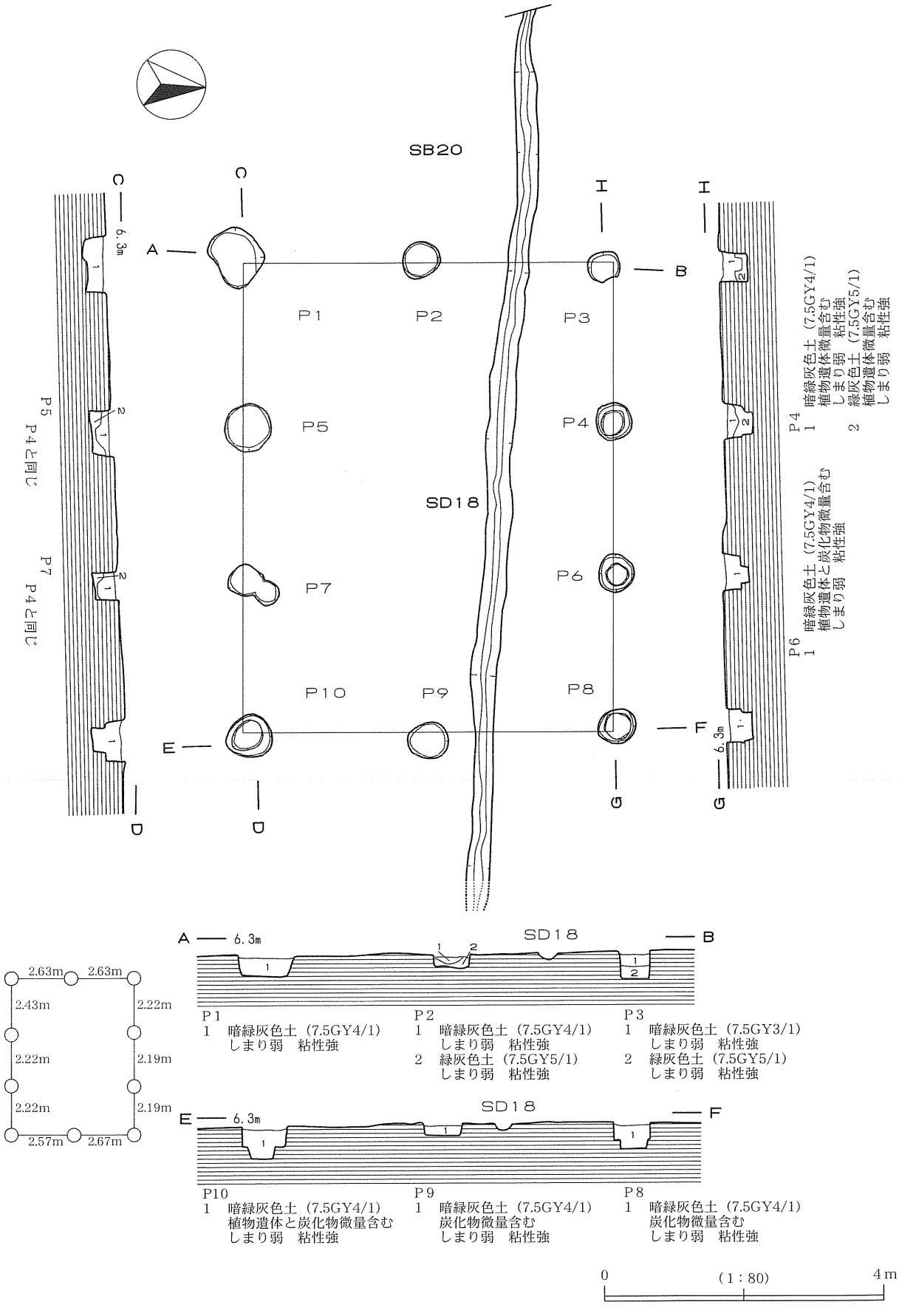
《柱穴》　検出したピットの平面形は、長軸0.41～0.56m、短軸0.38～0.53mの楕円形を呈する。深さは地山面より0.40～0.60mであり、Ｐ２には柱根の一部が残存した。

**ＳＢ41掘立柱建物跡**（第13図）

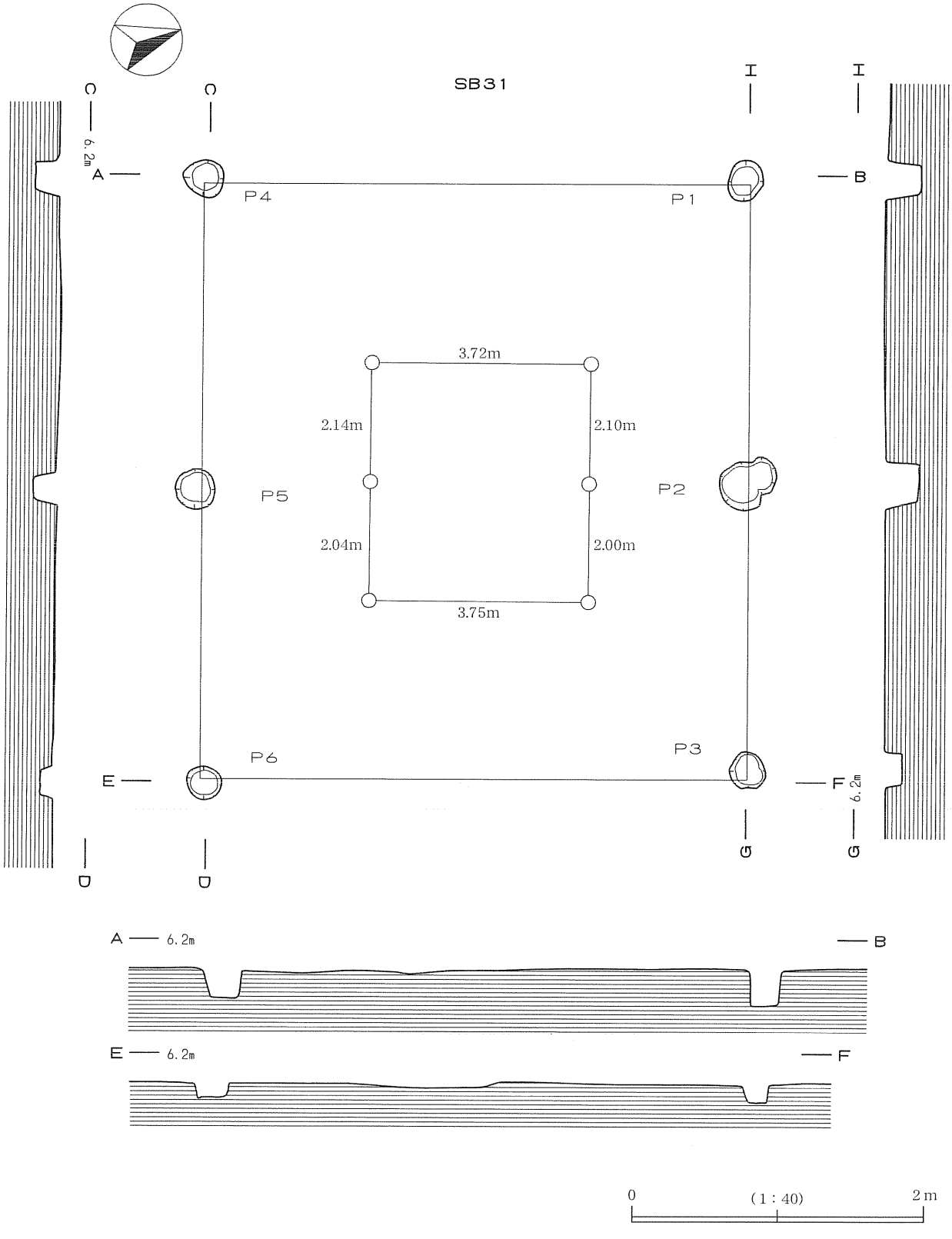
《位置》　ＭＦ59～61、ＭＥ59・60、ＭＤ59・60グリッドに位置する。



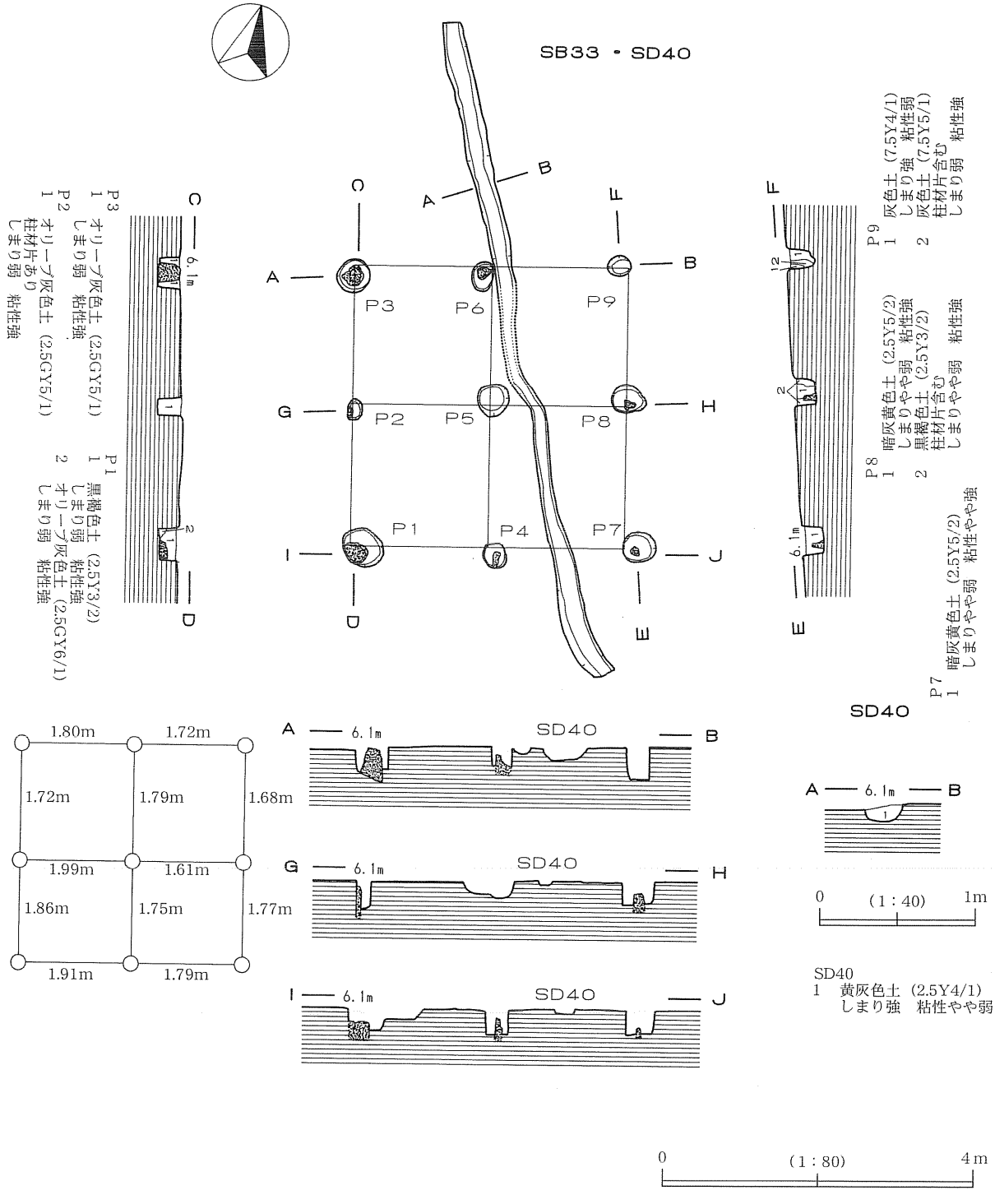

第８図　SB15・73掘立柱建物跡




第９図　SB20掘立柱建物跡




第10図　SB31掘立柱建物跡

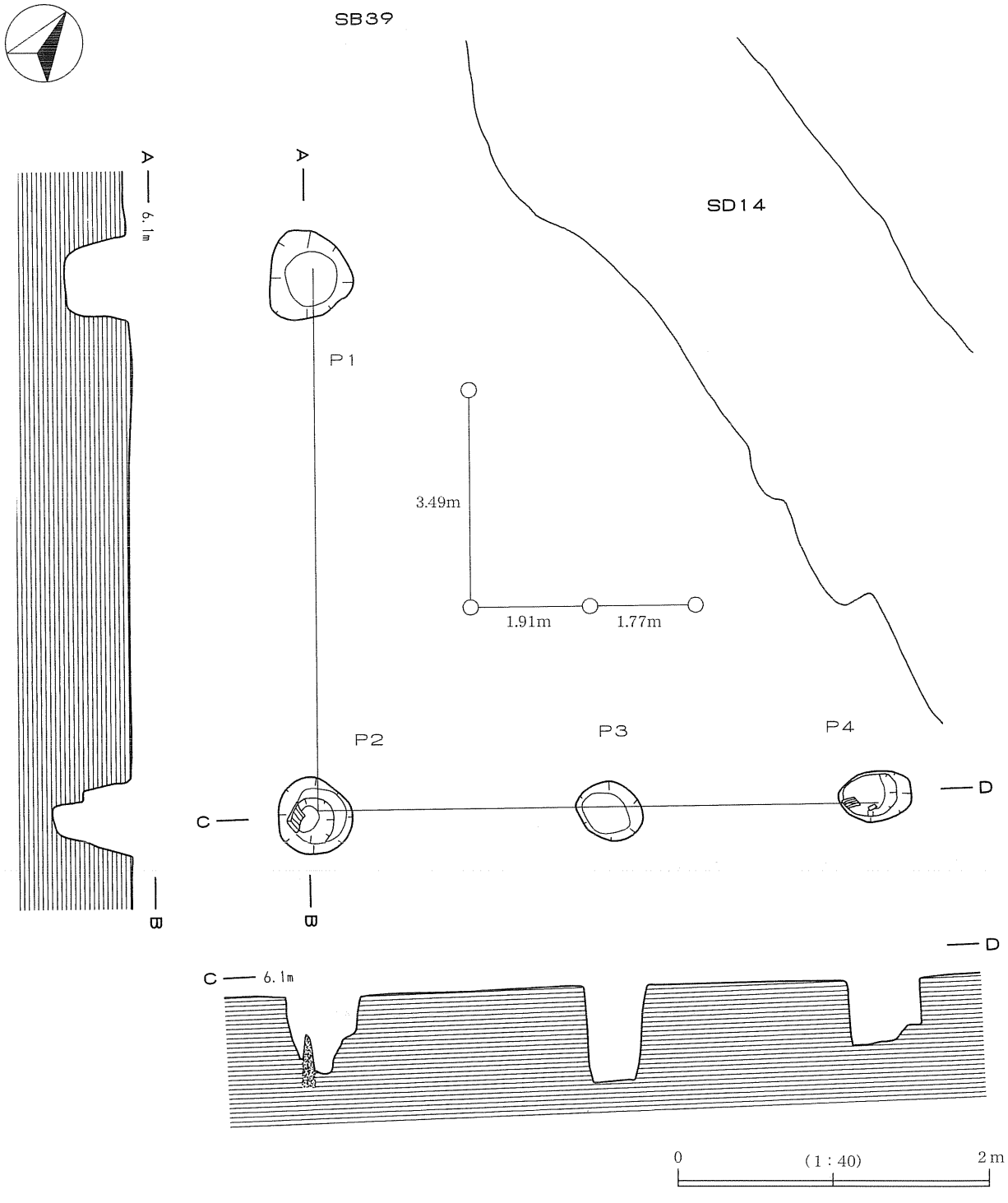



第11図　SB33掘立柱建物跡、SD40溝跡

《確認》　地山面で柱穴８基を確認した。

《規模》　桁行４間×梁行２間の掘立柱建物跡と推測され、桁行8.0m、梁行6.5mを測る。主軸方向は、南側柱列でN－ 84°－Eを示す。

《柱穴》　検出したピットの平面形は、長軸0.36～0.66m、短軸0.28～0.56mの楕円形を呈する。深さは地山面より0.20m前後である。Ｐ１とＰ３には、柱根の一部が残存した。



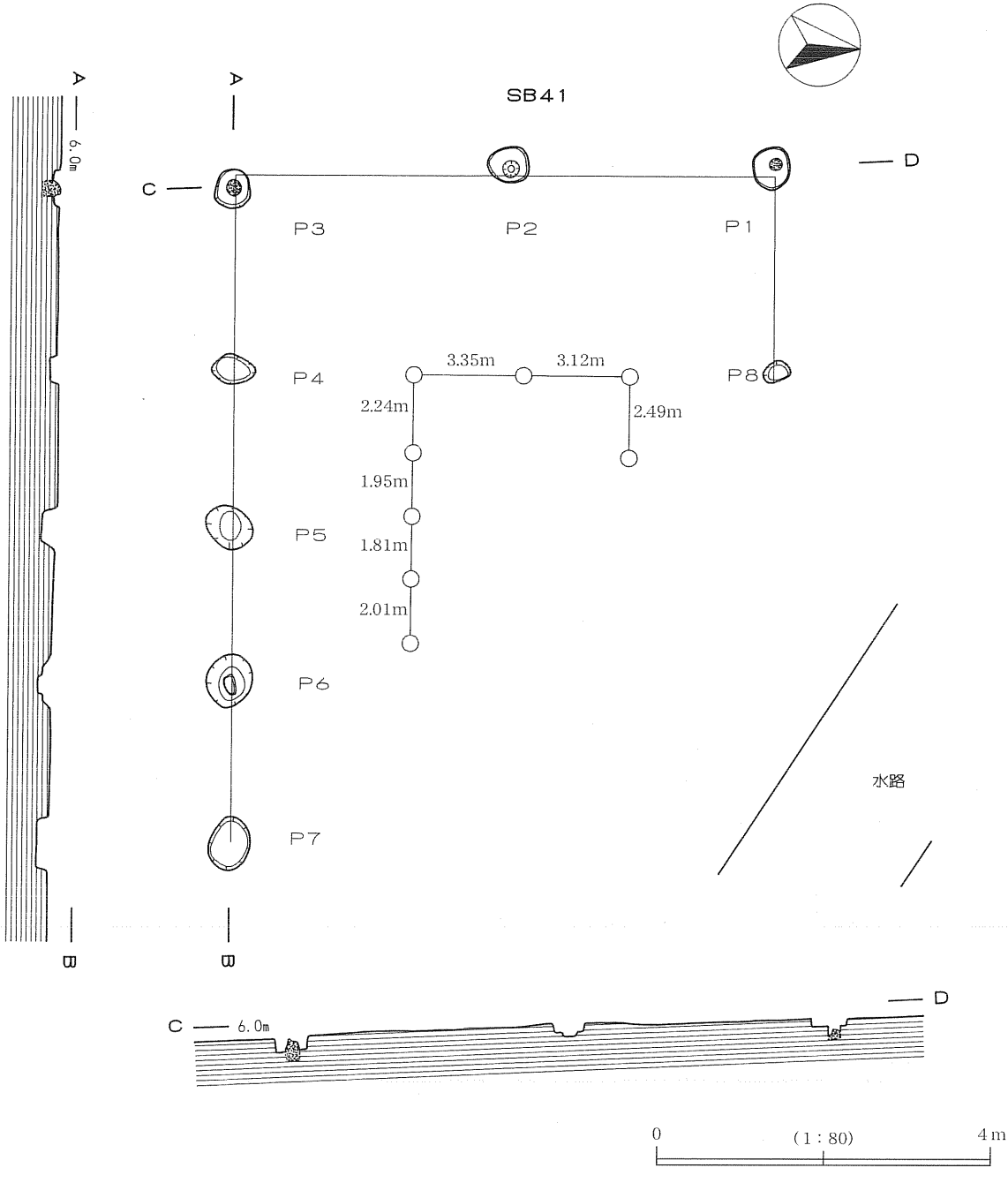

第12図　ＳＢ39掘立柱建物跡

《出土遺物》　Ｐ１・２・３・５・６・７の柱穴掘り方より土師器坏・甕破片、須恵器坏破片が出土した。またＰ７からは木片、種実も出土した。

**ＳＢ58掘立柱建物跡**（第14図、図版２）

《位置》　ＭＧ59・60、ＭＨ59・60グリッドに位置する。

《確認》　精査中に地山面で柱穴８基を確認した。




第13図　ＳＢ41掘立柱建物跡

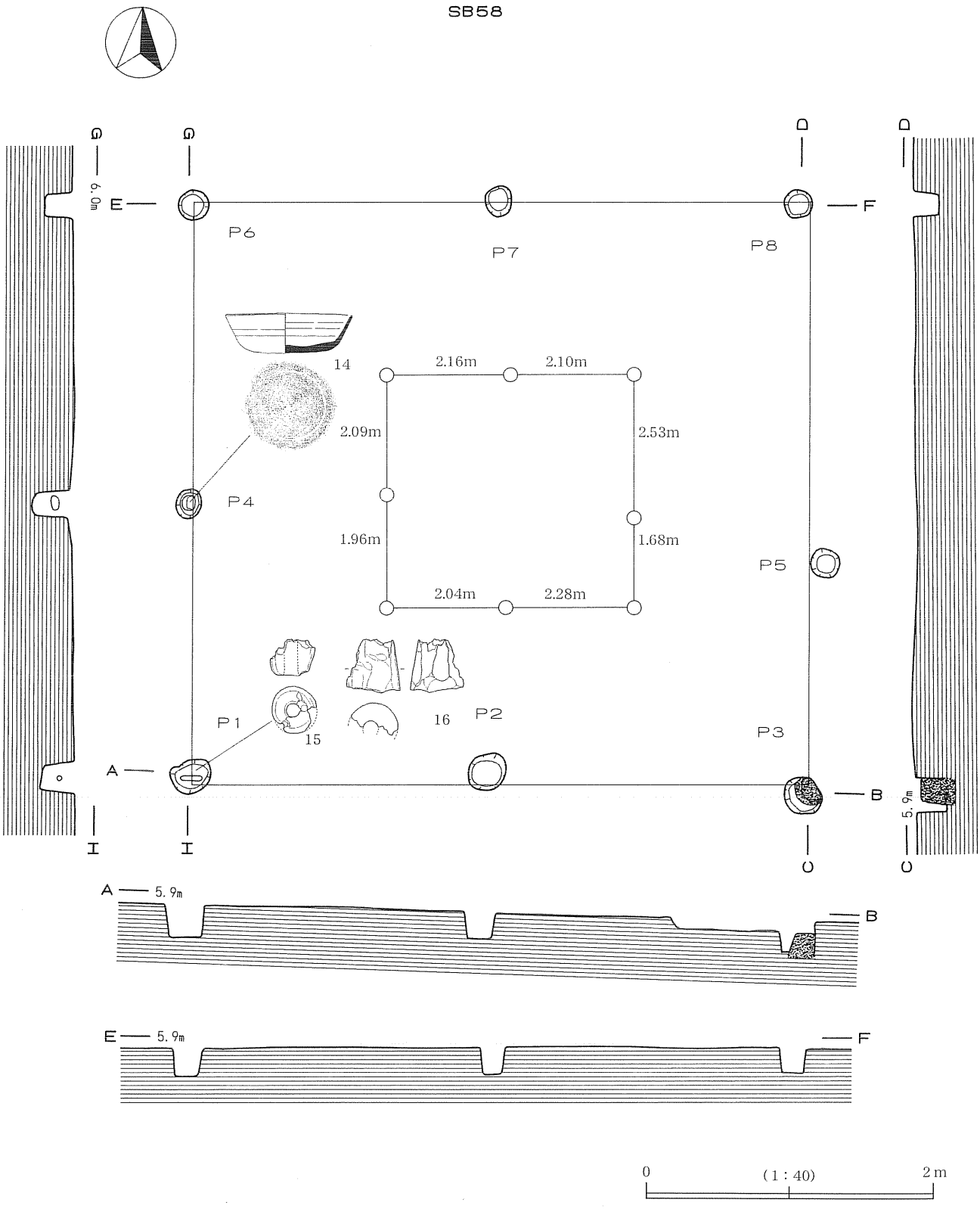
《規模》　２間×２間の掘立柱建物跡で、南北4.1～4.2m、東西4.3mを測る。主軸方向は、東側柱列でＮ－３°－Ｗを示す。

《柱穴》　検出したピットの平面形は、径0.22～0.28mのほぼ円形を呈する。深さは地山面より0.20m前後である。Ｐ３には、柱根の一部が残存した。

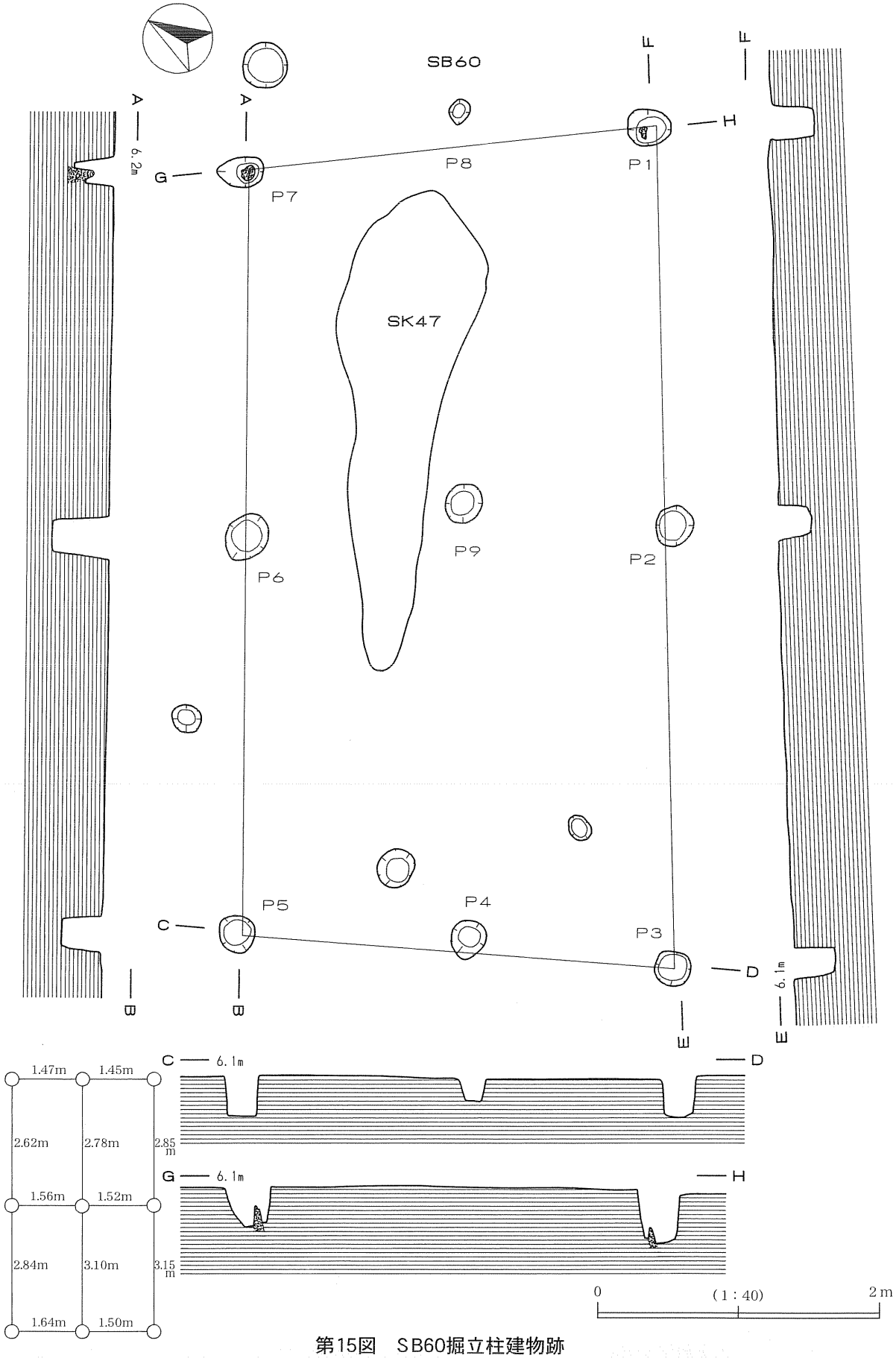
《出土遺物》　Ｐ１の柱穴掘り方より鞴羽口破片（第28図15・16）と木片、Ｐ４からは底部に「×」のヘラ書きのある須恵器坏（第28図14）が出土した。

**ＳＢ60掘立柱建物跡**（第15図、図版２）

《位置》　MI55・56、ＭＨ55・56グリッドに位置する。




第14図　SB58掘立柱建物跡




第15図　ＳＢ60掘立柱建物跡

《確認》　地山面で柱穴９基を確認した。

《規模》　２間×２間の掘立柱建物跡で、桁行5.5～6.0m、梁行2.9～3.1mを測る。主軸方向は、南側柱列でＮ－ 60°－Ｗを示す。

《柱穴》　平面形は径0.16～0.38mのほぼ円形を呈しており、深さは地山面より0.26～0.42mである。Ｐ１とＰ７には柱根の一部が残存した。

《出土遺物》　Ｐ２・３・５・６・７の柱穴掘り方より土師器坏・甕破片が出土した。

２　板材列

**ＳＡ24板材列**（第16図、図版２・３）

《位置》　ＭＦ66～ＭＪ66、ＭＥ65、ＭＦ65、ＭＨ65グリッドに位置する。

《確認》　Ⅱ層下部より板材列上部を確認した。

《重複》　ＭＦ66～ＭＧ66にかけて、板材列が２重に構築されており、北側の板材列が旧く、南側の板材列を建て替えた可能性が高い。東側は、切り回し水路のために切られていた。

《規模・形態》　主軸方向は東西方向を示し、東側の端は南側方向に直角に折れ、また東側に延びるＬ字型に巡る板材列である。東側には、東西方向を主軸とする板材列と、全く方向の異なる板材列があるが、どちらも切り回し水路に切られていた。西側は板材は検出されなかった。検出した板材列の長さは、西側より東西方向に13.3m、そこから直角に折れ南側に2.6m、また東側に1.8m延びる。東側の東西方向に延びる板材列は1.3m、方向の異なる板材列は0.9mを測る。板材列は、補強のためか部分的に２列になっているが、ＭＦ66～ＭＪ66にかけての２列の板材列は時期が異なると考えられる。板材列の掘り方は、幅0.3m前後の布堀であるが、南側方向に直角に折れる所では約0.6mと幅が広くなる。布堀のほぼ中央に、下端を水平に切りそろえた板材を埋め込んでおり、板材列中には、約1.１mごとに板材列を区切るしきり板があった。このしきり板は、板材列の補強のためのものと考えられる。出土した板材は、長さ６～26cm、幅10～20cm、厚さ２cm程度であるが、建て替えられたと考えられる板材は、長さ20～40cm、幅20cm、厚さ２cm程度である。またしきり板も、下端が水平に切りそろえられており、長さ30～50cm、幅15～22cm、厚さ４～８cm程度である。いずれも杉材を使用した割板と考えられる。板材列付近ではＰ１～６の柱穴様ピットを検出した。検出したピットの平面形は、ほとんどが径0.30m前後の円形を呈しており、深さは地山面より0.15～0.40mである。Ｐ１とＰ２には、しきり板と同様の材が出土した。これらのピットとＳＡ24の板材列との関連は不明であるが、Ｐ３～Ｐ５は板材列に近接しており、板材列を補強する材の跡とも考えられる。

《出土遺物》　確認面及び布堀掘り方より土師器坏・甕破片、須恵器坏・甕破片が出土した。

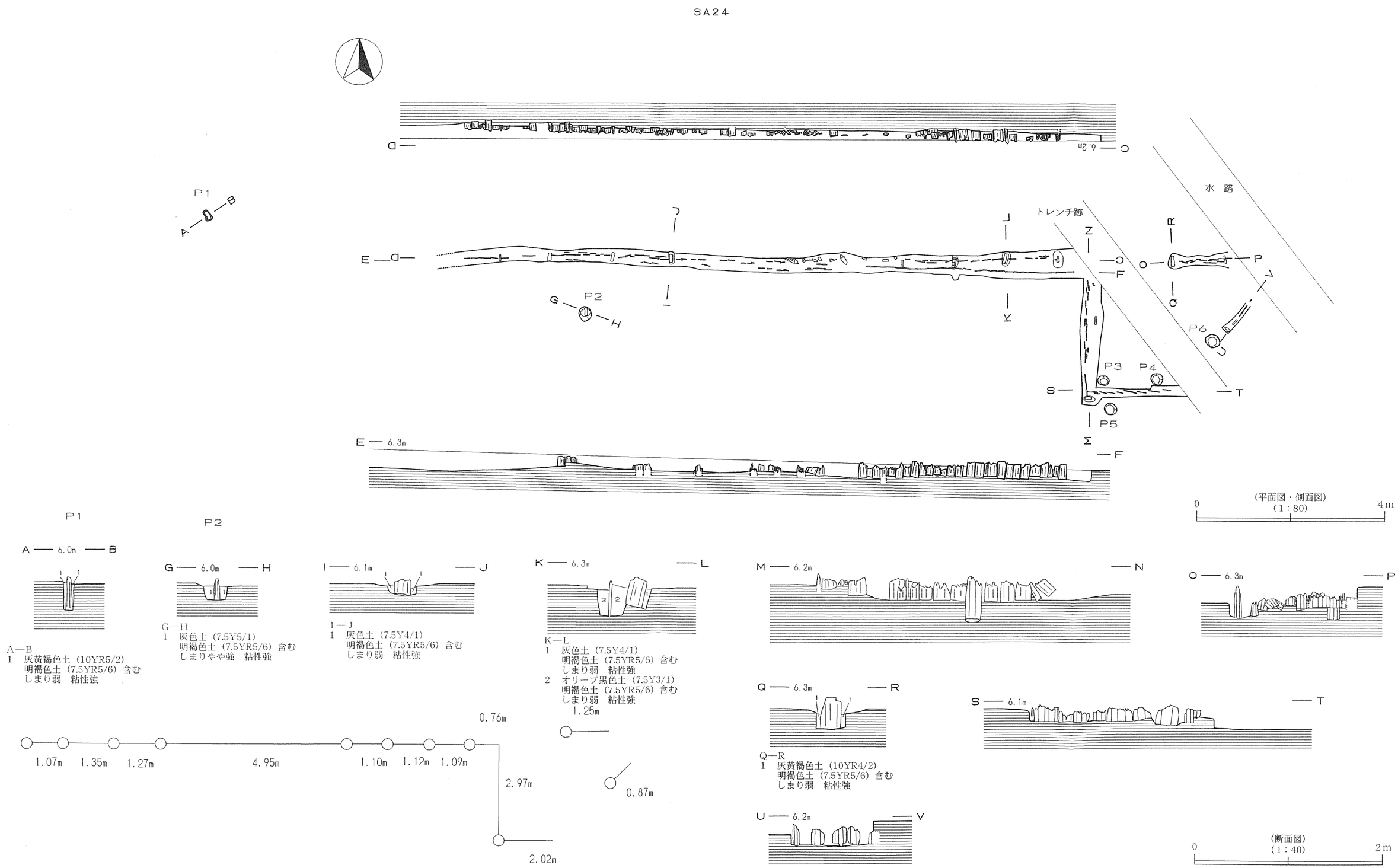
**ＳＡ48・49板材列**（第19図、図版３）

《位置》　ＭＬ59・60、ＭＫ59・60・61、ＭＪ60・61グリッドに位置する。

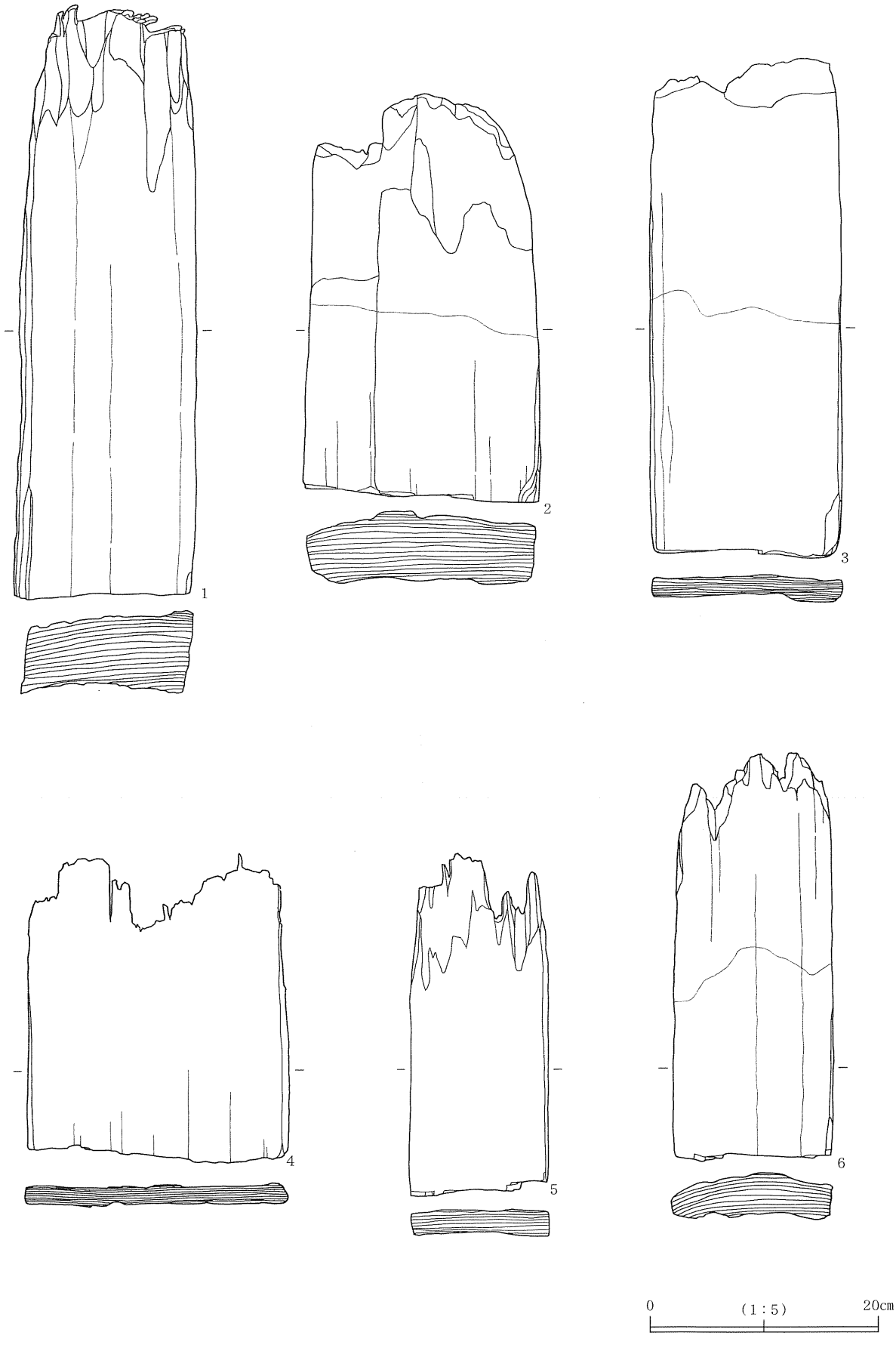
《確認》　地山面で溝状遺構を確認し、掘り下げたところ板材を検出した。

《重複》　ＳＡ48と49はほぼ並列するが、同時期のものかあるいは新旧関係があるのかは不明である。

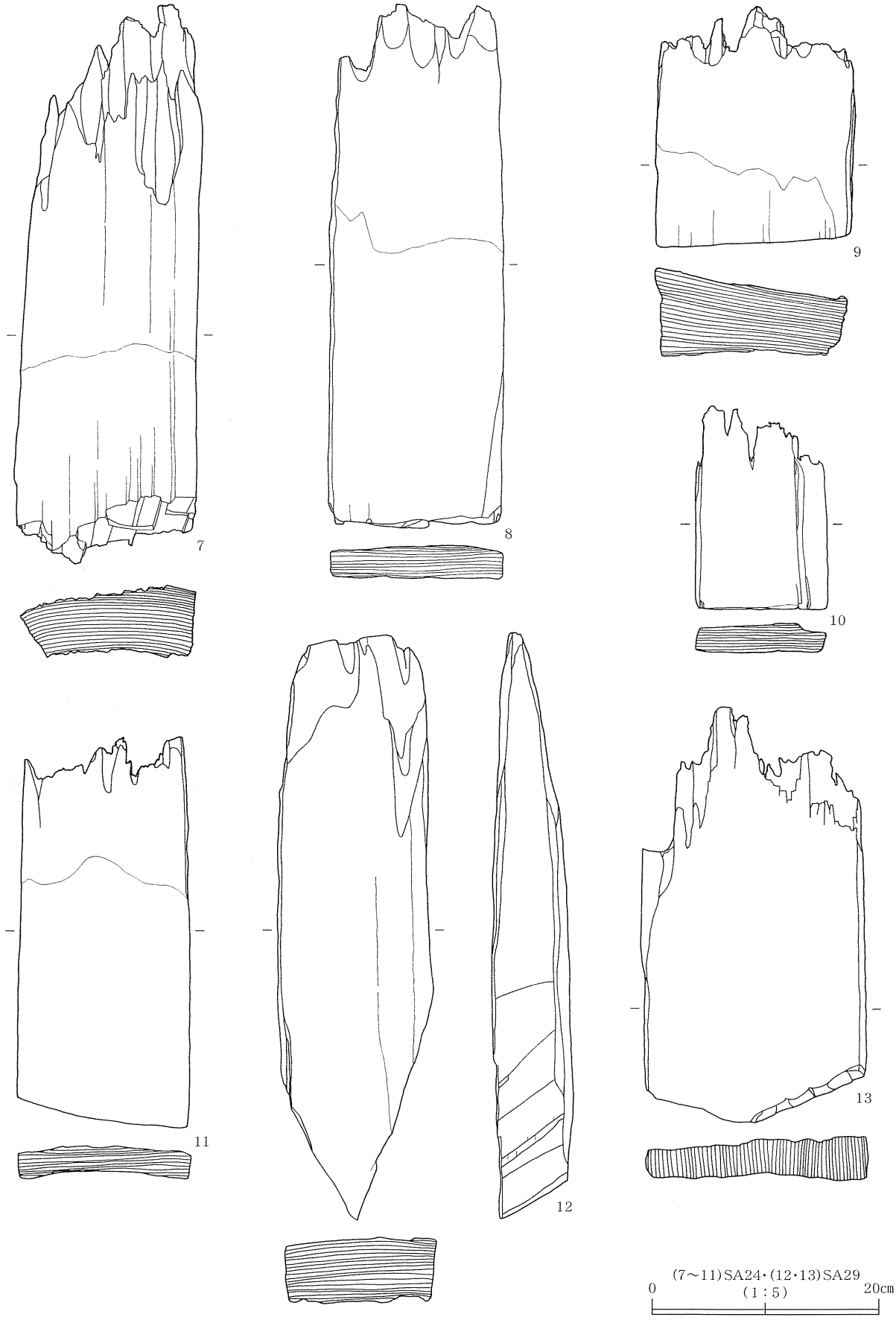
《規模・形態》　いずれも主軸方向はＮ－ 50°－Ｗを示し、直線的に延びる板材列である。検出した板材列の長さは、ＳＡ48が11.3m、ＳＡ49が13.1mを測る。掘り方は幅0.3m程の布堀でほぼ中央に下端を水平に切りそろえた板材を埋め込んでいる。ＳＡ48は板材列を区切るしきり板が３カ所あり、2.8m間隔で打ち込まれている。出土した板材は、長さ５cm前後、幅５～15cm、厚さ0.5～１cm程度、



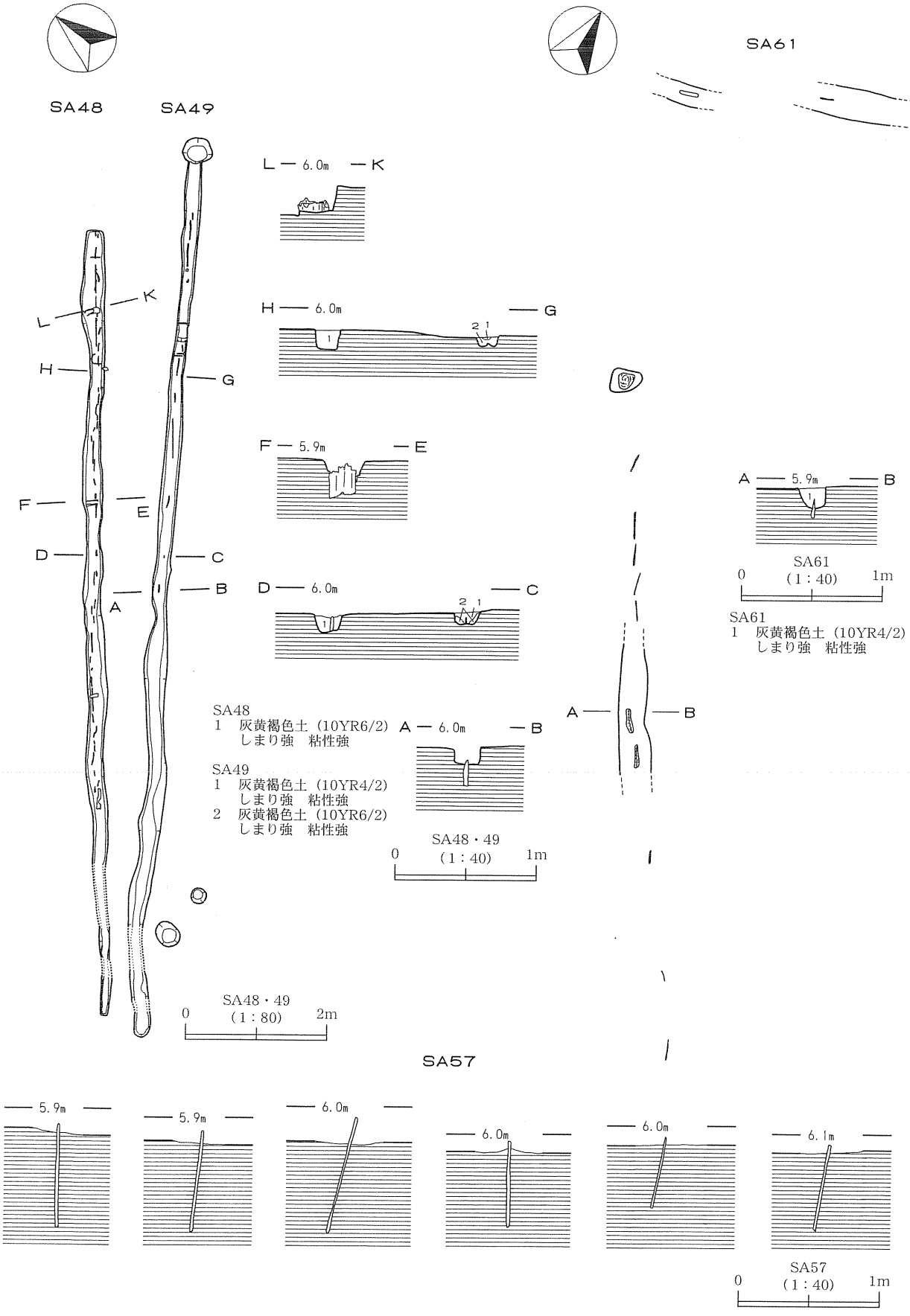

第16図　ＳＡ24板材列




第17図　ＳＡ24板材




第18図　ＳＡ24・29板材




第19図　ＳＡ48・49・61板材列、ＳＡ57杭列

しきり板は、長さ12～20cm、幅18～23cm、厚さ３cm程度である。いずれも杉材を使用した割板と考えられる。ＳＡ49はしきり板は１カ所のみ検出したが、板材もしきり板も下部がわずかに残存しているだけで、腐蝕が著しく長さ等を測定することはできなかった。板材列の北東側はピットから始まっておりしきり板があった可能性が高い。

《出土遺物》　布堀埋土より土師器坏・甕破片、須恵器甕破片が出土した。

**ＳＡ61板材列**（第19図）

《位置》　ＭＥ56～58、ＭＦ57・58グリッドに位置する。

《確認》　地山面で溝状遺構を確認し、掘り下げたところ板材を検出した。

《規模・形態》　検出した板材列の長さは北西－南東方向に6.6mで、北端の柱根の残る柱穴で止まる。部分的に布堀跡と板材のみが確認できたが、南側には検出できなかった。主軸方向は、Ｎ－32°－Ｅを示す。北端の柱穴より北西方向に2.1m程進み北東方向にほぼ直角に折れた２カ所で布堀跡と板材を検出した。

３　杭列

**ＳＡ57杭列**（第19図）

《位置》　ＬＱ54、ＬＰ53、ＬＲ55グリッドに位置する。

《確認》　粗掘中にⅡ層下部で北東方向に向けた矢板上部を６枚確認した。

《規模・形態》　すべて掘り込みはなく、護岸のために直接打ち込んだものである。また矢板が抜けた状態でも２枚出土した。出土した矢板は、長さ53～85cm、幅20～30cm、厚さは３cm程で、先端は尖らせている。

４　柱列

**ＳＡ28柱列**（第20図）

《位置》　ＭＩ65・66グリッドに位置する。

《確認》　粗掘中にⅡ層下部よりＰ１とＰ５の柱材の上部を確認し、その後精査中にＰ２～４の柱穴を確認した。

《規模》　検出した柱穴の平面形は、長軸0.28～0.55m、短軸0.21～0.33mの楕円形や隅丸方形を呈し、深さは地山面より0.12～0.29mである。Ｐ１とＰ５には柱根が残存する。出土した柱根は、どちらも長さ約23cm、幅約25cm、厚さ約６cm程度である。検出した柱列の長さは4.4mを測り、Ｐ１～２の距離が0.6mと短く、Ｐ２～３、Ｐ３～４の距離は約0.9m、Ｐ４～５の距離は約2mと長い。主軸方向は、Ｎ－37°－Ｅを示す。検出された柱根の形態から板材列の可能性もある。

《出土遺物》　Ｐ４掘り方より木片が出土した。

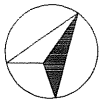
**ＳＡ29柱列**（第20図）

《位置》　ＭＦ66、ＭＧ66グリッドに位置する。

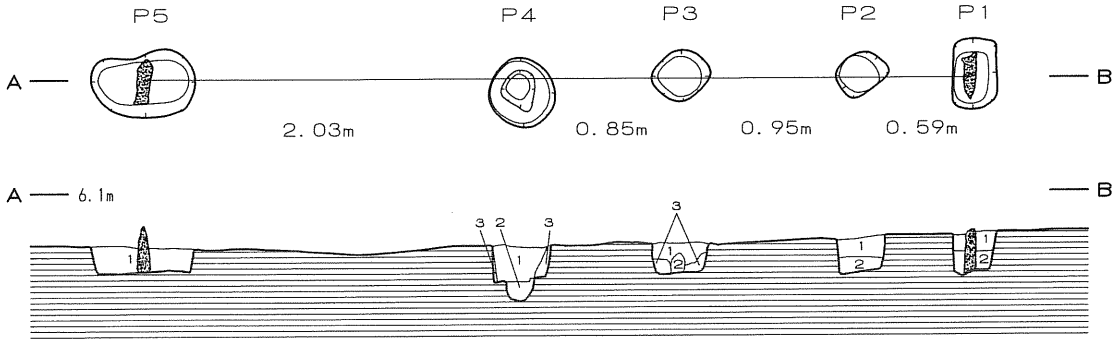
《確認》　地山面でＰ１・Ｐ２の柱穴を確認した。

《規模》　Ｐ１の平面形は径0.24mの円形を呈し、深さは地山面より0.39mである。Ｐ２の平面形は長軸0.30m、短軸0.26mの隅丸方形を呈し、深さは地山面より0.36mである。柱穴間の距離は1.97mを測る。主軸方向は、Ｎ－83°－Ｗを示す。検出された柱根の形態から板材列の可能性もある。

《出土遺物》　Ｐ２掘り方より土師器甕破片が出土した。



SA28




P5
1　灰黄褐色土（10YR4/2）
　　しまりやや強　粘性強

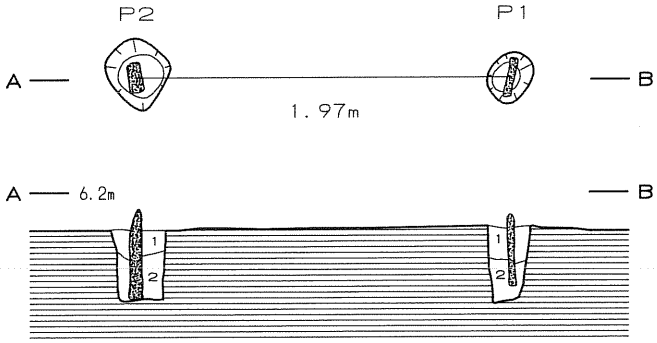
P4
1　灰黄褐色土（10YR4/2）
　　しまり強　粘性強
2　灰色土（7.5Y4/1）
　　しまり弱　粘性強
3　灰色土（7.5Y6/1）
　　しまりやや弱　粘性強

P3
1　灰黄褐色土（10YR4/2）
　　しまりやや強　粘性強
2　褐灰色土（10YR4/1）
　　しまりやや弱　粘性強
3　黄灰色土（2.5Y4/1）
　　しまりやや強　粘性強

P1
1　灰黄褐色土（10YR4/2）
　　しまり強　粘性強
2　オリーブ灰色土（5GY5/1）
　　しまりやや弱　粘性強

P2
1　黒褐色土（10YR3/2）
　　しまりやや強　粘性強
2　灰色土（10Y4/1）
　　しまりやや弱　粘性強

SA29

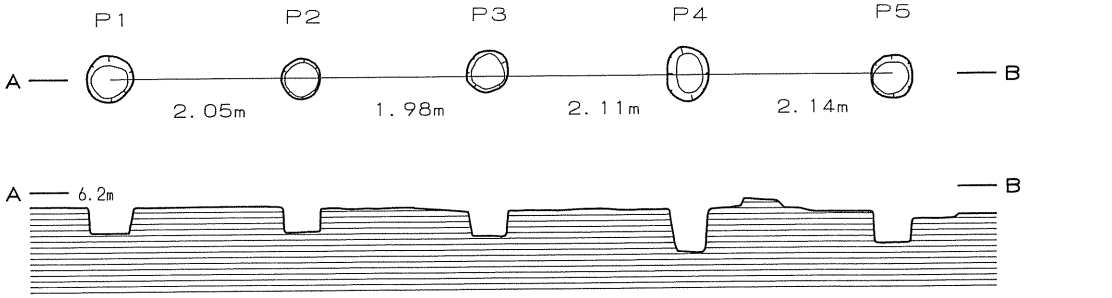



P1
1　黒褐色土（10YR3/2）
　　しまり強　粘性強
2　暗緑灰色土（10GY4/1）
　　しまりやや弱　粘性非常に強

P2
1　黒褐色土（10YR3/2）
　　しまり強　粘性強
2　暗緑灰色土（10GY4/1）
　　しまりやや弱　粘性非常に強

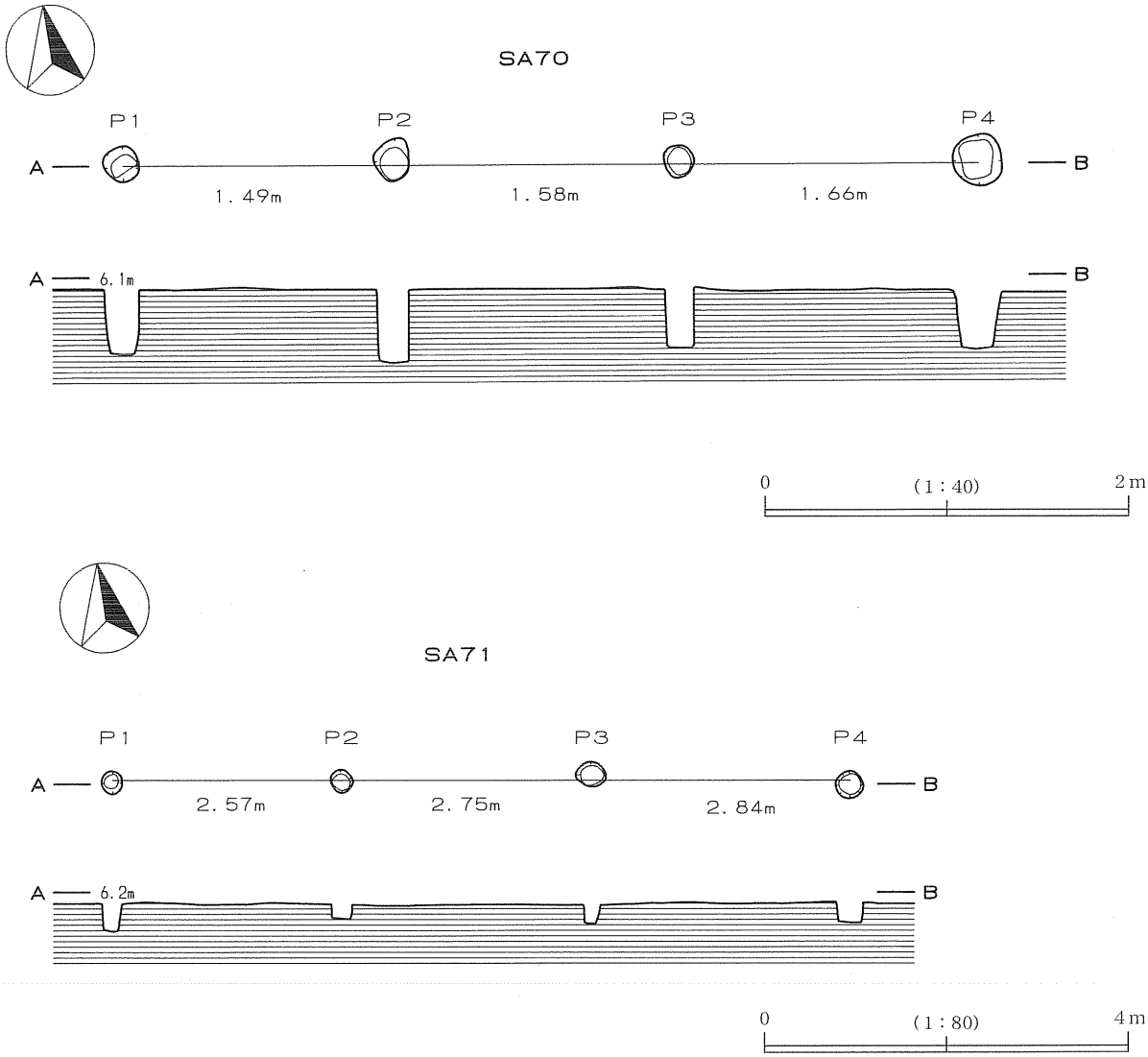
0　(1：40)　2m

SA32




0　(1：80)　4m

第20図　ＳＡ28・29・32柱列




第21図　ＳＡ70・71柱列

**ＳＡ32柱列**（第20図）

《位置》　ＭＦ52、ＭＧ51・52、ＭＨ51グリッドに位置する。

《確認》　地山面で柱列５基を確認した。

《規模》　検出したピットの平面形は、径0.44～0.50mのほぼ円形を呈し、深さは地山面より0.30～0.48mである。検出した柱列の長さは8.3mを測り、それぞれの柱穴間の距離は２m前後である。主軸方向は、Ｎ－74°－Ｅを示す。

《出土遺物》　Ｐ５柱穴掘り方より土師器坏破片が出土した。

**ＳＡ70柱列**（第21図）

《位置》　ＬＲ50、ＬＳ50・51グリッドに位置する。

《確認》　精査中に地山面で柱列４基を確認した。

《規模》　検出したピットの平面形は、径0.18～0.30mのほぼ円形を呈し、深さは地山面より0.32～

0.40mである。検出した柱列は4.7mを測り、それぞれの柱穴間の距離は1.5m前後である。主軸方向は、Ｎ－81°－Ｅを示す。

**ＳＡ71柱列**（第21図）

《位置》　ＬＱ49、ＬＲ49、ＬＳ49グリッドに位置する。

《確認》　地山面で柱列４基を確認した。

《規模》　検出したピットの平面形は、径0.24～0.32mの円形を呈し、深さは地山面より0.18～0.30mである。検出した長さは8.2mを測り、それぞれの柱穴間の距離は、2.6～2.8mである。主軸方向は、Ｎ－80°－Ｅを示す。

５　土坑

**ＳＫ02土坑**（第22図）

《位置》ＭＤ62・63グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《重複》ＳＫ25土坑とＳＫＰ26柱穴様ピットを切っていた。《規模・平面形》長軸0.93m、短軸0.63mの楕円形を呈し、深さは地山面より0.11mである。《埋土》単一層であった。《壁・底面》壁はやや急な立ち上がりであり、底面は平坦で堅くしまっていた。《出土遺物》確認面及び埋土より土師器坏・甕破片、須恵器坏破片が出土した。

**ＳＫ25土坑**（第22図）

《位置》ＭＤ62・63グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《重複》北東側をＳＫ02土坑に切られていた。《規模・平面形》残存する大きさは長軸0.85m、短軸0.84mで、プランは楕円形と考えられる。深さは、地山面より0.08mである。土坑のほぼ中央に、径0.23mの円形を呈するピットがある。ピットの深さは、土坑の底面より0.12mである。《埋土》２層に分かれた。《壁・底面》壁は緩やかな立ち上がりであり、底面は平坦で堅くしまっていた。《出土遺物》埋土中より土師器坏破片、須恵器坏破片が出土した。

**ＳＫ05土坑**（第22図、図版３）

《位置》ＭＥ62・63グリッドに位置する。《確認》精査中に地山面で確認した。《規模・平面形》長軸1.10m、短軸0.89mの楕円形を呈し、深さは地山面より0.14mである。《埋土》単一層であった。《壁・底面》壁は急な立ち上がりであり、底面は東側から西側に傾斜していた。《出土遺物》確認面及び埋土より土師器坏破片、須恵器坏破片が出土した。

**ＳＫ09土坑**（第22図、図版３）

《位置》ＭＥ63グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《重複》東側を暗渠に切られている。《規模・平面形》残存する大きさは、長軸0.86m、短軸0.73mで、プランは隅丸方形と考えられる。深さは地山面より0.17mである。《埋土》２層に分かれ、ともに炭化物が混入していた。《壁・底面》壁は西側が急な立ち上がりであり、底面は堅くしまっていた。《出土遺物》埋土より底部に墨書のある須恵器坏底部（第28図17）、土師器坏・甕破片、須恵器坏・甕破片、木片が出土した。

**ＳＫ10土坑**（第22図、図版３）

《位置》ＭＥ64、ＭＦ64グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》長軸1.45m、短軸0.59mの楕円形を呈し、深さは地山面より0.47mである。遺構の東側に径0.1mの円形を呈するピットと西側に長軸0.35m、短軸0.22mと長軸0.15m、短軸0.10mの不整な楕円形を呈した

ピットがある。《埋土》６層に分かれた。大部分は第１層と第６層であるが、その間に第２層～第５層が薄く堆積していた。第２層と第４層は炭化物の層である。《壁・底面》壁は東側はやや緩やかに、西側はほぼ垂直に立ち上がっていた。底面は平坦で堅くしまっていた。《出土遺物》確認面及び埋土より土師器坏・甕破片、須恵器坏破片、炭化材、木片が出土した。

**ＳＫ13土坑**（第23図、図版３）

《位置》ＭＦ64グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》径1.39mのほぼ円形を呈し、深さは地山面より0.16mである。土坑西側に、径0.24mの円形を呈するＰ１と、土坑南側に長軸0.35m、短軸0.28mと、長軸0.53m、短軸0.45mの楕円形を呈するＰ２とＰ３がある。Ｐ１の深さは底面より0.18m、Ｐ２の深さは、底面より0.35m、Ｐ３の深さは底面より0.38mである。《埋土》３層に分かれた。《壁・底面》壁は全体的に急な立ち上がりであり、底面は平坦である。《出土遺物》確認面及び埋土より底部墨書のある須恵器坏（第140図1282)、土師器坏・甕破片、須恵器坏蓋・坏・甕破片が出土した。またＰ１より箸、木片、Ｐ２より箸３本、曲物側板、木釘穴のある樺皮、樺皮２巻（第28図18～24)、Ｐ３より箸破片、木片、種実等が出土した。

**ＳＫ21土坑**（第23図、図版３）

《位置》ＭＫ54・55グリッドに位置する。《確認》精査中に地山面で確認した。《重複》西側を暗渠に切られていた。《規模・平面形》残存する大きさは、長軸2.13m、短軸1.78mで、プランは楕円形と考えられる。深さは地山面より0.18mである。《埋土》４層に分かれた。底面には炭化物の層が３カ所確認された。《壁・底面》壁は急な立ち上がりであり、底面はやや凹凸がある。《出土遺物》埋土より須恵器坏（第28図25)、土師器甕底部（26）などが出土した。

**ＳＫ22土坑**（第23図、図版４）

《位置》ＭＪ55、ＭＫ55グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《重複》東側を現代の溝に切られており、隣接するＳＫ23土坑との関係は不明である。《規模・平面形》残存する大きさは、長軸1.33m、短軸0.76mで、プランは楕円形と考えられる。深さは地山面より0.05mと浅い。《埋土》炭化物を微量に含む単一層であった。《壁・底面》壁は緩やかな立ち上がり、底面は平坦である。《出土遺物》　埋土中より土師器坏破片、須恵器甕破片が出土した。

**ＳＫ23土坑**（第23図、図版４）

《位置》ＭＪ55グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《重複》西側を現代の溝に切られており、隣接するＳＫ22土坑との関係は不明である。《規模・平面形》残存する大きさは、長軸0.89m、短軸0.71mで、プランは楕円形と考えられる。深さは地山面より0.17mである。《埋土》２層に分けられ、いずれも炭化物を微量に含んでいた。《壁・底面》壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。《出土遺物》確認面で土師器甕底部（第28図27)、埋土中より土師器坏・甕破片、須恵器坏破片が出土した。

**ＳＫ35土坑**（第24図）

《位置》ＭＣ59グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《重複》東側に隣接してＳＫ36土坑があるが、重複はしていない。《規模・平面形》長軸1.12m、短軸0.71mの楕円形を呈する。深さは地山面より0.07mと浅い。《埋土》単一層だった。《壁・底面》壁は全体的にやや緩やかに立ち上がっていて、底面は平坦である。《出土遺物》確認面及び埋土より土師器坏・甕破片、須恵器高台付

坏破片が出土した。

ＳＫ36土坑（第24図）

《位置》ＭＣ59グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《重複》西側に隣接してＳＫ35土坑があるが、重複はしていない。《規模・平面形》長軸1.40m、短軸1.04mの楕円形を呈する。深さは地山面より0.07mと浅い。《埋土》炭化物を含む単一層であった。《壁・底面》壁はやや緩やかな立ち上がりで、底面は平坦である。《出土遺物》確認面及び埋土より土師器甕（第28図28）などが出土した。

ＳＫ37土坑（第24図）

《位置》ＭＢ60グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《重複》北東側は水路建設の際に攪乱されている。《規模・平面形》残存する大きさは、長軸0.59m、短軸0.19mで、プランは楕円形と考えられる。《埋土》単一層であった。《壁・底面》壁は急な立ち上がりであり、底面は北西側にやや傾斜していた。《出土遺物》埋土中より土師器甕破片、須恵器坏破片が出土した。

ＳＫ43土坑（第24図）

《位置》ＬＱ52、ＬＲ52グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模と平面形》長軸0.65m、短軸0.45mの楕円形を呈する。深さは地山面より0.06mと浅い。《埋土》３層に分かれ、３層は炭化物層である。《壁・底面》壁はやや緩やかで、鍋底状を呈する。《出土遺物》埋土中より土師器甕破片が出土した。

ＳＫ44土坑（第24図、図版４）

《位置》ＬＱ52グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》長軸2.40m、短軸1.93mの不整な楕円形で、深さは地山面より0.14mである。《埋土》３層に分かれ、一部に炭化物が層状にはいっていた。《壁・底面》壁はやや緩やかに立ち上がっていて、底面は凹凸がある。《出土遺物》確認面で勾玉（第28図29）、埋土より須恵器坏（30）、土師器坏（31）・鉢（32）・甕（33・34）などが出土した。

ＳＫ46土坑（第25図、図版４）

《位置》ＭＫ55グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《重複》ＳＫ46土坑が土坑内のピットより新しい。《規模・平面形》長軸1.54m、短軸0.56mの楕円形を呈する。深さは地山面より0.08mである。土坑の南西側に径0.18mの円形で、深さが土坑の底面より0.28mのピットがある。このピットには柱根の一部が残存していた。《埋土》２層に分かれた。《壁・底面》壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。《出土遺物》埋土中より土師器坏破片が出土した。

ＳＫ47土坑（第25図、図版４）

《位置》ＭＨ55・56、ＭＩ55・56グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《重複》本土坑を囲むようにＳＢ60があるが、関連するものか、新旧関係があるのかは不明である。《規模・平面形》長軸3.50m、短軸0.97mの不整な涙滴形である。深さは地山面より東側が0.4m、西側が0.16mと一段浅くなる。《埋土》11層に分かれた。第１層・第２層・第５層には炭化物が含まれ、第１層の下部には、炭化物の層があった。《壁・底面》壁は西側がほぼ垂直に立ち上がっており、それ以外の立ち上がりもやや急である。底面は擂鉢状を呈する。《出土遺物》確認面で須恵器坏（第29図36）、手捏土器（38）、埋土中より土師器高台付坏（37）・甕（39）、土玉（35）、炭化材、木片などが出土

した。

**ＳＫ50土坑**（第25図、図版４）

《位置》ＭＨ60グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》径0.45mの円形を呈する。深さは地山面より0.18mである。《埋土》３層に分かれ、すべてに炭化物が混入していた。《壁・底面》壁は南側に比べて北側は急な立ち上がりで、底面は南側から北側に傾斜していた。

**ＳＫ51土坑**（第26図、図版５）

《位置》ＭＨ56グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》長軸0.66m、短軸0.56mの不整の楕円形を呈する。深さは地山面より0.34mで、中央部分が一段低くなる。《埋土》４層に分かれた。《壁・底面》壁はほぼ垂直に立ち上がり、鍋底状になっていた。《出土遺物》埋土中より土師器坏・甕破片が出土した。

**ＳＫ52土坑**（第26図、図版４）

《位置》ＭＨ56グリッドに位置する。《確認》精査中に地山面で確認した。《重複》ＳＫ53土坑と重複し、本土坑が旧い。《規模・平面形》残存する大きさは、長軸0.57m、短軸0.41mで、プランは楕円形と考えられる。《埋土》単一層であった。《壁・底面》壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。《出土遺物》埋土より土師器坏破片、須恵器坏破片が出土した。

**ＳＫ53土坑**（第26図、図版４）

《位置》ＭＨ53に位置する。《確認》地山面で確認した。《重複》ＳＫ52土坑と重複し、本土坑が新しい。《規模・平面形》長軸0.54m、短軸0.36mの隅丸方形を呈する。《埋土》単一層で、微量の炭化物が混入していた。《壁・底面》壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はやや凹凸がある。《出土遺物》埋土より手捏土器（第29図40）、土師器坏・甕破片が出土した。

**ＳＫ54土坑**（第26図、図版４）

《位置》ＭＨ56・57グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》径0.44mの円形を呈し、深さは地山面より0.26mである。《埋土》３層に分かれた。《壁・底面》壁は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。《出土遺物》埋土中より土師器甕（第29図41）、須恵器坏破片が出土した。

**ＳＫ55土坑**（第26図、図版５）

《位置》ＭＩ57・58グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》長軸0.61m、短軸0.51mの楕円形を呈する。深さは地山面より0.28mである。《埋土》２層に分かれ、第２層には炭化物が混入していた。《壁・底面》壁は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。《出土遺物》埋土中より土師器甕破片、須恵器坏蓋・坏破片、木片が出土した。

**ＳＫ59土坑**（第26図）

《位置》ＭＥ52グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》長軸0.61m、短軸0.51mの隅丸方形を呈する。深さは地山面より0.14mである。土坑の南側に浅い落ち込みがある。《埋土》２層に分かれた。《壁・底面》壁は急な立ち上がりであり、底面は鍋底状である。

**ＳＫ62土坑**（第27図）

《位置》ＬＰ49・50グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》長軸1.68m、短軸1.45mの楕円形を呈し、深さは地山面より0.7mと深い。《埋土》５層に分かれたが、雨のため

に土層観察用ベルトが崩れてしまい土層の注記ができなかった。《壁・底面》壁はほぼ垂直に立ち上がっていて、底面は平坦である。《出土遺物》埋土中より須恵器坏（第29図42）、土師器甕（43）、紡錘車（44）などが出土した。

**ＳＫ64土坑**（第26図）

《位置》ＬＳ43グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》径0.51mの円形を呈している。深さは地山面より0.41mである。《埋土》４層に分かれた。《壁・底面》壁はほぼ垂直に立ち上がっていて、底面は東側が一段高くなっている。《出土遺物》埋土中より土師器甕破片が出土した。

**ＳＫ66土坑**（第27図、図版５）

《位置》ＬＯ44グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》長軸1.48m、短軸1.14mの不整な楕円形を呈している。深さは地山面より0.21mである。《埋土》４層に分かれ、第２層は、炭化物の層である。《壁・底面》壁は緩やかに立ち上がり、底面は鍋底状になっていた。《出土遺物》埋土中より土師器椀（第29図45）・甕（46・47）などが出土した。

**ＳＫ69土坑**（第27図）

《位置》ＬＮ44、ＬＯ44グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》北側がＵ字溝で壊されていて現存する大きさは、長軸1.89m、短軸1.38mで、プランは隅丸方形と考えられる。深さは地山面より0.19mである。《埋土》２層に分かれ、第２層は炭化物の層である。《壁・底面》壁は緩やかに立ち上がり、底面は凹凸がある。《出土遺物》埋土中より手捏土器（第29図48）、土師器坏・甕破片、須恵器坏破片が出土した。

### ６　捨て場

**ＳＴ63捨て場**（第27図）

《位置》　ＬＯ49・50グリッドに位置する。

《確認》　粗掘中にⅡ層下部で土器片を確認し、その後小規模な土器の捨て場とした。

《規模》　掘り込みはなく約径1.5mの範囲に多量の土器が捨てられていた。

《出土遺物》　須恵器坏（第30図49・50）、土師器坏（51）・高台付坏（52）・甕（第30～32図53～69）など多量に出土した。

### ７　溝跡

**ＳＤ18溝跡**（第33図、図版２）

《位置》　ＭＡ45、ＭＢ45、ＭＣ45、ＭＤ45、ＭＥ45、ＭＦ45グリッドに位置する。

《確認》　地山面で確認した。

《重複》　ＳＢ20掘立柱建物跡内を通るが、新旧関係は不明である。

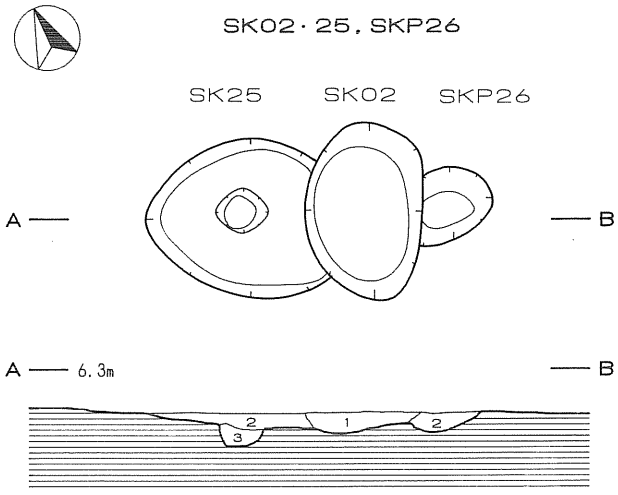
《規模・平面形》　遺跡西側から東側へほぼ直線に延びる。検出した長さは17m、幅は0.35mを測り、深さは地山面より0.18mである。

《出土遺物》　確認面より土師器椀破片、土師器甕破片が出土した。

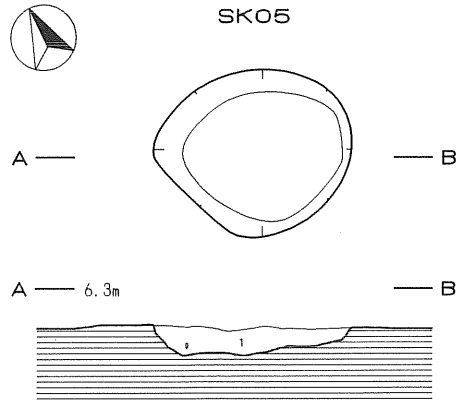
**ＳＤ40溝跡**（第11図）

《位置》　ＭＭ55～57、ＭＮ57グリッドに位置する。

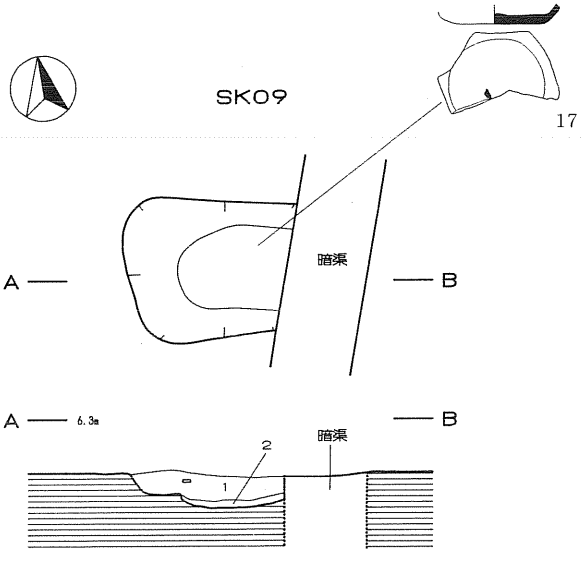
《確認》　地山面で確認した。



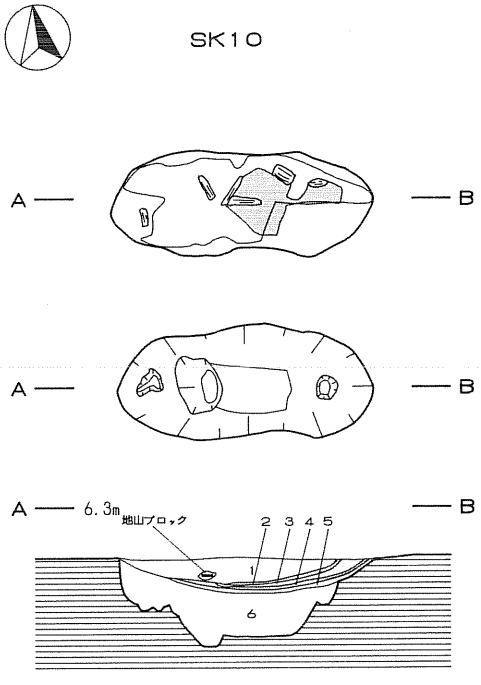

SK02・25・SKP26
1　灰黄褐色土（10YR5/6）
　明褐色土（7.5YR5/6）含む
　しまり非常に強　粘性強
2　黒褐色土（10YR3/2）
　明褐色土（7.5YR5/6）含む
　しまり強　粘性強
3　黒褐色土（10YR3/1）
　明褐色土（7.5YR5/6）含む
　しまり強　粘性強




SK05
1　灰黄褐色土（10YR5/2）
　明褐色土（7.5YR5/6）含む
　しまり強　粘性強



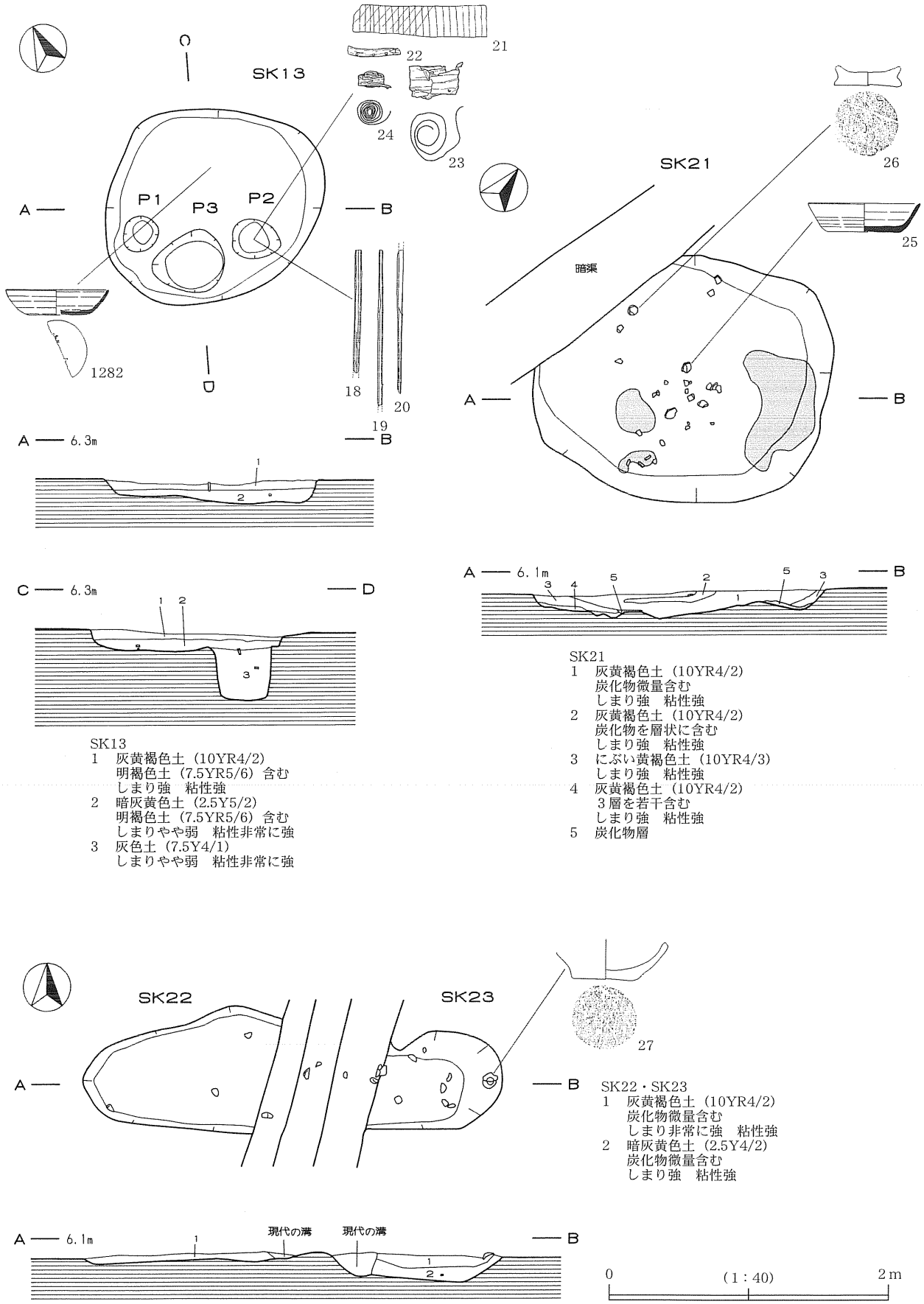

SK09
1　灰黄褐色土（10YR4/2）
　明褐色土（7/5YR5/6）と炭化物含む
　しまり強　粘性強
2　褐灰色土（10YR4/1）
　明褐色土（7.5YR5/6）と炭化物含む
　しまりやや強　粘性強




SK10
1　黒褐色土（10YR3/1）
　炭化物含む
　しまり強　粘性強
2　炭化物層
3　黒褐色土（10YR3/2）
　炭化物含む
　しまりやや弱　粘性強
4　炭化物層
5　灰黄褐色土（10YR5/2）
　しまり強　粘性強
6　暗オリーブ灰色土（5GY4/1）
　しまり弱　粘性強

0　（1：40）　2m

第22図　SK02・05・09・10・25土坑

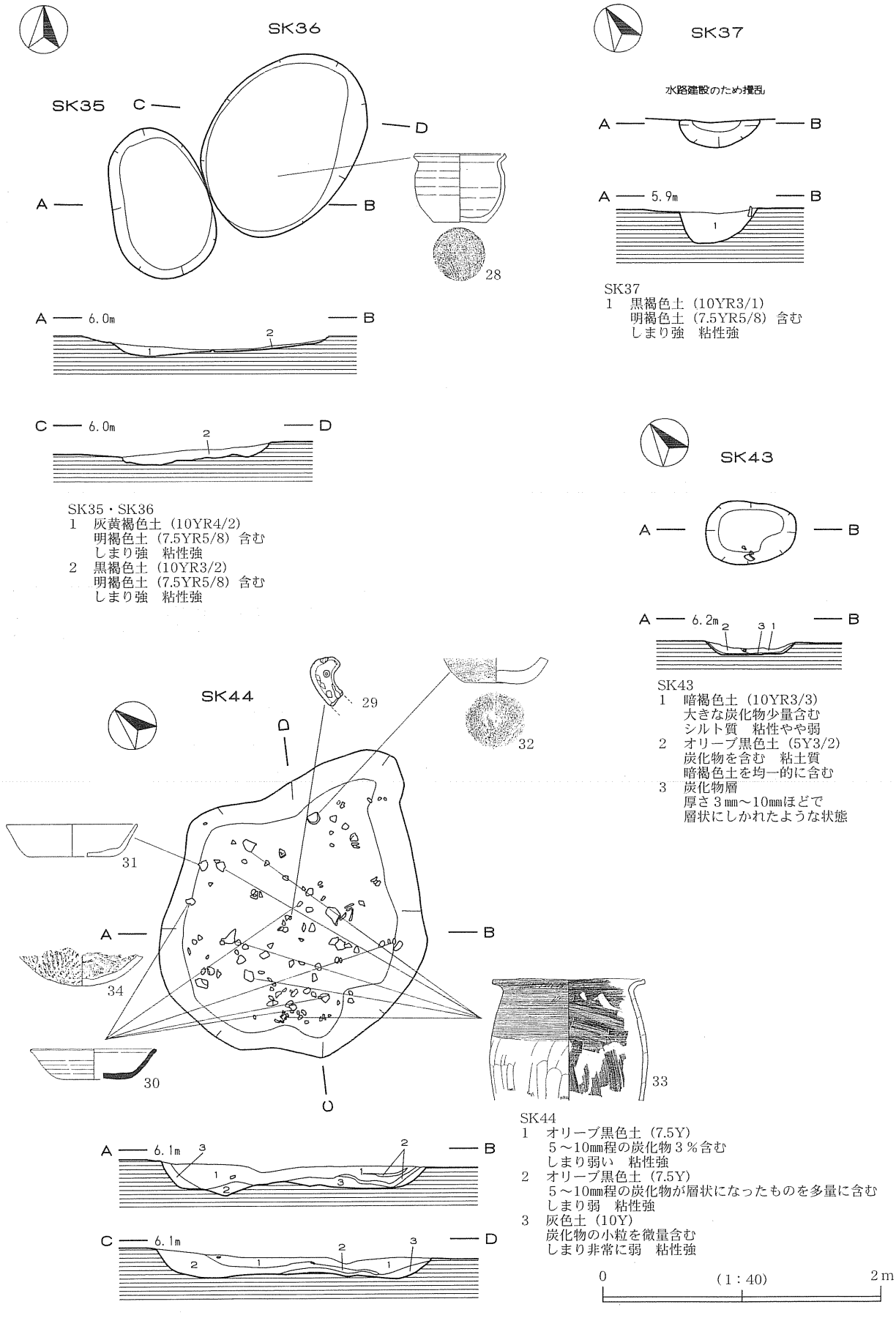



SK13
1　灰黄褐色土（10YR4/2）
　明褐色土（7.5YR5/6）含む
　しまり強　粘性強
2　暗灰黄色土（2.5Y5/2）
　明褐色土（7.5YR5/6）含む
　しまりやや弱　粘性非常に強
3　灰色土（7.5Y4/1）
　しまりやや弱　粘性非常に強

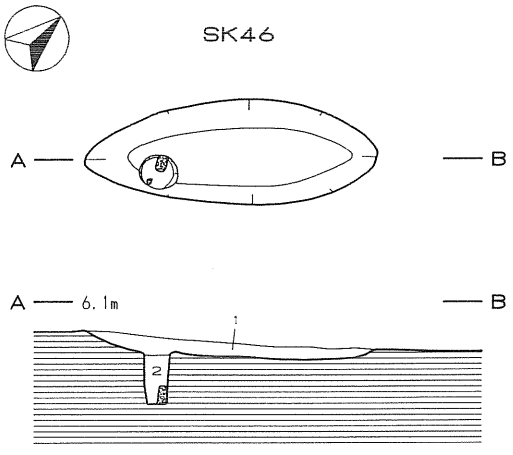
SK21
1　灰黄褐色土（10YR4/2）
　炭化物微量含む
　しまり強　粘性強
2　灰黄褐色土（10YR4/2）
　炭化物を層状に含む
　しまり強　粘性強
3　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
　しまり強　粘性強
4　灰黄褐色土（10YR4/2）
　３層を若干含む
　しまり強　粘性強
5　炭化物層

SK22・SK23
1　灰黄褐色土（10YR4/2）
　炭化物微量含む
　しまり非常に強　粘性強
2　暗灰黄色土（2.5Y4/2）
　炭化物微量含む
　しまり強　粘性強

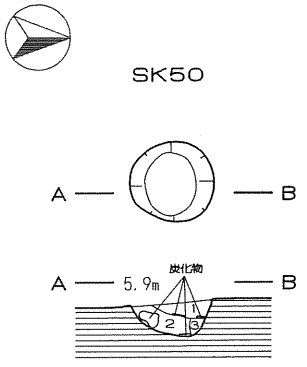
第23図　SK13・21・22・23土坑



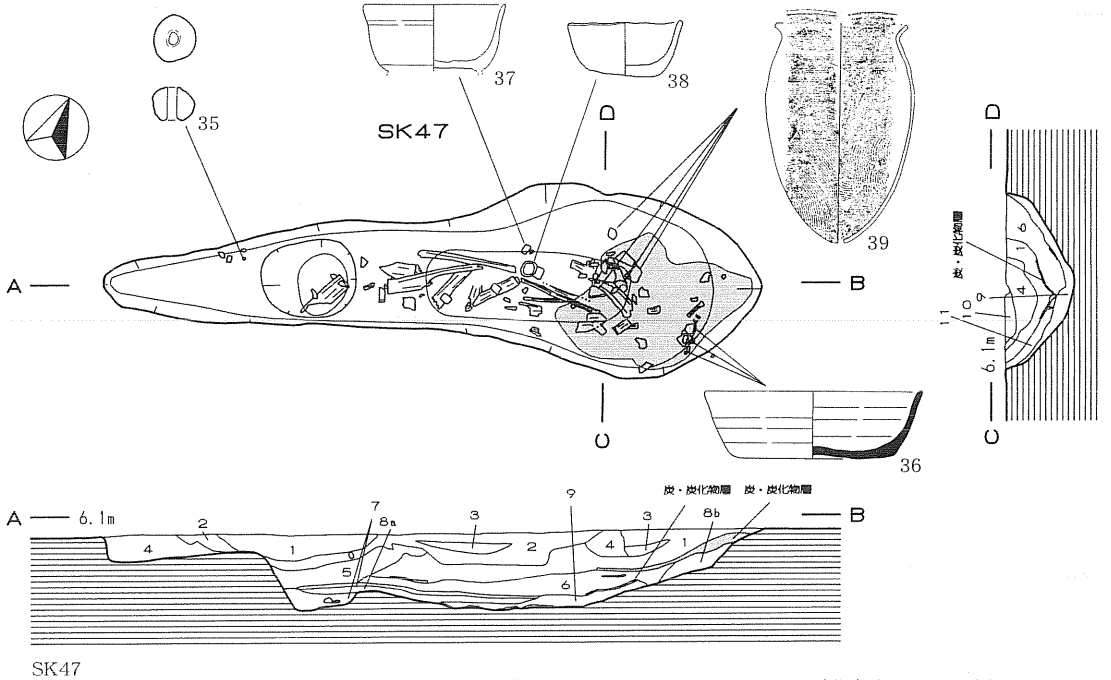

第24図　SK35・36・37・43・44土坑




SK46
1　灰黄褐色土（10YR6/2）
　　しまり強　粘性弱
2　灰黄褐色土（10YR6/2）
　　しまり強　粘性弱




SK50
1　灰黄褐色土（10YR4/2）
　　炭化物含む
　　しまり強　粘性強
2　灰黄褐色土（10YR5/2）
　　炭化物多く含む
　　しまり強　粘性強
3　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
　　炭化物やや多く含む
　　しまり弱　粘性強




SK47
1　黒褐色土（10YR3/2）
　　灰黄褐色土（10YR5/2）炭化物含む
　　しまりやや強　粘性強

2　黒色土（10YR2/1）
　　炭化物含む
　　しまり強　粘性強

3　褐灰色土（10YR4/1）
　　しまりやや弱　粘性強

4　灰黄褐色土（10YR4/2）
　　しまり強　粘性強

5　黒褐色土（10YR3/2）
　　しまりやや弱　粘性強

6　黒褐色土（10YR3/2）
　　地山粒微量含む
　　しまりやや強　粘性強

7　黒褐色土（2.5Y3/2）
　　均一的な層
　　しまり弱　粘性強

8a　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
　　７層を微量含む
　　しまりやや強　粘性強

8b　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
　　地山ブロック含む
　　しまりやや強　粘性強

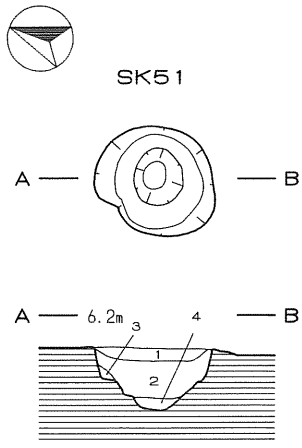
9　暗褐色土（10YR3/3）
　　地山粒微量含む
　　しまり弱　粘性強

10　灰黄褐色土（10YR5/2）
　　しまり強　粘性弱

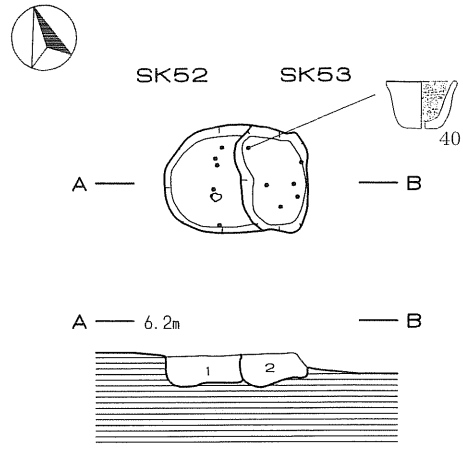
11　灰黄褐色土（10YR5/2）
　　しまり強　粘性強

0　（1：40）　2m

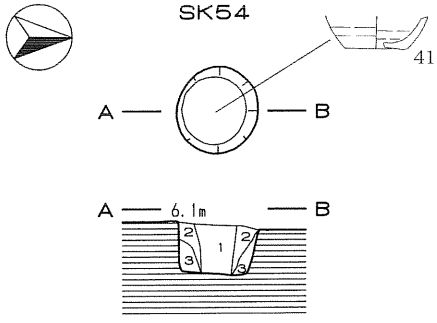
第25図　SK46・47・50土坑



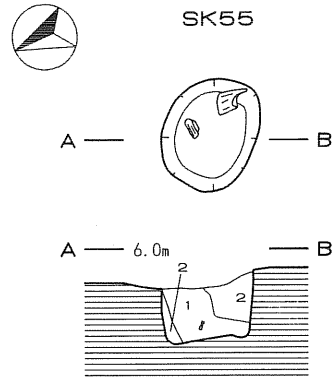

SK51
1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　3　にぶい黄橙色土（10YR6/3）
　　しまり強　粘性弱　　しまり弱　粘性強
2　灰黄褐色土（10YR5/2）　4　灰黄褐色土（10YR6/2）
　　しまり強　粘性強　　しまり強　粘性強



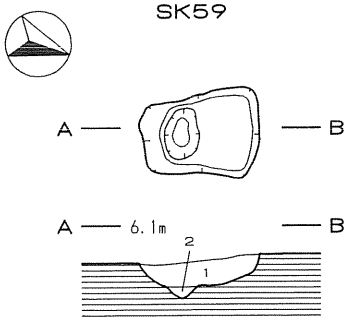

SK52・SK53
1　黒褐色土（10YR3/2）
　　しまり強　粘性強
2　灰黄褐色土（10YR5/2）
　　しまり強　粘性強



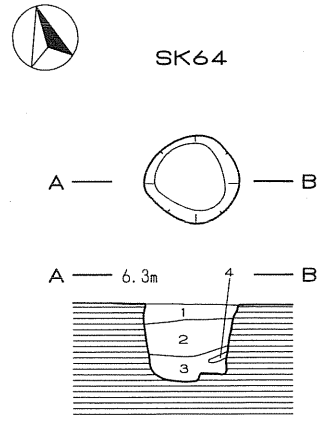

SK54
1　灰黄褐色土（10YR4/2）
　　しまり強　粘性強
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）
　　しまり強　粘性強
3　灰黄褐色土（10YR5/2）
　　しまり強　粘性強




SK55
1　暗オリーブ灰色土（5GY4/1）　2　灰黄褐色土（10YR4/2）
　　褐色土（7.5YR4/4）含む　　炭化物含む
　　しまり弱　粘性強　　しまり強　粘性強



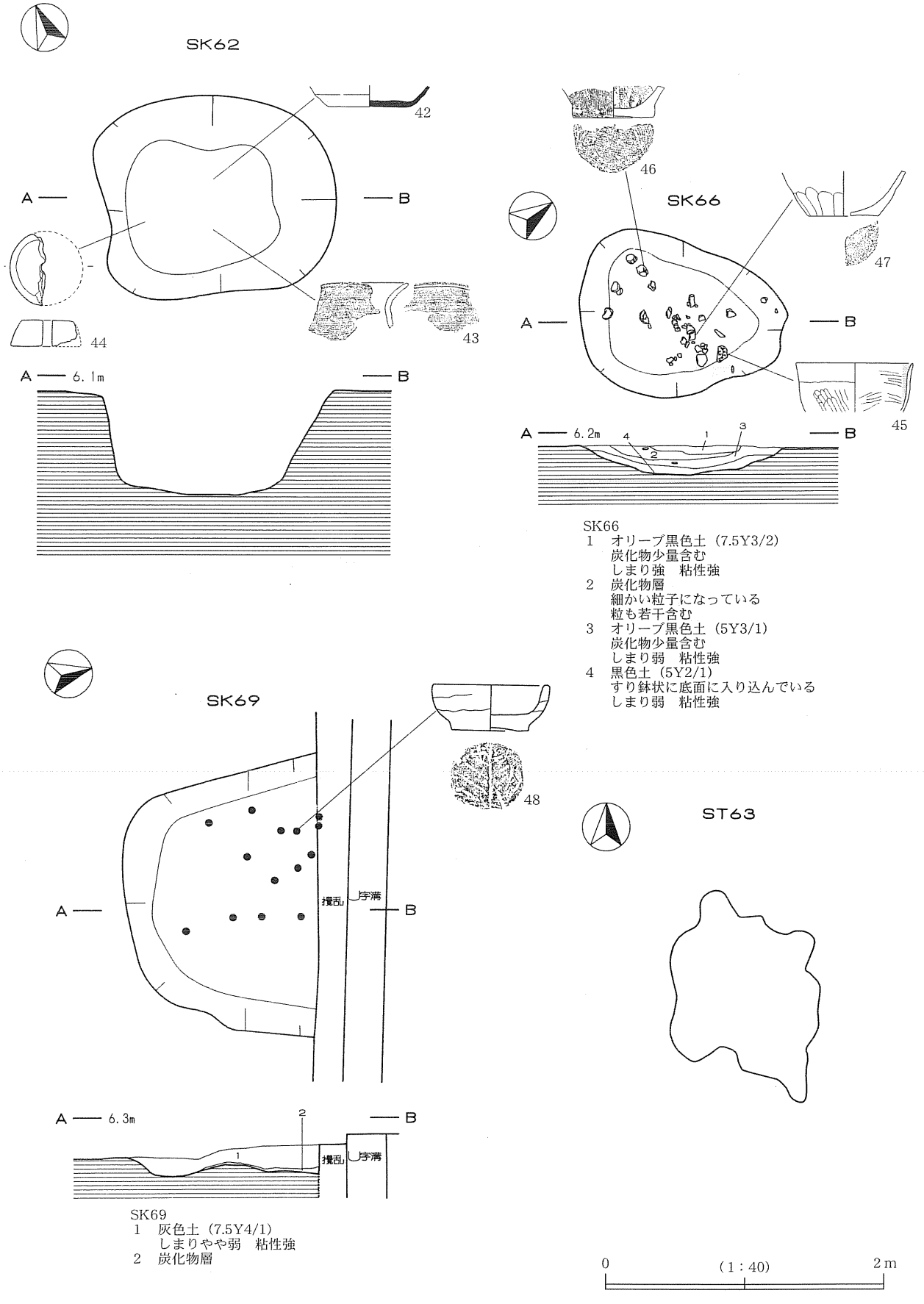

SK59
1　にぶい黄褐色土（10YR5/3）
　　しまり強　粘性強
2　灰黄褐色土（10YR4/2）
　　しまりやや弱　粘性強



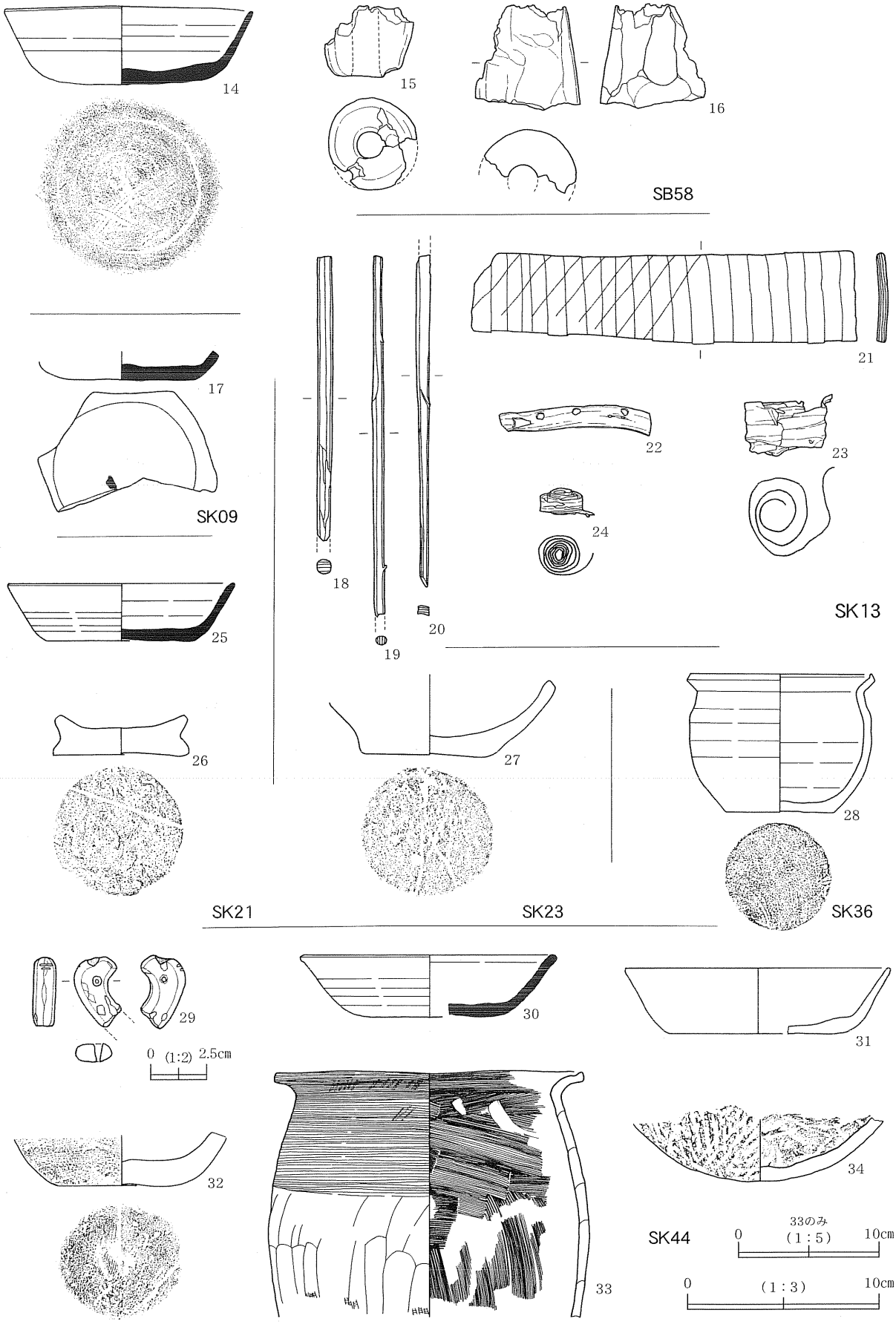

SK64
1　暗オリーブ灰色土（2.5GY3/1）　3　暗オリーブ灰色土（2.5GY4/1）
　　しまりやや弱　粘性強　　しまり弱　粘性強
2　オリーブ黒色土（7.5Y3/1）　4　黒色土（7.5Y2/1）
　　しまり弱　粘性強　　しまり弱　粘性強

0　（1：40）　2m

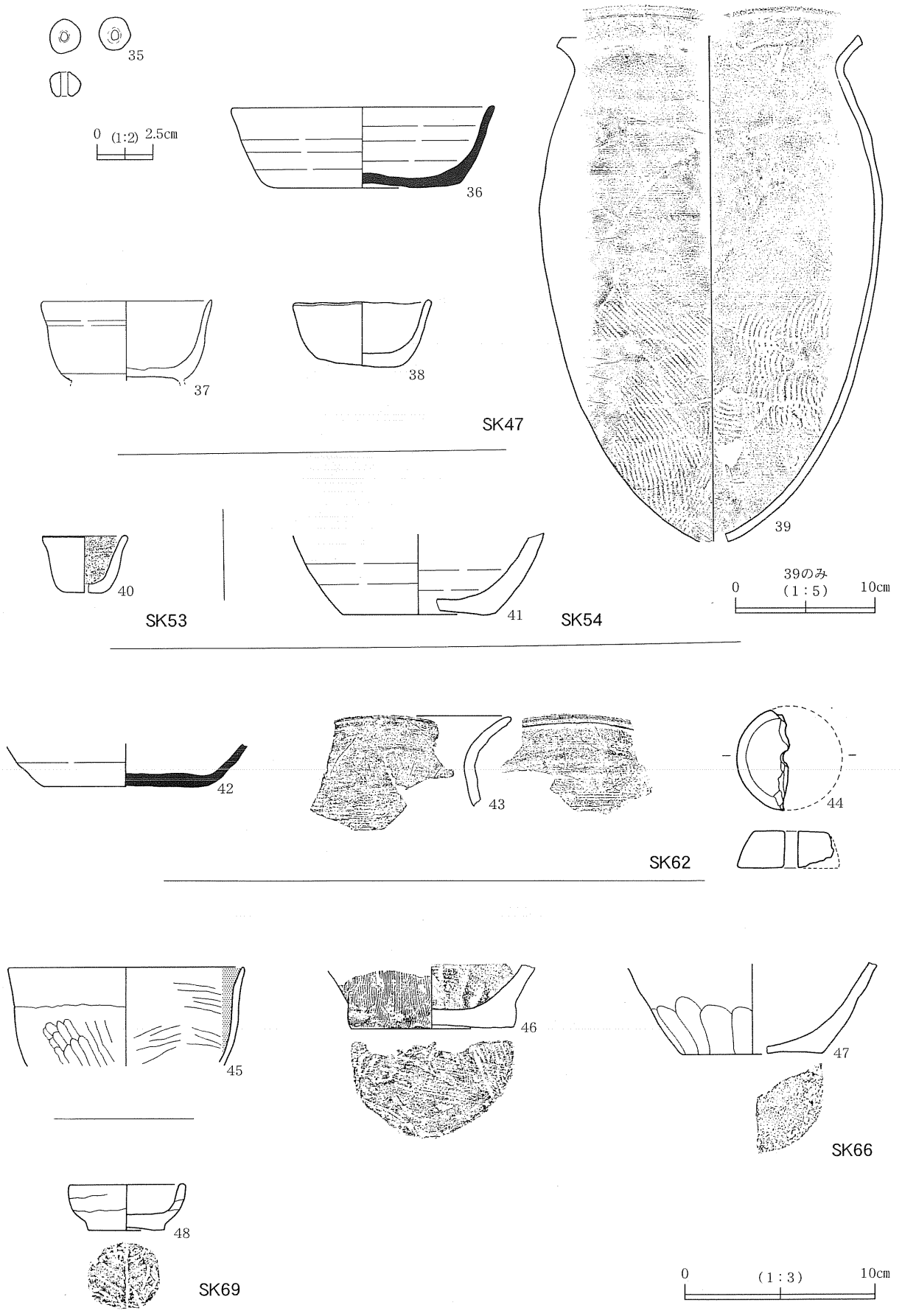
第26図　SK51・52・53・54・55・59・64土坑



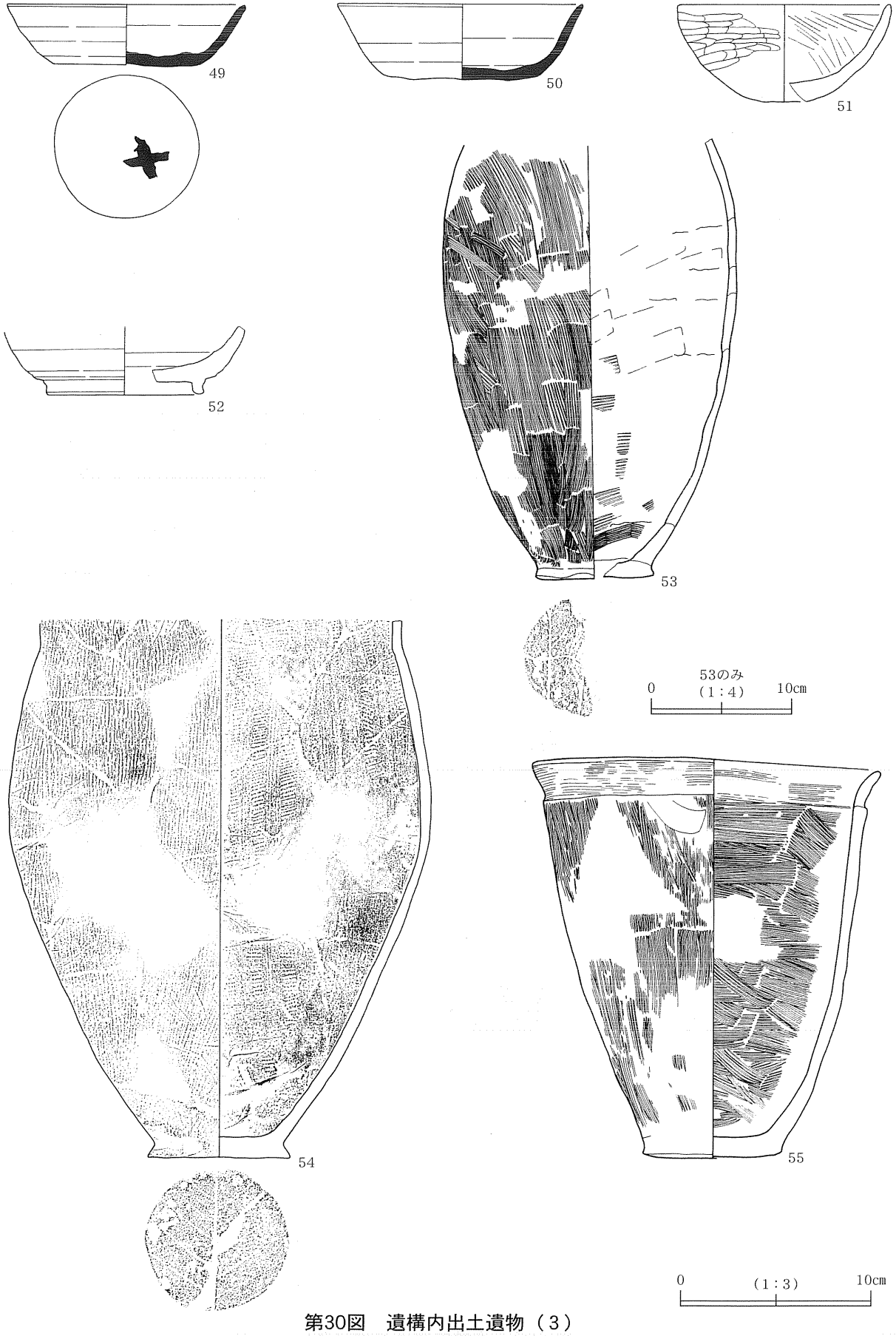

第27図　SK62・66・69土坑、ST63捨て場



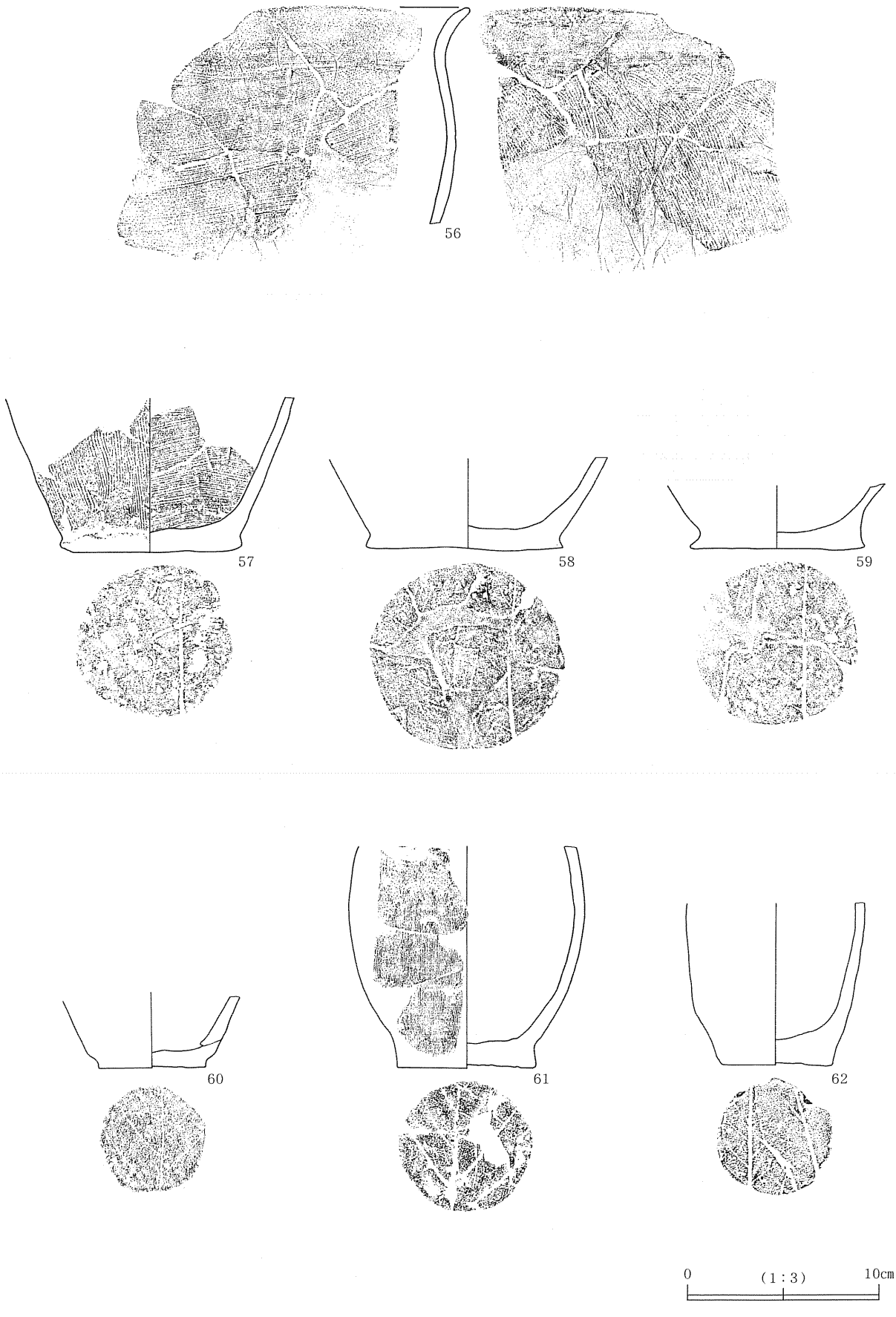

第28図　　遺構内出土遺物（１）



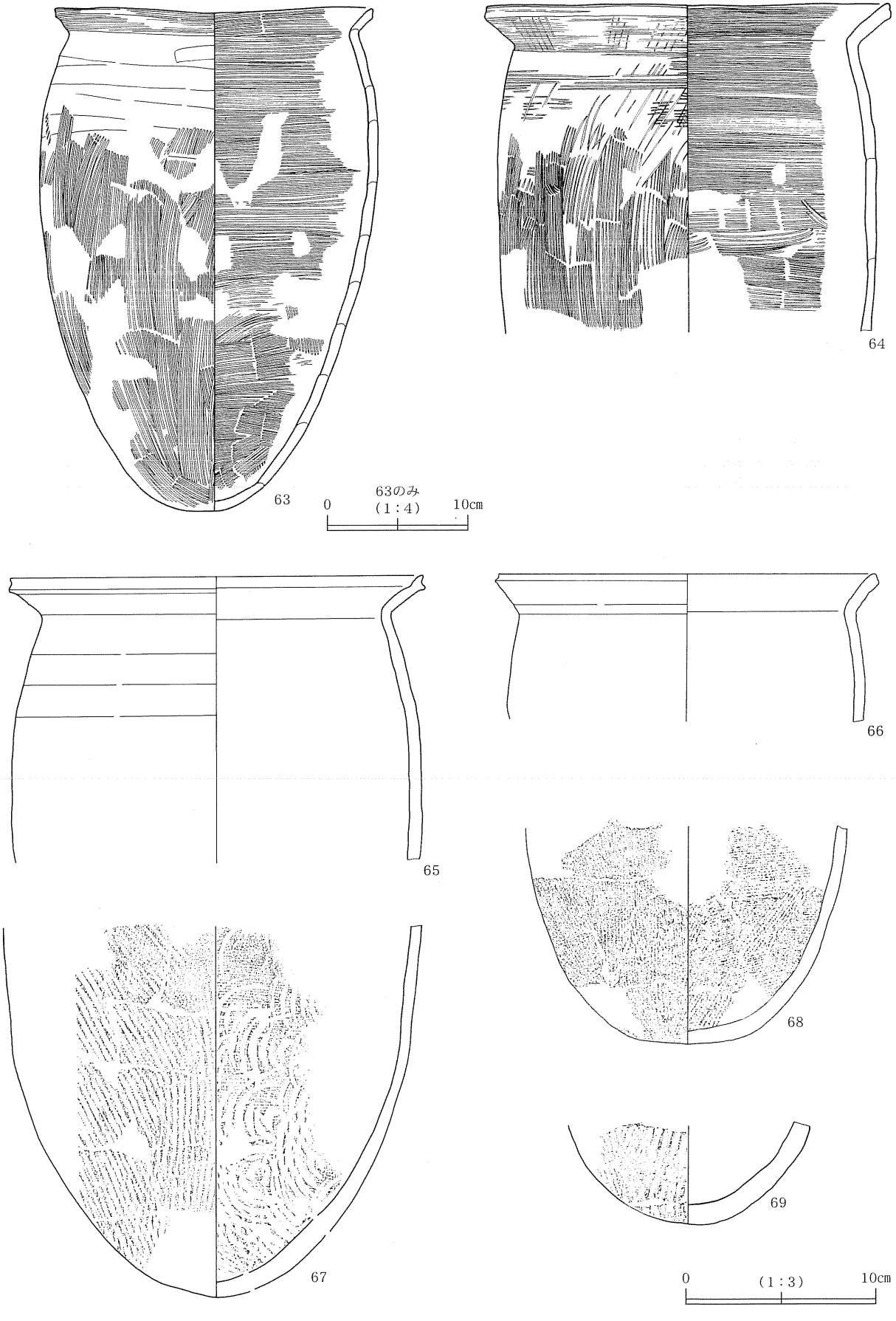

第29図　遺構内出土遺物（２）




第30図　遺構内出土遺物（３）




第31図　遺構内出土遺物（４）




第32図　遺構内出土遺物（５）

《重複》　ＳＢ33掘立柱建物跡のほぼ中央を通るが、新旧関係は不明である。

《規模・平面形》　検出した長さは8.5m、幅は0.18mを測り、深さは地山面より0.18mである。

《埋土》　単一層であった。

**ＳＤ68溝跡**（第33図）

《位置》　ＬＫ39～41、ＬＬ40～42、ＬＭ42グリッドに位置する。

《確認》　地山面で確認した。

《規模・平面形》　検出した長さは6.4m、幅は0.40～0.78mを測るが、南南東側に向かって幅が狭くなる。北側はＳＬ72河川跡とつながる。深さは地山面より0.35mである。

《埋土》　２層に分かれ、第２層には植物遺体が混入していた。

《出土遺物》　埋土より土師器甕破片、須恵器坏破片が出土した。

８　河川跡

**ＳＬ17河川跡**（第34～37図、図版５）

《位置》　遺跡のほぼ中央を北から南側に60m程延び、西側に大きく蛇行している。

《確認》　遺跡の西側地山面で溝状の遺構を確認しＳＤ17とした。また遺跡北側の地山面で溝状遺構を確認しＳＬ42とした。その後、この２つの溝状遺構がつながることを確認した。さらにこの溝状遺構の形態や土層の堆積状況より、溝状遺構ではなく河川跡であると判断した。

《重複》　中央やや北側を新しい溝ＳＤ14に切られている。

《規模・平面形》　検出した長さは80mを測る。幅は、遺跡北側がもっとも狭く4.4m、最大幅は西側に大きく蛇行するところで、8.8mである。深さは地山面より1.36～1.76mである。この川は、標高等から北から南に流れていたと推測される。

《埋土》　土層断面観察用のベルトを２カ所設置し、ＡベルトとＢベルトとした。Ａベルトの土層は主にオリーブ色粘土を基調とする９層からなる。９層には流木や植物遺体等多量に含み、また砂が河床部に向かうほど多くなる。Ｂベルトも同様オリーブ色粘土を基調とする10層からなる。７層に板状材が多く含まれ、９層は葉や枝などの植物遺体を含む層と灰色粘土層が細かく互層となる。蛇行する外岸が急な傾斜をもつことから流れは急であったと推測される。

《出土遺物》　遺物は、須恵器・土師器・木製品・土製品・金属製品・建築材など多岐にわたり、ＳＬ27出土遺物と合わせて本遺跡出土遺物の大半を占める。出土地点は、面的にはある程度集中する箇所はあるもののほぼ全域にわたって、層序的にはほぼ全層から出土した。したがってこれらは近くに掘立柱建物跡があるのでこの住人が投棄した遺物と考えるのが自然であろう。

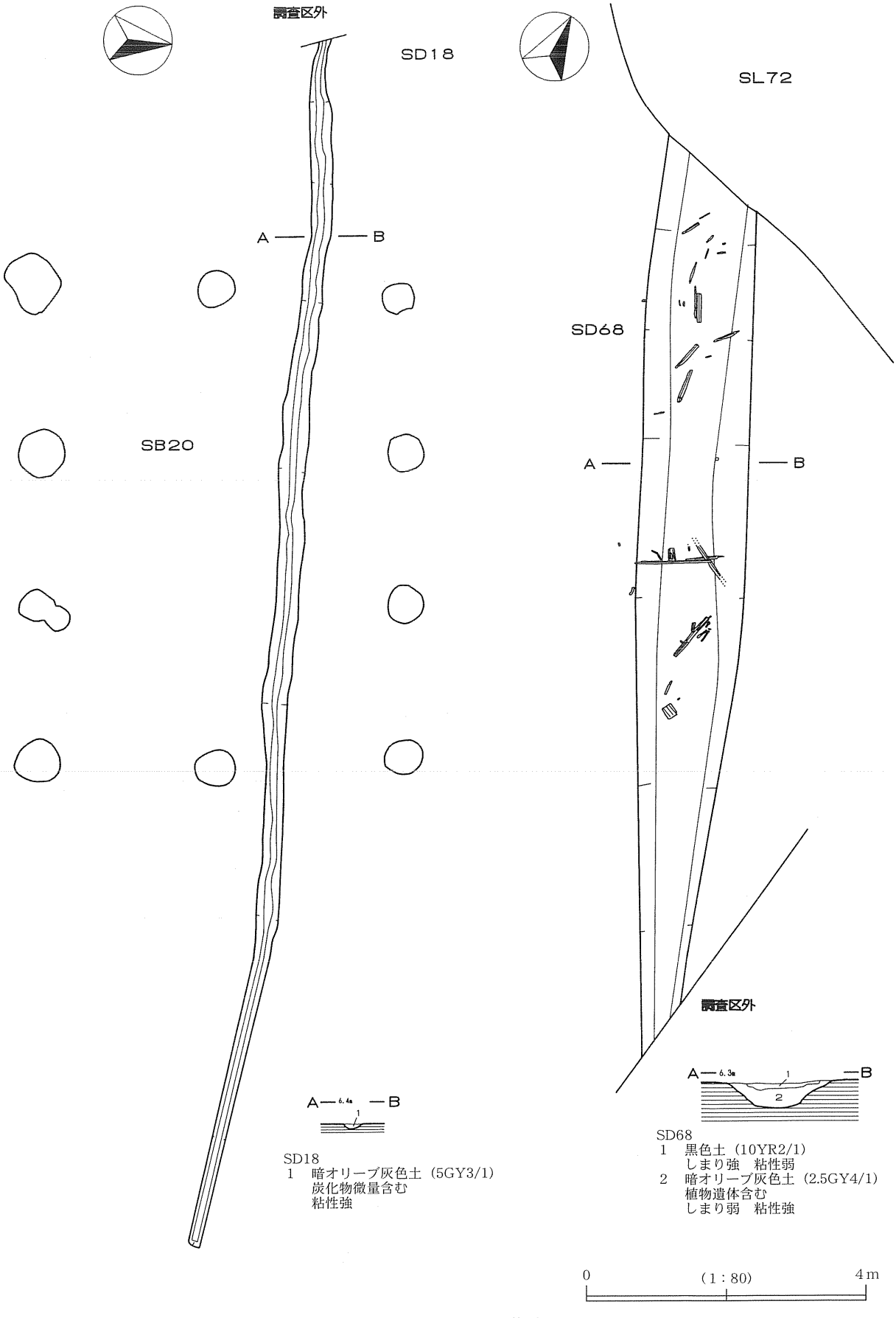
**ＳＬ27河川跡**（第38～43図、図版６）

《位置》　遺跡の北西側を北東から南西側に延び、ＳＬ17河川跡の北西側に位置する。

《確認》　精査中に地山面で溝状遺構を確認し、その後形態や土層の堆積状況より溝状遺構でなく河川跡であると判断した。

《重複》　南西側をＳＤ14溝跡に切られている。

《規模・平面形》　検出した長さは53mを測る。幅は、水路北側がもっとも狭く2.5m、最大幅は南西側で6.1mである。ほぼ直線的に延び、南西側で南側にやや湾曲している。深さは地山面より1.1m前後であるが北側は徐々に浅くなっていた。




第33図　SD18・68溝跡

《埋土》　土層断面観察用のベルトを２カ所設置し、ＡベルトとＢベルトとした。Ａベルトの土層は主にオリーブ色粘土を基調とする４層からなる。１層から２層にかけて板状材が多くみられ、３層から４層にかけては葉や枝などの植物遺体と流木が多く含まれる。Ｂベルトの土層も主にオリーブ色粘土を基調とする７層からなる。５・７層には植物遺体等を多量に含み、７層には流木も含む。蛇行する外岸が急な傾斜をもつことから流れは急であったと推測される。

《出土遺物》　遺物は、須恵器・土師器・木製品・建築材などが出土した。出土地点は、面的には水路より北側部分を除く全域で、層序的にはほぼ全層から出土した。この中で須恵器・土師器の出土量は少なく、主に左岸南東側から出土したことから掘立柱建物跡側からの投棄が考えられる。

**ＳＬ72河川跡**

《位置》　遺跡の東側を北から蛇行しながら東側に延びている。

《確認》　精査中に溝状の遺構を確認後トレンチ調査をし、土層の堆積状況等より河川跡であると判断した。

《規模・平面形》　検出した長さは34.8m、最大幅は9.7mを測る。南側でＳＤ68溝跡とつながる。

《埋土》　土層は主にオリーブ色粘土を基調とする。

《出土遺物》　遺物は、須恵器・土師器・木製品・建築材などが出土したが、量的には少ない。

## 第３節　古代の出土遺物

本遺跡から出土した遺物は大きく土器と木製品に分類される。これらの遺物の９割以上はＳＬ17・27の河川跡からの出土であり、本遺跡を特徴づける遺物である。この項では、ＳＬ17・27河川跡出土遺物を中心に前項で扱った遺構内出土と、遺構外出土の資料を含めて出土遺物の分類をおこない、中谷地遺跡の性格を引き出してみたい。具体的な資料については前項の遺構内出土遺物（第28～32図）のほか、ＳＬ17・27河川跡出土土器（第44～83図）、木製品（第84～130図）と、遺構外出土遺物（第131～134図）をあげる。

分類する出土遺物は、須恵器・土師器の土器群と木製品で、図示した遺物を中心におこなった。また土器群の中には、墨書土器・漆書土器・ヘラ書土器・土師器坏に付着した漆紙文書の文字資料も含まれ、これらは土器群の分類とは別におこなった。

### １　土器

**〔須恵器〕**

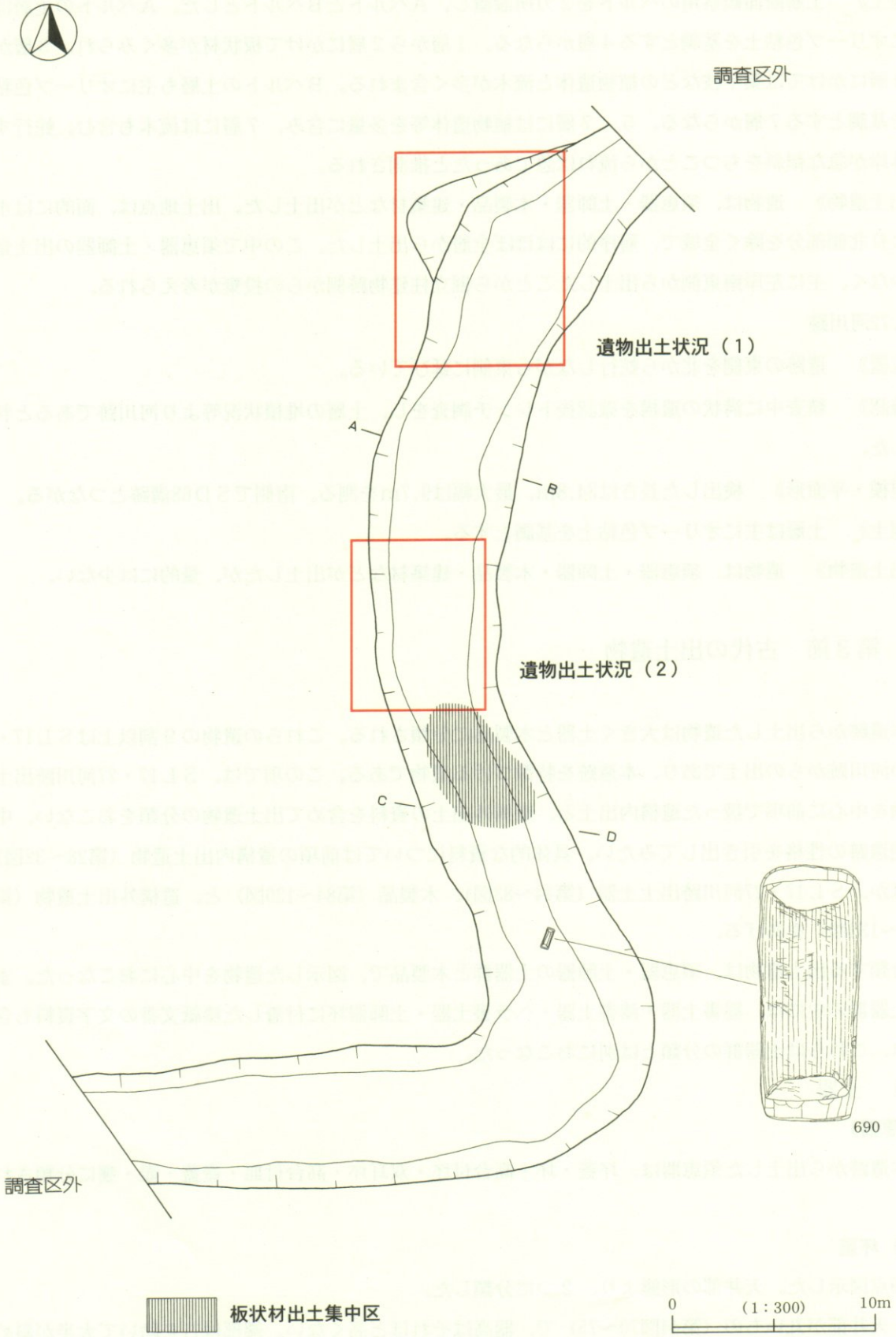
本遺跡から出土した須恵器は、坏蓋・坏・高台付坏・双耳坏・高台付皿・壺蓋・壺・甕に分類される。

**（１）坏蓋**

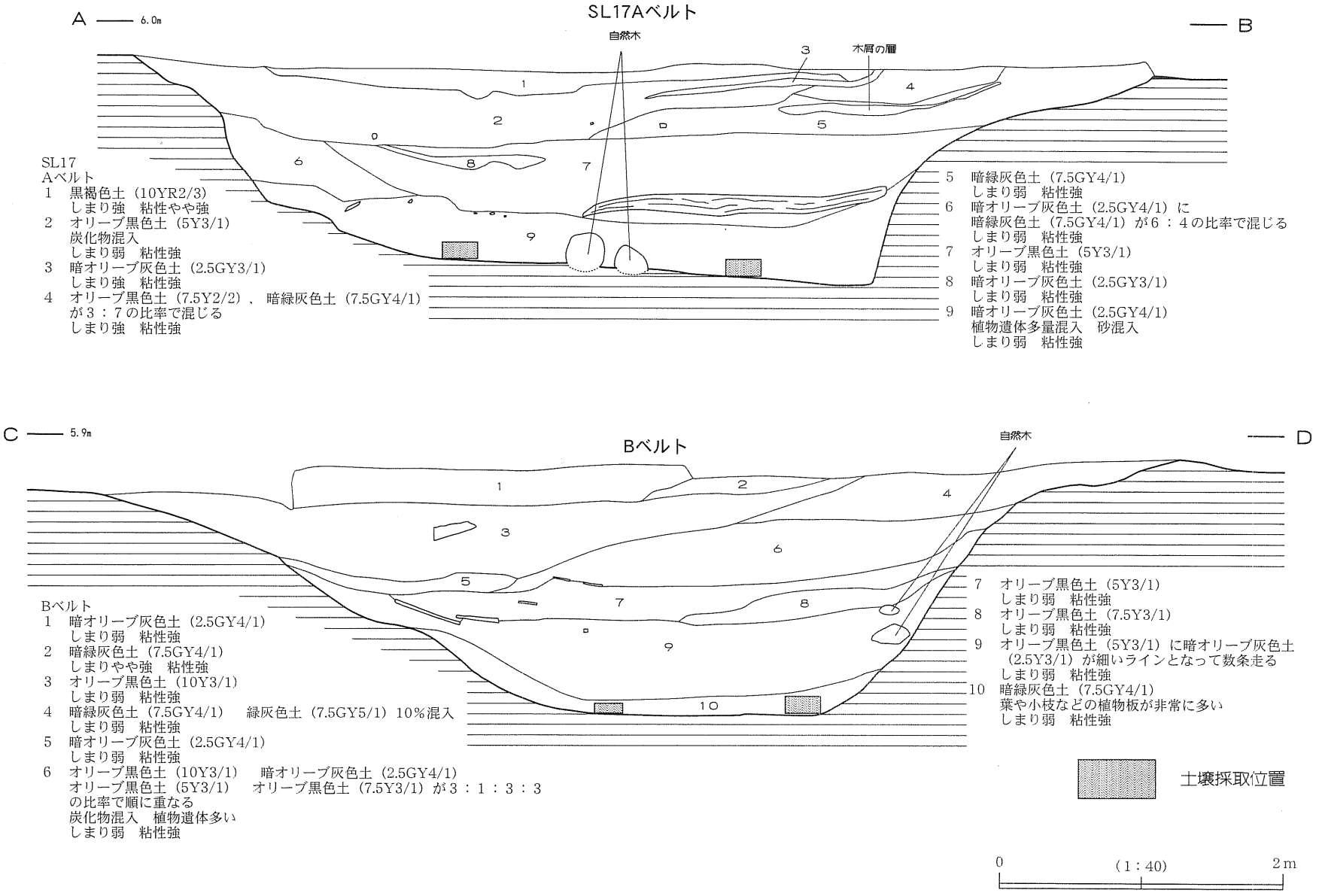
19点図示した。天井部の形態より、２つに分類した。

Ａ：天井部が丸いもの（第44図70～75）で、器高はそれほど高くない。端部は71を除いて大半が斜めに下りてきて内側に屈折する。つまみはすべてボタン状を呈する。

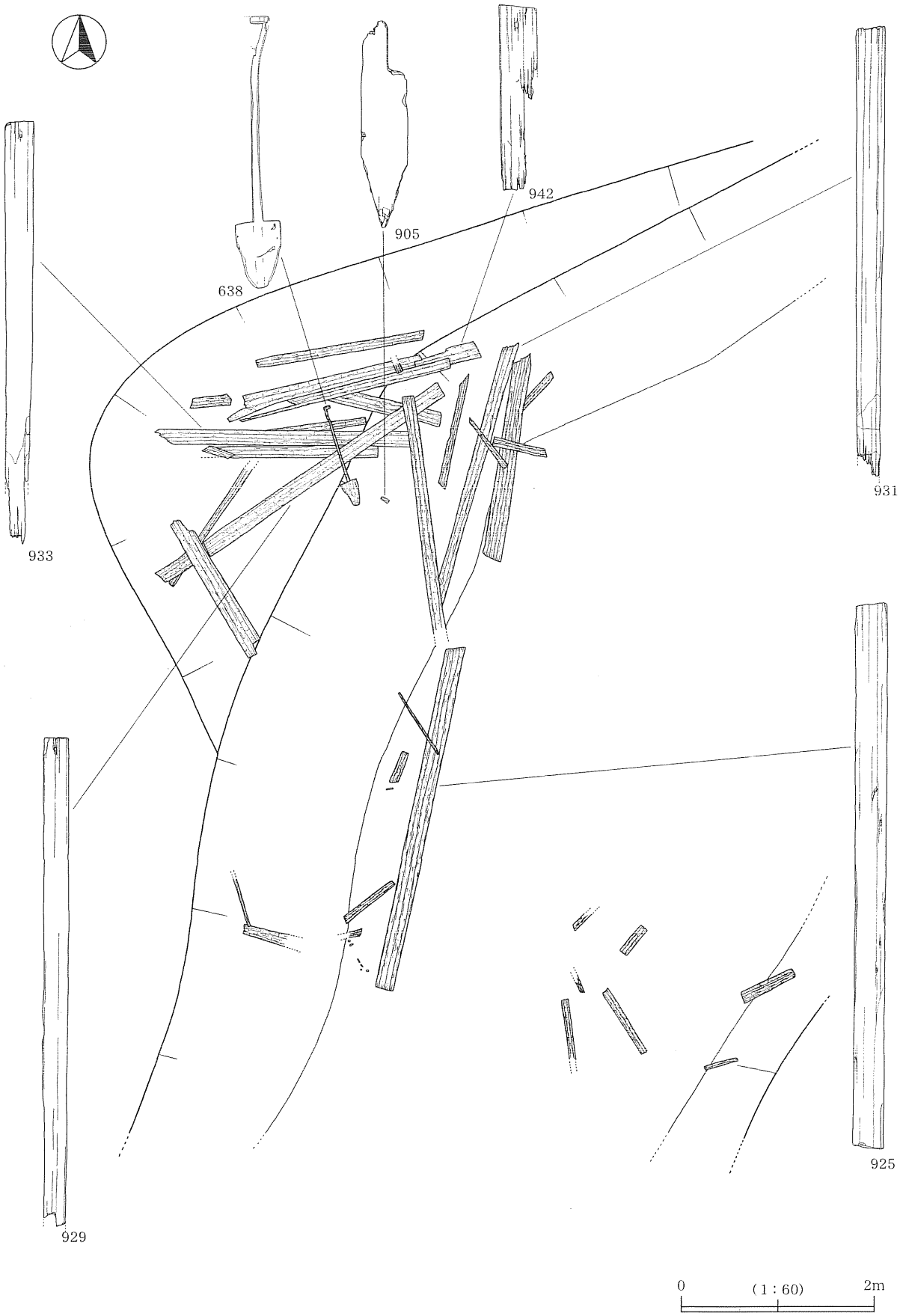
Ｂ：天井部が平坦なもの（第44図76～84、第82図595）で、器高は82・83が若干高い。79・80は回転ヘラ切りの後のヘラケズリ痕が明瞭に残る。端部は大半が斜めかやや水平気味になるが、81は逆



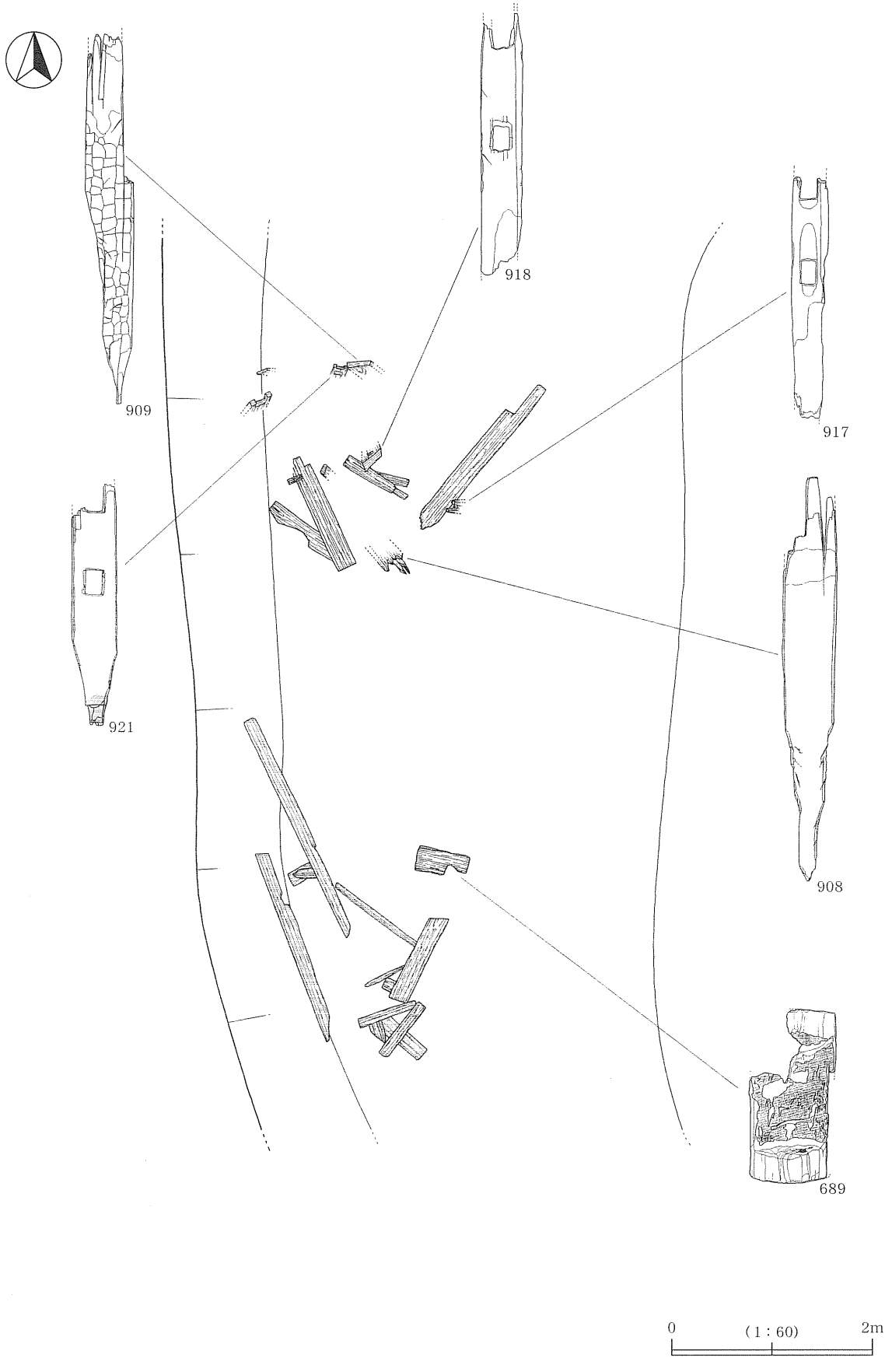

第34図　SL17河川跡全体図



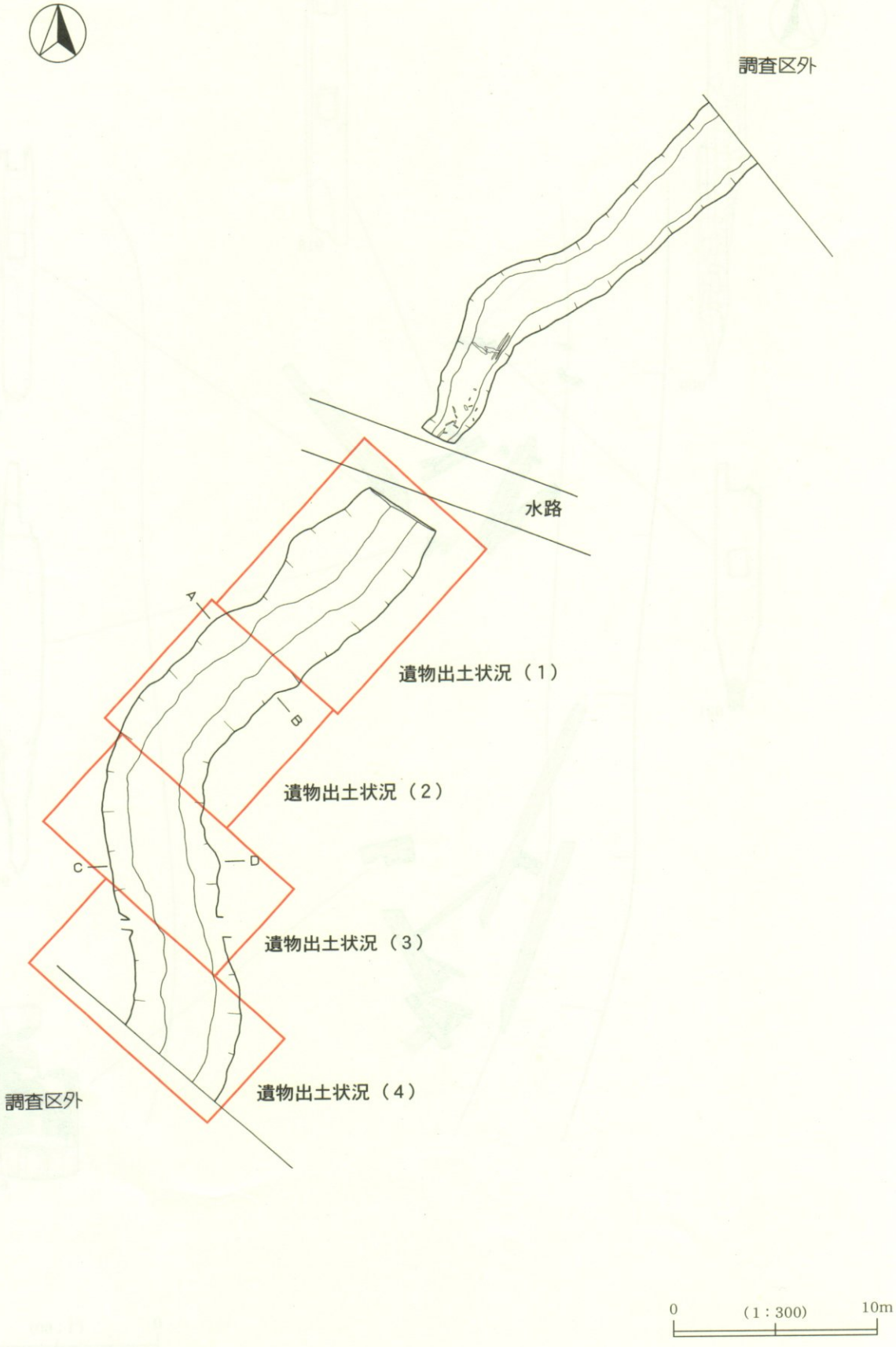

第35図　SL17河川跡断面




第36図　SL17河川跡遺物出土状況（１）

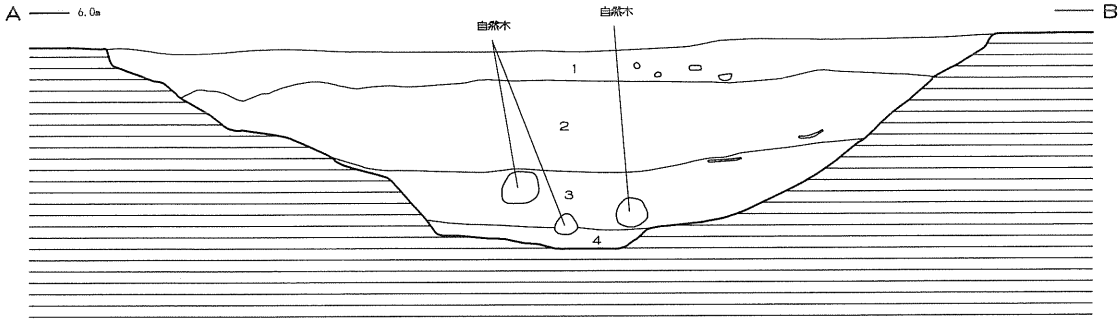



第37図　SL17河川跡遺物出土状況（２）



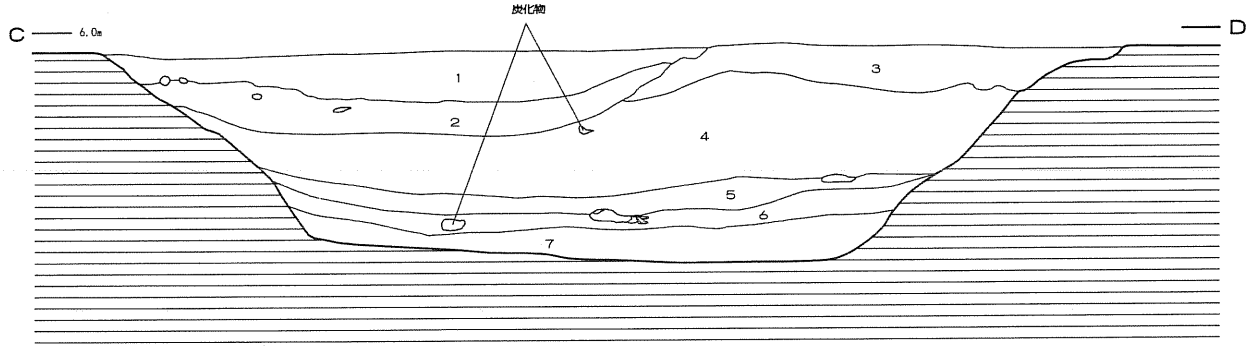

第38図　SL27河川跡全体図

SL27Aベルト




SL27
Aベルト
1　オリーブ黒色土（7.5Y3/2）
　両岸端に自然の枝多く含む
　しまり強　粘性強
2　オリーブ黒色土（7.5Y3/2）
　自然の枝を多量に含む　自然遺物をすり鉢状に含む
　しまり弱　粘性強
3　暗緑灰色土（7.5GY4/1）とオリーブ黒色土（7.5Y3/2）50％ずつ混在
　流木を含む
　しまり弱　粘性強
4　オリーブ黒色土（5Y3/1）
　自然遺物多量に含む
　しまり弱　粘性強

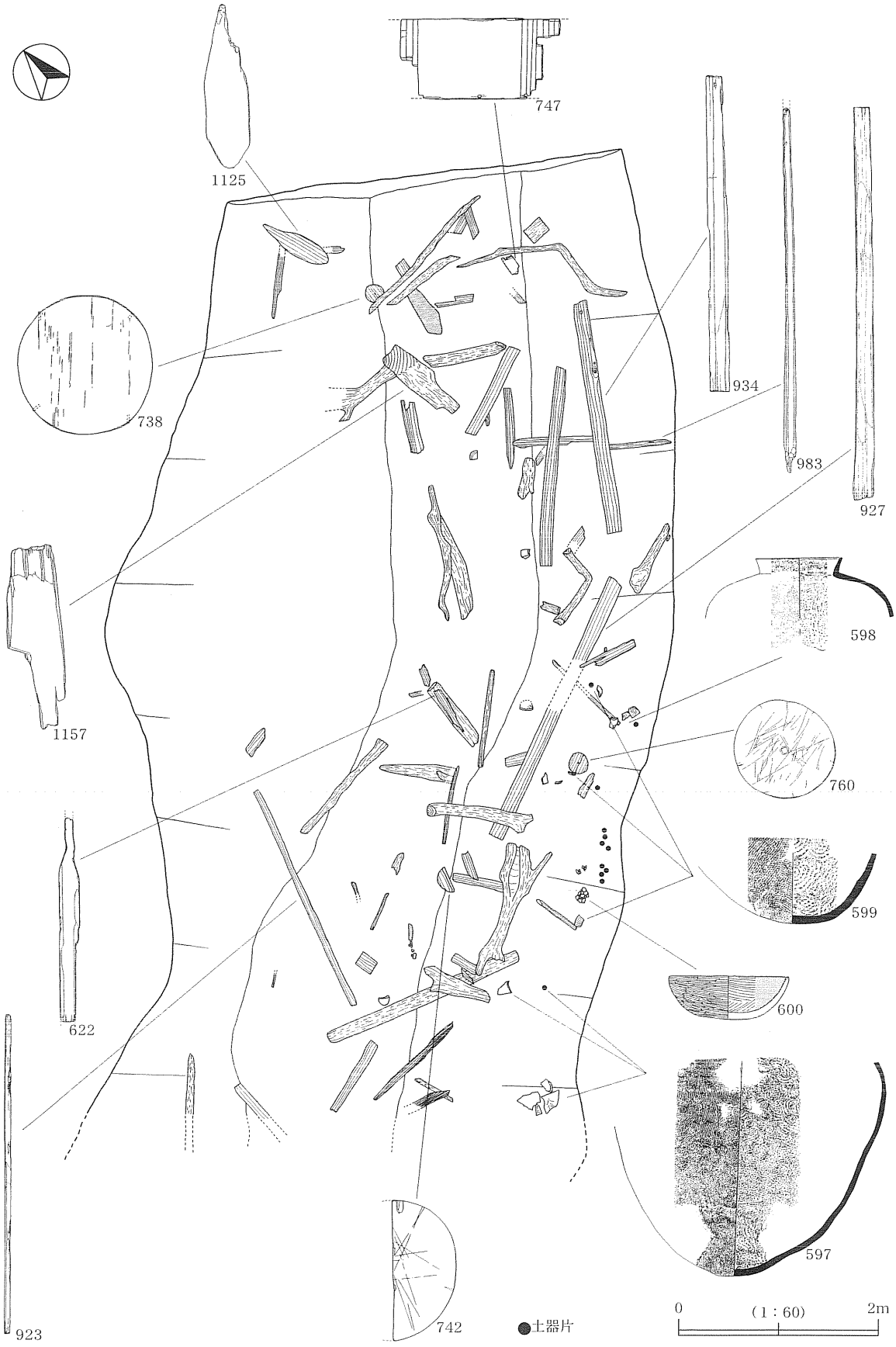
Bベルト



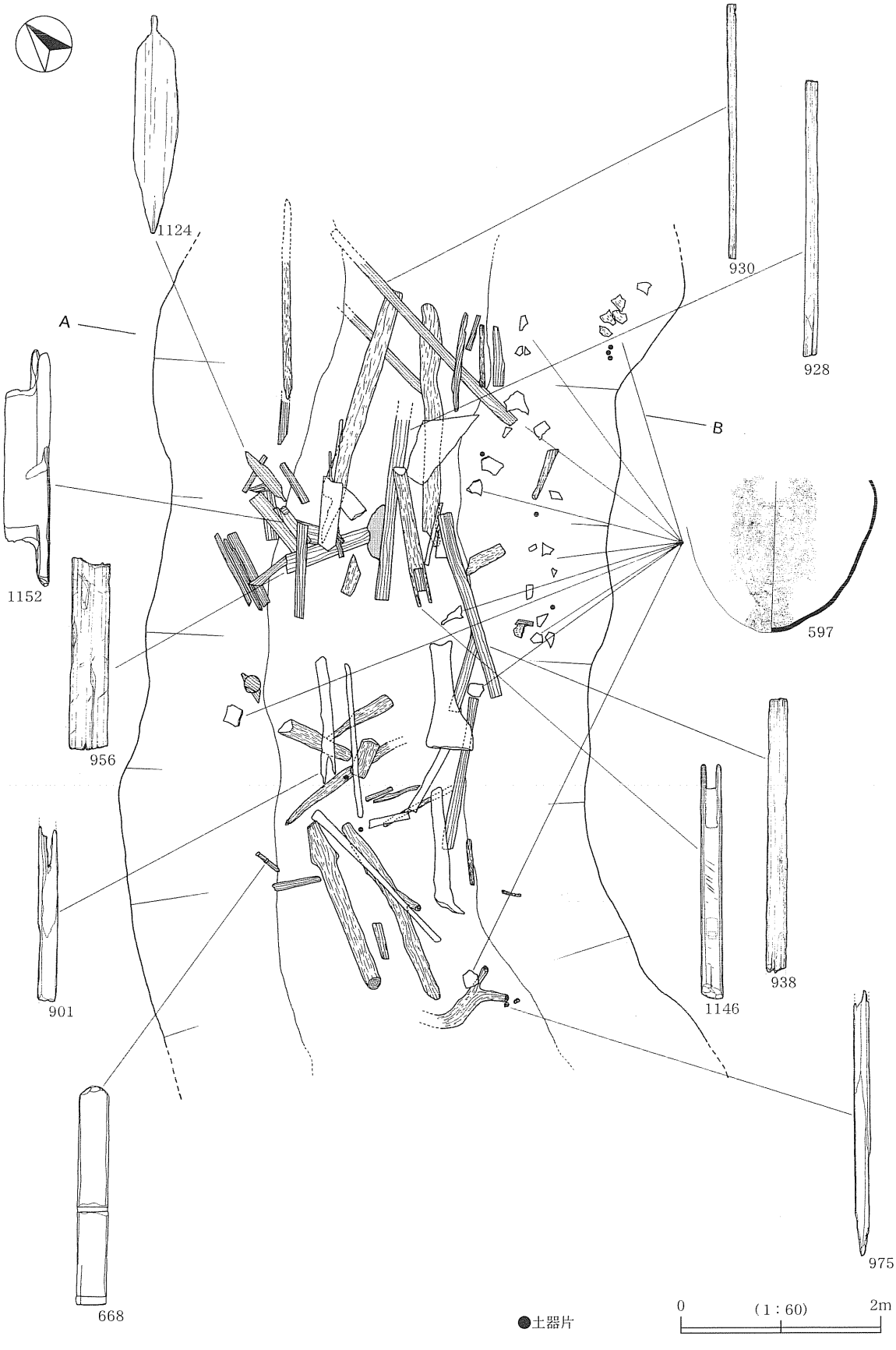

Bベルト
1　オリーブ黒色土（7.5Y3/2）
　上面に砂粒を若干含む
　しまり強　粘性強
2　オリーブ黒色土（7.5Y3/2）
　しまり弱　粘性強
3　暗緑灰色土（7.5GY4/1）とオリーブ黒色土（7.5Y3/2）
　オリーブ黒色土に暗緑灰色土が大きなブロックで入り込む
　しまり非常に強　粘性強
4　オリーブ黒色土（7.5Y3/2）
　黒い自然遺物の薄い層が短く層状に入る
　しまり弱　粘性強
5　オリーブ黒色土（5Y3/1）
　自然遺物多量に含む
　しまり弱　粘性強
6　オリーブ黒色土（7.5Y3/2）
　自然遺物微量含む
　しまり弱　粘性強
7　オリーブ黒色土（5Y3/1）
　自然遺物多量に含む
　しまり弱　粘性強

0　（1：40）　2m

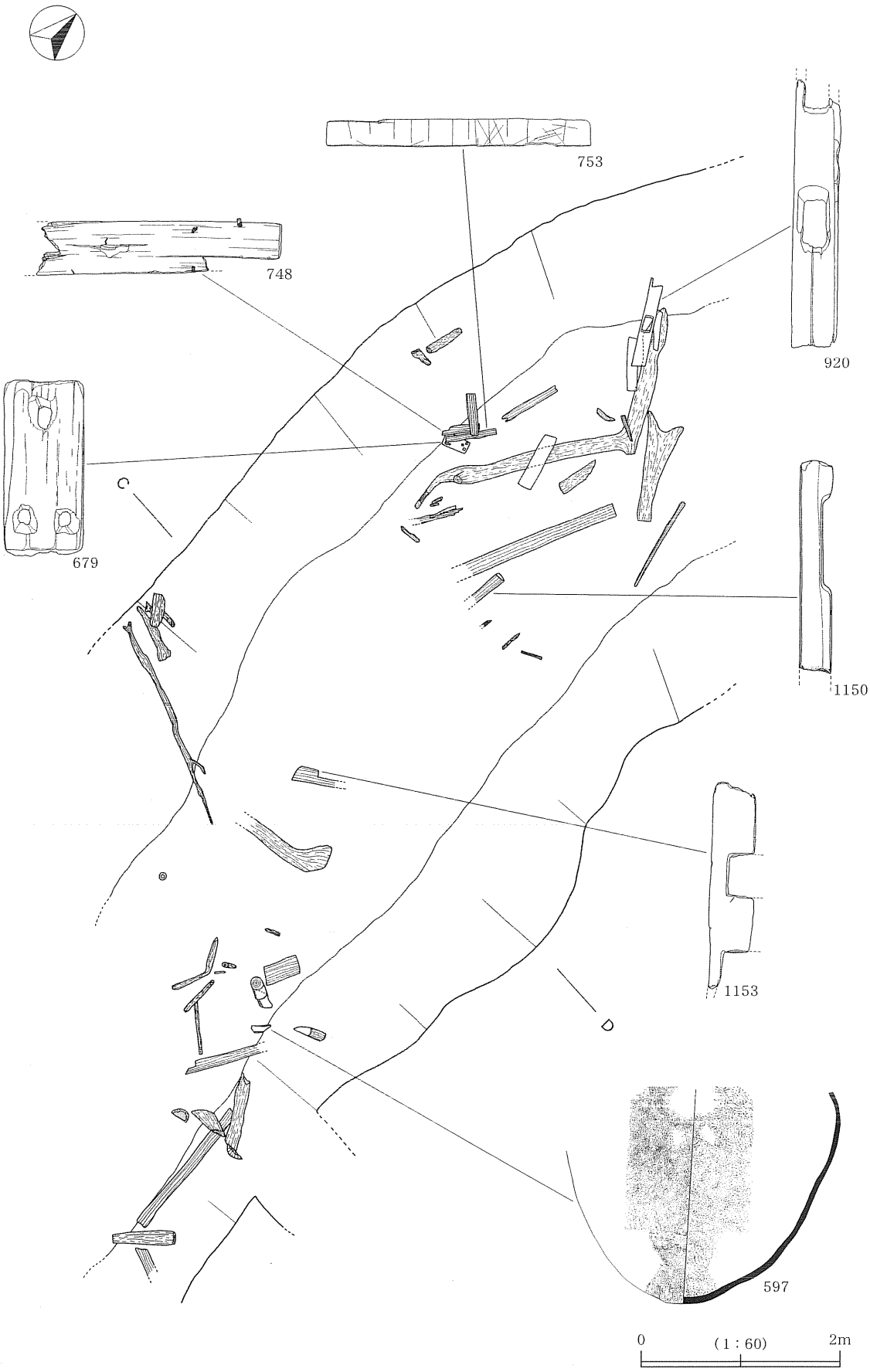
第39図　SL27河川跡断面



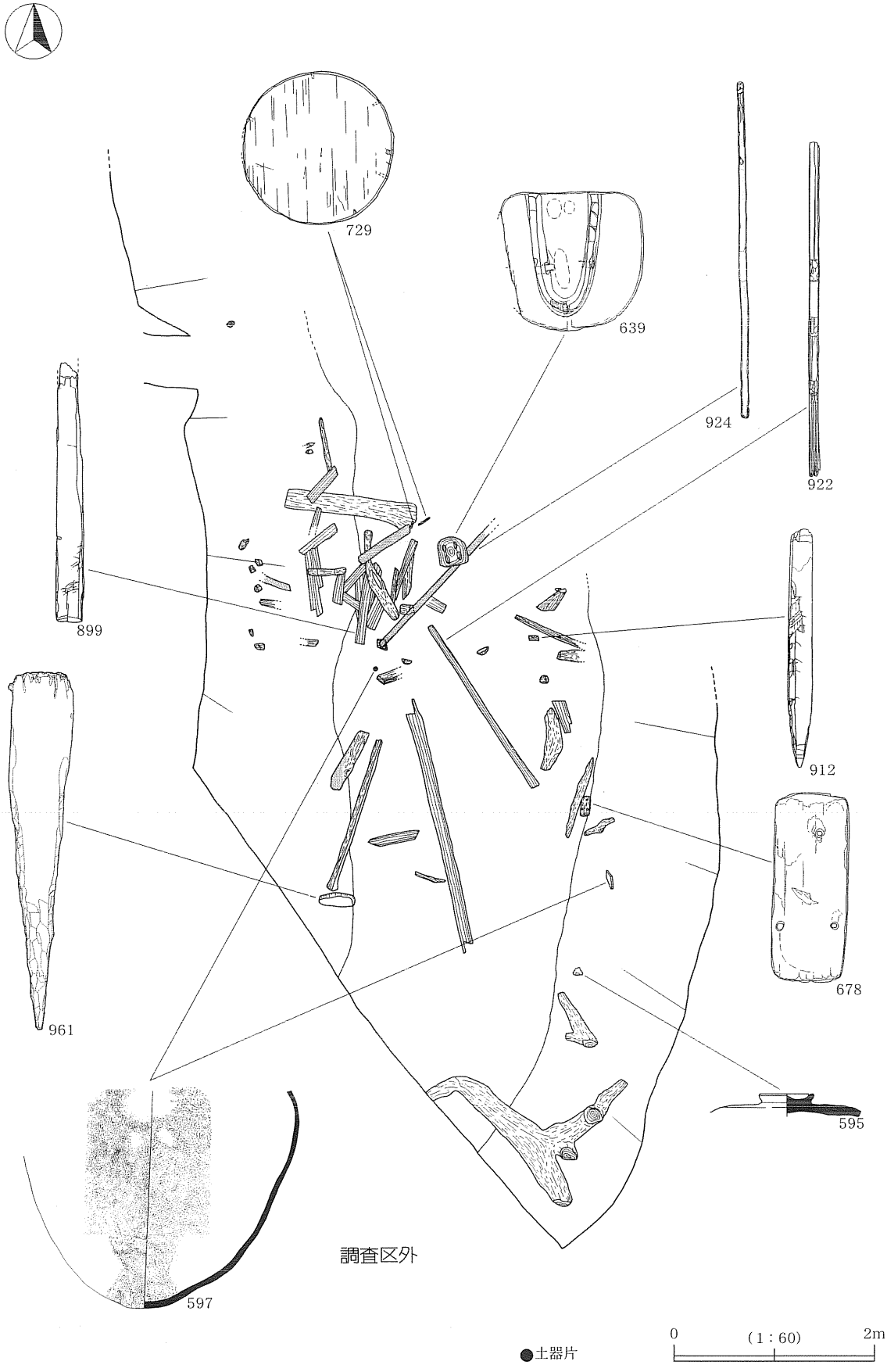

第40図　SL27河川跡遺物出土状況（１）




第41図　SL27河川跡遺物出土状況（２）




第42図　SL27河川跡遺物出土状況（３）




第43図　SL27河川跡遺物出土状況（４）

に跳ね上がる。つまみはすべてボタン状を呈する。595の内面には墨痕が残る。

（２）坏

本遺跡で最も多く出土した器種で、219点図示した。器形によって大きく２つに分類される。

Ⅰ類：全体的に底径が比較的大きく、あまり器高の高くないもので、底部の切り離しはすべて回転ヘラ切りの後、ナデが施されている。器の厚さから、

Ａ：全体的に厚いつくりで、口縁が内湾するもの（第45図88・89）、底部から口縁まで直線的に外傾して立ち上がるもの（第45図87、90～110、第46図111～113）、口縁部が外傾するもの（第46図114・115）に分けられる。

Ｂ：器厚がＡ類とＣ類の中間で、口縁が内湾するもの（第46図116～122）、底部から口縁まで直線的に外傾して立ち上がるもの（第46～48図123～176）、口縁部が外傾するもの（第48図177～186、第49図187・188）に分けられる。

Ｃ：全体的にうすいつくりで、口縁が内湾するもの（第49図189・190）、底部から口縁まで直線的に外傾して立ち上がるもの（第49図191～202）、口縁部が外傾するもの（第49図203～212）に分けられる。

Ⅱ類：全体的に底径が小さく、器高の高いもので、底部の切り離しによって

Ａ：回転ヘラ切りの後、ナデが施されるもの（第49・50図213～218）

Ｂ：回転糸切り（第50図219～223）

の２つに分類できる。

その他全体を概観すると、87は観察するかぎり体部下端に回転ヘラケズリを施す唯一のタイプである。底部の切り離しが回転ヘラ切りのものは、上げ底気味になりヘラ先を示す浅い窪みを留めるもの（91・98・109・124・133・135・160・161・163～167・200・202・205など）、底部中央が出っ張り回転ヘラ切り痕を留めるもの（90・105・114・122・130・184など）がある。またヘラ切り痕を明瞭に残すもの（90・91・114・123・216など）、不明瞭なもの（92・122・125・215・216など）がある。底部の切り離しが回転糸切りのものは細い糸切り痕を留め２次調整は施されていない。124は底部に筆をなぐりつけたような墨痕を残す。また内面に柿渋を塗布したものが99点、また内面に油煙が付着しているものが12点あり、灯明皿に転用されたものである。

（３）高台付坏

37点図示した。形態によって４つのタイプに分類できる。

Ａ：底部から緩やかに立ち上がり、体部中央でくの字型に内反するタイプ（第50図224・225）で、太くて接地部が窪む四角形状の付け高台がつく。底部の切り離しはいずれも回転ヘラ切りである。

Ｂ：大ぶりで比較的器高の高くないタイプ（第51図226～236）で、高台はすべて１cmに満たない付け高台である。高台の断面の形状は四角形状を呈するもの（226・227）、三角形状を呈するもの（229・233）、接地部が窪み先端が張るもの（228・230・231・232・234～236）がある。底部の切り離しはすべて回転ヘラ切りである。

Ｃ：小ぶりで器高の高いタイプ（第51・52図237～243、第131図1165・1169）で、高台の高さは0.5～0.8cmの付け高台である。高台の断面の形状は四角形状を呈するもの（235・236）、三角形状を呈するもの（242・243）、接地部が窪み先端が張るもの（239・240・241・244・245・1165・1169）

がある。底部の切り離しはすべて回転ヘラ切りである。

Ｄ：大ぶりで器高の高いタイプ（第52図246～249、第131図1166・1167）で、高台は付け高台である。底部の切り離しは246・247・1166・1167は回転ヘラ切り、248は回転糸切りである。1166はほぼ垂直に立ち上がる。

全体的な特徴として、内面に柿渋を塗布するものが17点、内面に油煙の付着するものが１点、底部に墨痕が認められるものが10点あった。

**（４）双耳坏**

双耳坏の双耳が１点だけ遺構外より出土した（第131図1170）。耳部は口縁部下に取り付けられていたもので、全面にヘラケズリが施され面取りしてある。

**（５）高台付皿**

７点図示した。形態によって２つのタイプに分類した。

Ａ：底部から緩やかに直線的に口縁まで立ち上がるタイプ（第53図258～263）で、すべて付け高台であり、高台の低いものと高いものがある。底部の切り離しはすべて回転糸切りである。

Ｂ：高台が細く高いタイプ（第53図264)で、底部の切り離しは、回転糸切りである。

**（６）壺蓋**

壺蓋と考えられる破片が２点遺構外より出土した（第131図1171・1172)。天井部は平坦で、鋭く折れ曲がり、口唇部は外反する。

**（７）壺**

８点図示した（第54図265～271、第131図1173)。265・1173は長頸壺で、成形時の三段構成が明瞭である。265は外面は全面にタタキを施した後、上半部はナデ、下半部は縦方向のヘラケズリ後さらに部分的に横方向のヘラケズリを施す。266～268は長頸壺の頸部から肩部にかけてのものである。269は長頸壺の肩から体部下半にかけてのもので、外面はロクロ調整後ヘラケズリが施されている。270は頸部から肩部にかけて、271は底部に近い体部で、内面はハケ目が施される。

**（８）甕**

33点図示した（第55～58図272～293、第82図596～598、第83図599、第131図1174・1175、第132・133図1176～1181)。胴部の破片が多く、全体の器形を知り得るものは少ない。器形はいずれも頸部があまり長くなく、口縁は大きく外反し、口径は20cm前後の中型のものと、60cm前後の大型のものがある。272・273は肩の張るタイプで、外面は平行タタキで内面には同心円文のアテが残る。274はあまり肩の張らないタイプで、外面は平行タタキ、内面は平行文のアテが残る。275は大甕の口縁部で、外面はハケ目を施した後櫛描波状文が施され、内面は円文のアテが残る。597は、本遺跡最大の甕で残存する体部最大径が81cmある。外面底部最下部に直径７cmほどの円形のハケ目痕が残る。276～280・1174は口縁部で、278は口唇部が強く張り出すタイプ、1174は口唇部が舌状に外傾するタイプである。外面にハケ目を施すものとナデを施すものがあり、1174は櫛描波状文が施される。281・282・1175は頸部から肩にかけて、283～293、1176～1181は体部から底部にかけての資料である。外面には平行タタキ・平行タタキの後ハケ目を施すもの、内面には平行文のアテ・同心円文のアテ・平行文のアテと円文のアテの組み合わせ・格子目のアテと同心円文のアテの組み合わせ・平行文のアテの後ハケ目を施すものなどがある。

〔土師器〕

本遺跡から出土した土師器は、高坏・坏・坏蓋・高台付坏・高台付皿・椀・鉢・甕・鍋に分類される。これらはさらにロクロを使用しないものとロクロ調整のものに分類され、特にロクロを使用しない土師器は本遺跡を特徴づける遺物である。

（１）高坏

３点図示した（第59図294～296）。すべてロクロを使用しないものである。294はほぼ完形の高坏で、坏部は膨らみをもちながら立ち上がり口縁部はほぼ直立する。脚部は坏部直下から外に広がり端部はさらに外に開く。調整は、外面の坏部はヘラミガキ、脚部はヘラケズリであり、坏部と脚部との境のヘラの入りに若干段がつく。内面はヘラミガキ後黒色処理されている。器厚は７㎜と厚く、胎土に砂粒を含む。295は脚部で、上部が欠損した後、二次利用のためか上面の一部をヘラケズリしている。調整は、ナデの後ヘラケズリされている。内面はナデが施される。296は小型の高坏の脚部で、調整は外面がハケ目の後にナデ、内面はナデが施される。

（２）坏

図示した点数は、ロクロを使用しないものが37点、ロクロ調整のものが64点で、ロクロを使用しない黒色処理された坏は県内で稀少な資料であり、特に細分を試みた。

１群　ロクロを使用しないもので、

Ｉ類　器高が低いもので、口縁部の形態により２つに分類できる。

Ａ：口縁が外反・直線的に立ち上がるもので、細部の特徴からさらに３つに分類できる。

ａ：丸底で外面に段がつくもの（第59図297・298）。297は外面中位に２つの段、298は外面下位に段がつく。調整は、297は内外面全面ともヘラミガキ、298は外面は全面にハケ目を施した後上中位はヘラミガキ、段より下がヘラケズリが施される。内面はいずれもヘラミガキ後黒色処理される。297の焼成は良好である。

ｂ：平底で外面に段がつくもの（第59図299・300）。いずれも外面中位に段がつくが299はそれほど明瞭でない。299の底部は７㎜と厚い。調整は、299は外面はハケ目の後ヘラミガキ、内面は体部を横方向その後底面を放射状にヘラミガキが施される。300は外面は段より上が横ナデ、下がヘラミガキ、内面は体部の横方向後底面に非放射状にヘラミガキが施され、いずれも内面には黒色処理される。

ｃ：平底で外面に段がつかないもの（第59図301～306）。301は底径が大きく、浅い皿状である。底部の中央部が膨らみ1.4㎝ほどある。調整は、外面体部は横ナデ、底部は比較的大きなヘラを使用したミガキである。内面はヘラミガキ後黒色処理されている。302も底径が大きく浅い皿状で、底部中央が若干窪む。調整は、外面は口縁部近くは皮状のもので横ナデ、その下はヘラミガキが施される。内面は口縁部は横方向、底面は放射状にヘラミガキが施されその後黒色処理される。303・304は口縁が外反して開くタイプで、調整は、303は外面はハケ目（304はハケ目なし）の後口縁部は横ナデ、体部底部はヘラミガキが施される。内面はヘラミガキ（304の底面は放射状）後黒色処理される。305・306は口縁が直線状に立ち上がるタイプで、調整は、305は外面はハケ目（306はハケ目なし）の後口縁部は横ナデ、体部底部はヘラミガキが施される。内面はヘラミガキが施され、306はその後黒色処理される。

ｄ：外面に沈線がはいるもの（第59図307、第133図1182）。口縁は直線状に立ち上がり、307は上半に２条の沈線、1182は屈曲部に１条の沈線が入る。調整は、307は外面はハケ目の後体部はヘラミガキ、内面はヘラミガキ、1182は内外面ともヘラミガキが施され、いずれも内面には黒色処理される。

Ｂ：口縁が内湾するもので、底部の形態によって２つに分類できる。

ａ：丸底を呈するもの（第59図308・309）で、厚手で体部～底部は緩い半球状を呈する。調整は、内外面ともヘラミガキで、特に308の内面はきれいな放射状を描く。いずれも内面は黒色処理されている。

ｂ：平底を呈するもの（第59・60図310～314）で、口縁はほぼ直線的に立ち上がる。314は体部で一度屈曲してから立ち上がる。また311はナデとヘラミガキの境に部分的に稜を有する。調整は、外面はヘラミガキのもの（312～314）、ハケ目の後ナデ・ヘラミガキを施すもの（310）、ナデ・ヘラミガキを施すもの（311）があり、内面はすべてヘラミガキ後黒色処理される。特に313・314の内面のミガキは非常に丁寧である。

Ⅱ類　器高が高いもので、口縁部の形態により２つに分類できる。

Ａ：口縁が外反（第60図319・320）・直線的に立ち上がるもの（第60図315～318、第83図601）で、601は口縁近くに２条の沈線が入る。調整は、外面はヘラミガキのもの（316・318・601）、ハケ目の後ナデ・ヘラミガキを施すもの（319・320）、ヘラミガキ・ヘラケズリを施すもの（315・317）があり、内面はすべてヘラミガキ後黒色処理される。315は胎土に非常に多くの砂粒を含む。

Ｂ：口縁が内湾するもので、底部の形態によって２つに分類できる。

ａ：丸底を呈するもの（第30図51、第60図321、第83図600）で、51の調整は、外面はハケ目後ヘラミガキ、内面はヘラミガキが施される。321の調整は、外面はヘラミガキ・ヘラケズリを施し、内面はヘラケズリ後黒色処理される。600は、内外面ともヘラミガキ後黒色処理される。

ｂ：平底を呈するもので、椀形のもの（第60図322～327・329・330）と口縁が直立気味のもの（第60図328）がある。調整は、外面はヘラミガキのもの（323・325・326・327・330）、ヘラミガキ・ヘラケズリを施すもの（322・328・329）、ハケ目を施すもの（324）がある。内面はヘラミガキ後、330を除いて黒色処理される。また327の内面には漆が付着している。330の内外面には赤色塗彩されている。

２群　ロクロ調整のもので、

Ⅰ類：器高が低いもので、口縁部の形態により２つに分類できる。

Ａ：口縁が内湾し、椀形を呈するもの（第61図334～339）で、底部の切り離しにより回転ヘラ切りのもの（334～337）と回転糸切り（338・339）に分かれる。338・339は切り離し後、体部下端から底部にかけてヘラケズリが施される。

Ｂ：底部から口縁までほぼ直線的に外傾して立ち上がるもの（第61図340～354）で、前掲の須恵器坏とほぼ同じ器形で焼成の状態で土師器に分類したものもある。

Ⅱ類：全体的に底径が小さく、器高の高いもので、底部の切り離しによって３つに分類できる。

Ａ：回転ヘラ切りの後、ナデが施されるもの（第61図355・356）。

Ｂ：回転糸切り（第62・63図357～383）。361・372は線の太い糸切り痕を留める。382は回転糸切り後ヘラ状のものでおさえられている。383は内面がヘラミガキ後黒色処理される。

Ｃ：手持ヘラ切り後、ヘラミガキが施されるもの（第133図1187）。外面はロクロ調整後ヘラナデ、内面はヘラミガキ後黒色処理される。

**（３）坏蓋**

４点図示した（第61図332・333、第133図1185・1186）。いずれもロクロ調整のものである。332・1185は天井部が平坦で、ヘラケズリ痕が明瞭に残る。つまみはボタン状を呈する。須恵器坏蓋分類のⅡ類に属する。333はボタン状のつまみ部分である。1186は斜めに立ち上がってくるものである。

**（４）高台付坏**

５点図示した（第63図384～386、第64図387、第133図1191）。384・385は回転糸切り後、高台を引き出す。いずれも内面はヘラミガキ後黒色処理が施される。なお384は底部に「×」のヘラ書きがある。386・387は切り離しは回転ヘラ切りで高さが８㎜前後の接地部の窪む高台が付く。いずれも須恵器高台付坏と同じ器形で焼成の状態で土師器に分類したものである。1191は回転糸切り後、大きく開く高台が付く。

**（５）高台付皿**

４点図示した。第64図389は高台部が欠損し、切り離しも不明である。内面はヘラミガキ後黒色処理される。第64図390・391は回転ヘラ切り後、高い高台を付ける。

**（６）椀**

17点図示した。ロクロを使用しないものが15点で、ロクロ調整のものが２点である。

１群　ロクロを使用しないもので、口縁部の形態により２つに分類した。

Ａ：口縁（口唇）が外反するもので、底部の形態によって３つに細分した。

ａ：丸底を呈するもの（第64図392・393）で、口縁は「く」の字状に外反する。調整は、392は外面が横ナデとヘラケズリ、内面が上半がヘラミガキで下半はヘラ状工具によるナデが施され、その後黒色処理される。393は外面上半がヘラミガキで下半がヘラケズリ、内面がヘラミガキ後黒色処理される。

ｂ：平底を呈するもの（第64図394）で、底部から内湾しながら立ち上がり口唇部が若干外反する。調整は内外面ともヘラミガキ後黒色処理される。非常に薄いつくりで胎土に砂粒を多く含み315に近似する。

ｃ：底部が欠損して不明のもの（第29図45、第64図395～399、第133図1193）で、口縁が大きく外反するもの（396）、口縁部と体部の境に段がつくもの（397・398）などがある。調整は、45は外面がヘラミガキと横ナデ、内面はヘラミガキ後黒色処理、396は内外面ともハケ目、397は外面が横ナデとヘラケズリで内面が横ナデ・工具状のものによるナデ、398は外面がハケ目後横ナデ・ヘラケズリで内面がヘラミガキ後黒色処理と様々である。

Ｂ：口縁がほぼ垂直に立ち上がるもので、底部が残存するのは１点だけであった。

ａ：平底で、口縁部と体部の境に段を有する（第64図399）。調整は、外面はハケ目後段より上部はヘラミガキ体部下端にヘラケズリを施す。内面はヘラミガキ後黒色処理される。

ｂ：底部が欠損して不明のもの（第64・65図400～404、第133図1192）で、口縁部と体部との境に稜を有するもの（400）、沈線を有するもの（401）などがある。調整は、内外面ともヘラミガキのもの（400・401・1192）、外面がヘラミガキとヘラケズリで内面がヘラミガキのもの（402）、外面がハケ目で内面が工具状のものでのナデが施されるもの（403・404）があり、403を除いて内面には黒色処理される。なお403は胎土に砂粒を多く含み315に近似する。

ｃ：底部のみのもの（第65図405・406）で、器形からここに分類した。405は平底で、上端に稜を有する。調整は、外面が横ナデ・ヘラケズリで内面がヘラミガキ後黒色処理される。406は丸底気味の底部で、「×」のヘラ書きがある。

２群　ロクロ調整のもの（第65図407・408）で、

いずれも平底で内湾しながら口縁まで立ち上がる。底部の切り離しは、407が手持ちヘラ切り、408が回転糸切りである。調整は、407は内外面とも横ナデ、内面はさらにヘラミガキ後黒色処理される。408は外面は体部下端にヘラケズリ、内面はヘラミガキ後黒色処理される。

（７）鉢

11点図示した。すべてロクロを使用しないもので、口縁部の形態により４つに分類した。

Ａ：口縁が内湾気味に立ち上がるもの（第65図409～412）で、器高の高さより２つに細分した。

ａ：器高が口径の2/3以下のものである。409・410は鉄鉢である。いずれも内外面とも非常に丁寧なヘラミガキを施し、内面は黒色処理される。２点とも焼成は良好である。411は底径の大きい鉢で、調整は、外面はハケ目の後ヘラケズリ、内面はヘラケズリの後黒色処理を施す。

ｂ：器高が口径の2/3以上あるもの（412）で、口縁は大きく内湾する。調整は、内外面とも非常に丁寧なヘラミガキを施し、内面は黒色処理される。焼成は良好である。

Ｂ：口縁が直線的に立ち上がるもの（第65図413・414、第66図416）で、細部の特徴から３つに分かれる。

ａ：413は体部中央から「く」の字状に屈曲し、直線的に立ち上がり、屈曲する部分に段を有する。底部には木葉痕が認められる。調整は、内外面ともヘラミガキが施され内面には黒色処理される。

ｂ：414は緩い「く」の字を描きながら直線的に立ち上がる。調整は、外面はヘラミガキで体部下端にヘラケズリが施される。内面はヘラミガキ後黒色処理される。

ｃ：416は低い台の付く鉢で、底部には木葉痕が認められる。調整は、内外面ともハケ目の後ヘラミガキが施される。

Ｃ：口縁が外反するもの（第65図415）で、底部には笹状の木葉痕が認められる。調整は、外面は横ナデ・ヘラケズリ、内面はヘラケズリの後黒色処理される。

Ｄ：口縁が欠損していて不明のもの（第28図32、第66図417～419）。32は器厚が1.5cmを越える底部資料で、内外面ともハケ目が施される。417・419は体部は湾曲しながら立ち上がり口縁に至ると推測される。調整は、外面は底部も含めて全面にハケ目、内面は工具状のものでナデが施される。418は大型の鉢の底部で、木葉痕が認められる。調整は、外面はハケ目の後ヘラミガキ、内面はヘラミガキ後黒色処理が施される。

（８）甕

211点図示した。全体の器形が復元されたものが少ないため、口縁部を中心に分類をおこない胴部・底部の破片資料を次に図示した。ロクロを使用しないものとロクロ調整のものの２つに分かれる。

１群　ロクロを使用しないもので、器形により２つに分類した。

Ⅰ類　長胴形のもので、細部の形態によって３つに細分した。

Ａ：胴張形のもの（第30図53・54、第66～69図421～464）で、数量的には甕の過半数を占める。ＳＬ17のほか、ＳＴ63捨て場からも多量に出土している。法量は大型のものから小型のものまで含まれる。器面調整はナデ、ハケ目調整が主体を占めるが、外面にヘラミガキ、ヘラケズリ、平行タタキ後ナデ、内面にヘラ状工具によるナデ調整などもみられる。53は残存高32cmほどの大型の甕である。内外面ともハケ目調整が施され、底部には木葉痕が残る。54は胴部の張る大型の甕で、調整は外面はハケ目、内面は横位のハケ目後ヘラ状工具で間隔をあけて頸部から底部までナデが施される。底部にはきれいな木葉痕が残る。421は頸部に段のつく中型の甕で、調整は、外面がヘラミガキ内面がヘラ状工具によるナデが施される。胎土に砂粒を多く含み、焼成は良好である。424は外面に平行タタキされた後、ナデが施される。425は内面に横位のハケ目が施された後ヘラ状工具で間隔をあけて縦位にナデられる。449～451は外面にハケ目後櫛描波状文が施される。

Ｂ：口縁が「く」の字状に大きく開くもの（第71・72図465～483）で、やや寸胴形を呈する。数量はあまり多くなく、中型の甕が多い。器面調整はＡ類と同様で、底部に木葉痕が残るものが２点ある。465は底部から開き気味に立ち上がり口径の大きくなる甕で、外面はハケ目、内面にヘラ状工具によるナデが施される。底部に木葉痕が残る。466は外面に縦位のヘラケズリ、内面も縦位のヘラ状工具によるナデが施される。467は外面に非常に細かなハケ目が施される。器厚がうすく、胎土に砂粒を多く含み焼成は良好である。469は小型の甕で、波状口縁で大きく開く。底部に木葉痕が残る。

Ｃ：口縁が直線的に立ち上がるもの（第30図55、第70・71図484～496）で、数量はあまり多くなく、器面調整はやはりハケ目が主体である。55・484は口縁までほぼ直線的に立ち上がるタイプで、55の頸部と体部の境には段がつく。器面調整はいずれも内外面ともハケ目が施される。485は円筒形で、底部はヘラケズリされる。

Ⅱ類　球胴形のもの（第72・73図497～503）で、量的には少ない。器面調整は、外面はヘラミガキ、ヘラケズリが主体となる。497は体部が口径より大きく張るもので、外面、底部にヘラケズリが施される。498は体部が口径より若干張るタイプで、外面はヘラケズリ後ヘラミガキが施される。499は口径と体部径がほぼ同じの小型のタイプで、外面はヘラケズリが施される。500は体部が口径より大きく張る大型の甕、501は500より体部が張らない甕で、いずれも外面には丁寧な縦位のヘラミガキが施される。

その他全体的な特徴を概観する。第73・74図506～516は胴部資料である。506～514はハケ目主体、515・516はヘラミガキ主体である。506は大型の甕で体部にはヘラケズリが施される。507は小型の甕で体部で「く」の字に屈曲する。頸部から口縁にかけて平行沈線状の段が数条みられる。外面はハケ目後ヘラミガキ、内面はハケ目調整され、焼成良好で器面全体がアメ色を呈する。(註1) 506～514は器形から判断すればⅠ類である。また515・516は器面調整がヘラミガキと器形からⅡ類と推測される。第31

図57～62、第75～77図517～558、第83図602・603・605、第133図1196～1199、第134図1200～1202は底部資料である。57～62、517～547、1196～1198、1200は、器形と器面調整がほとんどハケ目であることからⅠ類に分類した。548～553は、器形と器面調整の外面がヘラミガキ主体であることからⅡ類に分類した。517は器面調整は外面が縦位のハケ目、内面は425同様横位のハケ目後ヘラ状工具で間隔をあけて縦位にナデが施される。546は器厚がうすく、胎土に砂粒を多く含み焼成は良好で器面全体がアメ色を呈する。531・556・1201の底部内面はヘラ状工具によって放射状にナデられている。603・605の底部には砂粒が付着している。なお図示した58点の底部は、木葉痕34、笹葉痕12、ヘラケズリ２、砂粒付着６、不明４となる。

２群　ロクロ調整のもので、器形により２つに分類した。

Ⅰ類　長胴形のもので、底部の形態により２つに分類した。

Ａ：丸底のもの（第28図34、第29図39、第32図63、67～69、第80図580・581）で、器面調整により３つに細分した。

Ａ１：外面にタタキ目を内面にはアテを施す（34・39・67・69・580）。34は丸底部分のみで、外面は平行タタキ、内面は円文のアテが施される。39は胴部に最大径があり底はやや尖り気味である。器面調整は、外面はカキ目後胴部下半は平行タタキで底部を叩き出す。内面はカキ目後胴部下半に円文のアテの上からハケ目が施される。67は体部から丁寧な平行タタキ、内面はカキ目後円文のアテが強く残る。69は外面平行タタキ、内面アテである。580は、胴部下半外面は平行タタキによって叩き出され、上半はヘラケズリが施される。内面は胴部下半に縦位・斜位のハケ目を施し、その後同心円文のアテがあてられる。上半はカキ目調整である。器厚はうすく焼成良好で、外面には煤状炭化物が付着する。

Ａ２：内外面ともハケ目を施す（63・68）。63は口縁から底部まですべてわかる資料で、器面調整は、外面がカキ目後胴部上半から底部までハケ目が施される。内面はカキ目後胴部下半に縦位のハケ目、さらに横位のハケ目が施される。68は内外面ともハケ目が施される。

Ａ３：外面にヘラケズリを内面にはハケ目を施す（581）。やや尖り気味の底で、外面はヘラケズリ、内面は斜位のハケ目が施されている。器厚はうすく焼成は良好で、外面に煤状炭化物が付着する。

Ｂ：平底を呈するもの（第81図587～593）で、全体を復元できるものはなく底部のみの資料である。内外面ともカキ目が施され、底部は静止糸切り（588）と回転糸切り（587・589～593）がある。

その他全体的な特徴を概観してみたい。第28図33は口縁が大きく横方向に挽き出された甕である。器面調整は、外面は平行タタキ後カキ目、胴部下半はヘラケズリが施される。内面はカキ目後胴部下半に縦位のハケ目が施される。第32図64～66の調整は、外面が平行タタキ後カキ目、胴部上半から縦位のハケ目が施される。内面はカキ目調整である。第32図65の外面も平行タタキ後カキ目、66の外面はカキ目後胴部上半からヘラケズリが施される。第78図559は口縁が短く「く」の字に外反する大ぶりな甕である。器面調整は、口縁部外面に平行タタキ痕が残ることからタタキ後カキ目が施され、胴部下半に平行タタキがあてられる。内面はカキ目調整の後胴部下半には縦位のハケ目そして円文のアテがあてられる。560は口縁を横方向に大きく挽き出すタイプで、器面調整は、外面がヘラケズリ、内面は丁寧なカキ目後胴部下半から底部にかけて斜方向のハケ目が施される。非常にうすいつくりで

焼成は良好で、外面には煤状炭化物が付着する。第78図561は口縁部先端がやや上方へつまみ出されるタイプで、器面調整は、外面は平行タタキ後カキ目、胴部下半にヘラケズリが施される。内面はカキ目後縦位のハケ目が無造作に施される。559～561は器形から丸底を呈すると推測される。第78・79図562～578は口縁部資料で、口唇が上部に挽き出されるもの、台形状のもの、四角状のものなどがある。器面調整はカキ目が主体で、外面に平行タタキ後カキ目調整されるものも数点認められる。第80図579は胴部資料で、器面調整は、外面がヘラケズリ後平行タタキ、内面がハケ目後アテがあてられる。

Ⅱ類　Ⅰ類よりも胴部の長さが短く、小型でやや寸胴形のもの（第28図28、第80図583～586）で、５点図示した。28は器高より口径の大きい小型の甕である。底部は回転糸切りで、ロクロ調整後の２次調整はない。583は底部が欠損するがほぼ全体がわかる資料で、器高は11cmと小ぶりである。外面の剥落が激しく器面調整は不明である。底部は回転糸切りである。

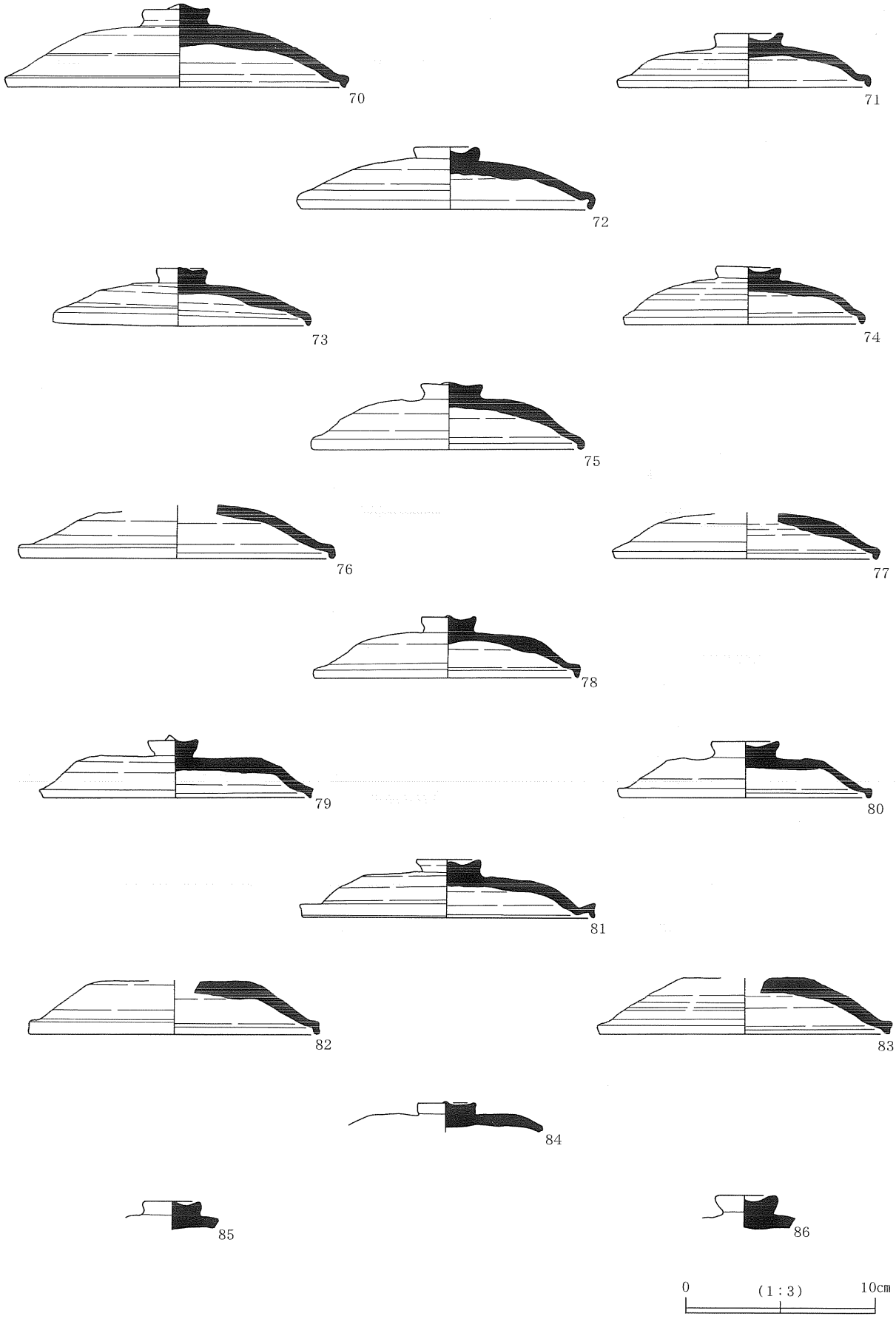
**（９）鍋**

同一個体と思われる鍋の破片が出土した（第81図594）。口縁部資料と口縁部の下に付くと考えられる把手が出土した。ロクロ調整で、口縁部が横に挽き出される。調整は外面は平行タタキの後カキ目、内面は斜位のハケ目の後カキ目が施される。内面には煤状炭化物が付着している。把手部分は楕円の半分の形で端が反り上がっている。

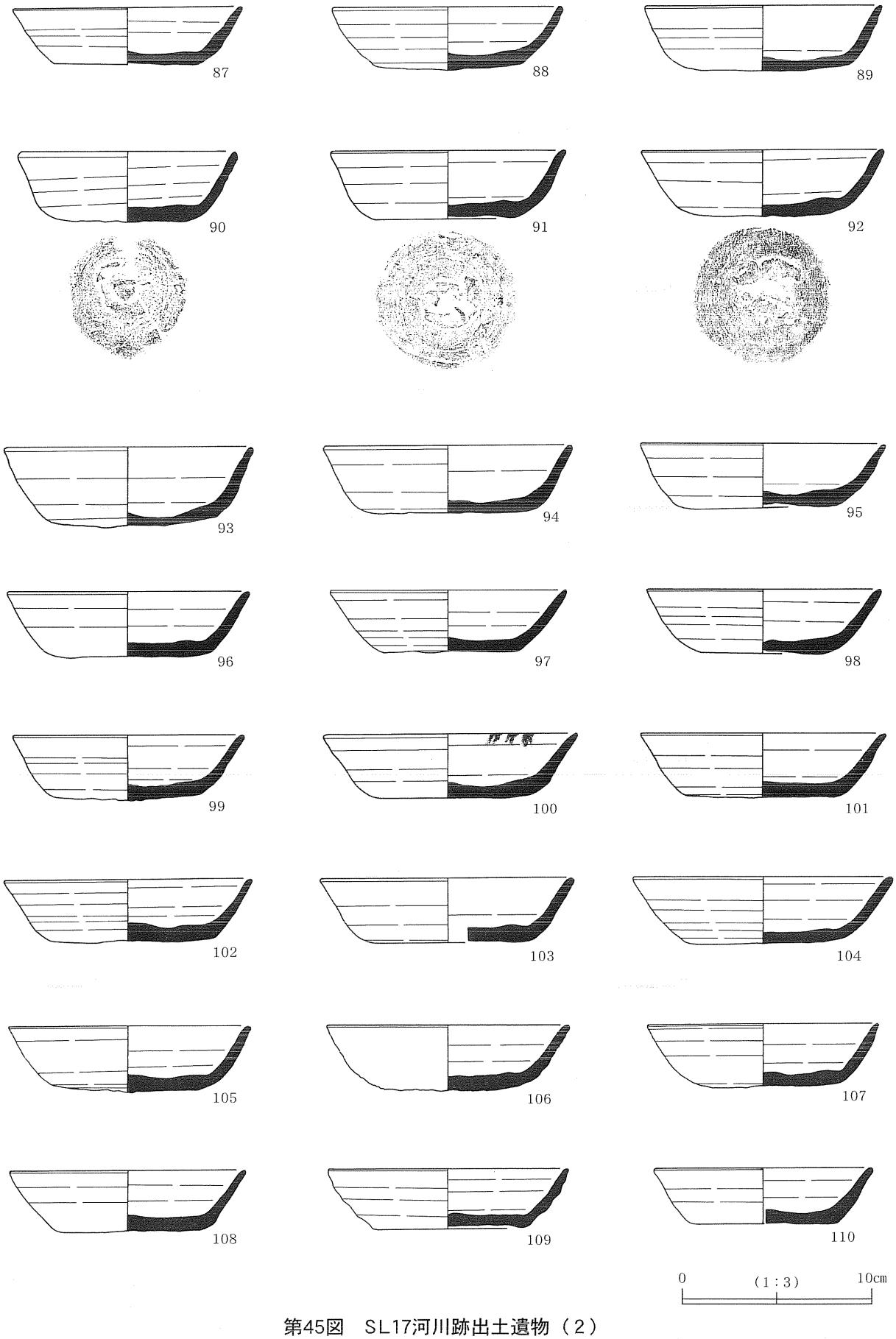
註１　この土器は「多条沈線文土器（仮称）」に類似する。口縁部が「く」の字状に外反し器面調整はハケ目を多用するなどの基本形態が類似するが、頸部と胴部との境に明瞭な段を有しない相違点もある。
高橋学「口縁部に沈線文をもつ土師器―秋田県域での事例―」『蝦夷・律令国家・日本海―シンポジウムⅡ・資料集―』日本考古学協会1997年度秋田大会実行委員会　1997（平成９）年

引用・参考文献

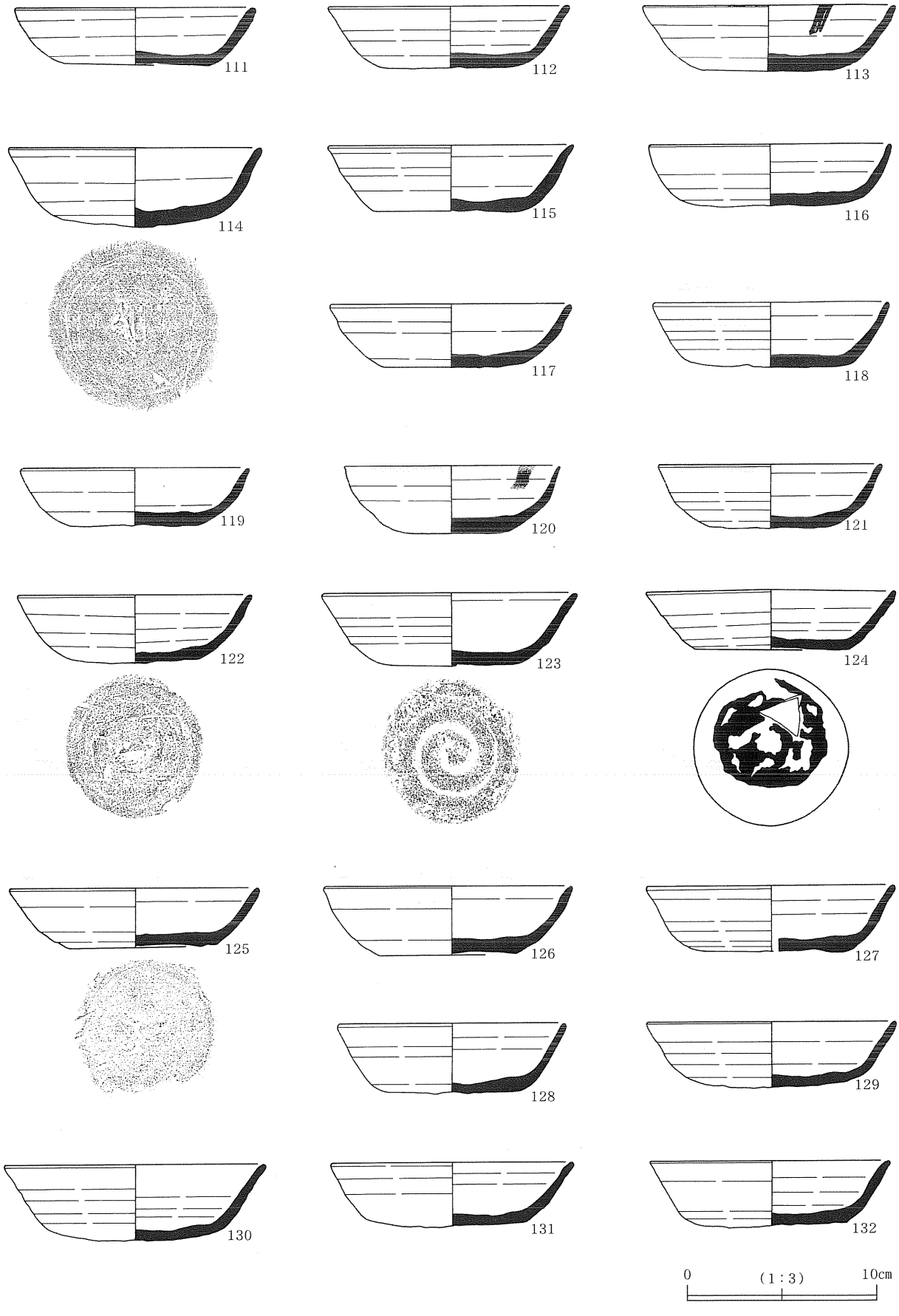
秋田県教育委員会　「竹原窯跡」　『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅺ』　秋田県文化財調査報告書第209集　1991（平成３）年
八戸市教育委員会　『田面木平（１）遺跡　八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ』　八戸市埋蔵文化財調査報告書第34集　1989（平成元）年
青森県教育委員会　『櫛引遺跡―東北縦貫自動車道八戸線（八戸～八戸）建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―』　青森県埋蔵文化財調査報告書第263集　1999（平成11）年
宮城県教育委員会　『山王遺跡Ⅳ―多賀前地区考察編―』　宮城県文化財調査報告書第171集　1996（平成８）年
仙台市教育委員会　『南小泉遺跡　第22次・第23次発掘調査報告書』　仙台市文化財調査報告書第192集　1994（平成６）年
利部修　「出羽国の丸底長胴甕をめぐって」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第12号　1997（平成９）年



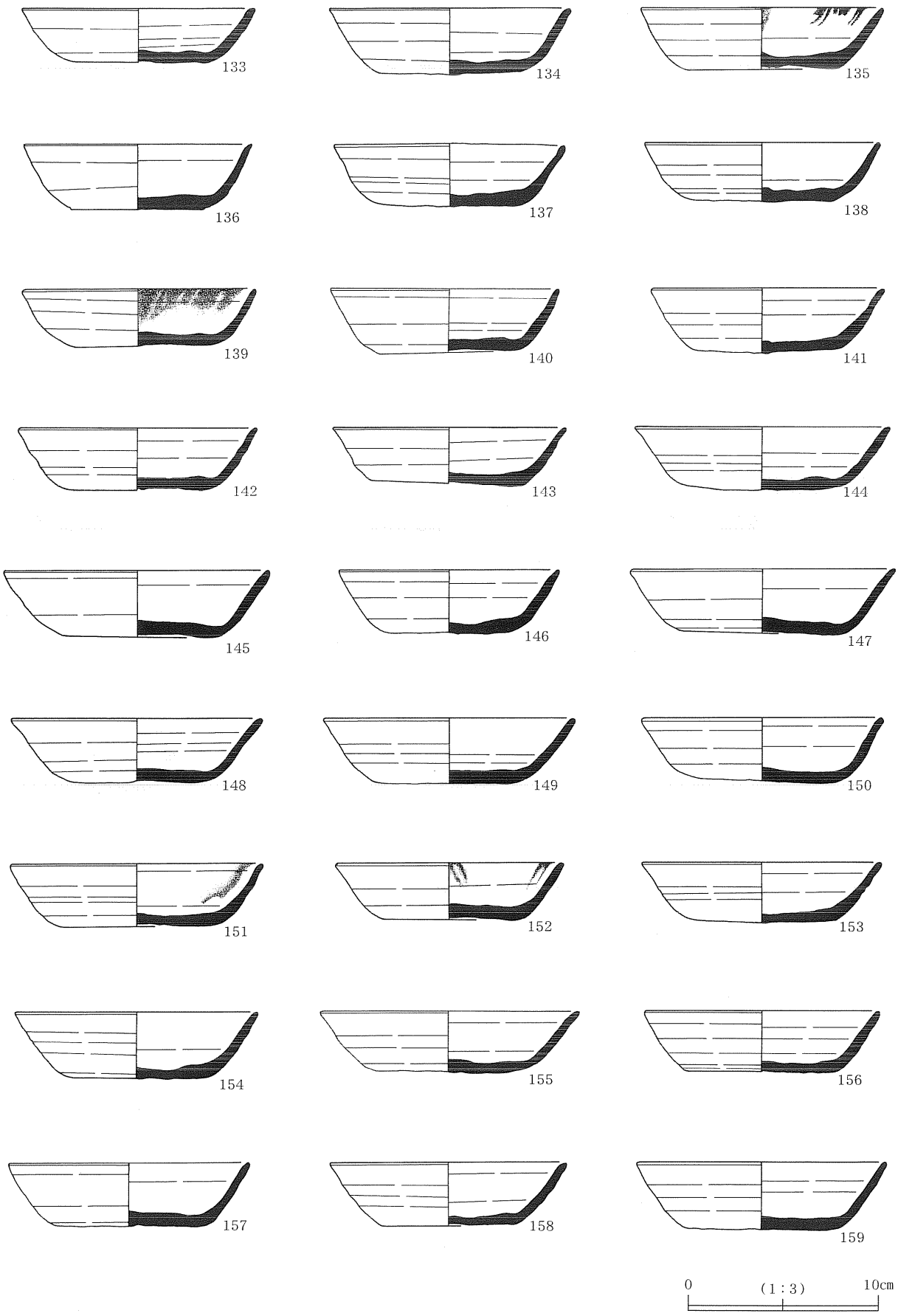

第44図　SL17河川跡出土遺物（１）



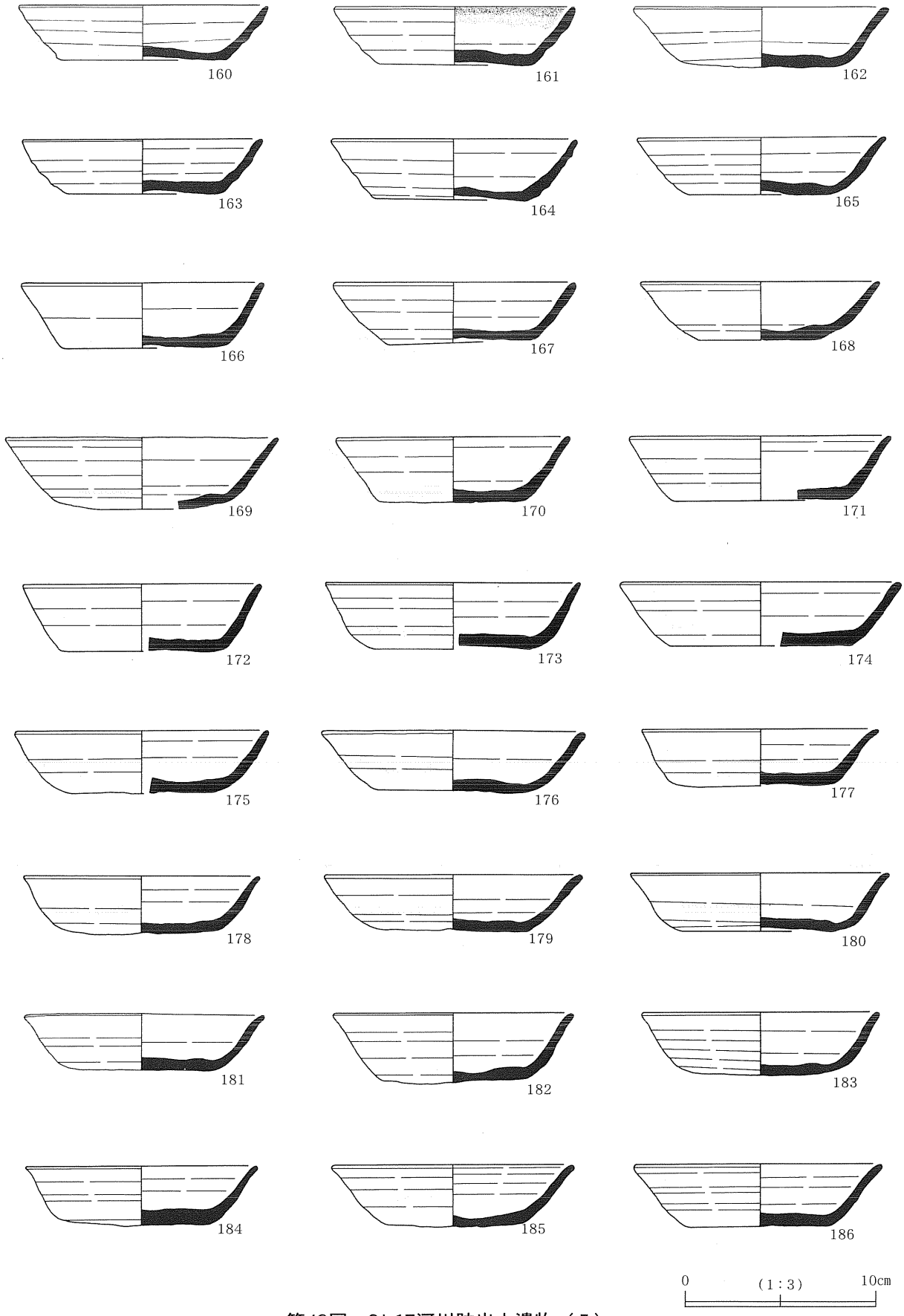

第45図　SL17河川跡出土遺物（２）



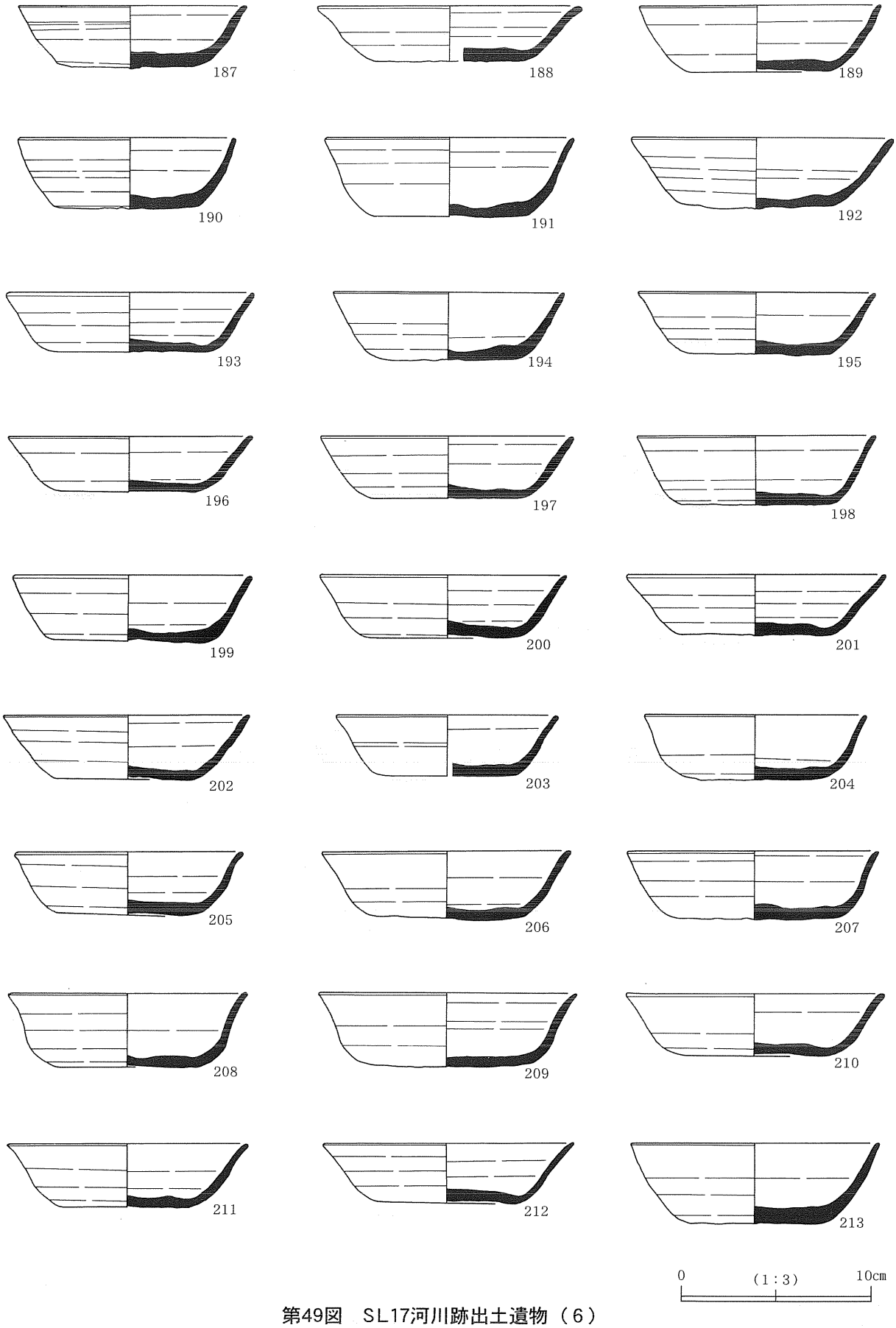

第46図　SL17河川跡出土遺物（３）



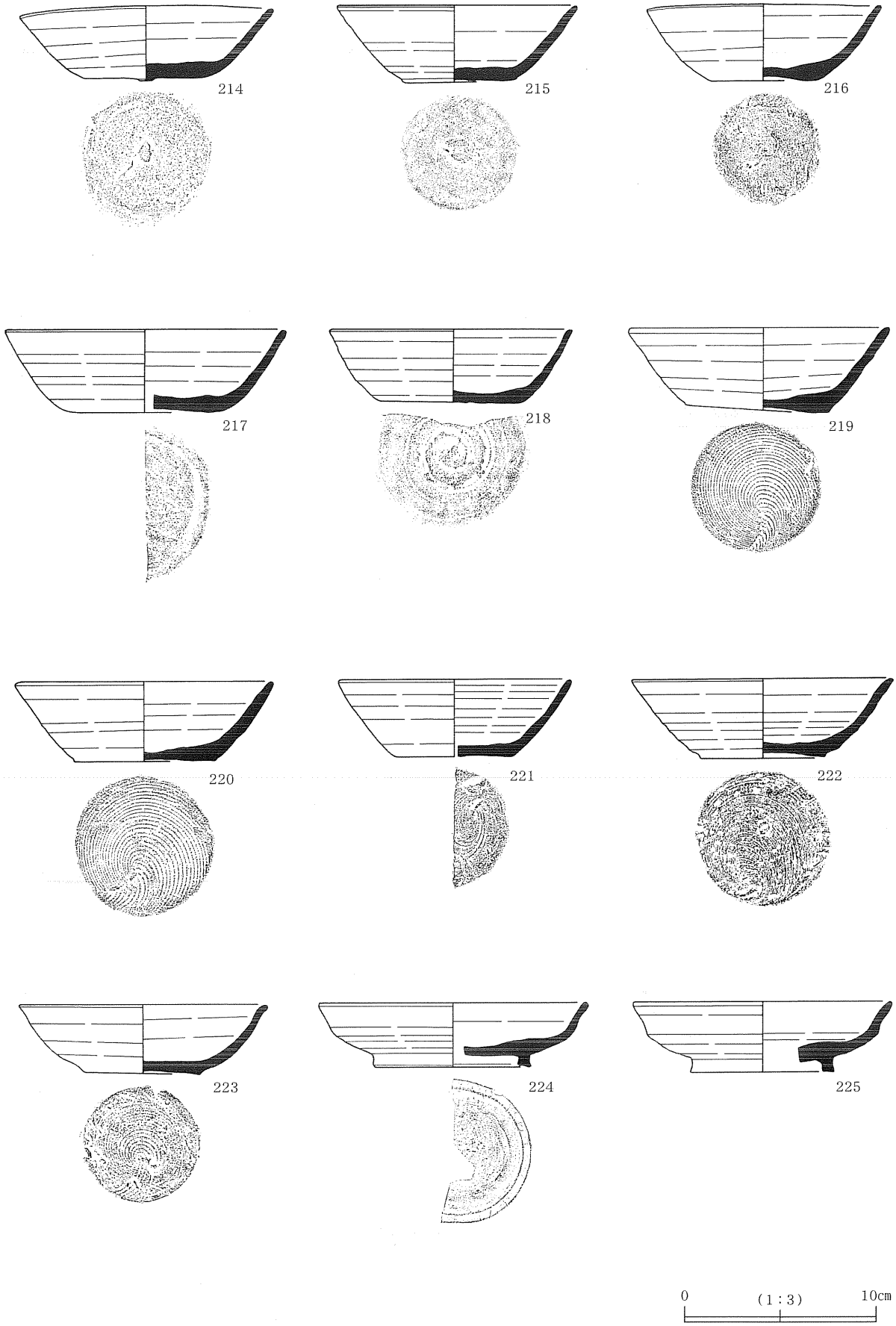

第47図　SL17河川跡出土遺物（４）



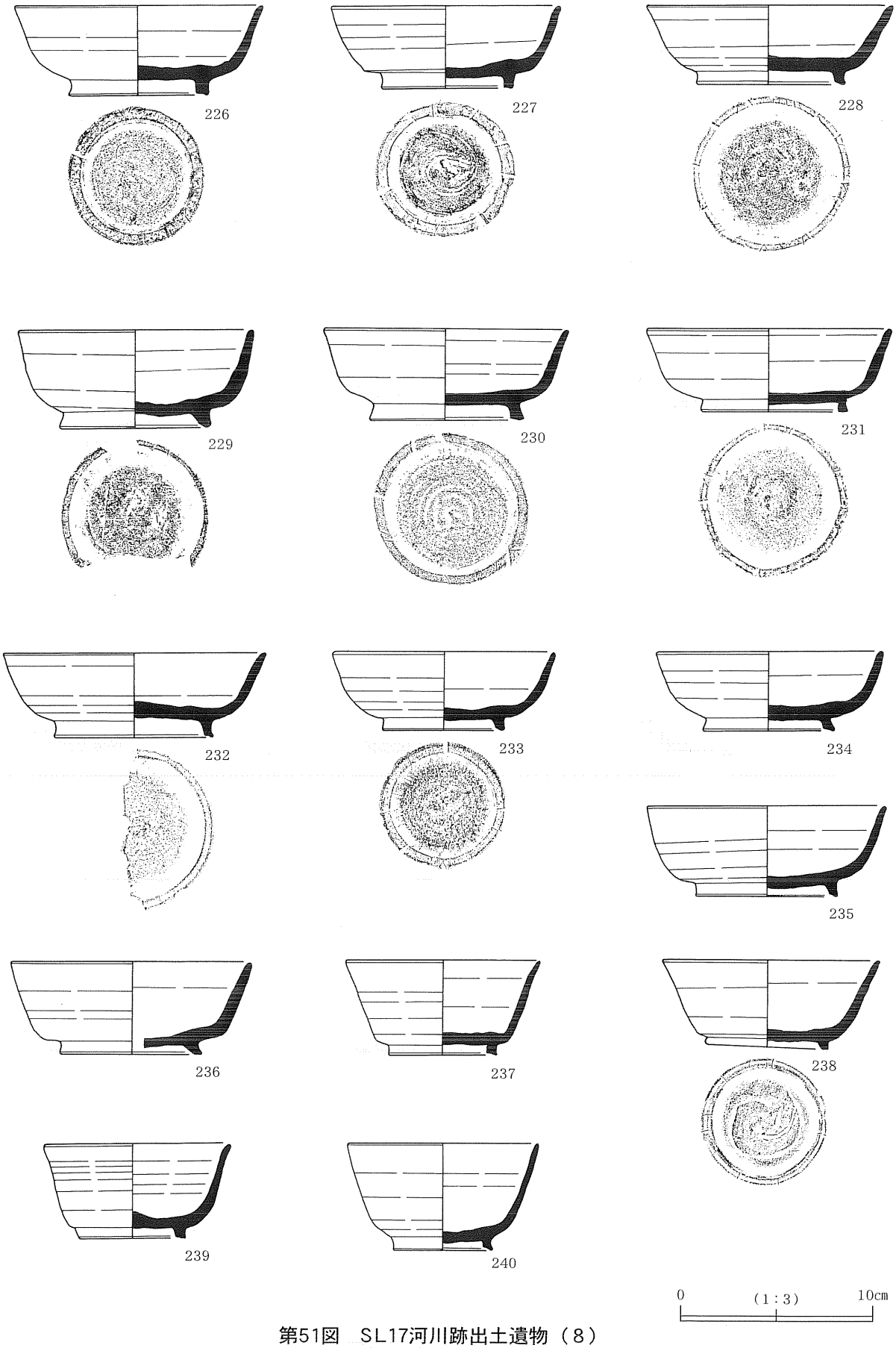

第48図　SL17河川跡出土遺物（５）



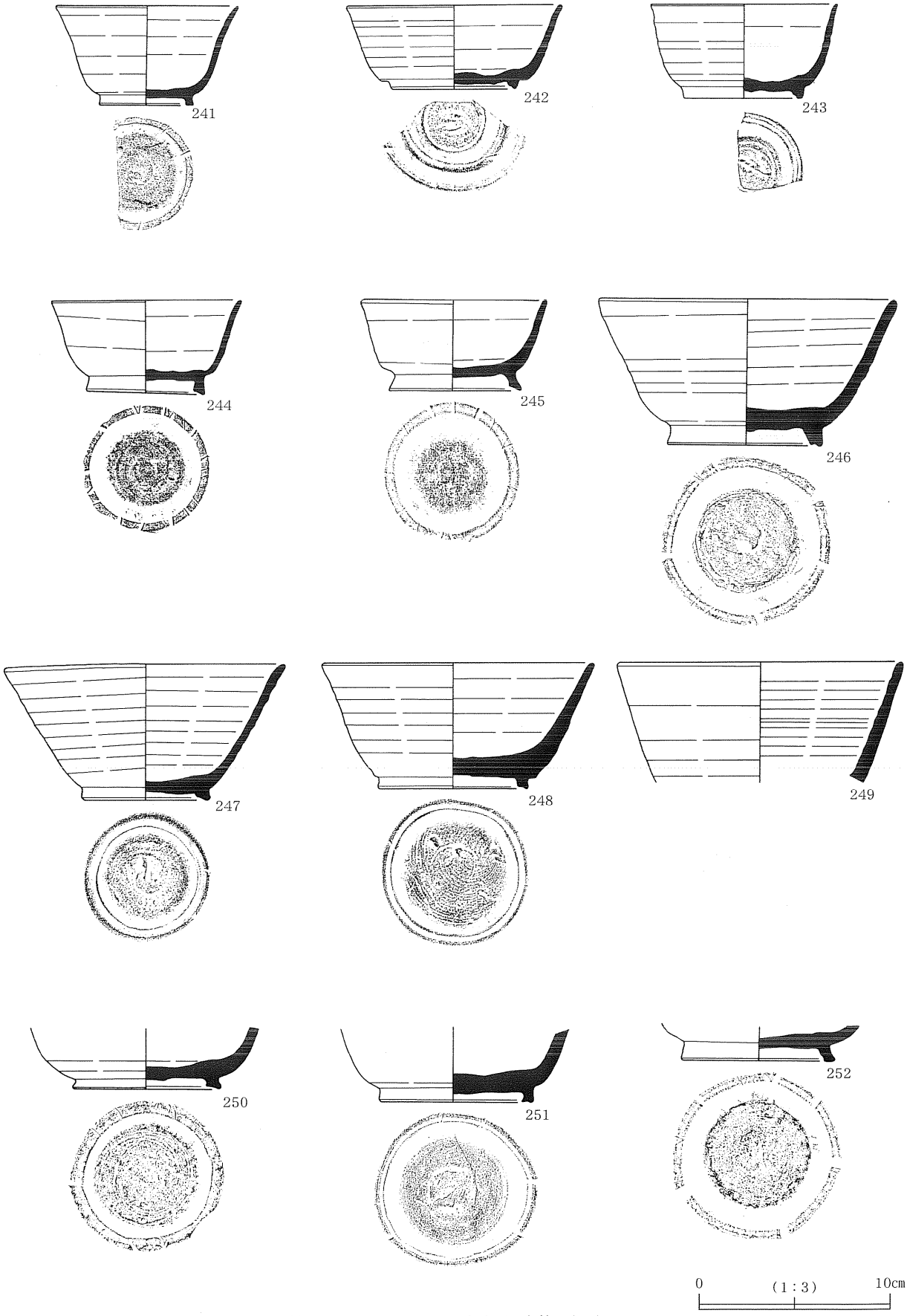

第49図　SL17河川跡出土遺物（６）



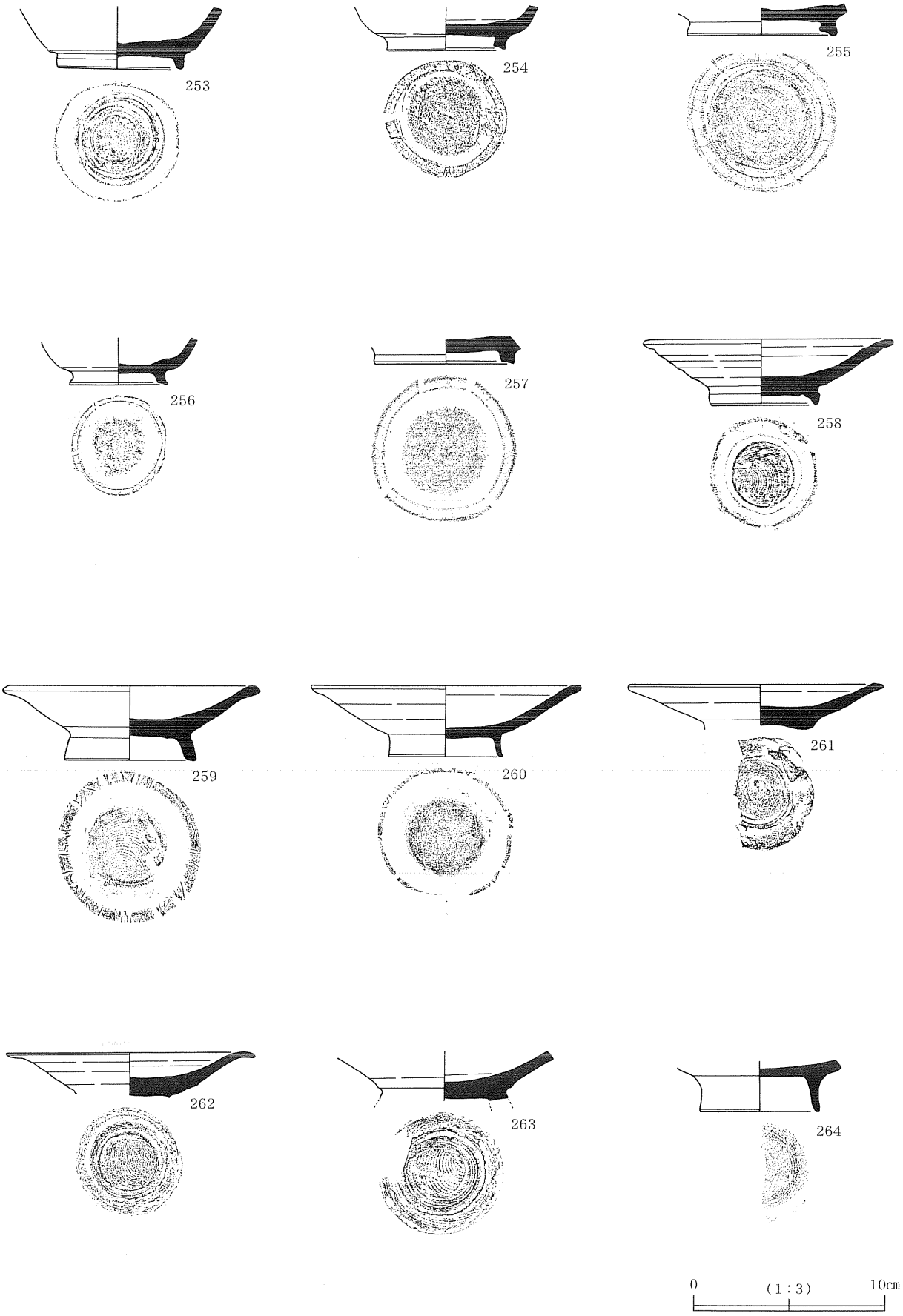

第50図　SL17河川跡出土遺物（７）



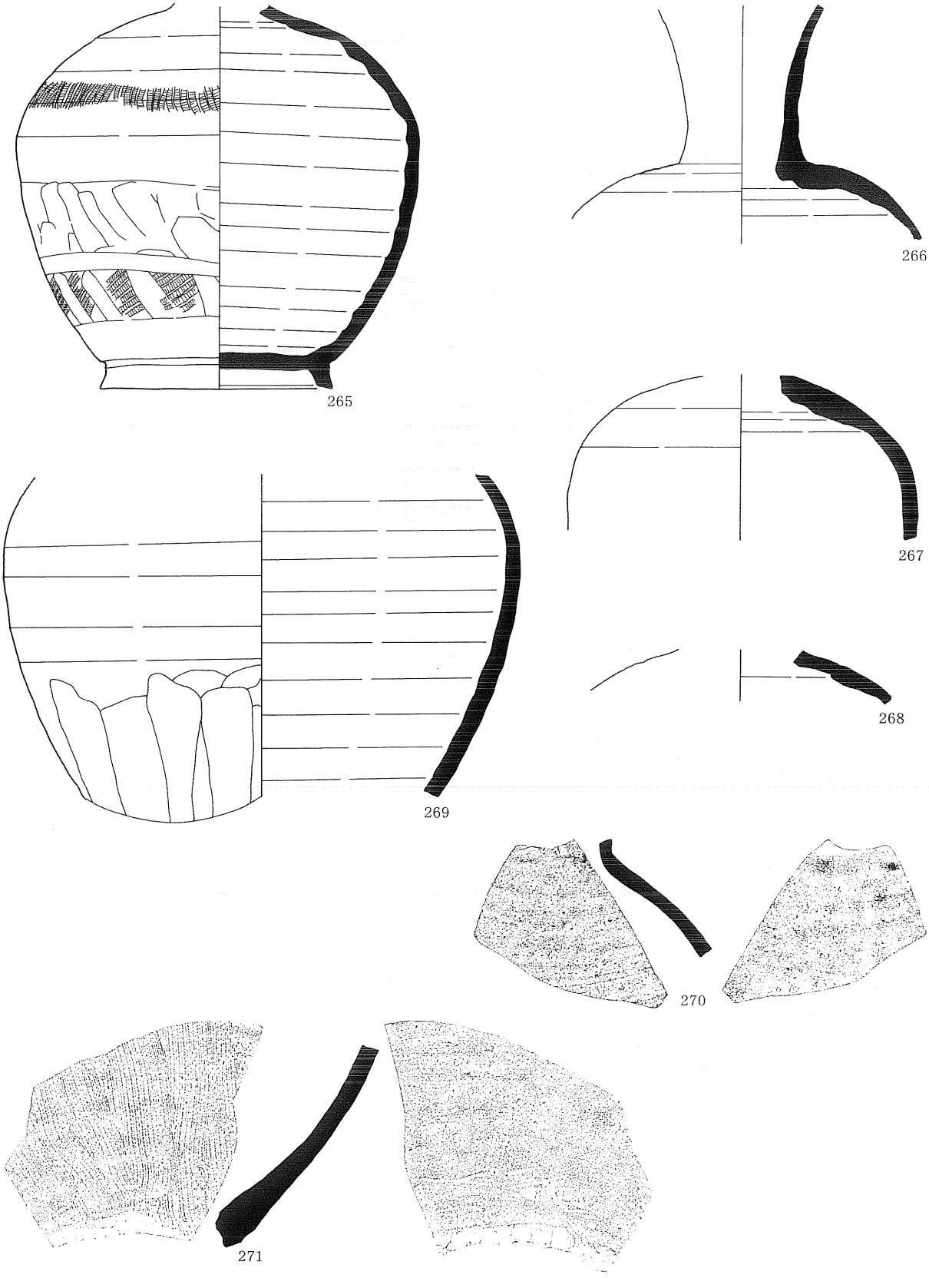

第51図　SL17河川跡出土遺物（８）



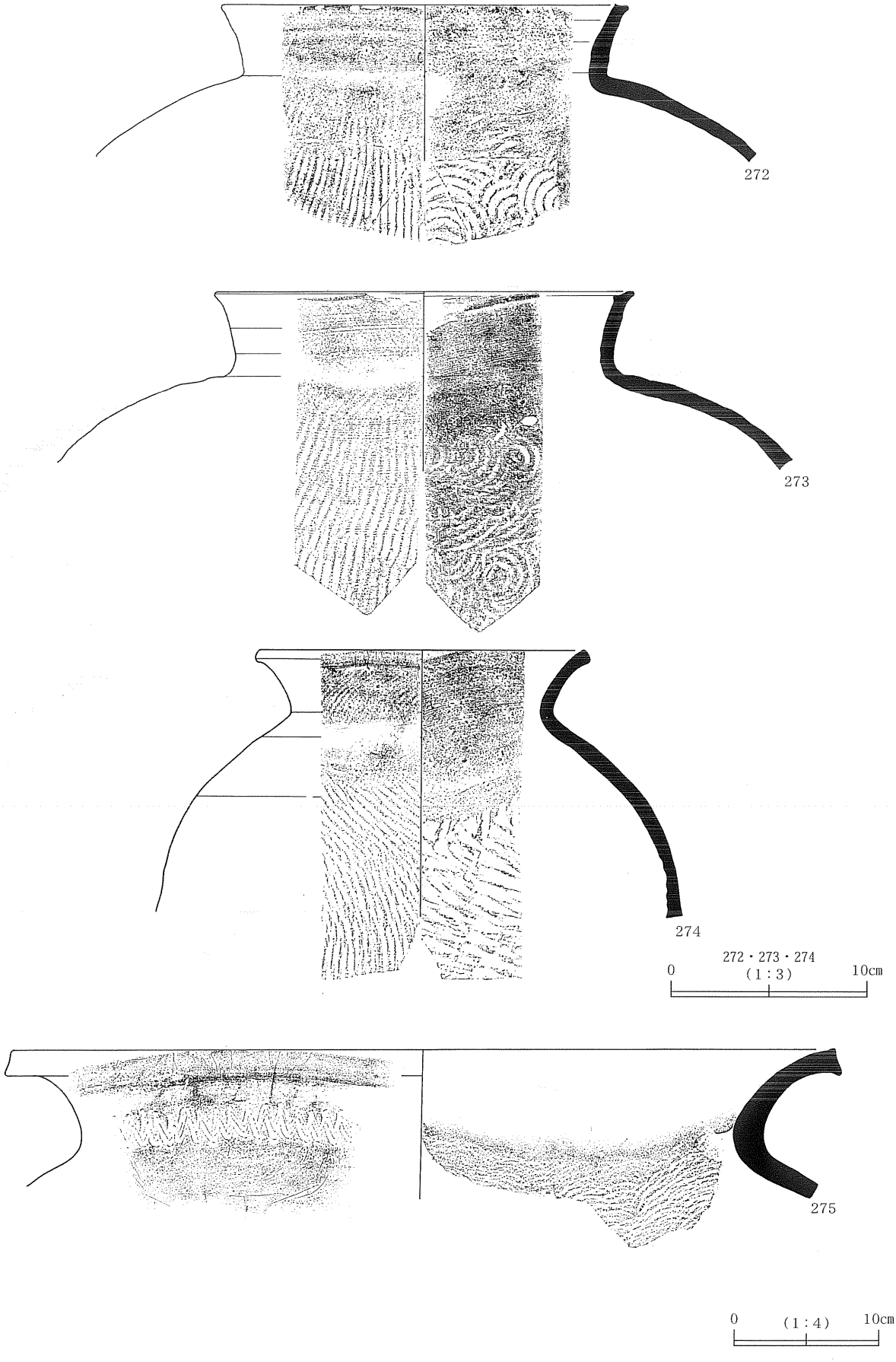

第52図　SL17河川跡出土遺物（９）



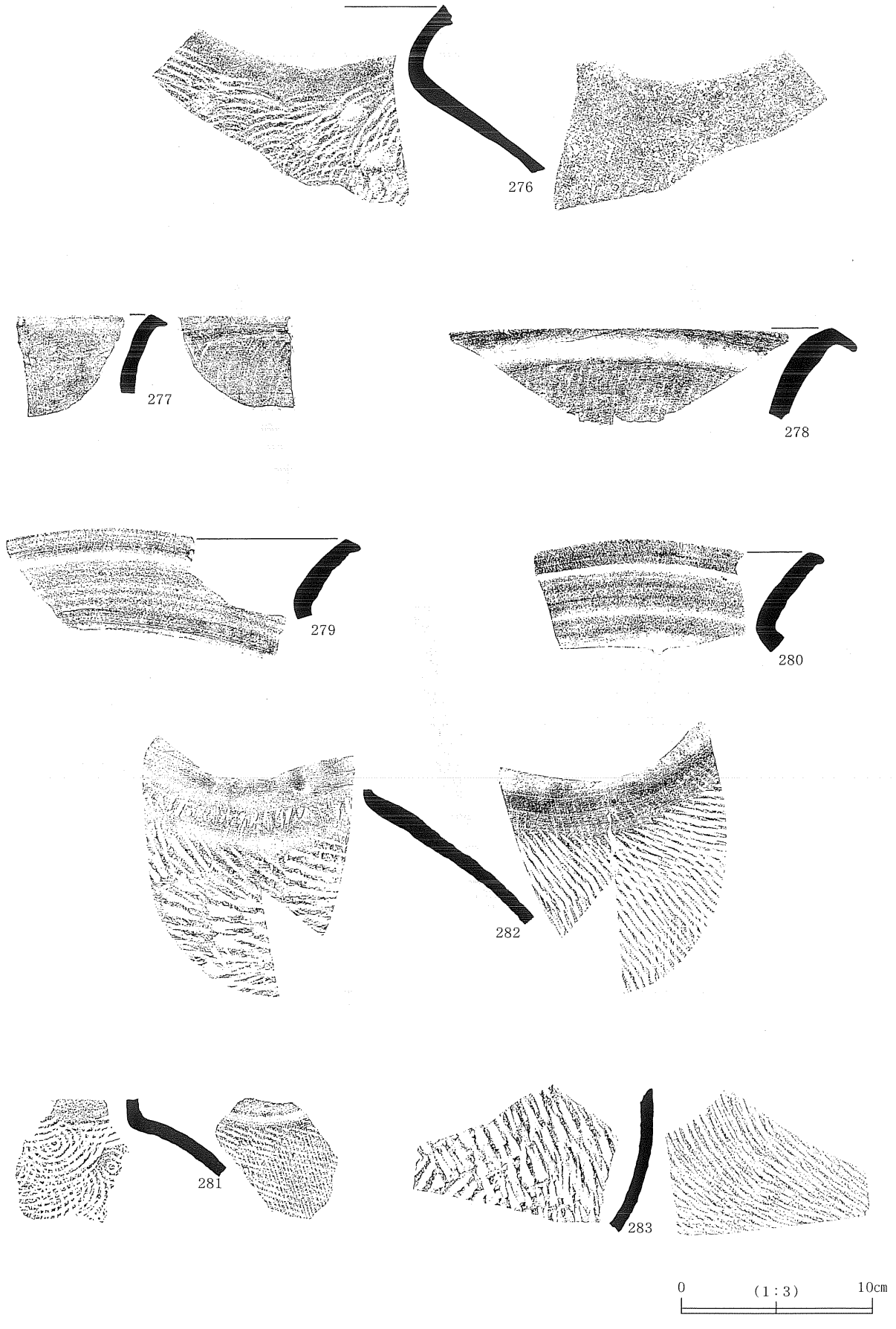

第53図　SL17河川跡出土遺物（10）



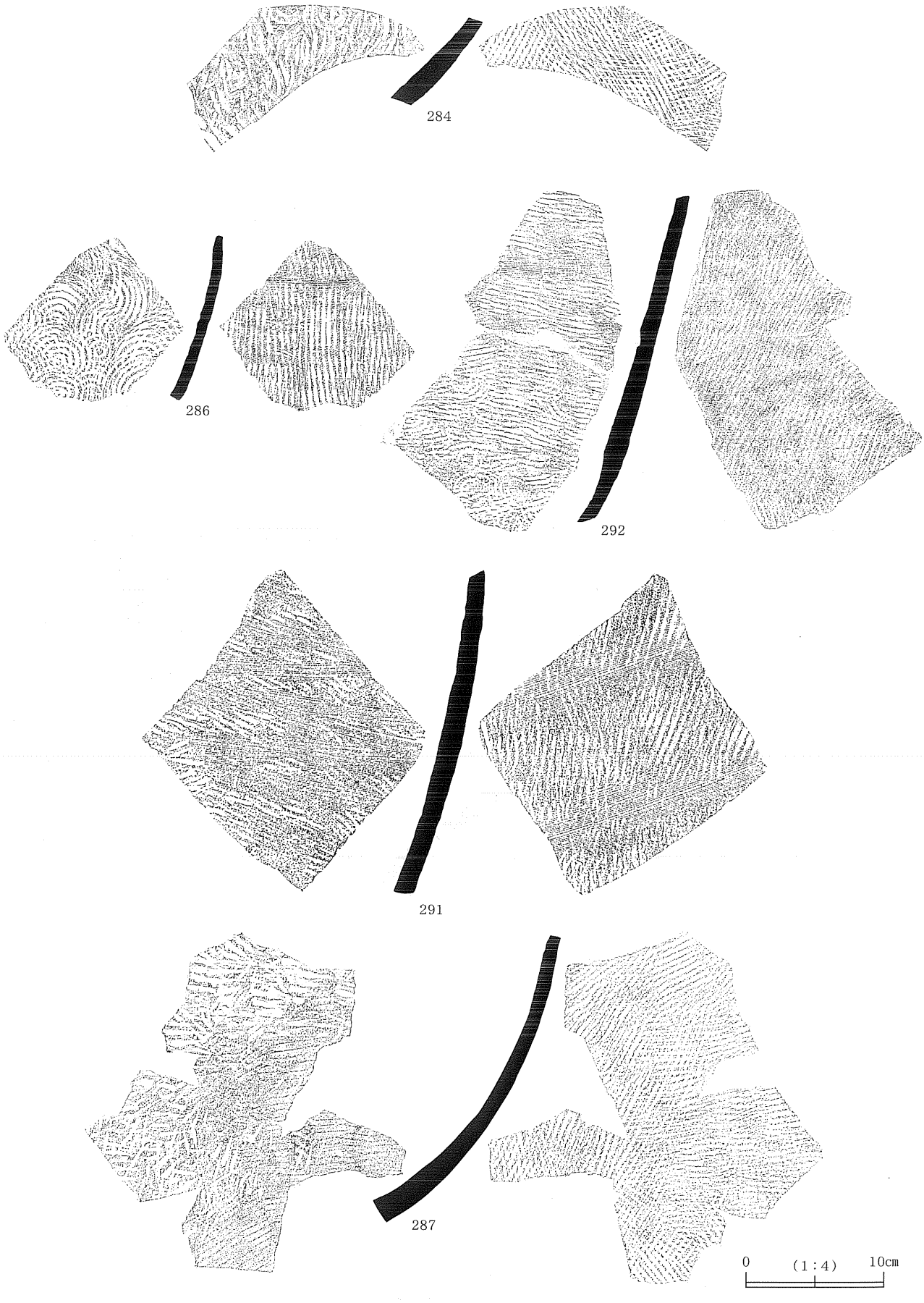

第54図　SL17河川跡出土遺物（11）



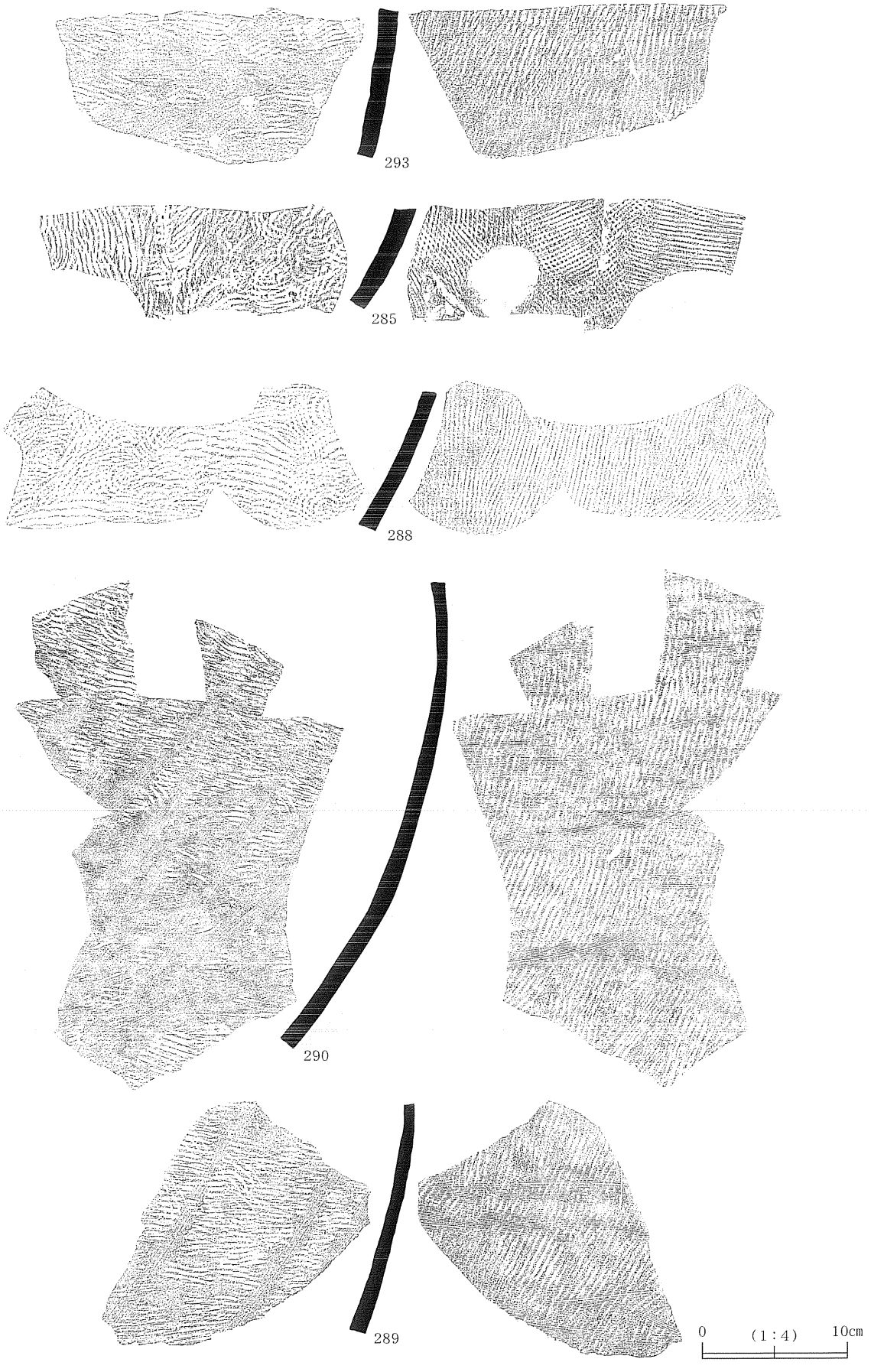

第55図　SL17河川跡出土遺物（12）



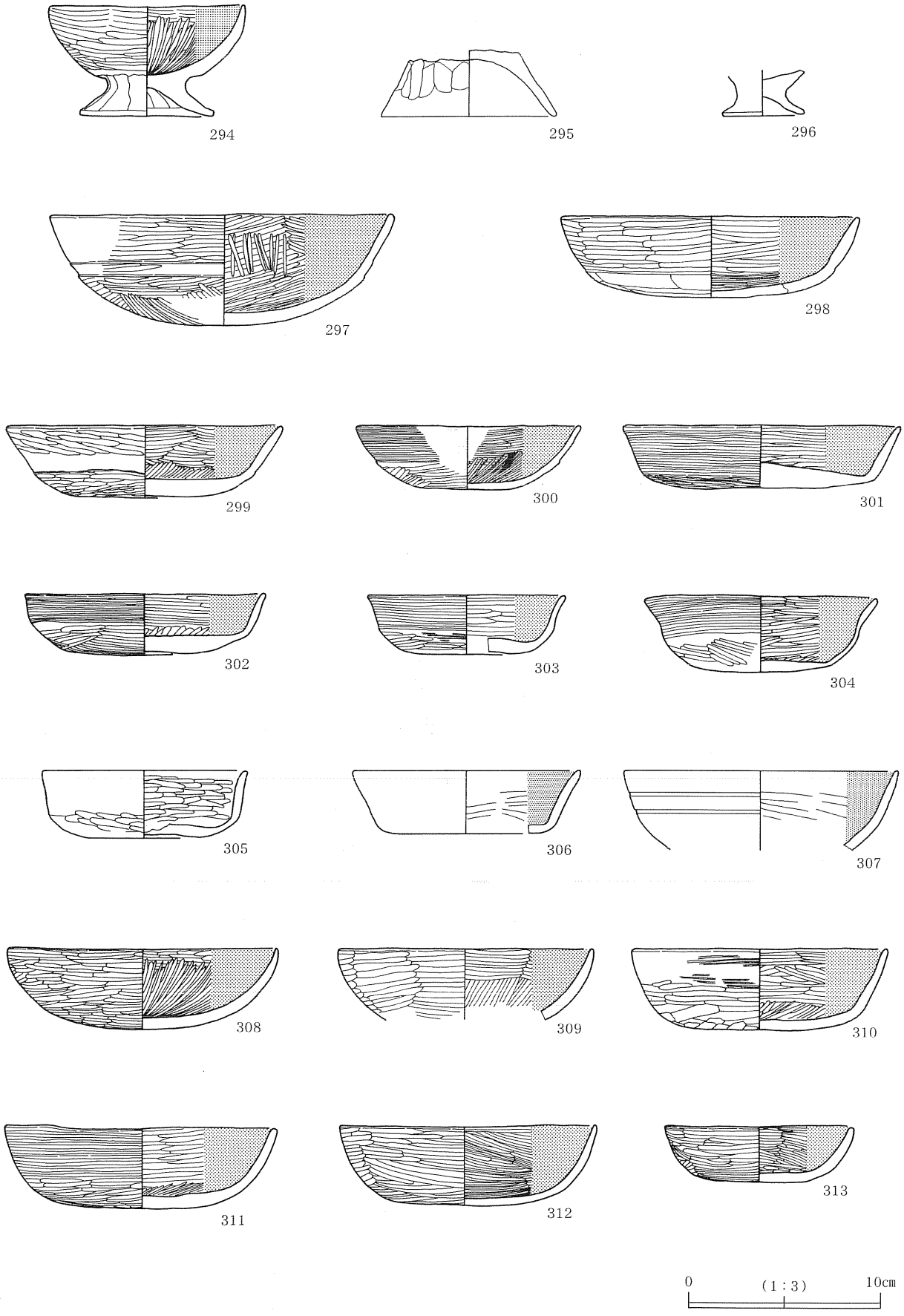

第56図　SL17河川跡出土遺物（13）



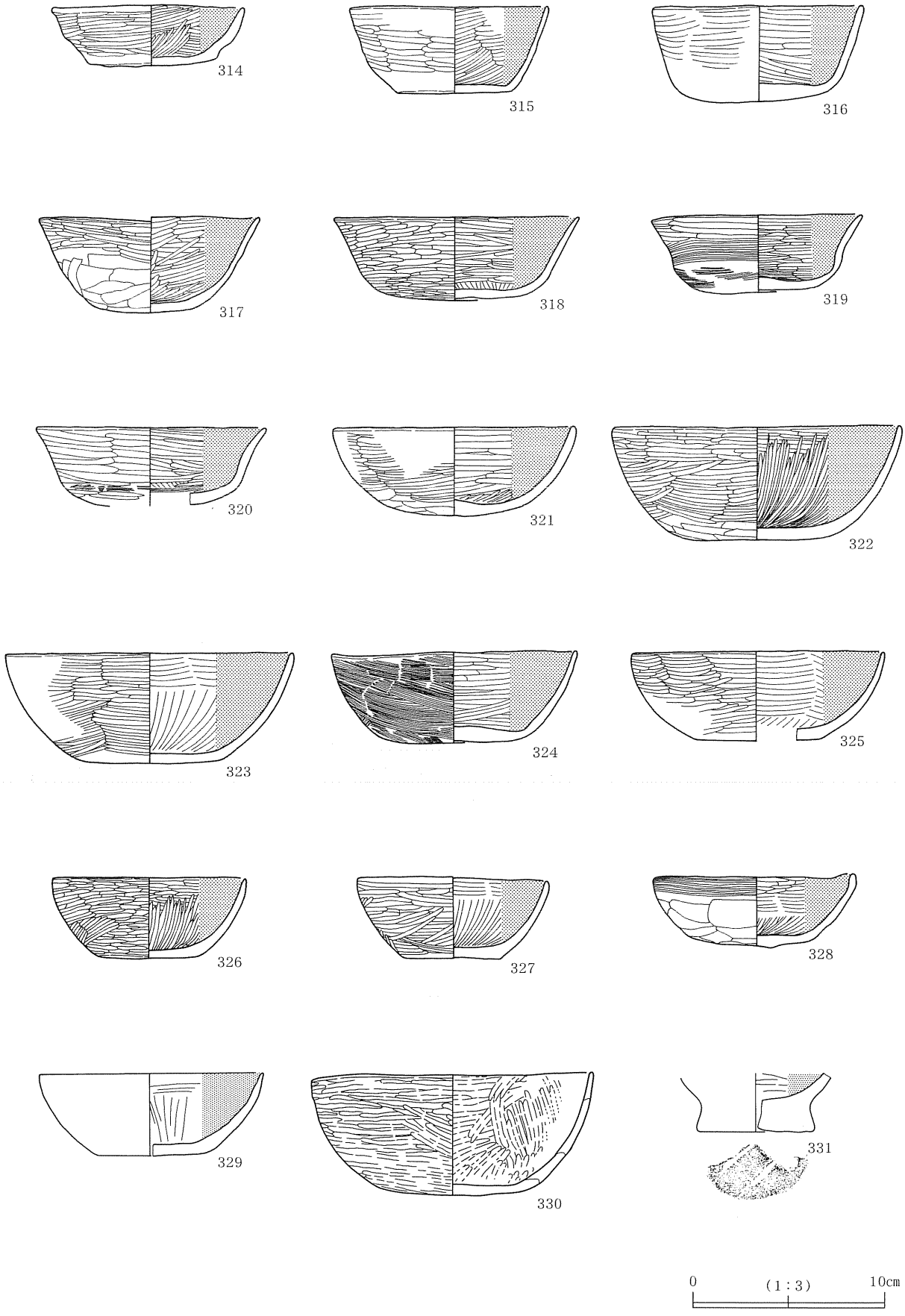

第57図　SL17河川跡出土遺物（14）



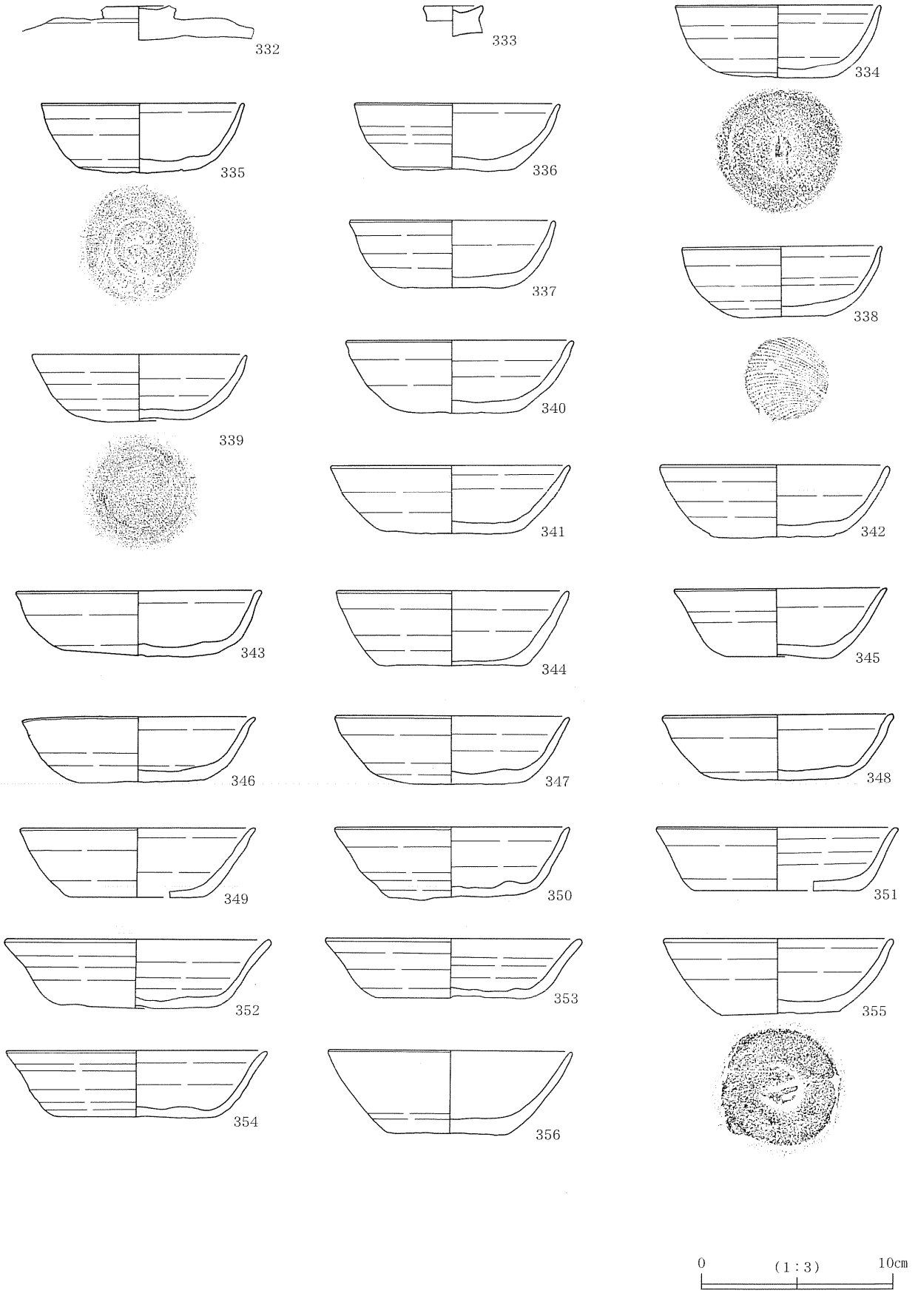

第58図　ＳＬ17河川跡出土遺物（15）



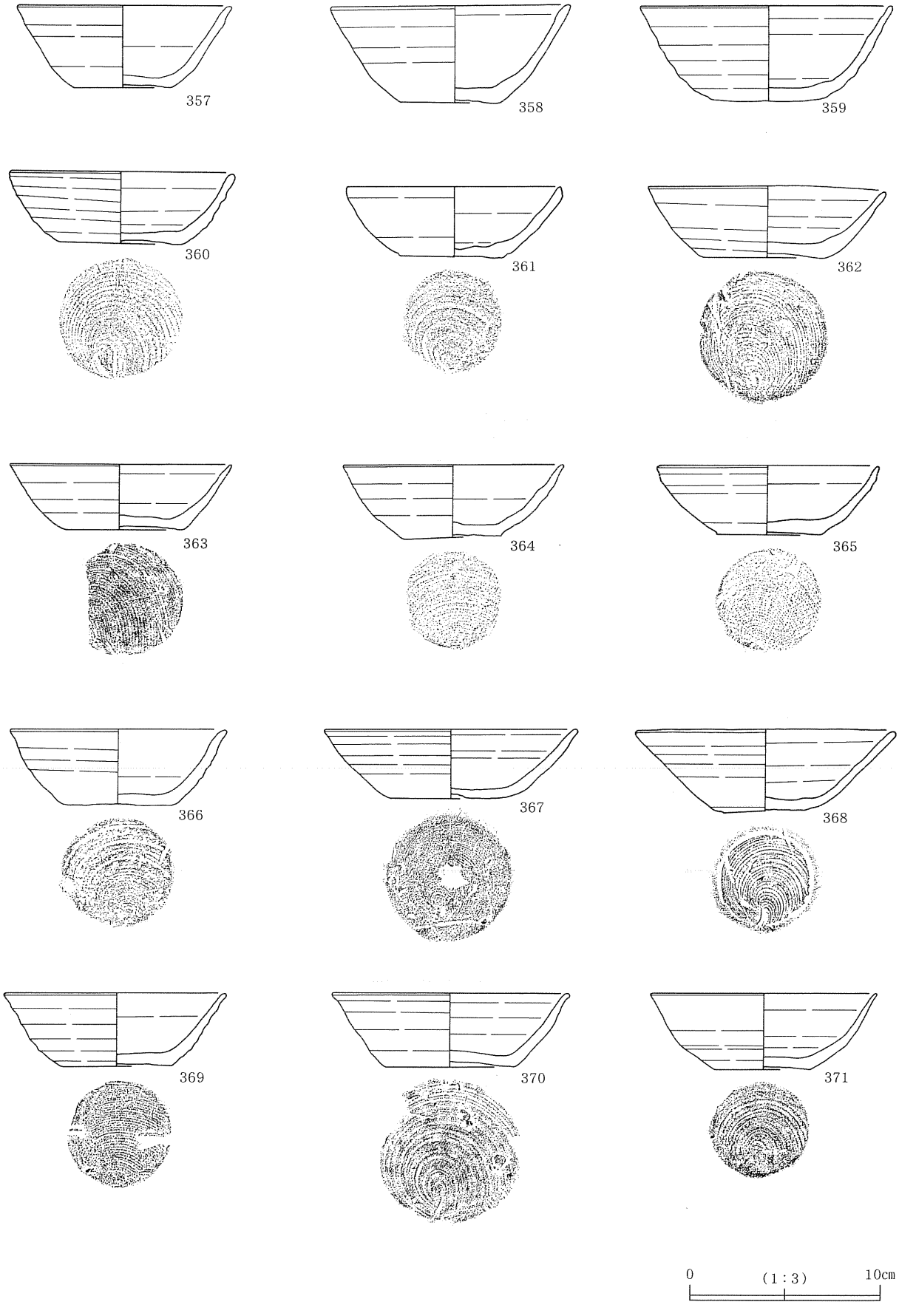

第59図　SL17河川跡出土遺物（16）



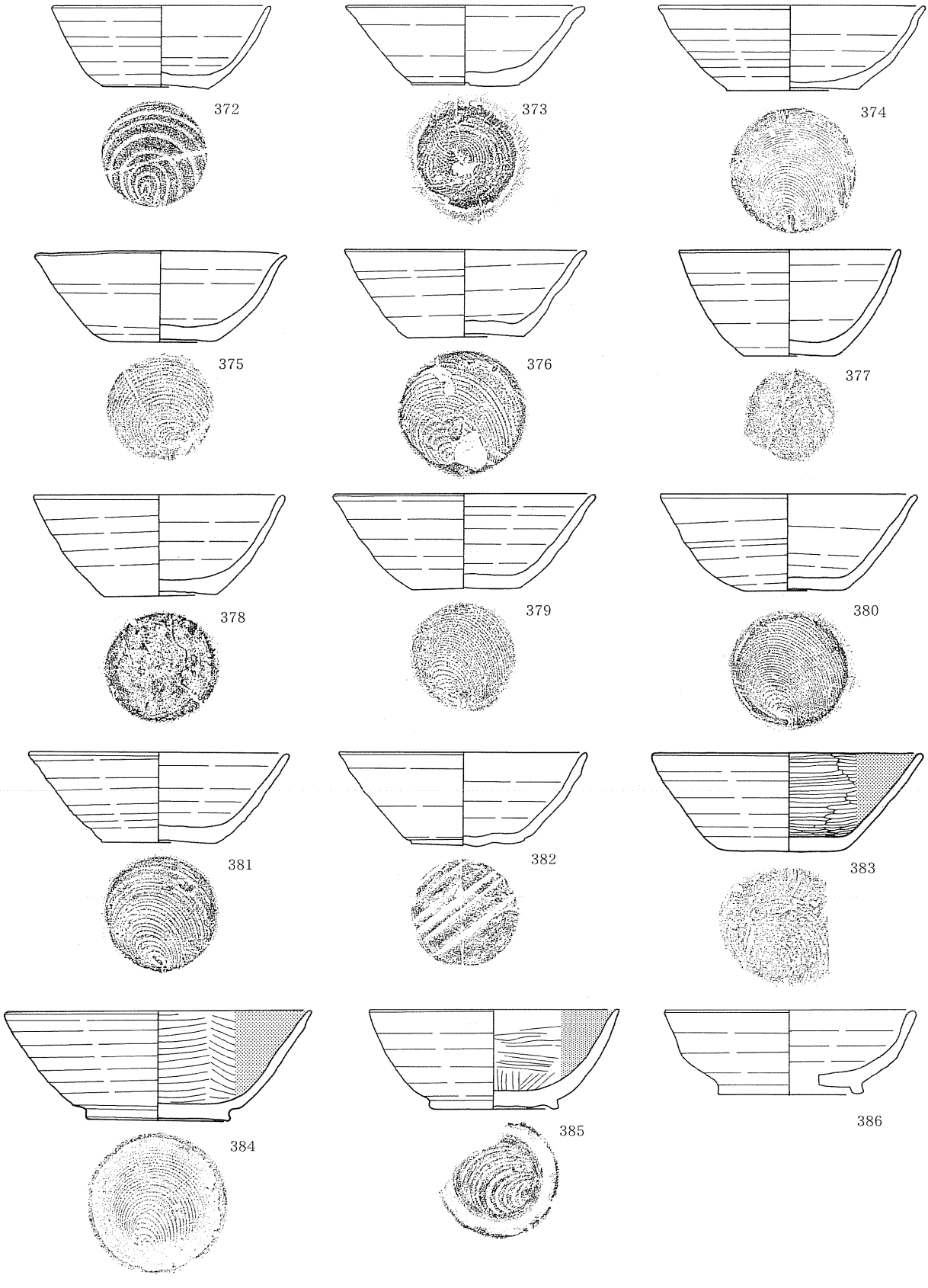

第60図　SL17河川跡出土遺物（17）



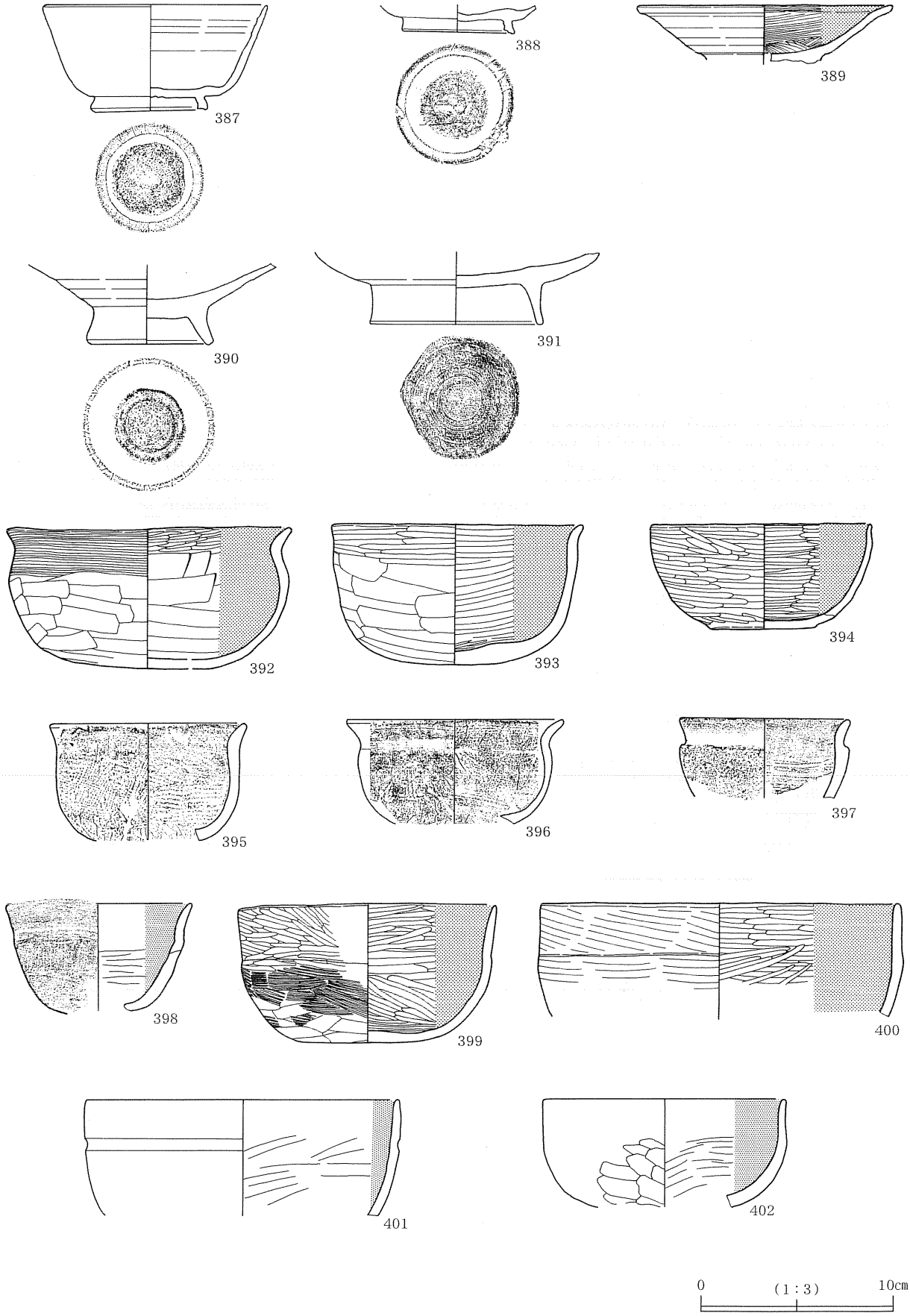

第61図　SL17河川跡出土遺物（18）



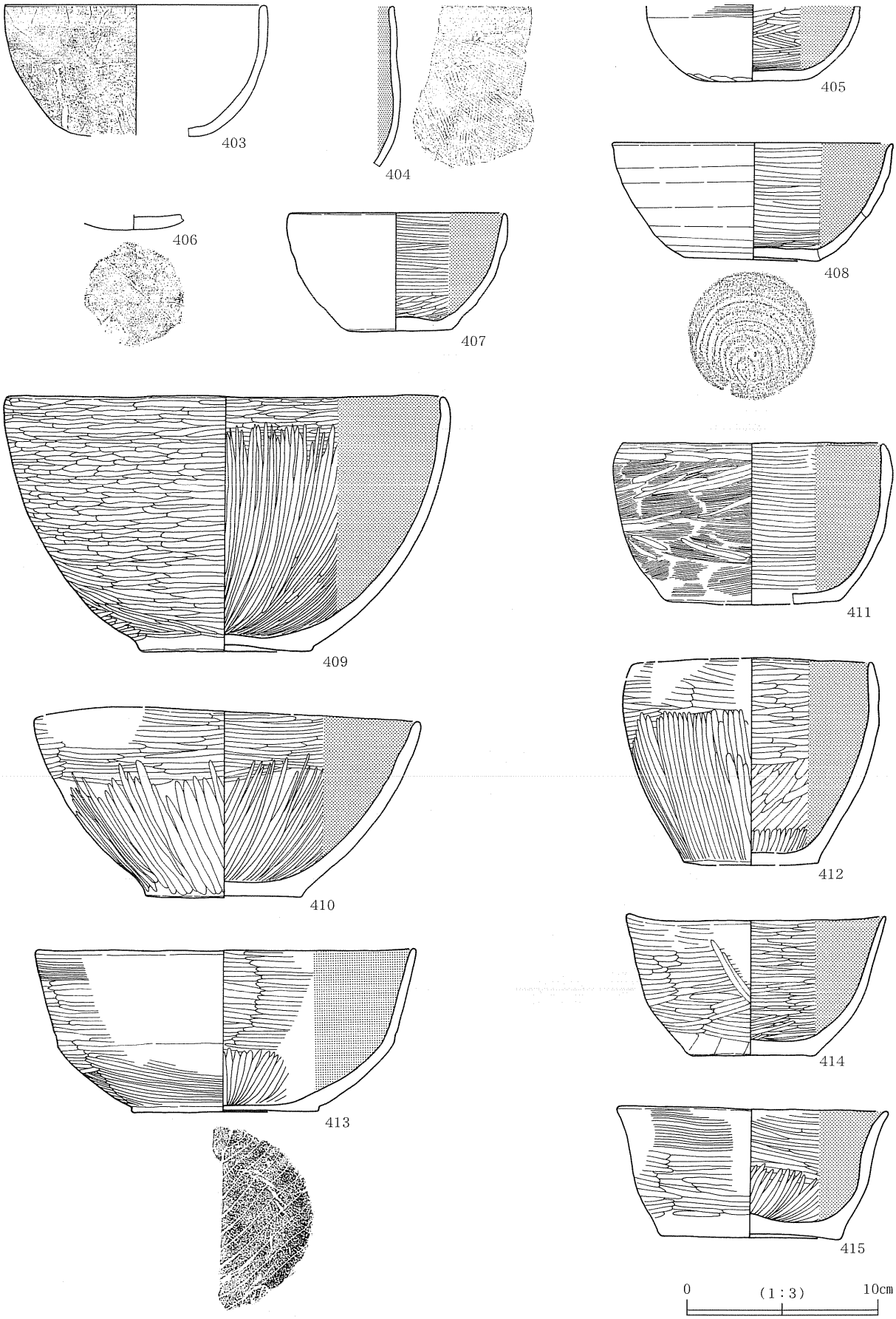

第62図　SL17河川跡出土遺物（19）



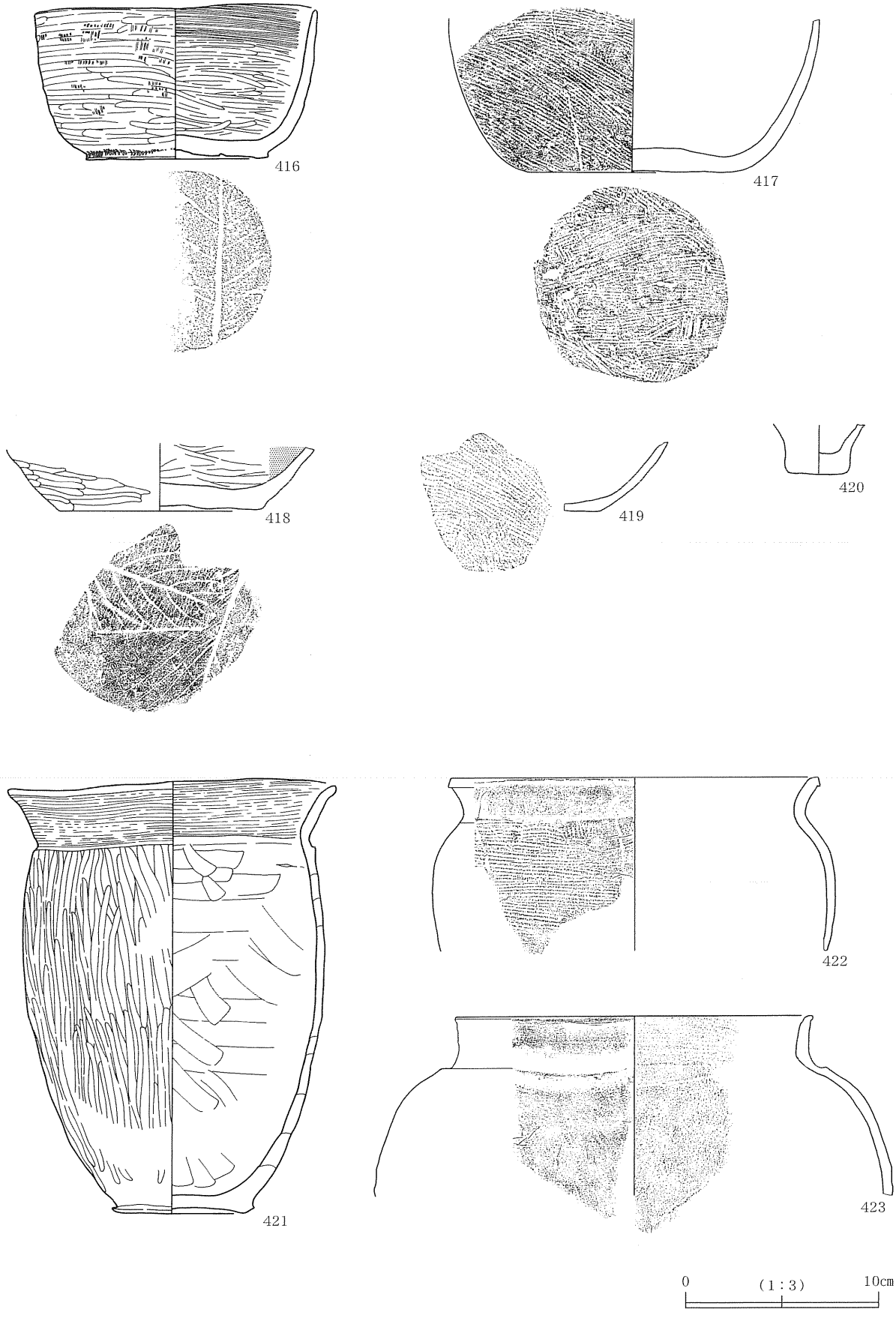

第63図　SL17河川跡出土遺物（20）



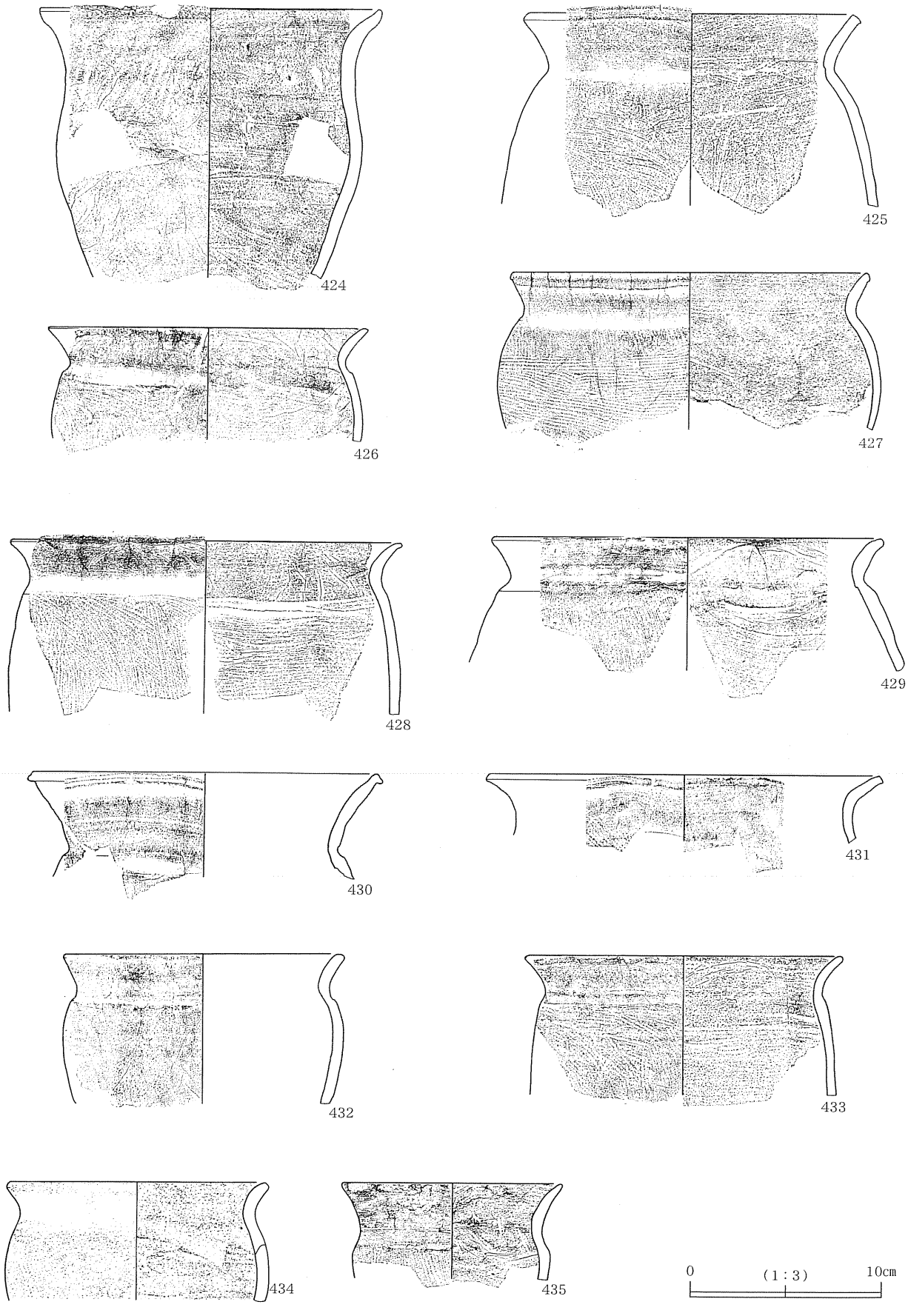

第64図　SL17河川跡出土遺物（21）



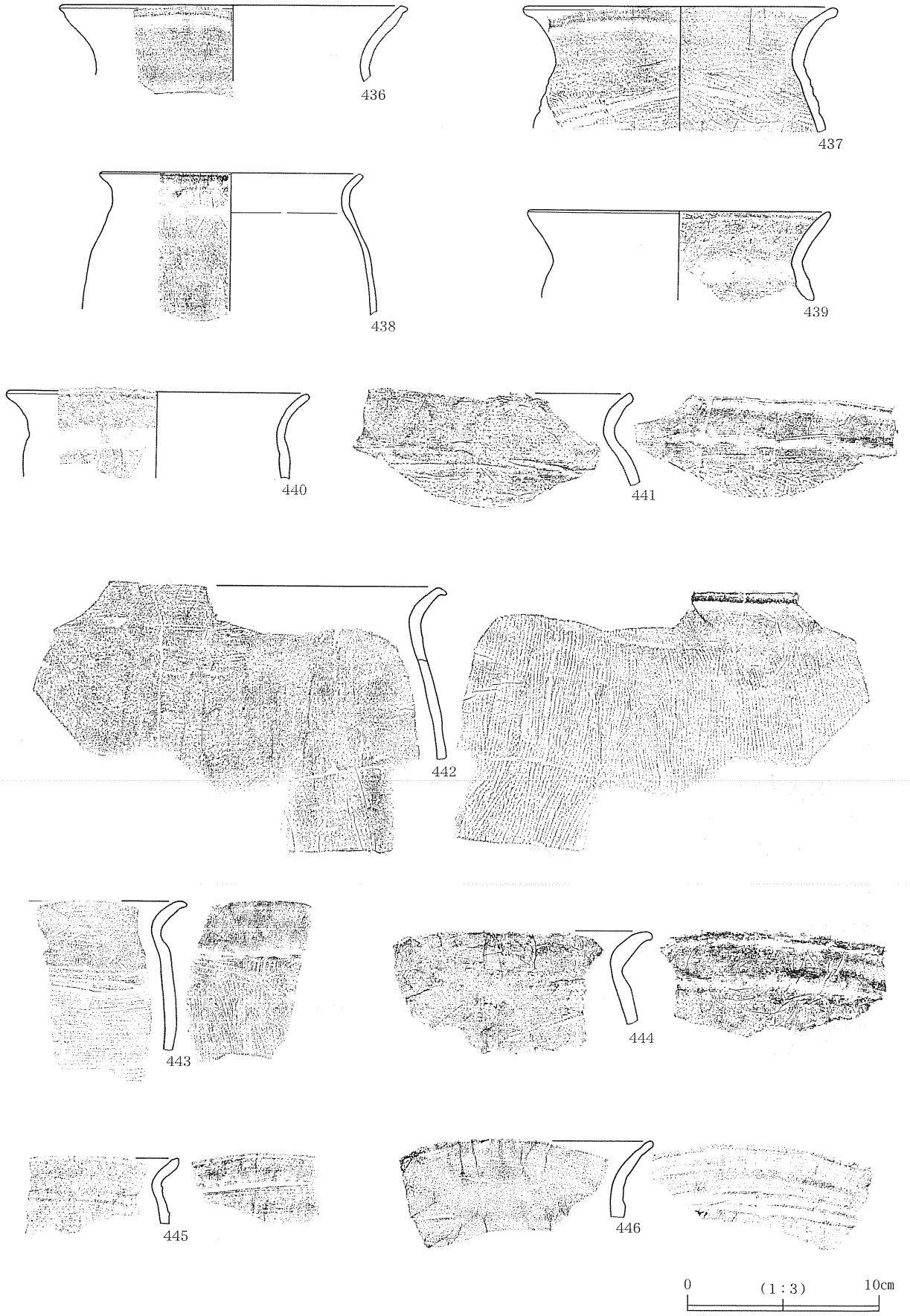

第65図　SL17河川跡出土遺物（22）



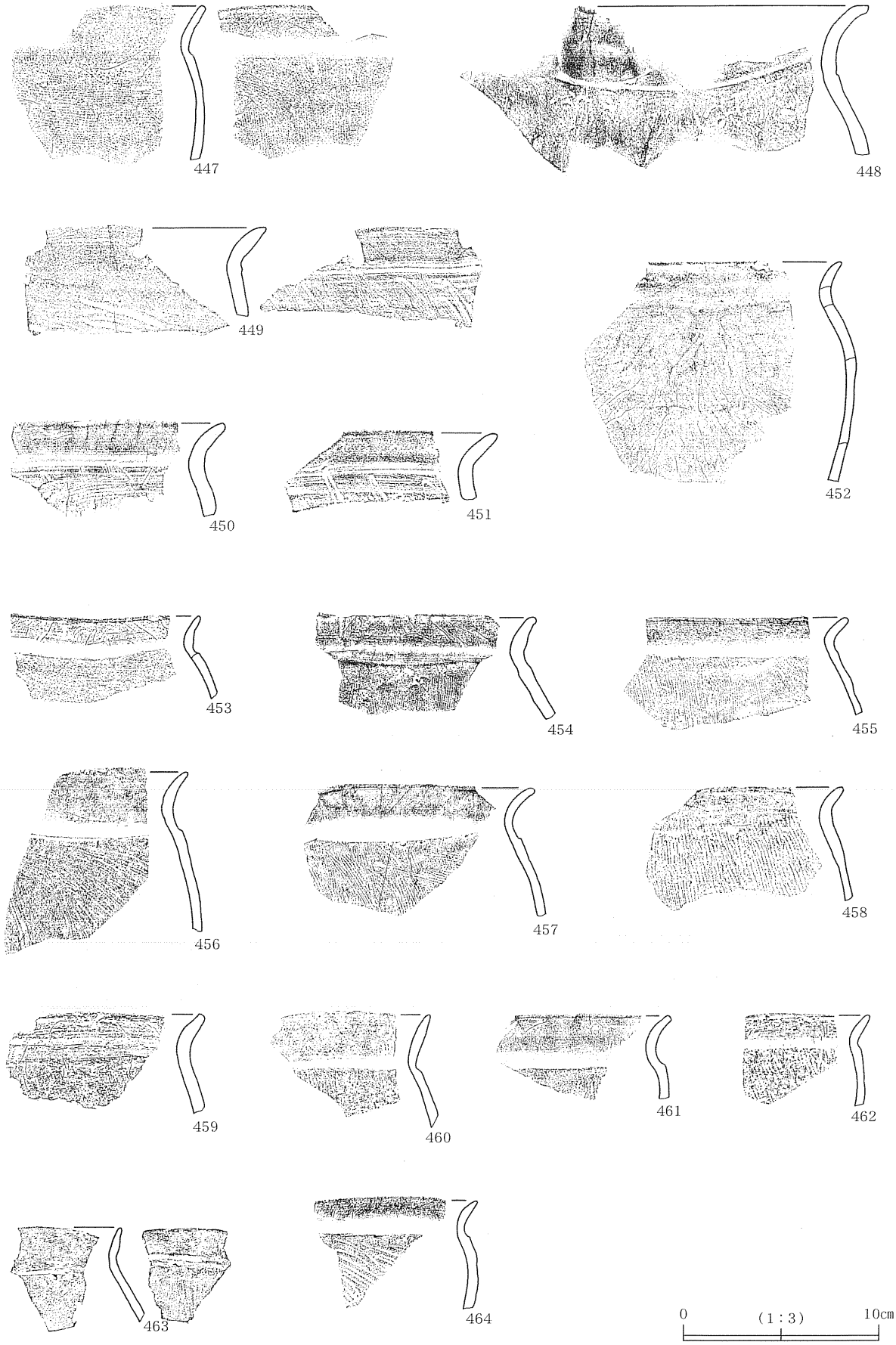

第66図　SL17河川跡出土遺物（23）



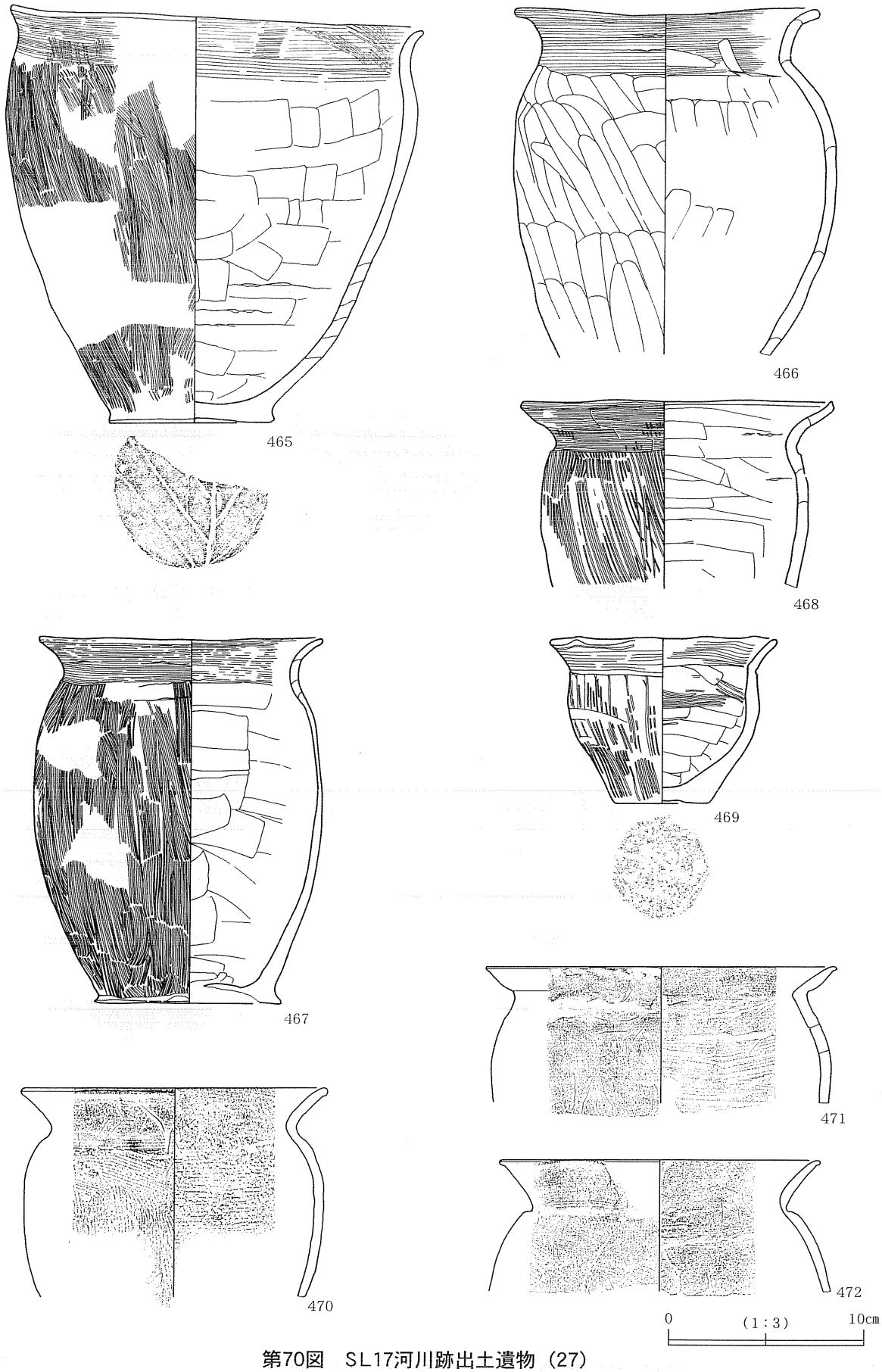

第67図　SL17河川跡出土遺物（24）



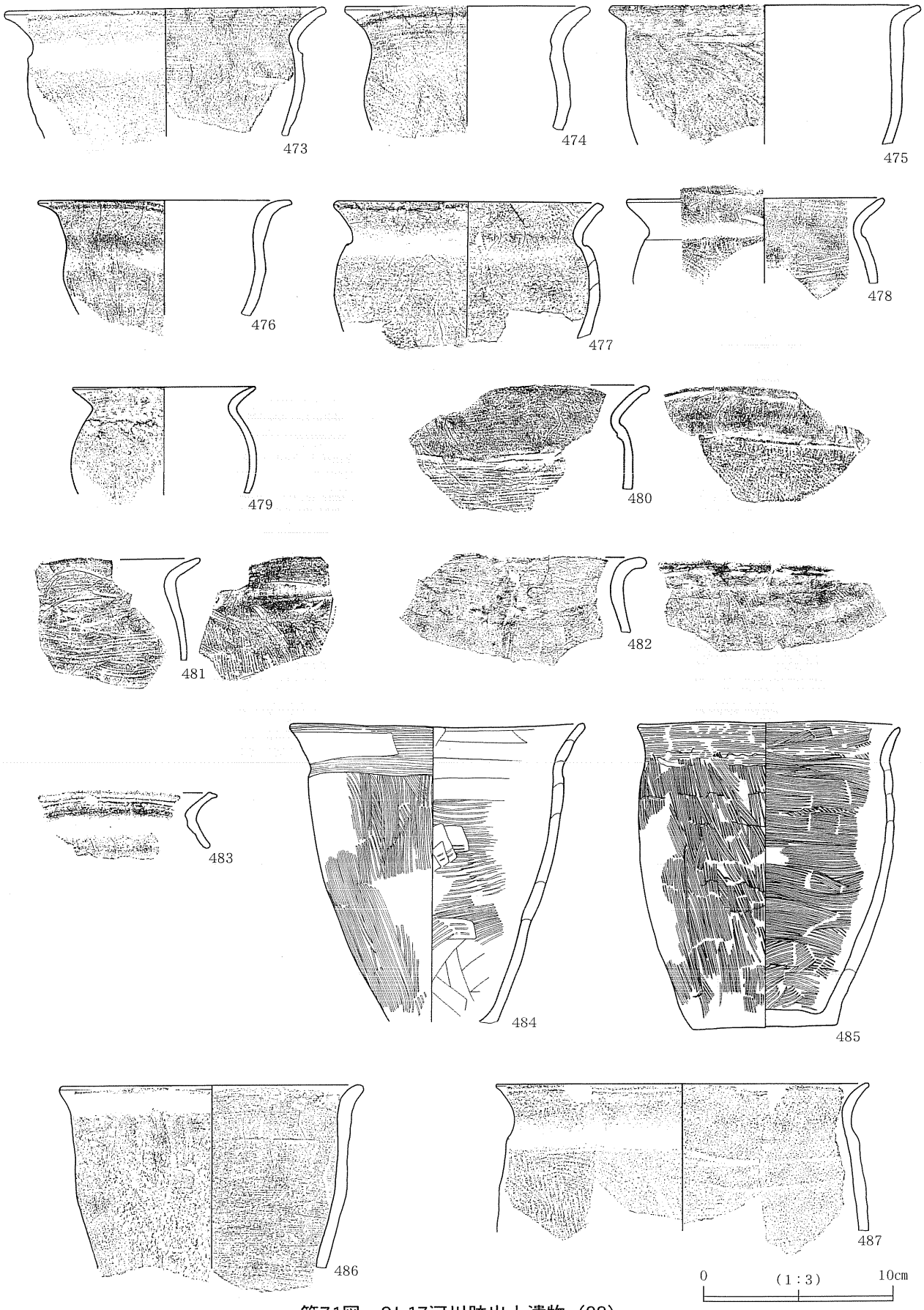

第68図　SL17河川跡出土遺物（25）



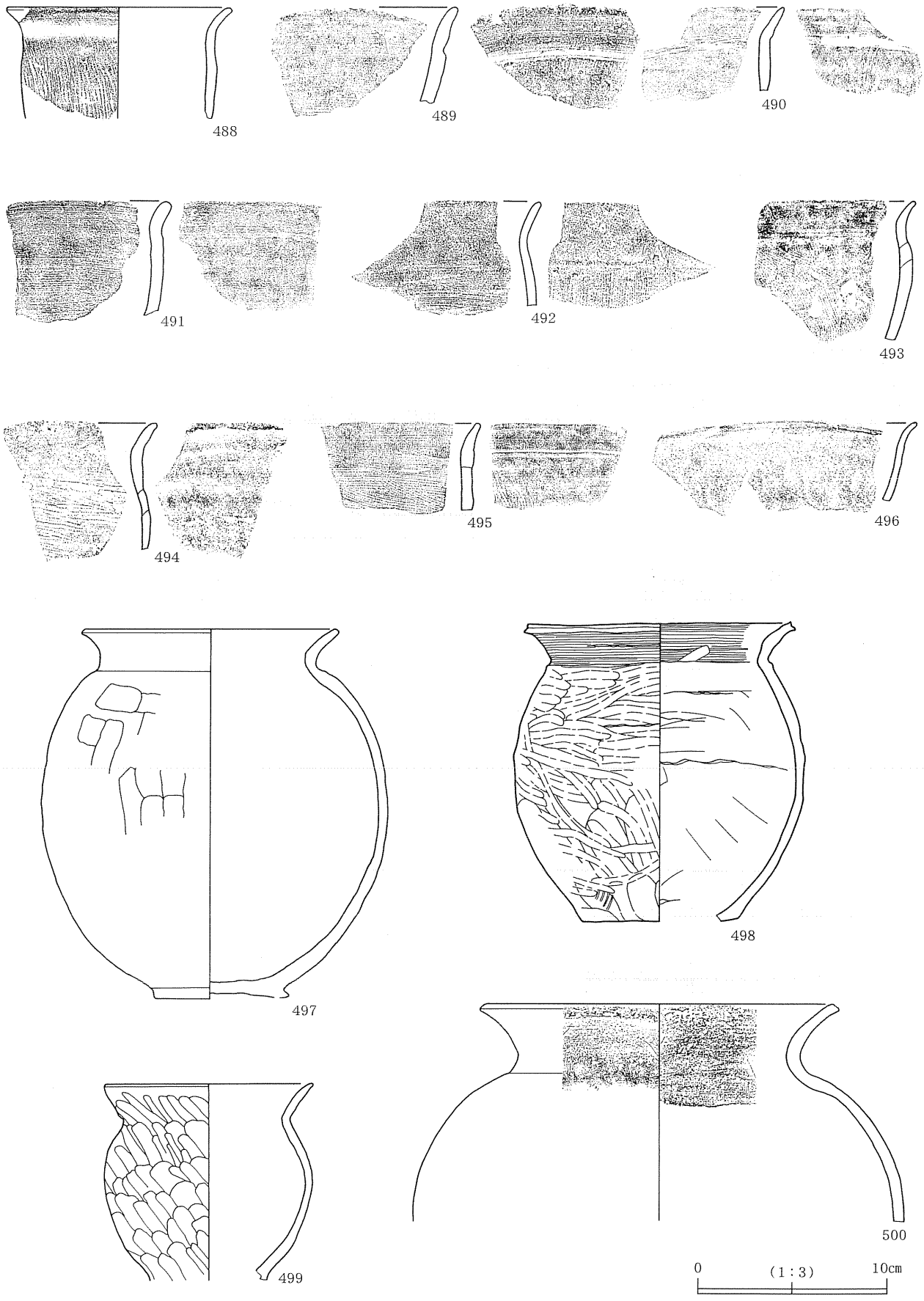

第69図　SL17河川跡出土遺物（26）



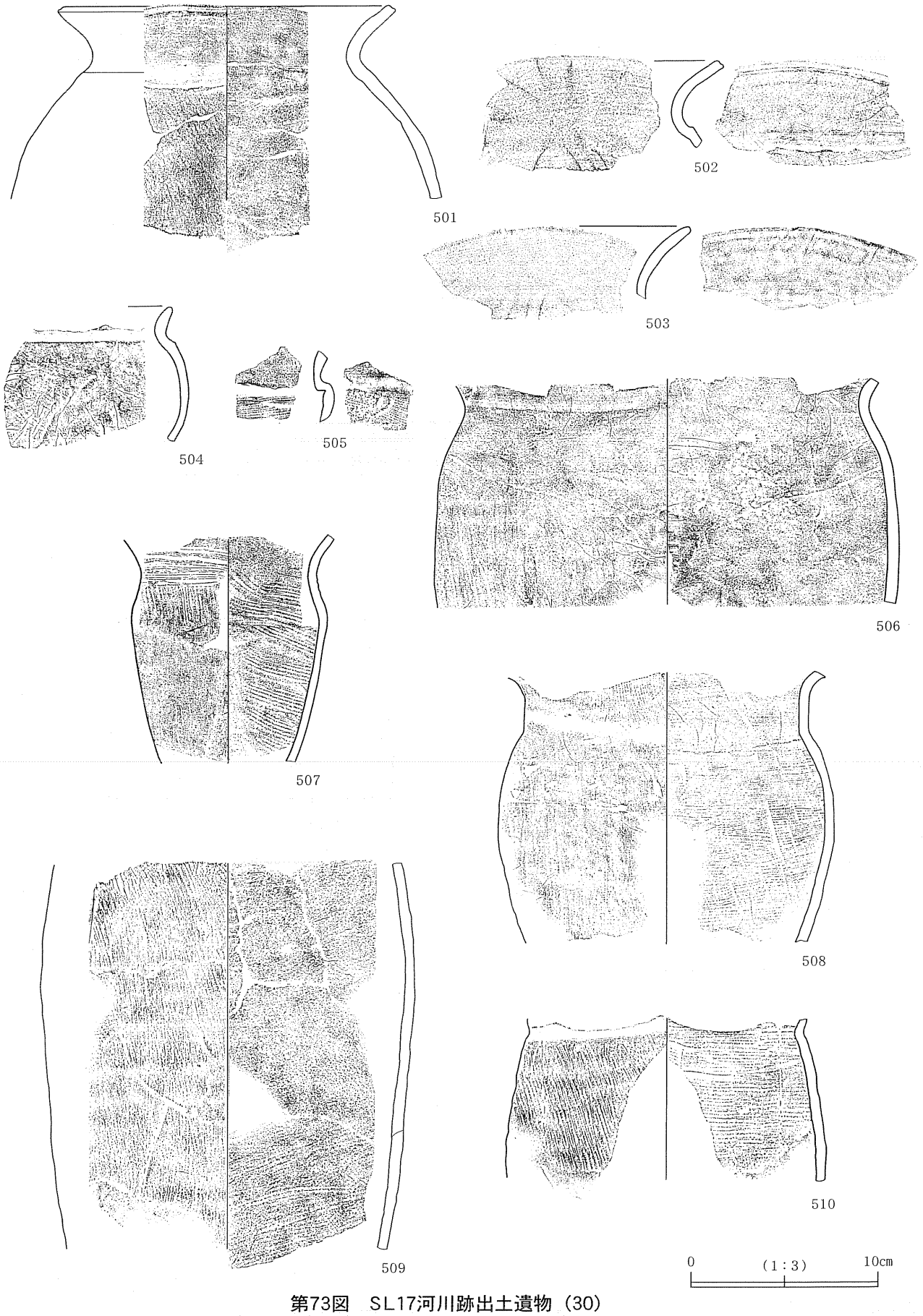

第70図　SL17河川跡出土遺物（27）



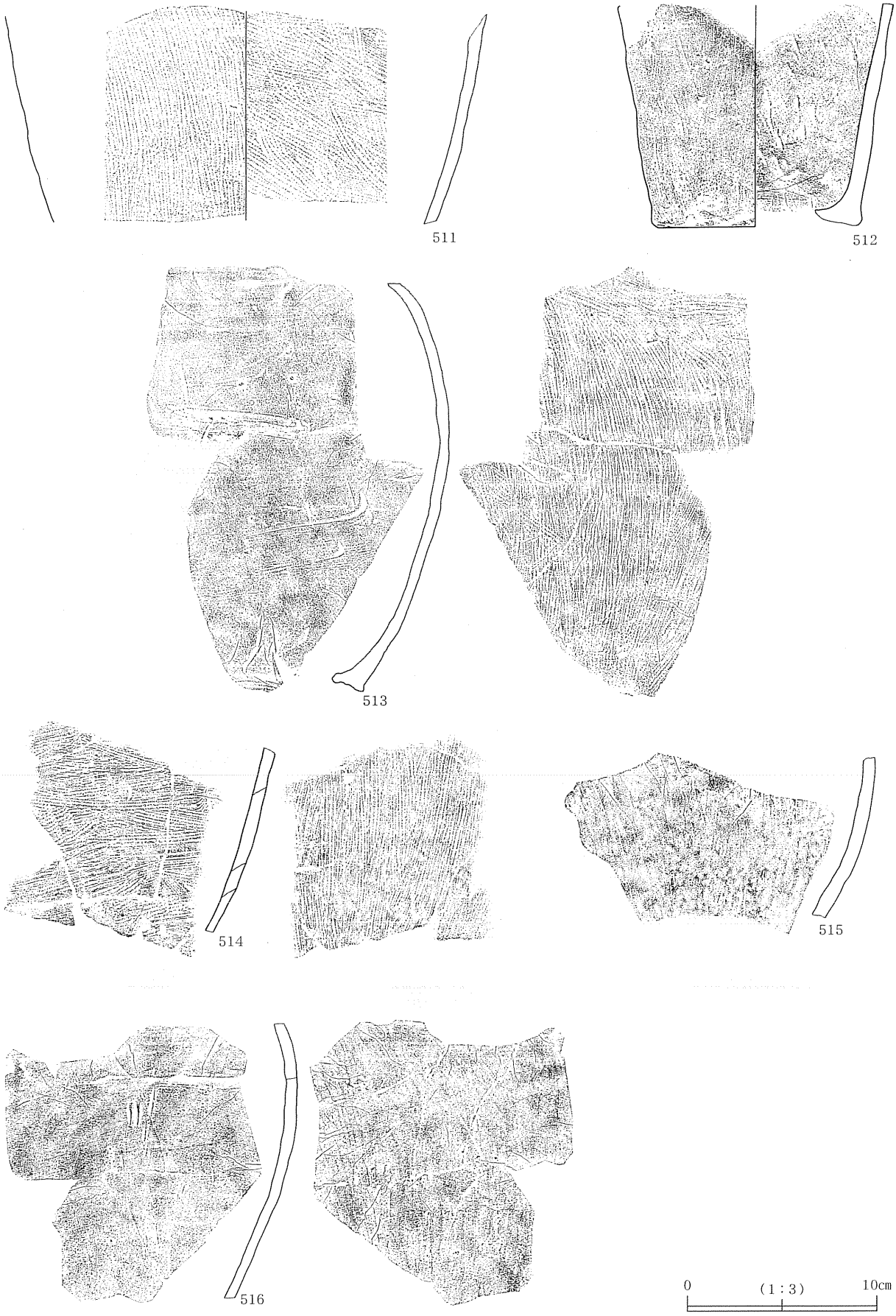

第71図　SL17河川跡出土遺物（28）



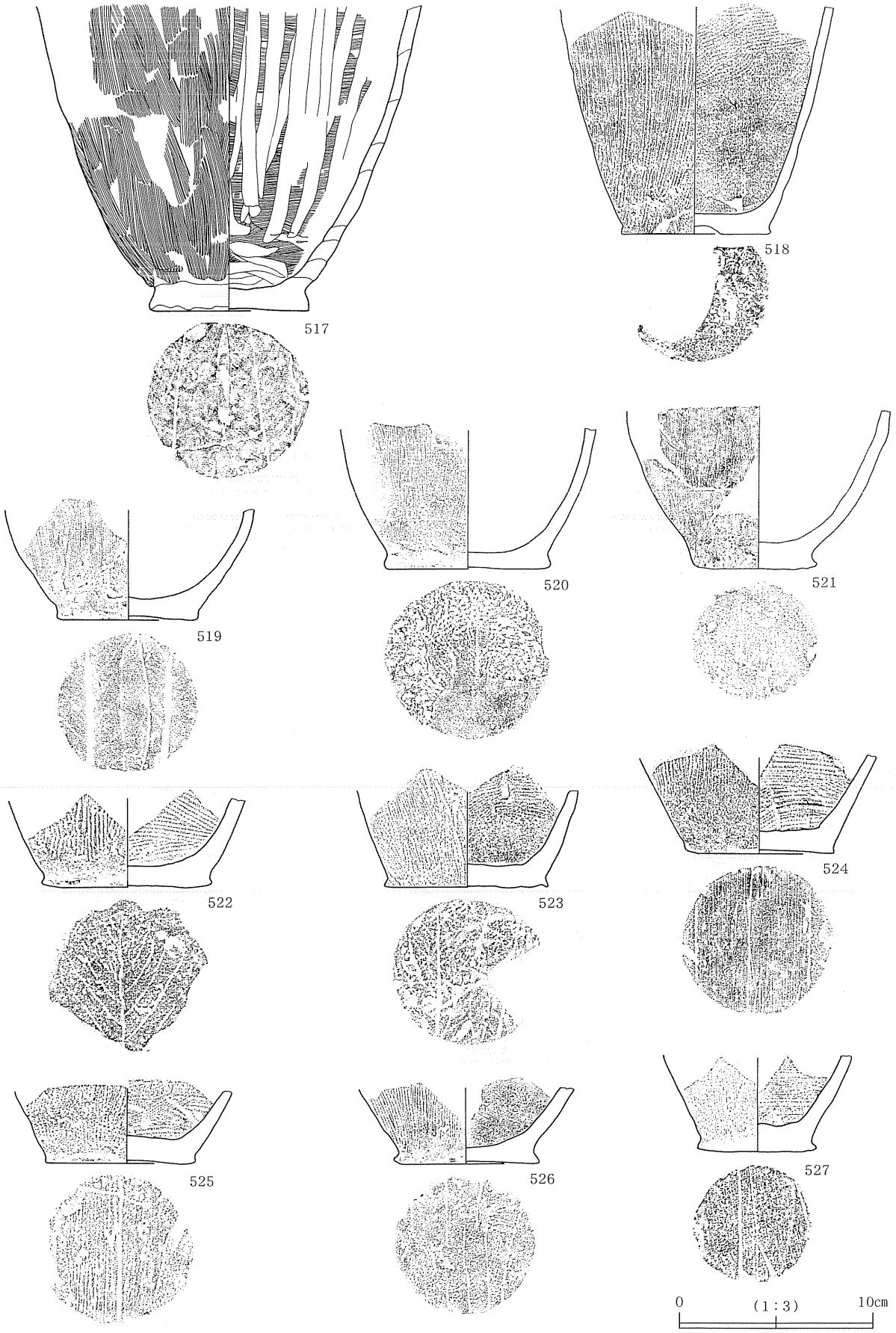

第72図　SL17河川跡出土遺物（29）



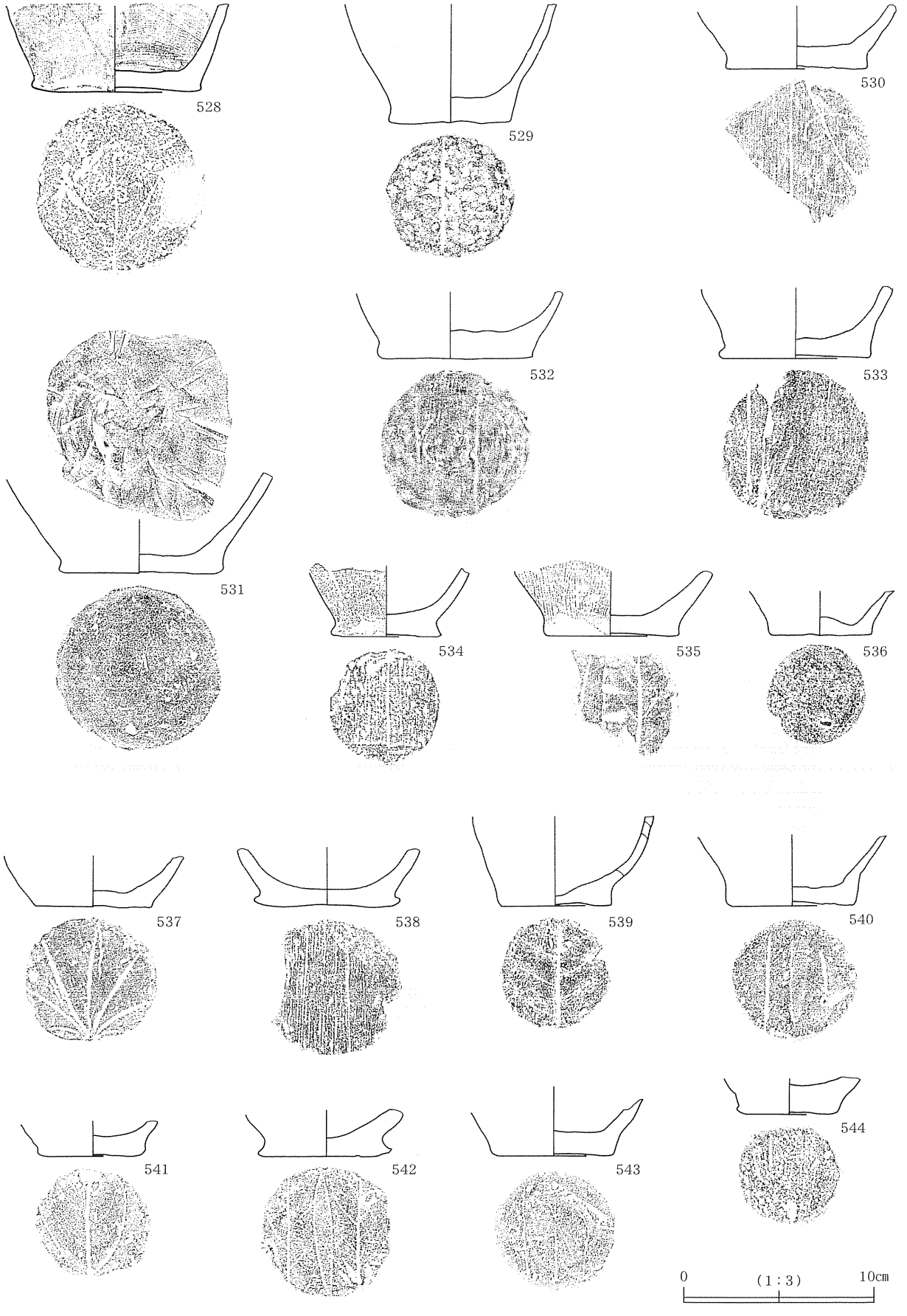

第73図　SL17河川跡出土遺物（30）



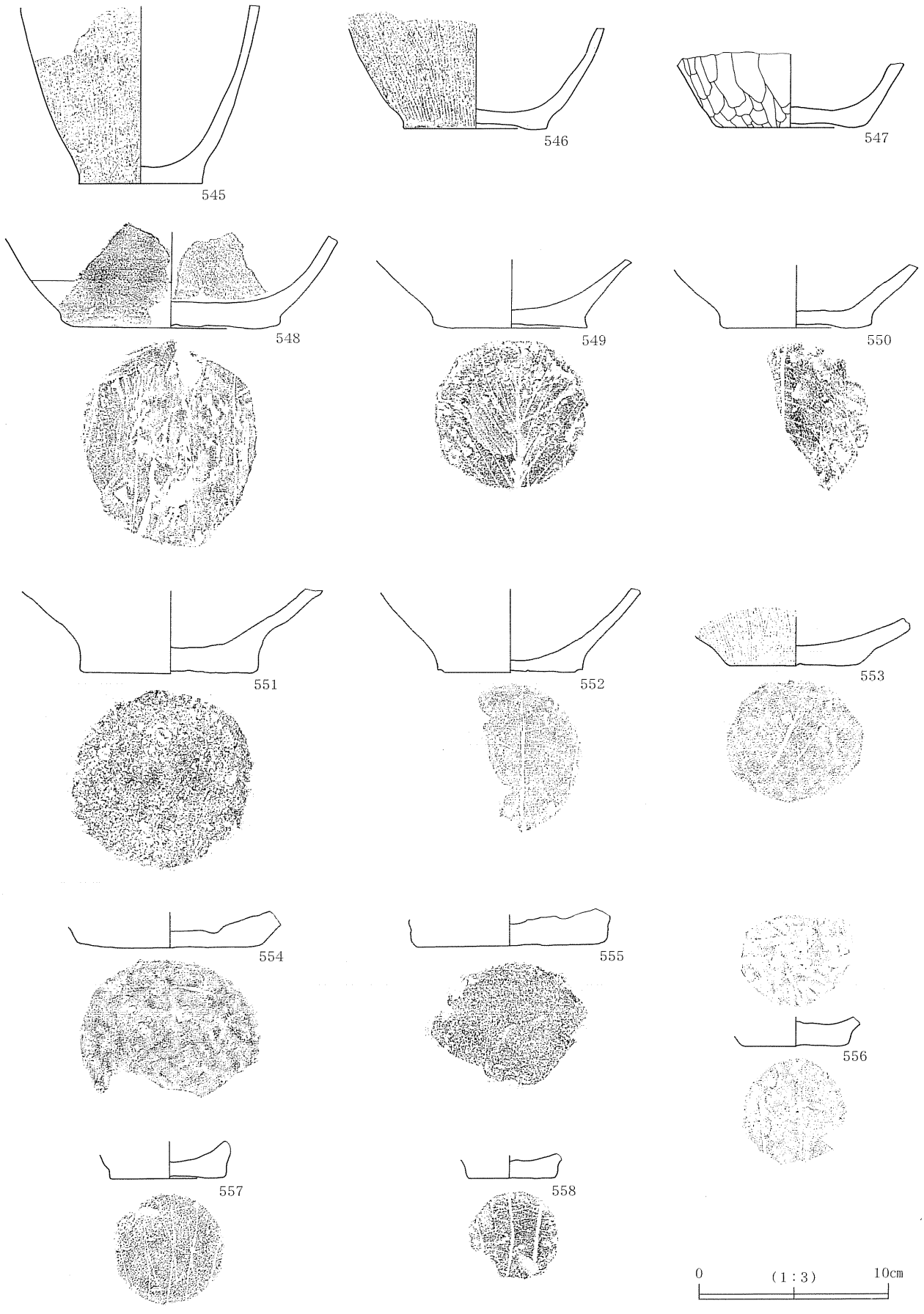

第74図　SL17河川跡出土遺物（31）



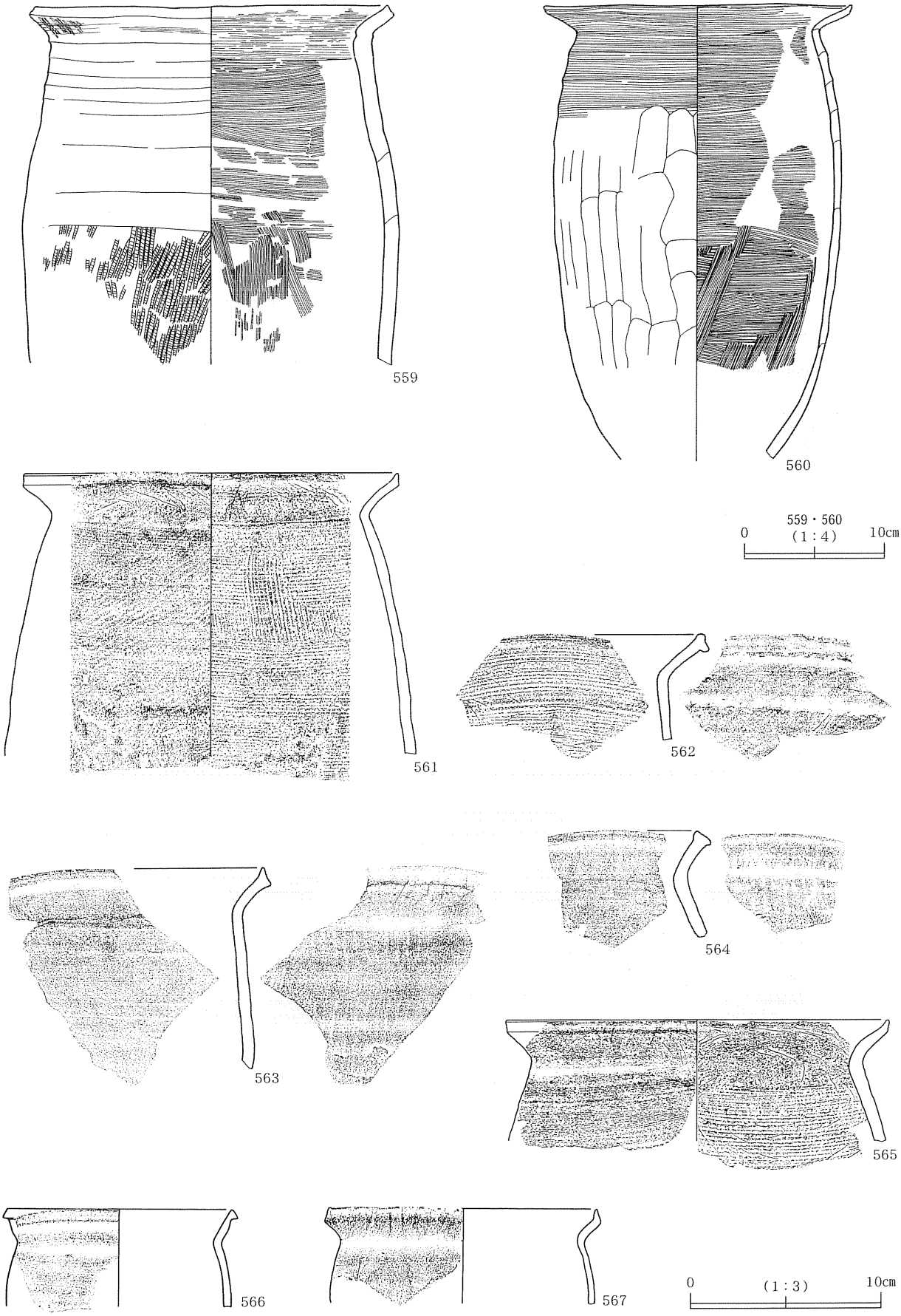

第75図　SL17河川跡出土遺物（32）



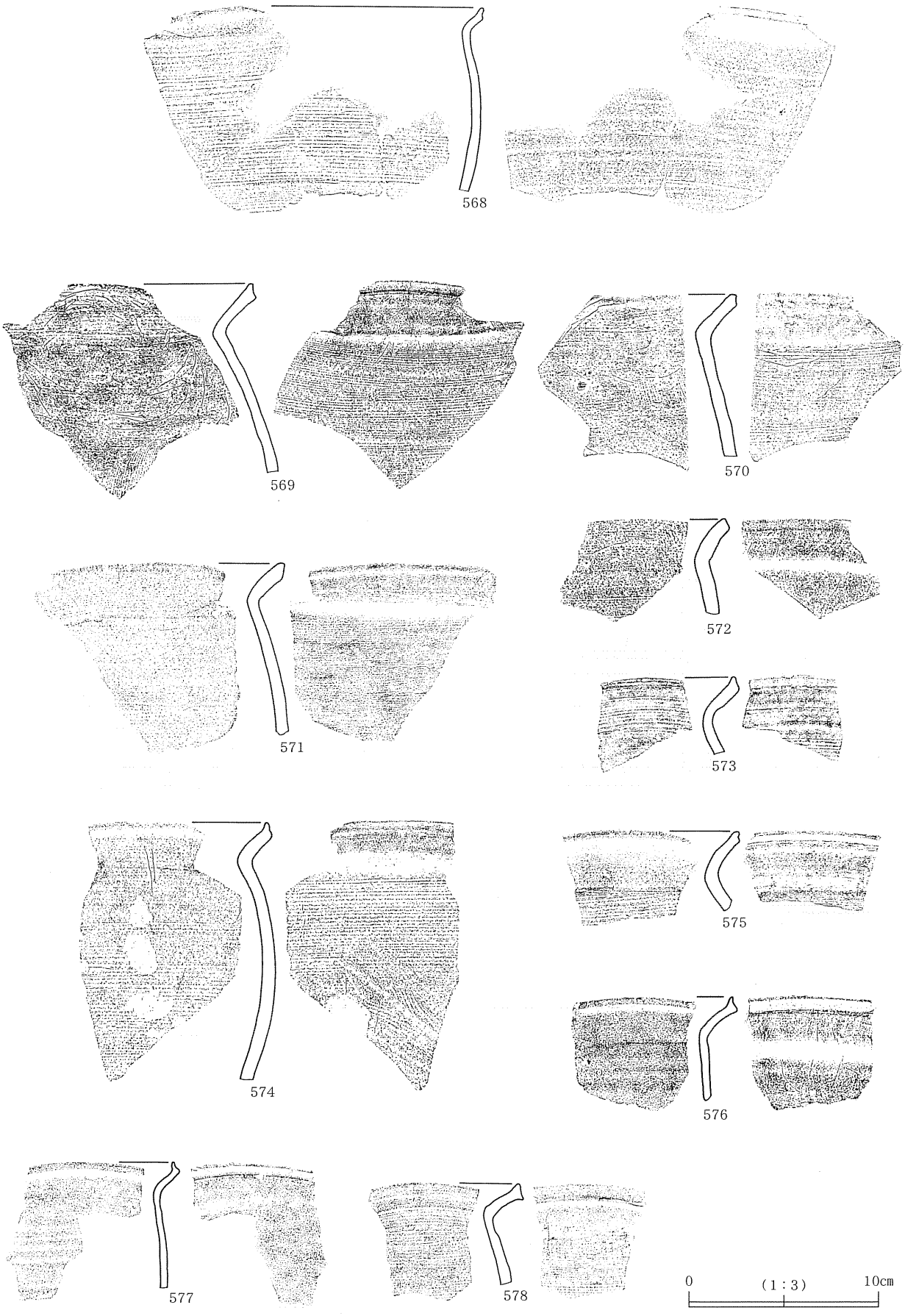

第76図　SL17河川跡出土遺物（33）



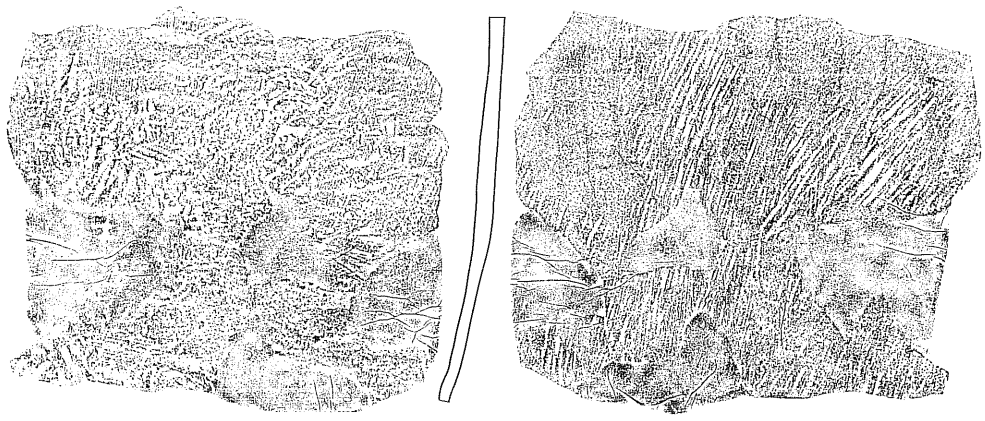

第77図　SL17河川跡出土遺物（34）



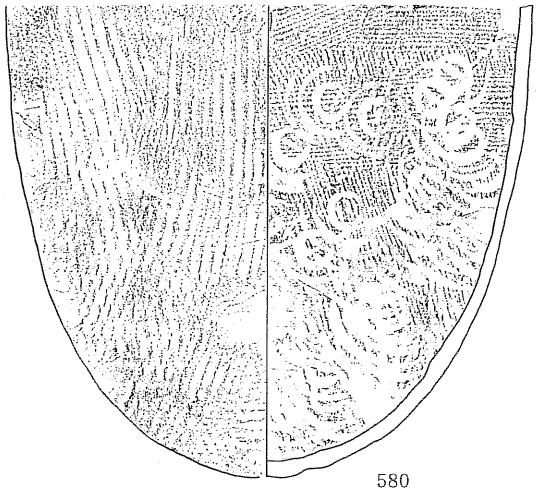

第78図　SL17河川跡出土遺物（35）




第79図　SL17河川跡出土遺物（36）

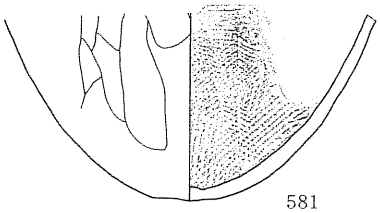


579

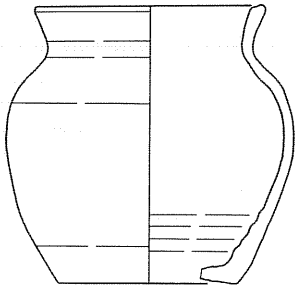


580

582

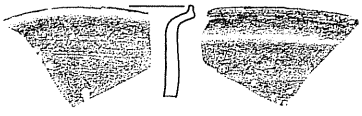


581



583

584

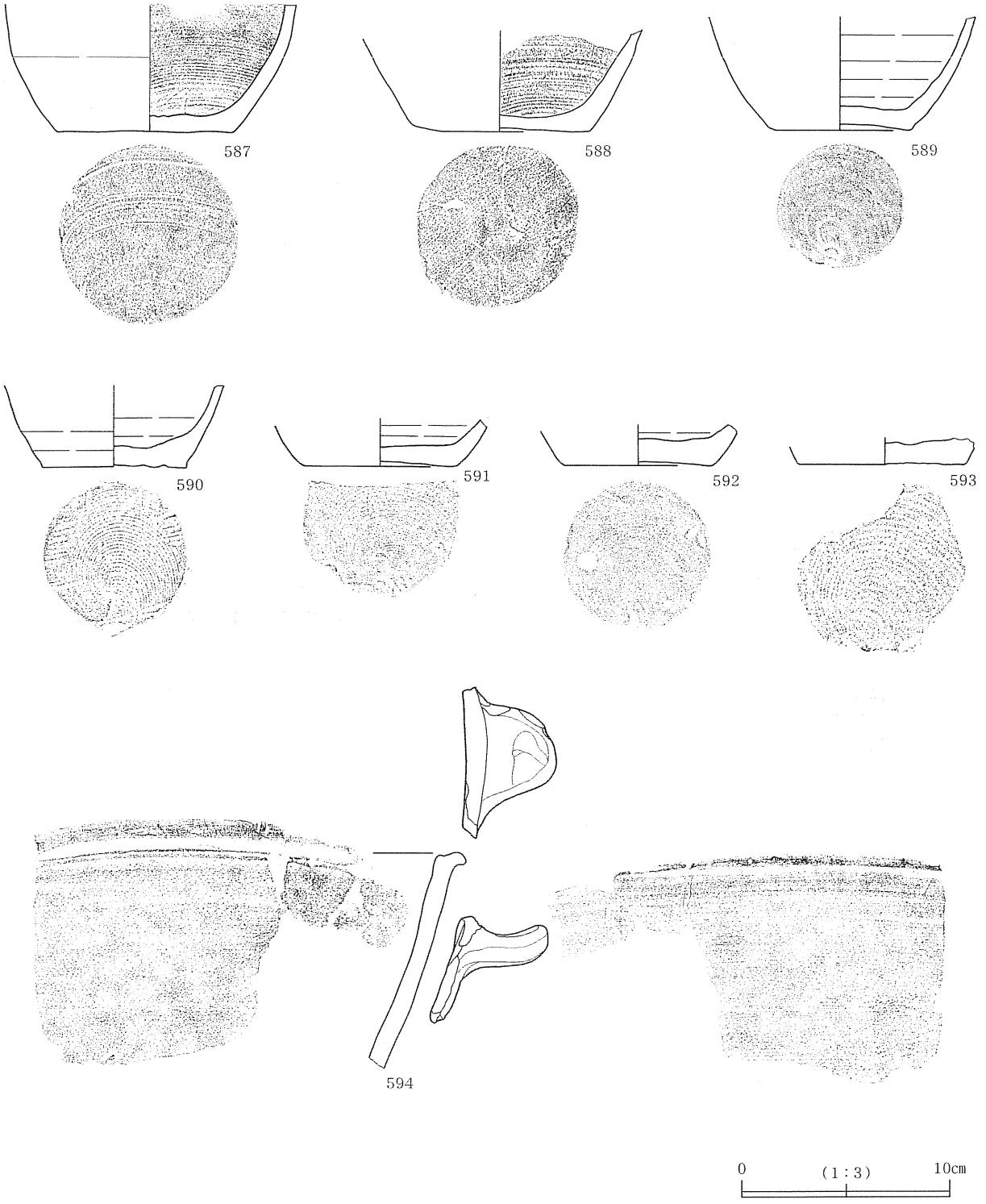


585

586

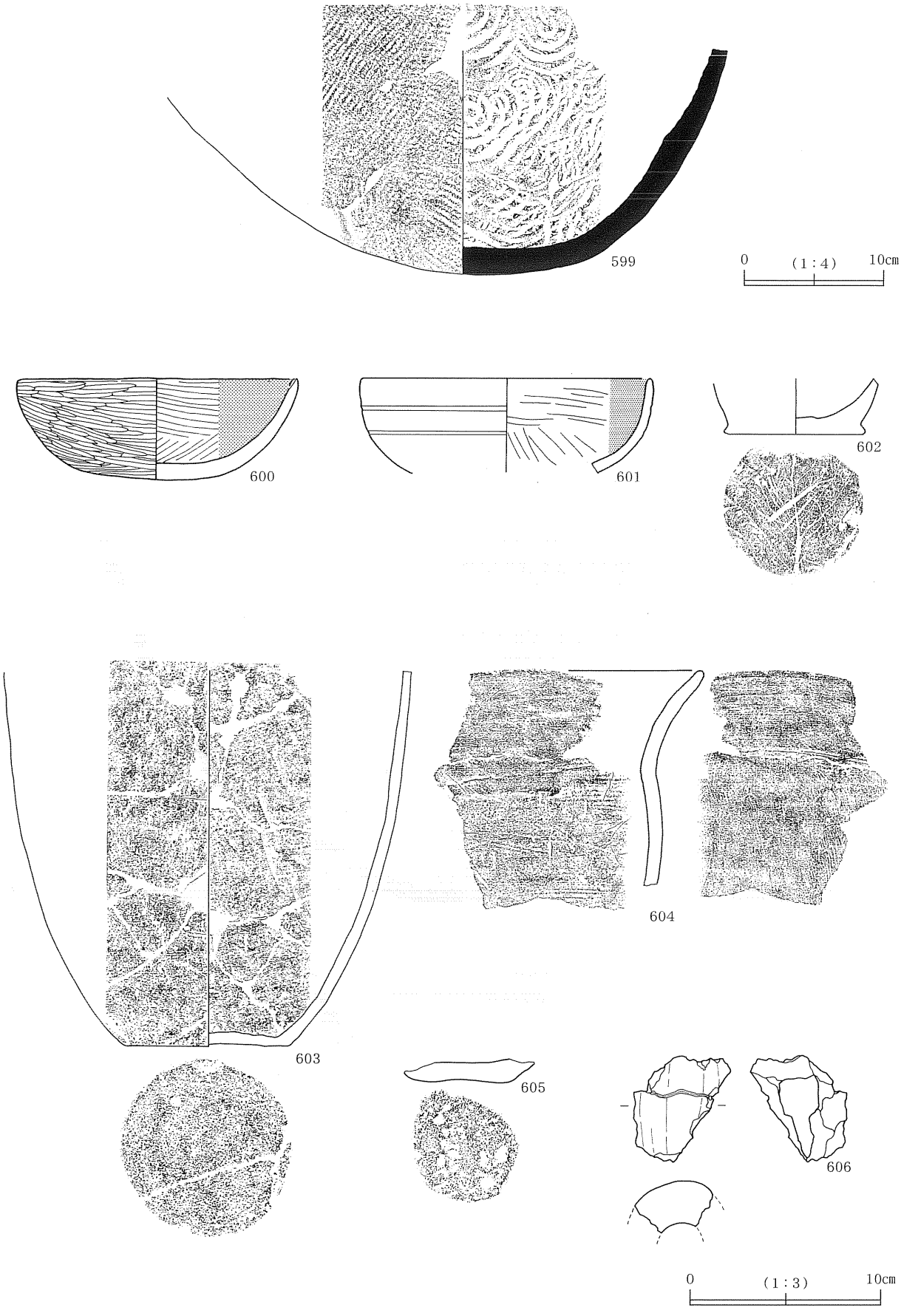
0　(1：3)　10cm

第80図　SL17河川跡出土遺物（37）




第81図　SL17河川跡出土遺物（38）

第82図　SL27河川跡出土遺物（１）




第83図　SL27河川跡出土遺物（２）

## ２　木製品

木製品とは、「人為的な加工の痕跡が観察できる木片(註１)」のことで、本遺跡出土の木製品は、工具、農具、紡織具、漁猟具、運搬具、武具、服飾具、容器、食事具、祭祀具、建築材、土木材など多種多様で、本遺跡を特徴づけるものである。これらは遺跡全体が低湿地で、しかもほとんどがＳＬ17・27河川跡から出土したことにより、保存状態もよい。この木製品の整理については、すべて洗浄後、分類可能のものとそうでないものに分け、可能なものは下記の表のように分類した。その総数は、1770点を数える。本項では木製品について、遺構内・遺構外に分別しないで一括して取り扱うことにした。

出土木製品の分類は、奈良国立文化財研究所『木器集成図録―近畿古代篇―』を基本とし、一部、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所『瀬名遺跡Ⅲ―静清バイパス（瀬名地区）埋蔵文化財調査報告書３―（遺物編Ⅰ）』の「木製品の分類」と佐助ヶ谷遺跡発掘調査団（編）『佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）発掘調査報告書』の「佐助ヶ谷遺跡木製品分類表」を参考にした。

| 挿　図 | 大　項　目 | 小　項　目 |
|---|---|---|
| 第84・85図 | 工具 | 楔（607～613）、漆刷毛（614～617）、箆（618・619）、箆状木製品（620～626）、木釘（627～629）、木針（630～637） |
| 第86・87図 | 農具 | 鋤（638）、田下駄（639）、木錘（640） |
| 第87図 | 紡織具 | 糸巻（641～643） |
| 第87図 | 漁猟具 | 浮子（644） |
| 第86～89図 | 運搬具 | 櫂（645～647）、鐙（648・649）、荷札状木製品（650～666） |
| 第89・90図 | 武具 | 丸木弓（667）、刀鞘（668～673） |
| 第90・91図 | 服飾具 | 櫛（674）、下駄（675～679） |
| 第91～101図 | 容器 | 挽物（680～683）、刳物（684～691）、円形曲物（692～745）、曲物柄杓（746）、折敷（747～755）、把手（756～759）、蓋（760～768）、箱（769～772） |
| 第102・103図 | 食事具 | 箸（773～816） |
| 第103～107図 | 祭祀具 | 斎串（817～853）、形代［人形（854）、馬形（855～859）、鳥形（860～862）、刀形（863～880）、刀子形（881～883）、鏃形（884・885）、不明形代（886～897）］ |
| 第108～116図 | 建築材 | 柱状材（898～924）、板状材（925～960）、橋脚（961） |
| 第117～120図 | 土木材 | 杭（962～998）、矢板（999～1005） |
| 第120～130図 | 用途不明木製品 | 串（1006～1087）、その他（1088～1160） |

### （１）工具

工具としたものには楔、漆刷毛、箆、箆状木製品、木釘、木針である。

**①楔**（第84図607～613、図版12）

丸木の原木を割り裂いたり、器物などにはめる箍などを強固にしめつけたりするときに用いる。15

点出土し、７点図示した。607～611は長方形の木片の一端を片面から削って片刃状に加工している。612は角棒状の一端を４面から尖らせ、613は薄板の一端を片面から削って片刃状にしている。いずれも刃にあたる部分や頭頂部分には顕著な使用痕跡はない。

**②漆刷毛**（第84図614～617、図版12）

４点出土した。４点とも先端に漆が付着していたので漆塗りに使用した漆刷毛とした。614～616は扁平な板状の柄元に割目を入れて毛をはさんだ平刷毛である。617は棒の先端に割目を入れ毛をはさんだ丸刷毛である。614は握りを細くし柄元を幅広にした扁平な柄をつくり、柄元に木口面の長辺と平行する割目を入れる。そこに毛をはさみ糸を巻いて留める。柄元の先端に漆が付着し、毛が一部遺存する。615は握りが丸くできていて他は614とほぼ同様である。616は柄元の一面にしか毛が残っていないことから、柄元から割り裂いて同形品を２枚作り、その間に毛をはさみ紐などで巻いて留めたらしい。柄元の両側にＶ字状の切り欠きを入れる。617は棒状に削られた柄元に割目を入れて毛をはさんだものである。先端にわずかながら毛が残っている。

**③箆**（第84図618・619、図版12）

２点出土した。身と柄からなり、先端に両刃あるいは片刃状の刃をつけたものを工具の箆とした。618は薄板片を撥形に整形し幅広の先端に両刃状の刃をつける。619は扁平の身と柄からなり、先端は両刃状に尖り、漆状のものが付着する。漆塗り用の箆の可能性がある。

**④箆状木製品**（第85図620～626）

箆より大型で、身と柄からなる匙状を呈するが大型で食事用には適さないものを工具の箆状木製品とした。11点出土し、７点図示した。620～624は身の部分が狭いタイプで、625・626は広いタイプである。620の先端は斜めに磨滅している。624の頭頂部は面取りされている。

**⑤木釘**（第85図627～629、図版12）

割材を整形して釘状の形をしたものをこの部類にいれた。627は軸を丸棒状につくり、頭と軸との間に段を設ける。先端は欠損する。628は軸は角棒状で扁平な頭がつく。先端は欠損している。629は先細りの軸をもち、頭との間にくびれをもつ。留針の可能性もある。

**⑥木針**（第85図630～637、図版12）

薦編みや藁仕事などに用いられるもので、９点出土して８点図示した。丸棒状のもの（630～632）と扁平なもの（633～637）との区別がある。630と631は完形で、それぞれ円形と圭頭状の頭部に逆三角形の針耳をあける。632は先端が欠損していて、633は先端の断面は丸いのに対して針耳のある断面は扁平である。扁平なものは、先端あるいは頭部が欠損している。634は全体に反りが見られる。

**（２）農具**

農具としたものには、耕具としての鋤・田下駄、加工具としての木錘がある。

**①鋤**（第86図638、図版12）

鋤は１点出土した。ＳＢ41掘立柱建物跡の西側、ＳＬ17河川跡の上位で板材とともに出土した。カエデの一木で身と柄を作る一木鋤で、三角形に近い形の把手の片方が欠損している。身の着装部の縁は片面から斜めに削り込んで刃先状に整え、鉄の鋤先をつけたことを示す。身の後面は平坦だが、前面は先端に向けてうすく削り込む。柄は身から水平にのび、握りの断面は方形から丸棒状に細くなる。把手は三角形状に作る。

**②田下駄**（第87図639、図版12）

田下駄は１点出土した。田下駄とは水田で農作業時に履く下駄である。機能的に稲刈りなどの時に湿田にはまり込まないために履く田下駄と、代踏みに使用する田下駄（一般に「大足」）に大別できるが、本遺跡の田下駄は前者にあたる。大きさは縦31cm、横は左側が欠損しているが約30cm前後を計ると予想され、隅丸方形状を呈する。スギの一木を削り出して作られていて、特に表は足の左右側縁をU字型に囲うように約５cm程の高さに削り出されている。この足囲いの両側には孔が穿たれていてこれに縄を通し緊縛する。両孔の上面側縁部分には緊縛痕が残る。裏は半球形の歯が４つある。上面の足裏による磨滅痕を観察すれば左足に履いたと予想され、裏面の前後はかなり磨滅している。なおこのような田下駄は本県では男鹿市小谷地遺跡に出土例があり、本遺跡が２例目にあたる。

**③木錘**（第86図640、図版12）

木材片を利用して錘にしたもので、１点出土した。蓆編みなどに用いられるもので、材の中央を細くして紐を結び横向きに垂れ下がるようにする。角材の中央の角３面に削りをいれて細くしている。また両側も同じような削りを入れている。

**（３）紡織具**

紡織具に分類できたのは糸巻である。

**①糸巻**（第87図641～643、図版12）

糸巻は糸を巻き取る道具で、その構造は数本の枠木とそれを固定する横木、横木の心を通す軸棒からなる。本遺跡からは糸巻の枠木が３点出土した。641と642はＡⅢ型式[註2]で、背面は丸形でいずれも長さが32cm以上あり大型に属する。横木を結合するほぞ孔は四角にあける。643はＡⅡ型式[註3]に属するが両端の削り込みは少ない。ほぞ孔は背面を貫通している。長さが32cm以上あり大型に属する。

**（４）漁猟具**

漁猟具としたものは浮子１点である。

**①浮子**（第87図644、図版12）

棒状の一端を一段細長くし、反対は尖らせる。現在の釣用の浮子の形状に類似するのでこれにあてた。

**（５）運搬具**

運搬具として、櫂、鐙、荷札状木製品がある。なお櫂は漁猟具、鐙は馬具に分類すべきかもしれないが、大きくとらえて運搬具とした。

**①櫂**（第86図645・646、第87図647、図版12）

柄と水かきからなる櫂を想定しうるものが３点出土した。645は残存長164cmのほぼ完形に近い櫂である。柄の先端部分と水かきの両側がわずかに欠損する。柄の先端は三角形状に加工されていて、握りは丸く面取りされている。水かきの先端は円形に薄く加工される。646は柄の大部分が欠損しているもので、水かきは一面は平坦であるが反対は丸みをもち、先端部はうすく削り込む。647は先端部分を片面から削り込んだ幅12cmの水かきをもち、ほぼ中央には丸い孔が２つ並ぶ。柄の先端部分は欠損する。

**②鐙**（第88図648・649、図版12）

壺鐙が２点出土した。馬具の鐙の一種で、騎乗する者が足を踏みかけ挿入する道具である。648は

ケンポナシを刳って整形されたものである。壺部は下部が欠損していて、壺部内部は三角錐状に刳り抜かれており残存する奥行きは４cmで、形状を観察するかぎりそれほど深くはない。絞具頭（軸部）の上部は欠損している。649はトチノキをつかって、648より小ぶりにつくられている。やはり壺部の下部と絞具頭の大半を欠損している。壺部外面はきれいな球状を呈し、内面は台形状に刳り抜かれている。

**③荷札状木製品**（第88図650～664、第89図665・666、図版12）

上部の両側面をＶ字状に切り欠いて紐などを括り付ける形状をしたものを荷札状木製品とした。全長は欠損しているものもあるが、ほぼ12cm前後で、切り欠く位置はほぼ2.4cm前後である。上端が丸形のもの（650～652）と平坦のもの（653～657）がある。下端はほとんどが直線的に切られている。658～661は一部欠損しているものの上端の平坦なものに分けられる。ただ659の下端は尖っているので刺して使われたものか。662～664は未完成のものか。665・666は大型で切り欠きの手法も異なる。いずれのものにも墨書等の文字は確認できなかった。文字がなければ荷札と判断できないかもしれないが、使用前のもの、あるいは使用した文字を削り落とした可能性もある。一方上端が丸形のものから推移すれば人形祭祀具の可能性も考えられる。また666は両側の削りかけをみれば斎串の可能性もある。

**（６）武具**

武具に分類したのは、丸木弓と刀鞘がある。

**①丸木弓**（第90図667、図版13）

１点出土した。両端に弭をとどめるので丸木弓にした。丸木の灌木を用い、先端の両側から削り込んでほぞ状の弭を作り出す。弭付近のほかは、樹皮を取り去る程度の整形にとどまる。一端が炭化している。

**②刀鞘**（第89図668～673、図版13）

刀鞘が６点出土した。鞘は、１本の木を柄状に削り込んだのちにこれを縦に割り、刀身に合わせて刳り込み、これを再び合わせて使用する。二枚合わせの二枚とも出土したのは668と673で、あとは片方だけである。668は非常に丁寧な作りで、鞘口を一段高くし中心よりやや鞘口寄りに合わせるための幅７mmの浅い溝を作り、先端は円形に削り込まれる。内側は刀身に合わせて両側が刳り抜かれている。669・671は鞘口近くに合わせるための幅６mmの浅い溝を作り、中ほどには幅１cmの紐状のもので二枚を結わえ接着剤（漆？）を塗布した痕跡を残す。669は先端は欠損し、内側は刳り抜かれていないが片側に668同様の低い段があったと推測される。671の内側は刀身に合わせて刳り抜かれている。670は鞘口部分に段を持つ形態で、四角の目釘穴を有する。内側は刀身に合わせて刳り抜かれている。672は二枚を合わせるための紐の痕跡、目釘穴等は確認できない。内側は刀身に合わせて刳り抜かれている。673は二枚合わせの上から樺皮を巻いたものである。樺皮の幅は５mm前後で残存する部分で19回巻いている。673に樺皮が巻かれていることから、668・669・671の合わせるための紐状のものは樺皮と推測される。

**（７）服飾具**

服飾具としたものは櫛と下駄がある。

**①櫛**（第90図674、図版13）

櫛は１点出土した。イスノキの板材の一側縁から細い歯を挽き出し、表面を平滑に研ぎあげた横櫛で、黒漆が塗られている。形は長方形で、肩部に丸みをもたすＡⅡ形式[註4]にあたり、歯は３cmあたり27本を挽き出している。

**②下駄**（第90図675～677、第91図678・679、図版13）

下駄は５点出土した。いずれも台と歯とを一木から作る連歯下駄である。平面形は長方形ないしは隅丸長方形で、前後の歯を台の両端によせ前壺が前歯の後にあく。また前壺は左右いずれかの一方によせ、後壺を後歯の前にあけたものである（ＢＩａ形式[註5]）。675は子供の左足用の下駄である。ただし台の上面の使用に際しての足裏による磨滅痕がないこと、両歯ともそれほど使いこんだ痕がないことから形代の可能性もある。676と677は、それぞれ右足用と左足用で、台の上面に足裏による磨滅痕が残っている。676の後歯はかなり使いこんで磨滅している。678と679は４つ歯の形態をとる。678は左足用で前壺は前歯の内側にあける。長さは20cmと小型である。679は前後の歯が両端からはじまり、歯の向かい合った内側面は斜め台形状に掘り込む。全長が27cmと大きく、前後壺も径２cmを越えその間隔18cmと幅がある。

**（８）容器**

容器は、製作技法の違いによって挽物・刳物・曲物に区分した。また容器類の付属品、あるいは付属部材に想定しうる把手・蓋・箱もここに含めた。

**①挽物**（第91図680～683、図版13）

挽物とは木材を刳っておよその形を整え、ロクロを使用して整形した容器で、皿が３点、高台付皿が１点出土した。680・681は口径がほぼ20cm前後で平坦な底部に低い口縁部がつく。682は小ぶりでやや深くなる。内外面とも細かな刃痕を残す。683は底部に内側が斜めになる台形状の高台を挽き出す。底部高台内側部分は底部より薄く挽き出している。体部外面には不明文字の焼印が認められる。以上４点とも全体に黒漆をかけていたと推測される。

**②刳物**（第92図684～689、第93図687～691、図版13）

刳物とは工具を用いて材を刳り抜いて作る容器である。盤が４点（684～687）、槽が４点（688～691）出土した。684は腐蝕が進行して残りがよくない。平面形が長方形でその半分が欠損したと推定される。短側面の断面は逆台形状に刳り込まれ、荒い刃痕を残す。685は平面形は長方形で、内面を楕円形の皿状に浅く刳り込む。外面底部には深い刃痕を数条残す。686は平面形が長方形の一短辺の角を丸く落とした形で、丸い部分の先端は斜めに面取りされる。反対の辺の外面底部は両側面が斜めに削り込まれ断面形は逆台形を呈する。内面は、平底で４面とも斜めに立ち上がる。外面底部に刃痕が認められる。687は大半が欠損するが686と同じ形態を呈すると推測される。688は平面形が台形状で、内側の刳り込みは雑である。689は直径35cm程の一木を刳り抜いて作られたものであるが、心材が残ること、腐蝕が進行して残りがよくないことより現状からはどんな原木でどんな刳り込みを施したのかを復元することは難しい。残存する部分を観察すると、内面の刳り込みは年輪に沿うように曲面を描き、木口と平行の内側は垂直と斜めである。なお内面全面に焼け焦げの跡が残る。690は、当初全体の形態と法量から田舟と考えていたが、細部観察により底部に運搬時の擦痕がないこと、押したり引いたりした時の痕跡がないことから容器の槽に分類した。直径50cm以上で長さ１m20cm程の一木を半分に割り、その内側を刳り抜いて作られている。平面形はほぼ長方形を呈するが、短辺の一方

はやや曲線状に反対は直線状に削られて、それぞれの上端は幅２～３cmほどの高さに縁取られている。長側面は逆台形の下辺が開く形で、短側面は半円形である。内側は外面と同様台形・半円形状に刳り込まれる。内側には無数の刃痕がみられ、また両口縁部の一部には焼け焦げた跡が残る。691は平面形は長方形で、長短の側面とも逆台形状を呈し、加工痕をよくとどめている。内側の刳り込みも両側面同様逆台形である。

**③円形曲物**（第94～99図、図版13・14）

曲物とは薄板を円筒形に曲げて、両端の重ね合わせ部分を樺皮紐で綴じ合わせて側板とし、これに蓋板ないし底板を接合した容器の総称である。本遺跡では曲物の蓋板・側板・底板がそれぞれ破損した状態で出土し、蓋まで揃った完形品は２点にとどまる。それぞれの部分を観察する限り、側板・底板については大小の違いはあるものの構造的な違いはなかったが、蓋板に関しては大きな違いがあったので２つに分類した。

蓋板（第94図692～699）、11点出土し、８点図示した。

蓋板Ａ類　蓋板の周縁に低い段をめぐらすタイプで、側板との結合のしかたで２つに細分される。

Ａ1：木釘のみで側板と結合する（692・693・696・697）。

Ａ2：樺皮のみで側板と結合する（694・695）（樺皮結合曲物Ａ[註6]）。

蓋板Ｂ類　蓋板の周縁に低い段をめぐらさないタイプで、側板との結合のしかたで２つに細分される。

Ｂ1：木釘と樺皮で側板と結合する（698）。

Ｂ2：樺皮のみで側板と結合する（699）（樺皮結合曲物Ｂ[註7]）。

蓋身・側板（第95・96図700～714）

700・701は蓋・身とも揃った釘結合曲物である。蓋はいずれも、側板の綴合せは１個所で、１列内１段綴じである。結合木釘は４個所で不均等に配する。蓋板内側には綴合せ位置をきめた刻線がある。700の身は、側板の綴合せは外側端が欠損していてはっきりしないが、１個所で１列内３段綴じと考えられ、内面に縦平行線のケビキを施す。底板の結合木釘は１個所は確認できる。蓋板同様、内側には刻線がある。701の身は、側板の綴合せは１個所で、１列外３段綴じで、内面の先端部にだけ縦平行線のケビキを施す。底板の結合木釘は５個所で不均等に配し、内側には刻線がある。また700の身と蓋の側板、701の蓋の側板に「太」の焼印を施す。なおこの２点はＳＬ17河川跡から並んで出土したもので、法量・製作法も類似する。702・703は釘結合曲物である。702は、側板の綴合せは２個所で、１列上外下内３段と１列上外下内４段綴じである。内面の綴じ部分のみ縦平行線のケビキを施す。底板との結合木釘は７個所で不均等に配する。底板内側には綴合せ位置をきめた刻線があり、外側には焼け焦げ跡と刃痕が残る。703は、側板の綴合せは２個所で、１列内１段と１列上外下内６段綴じである。内面の全面に斜格子のケビキを施す。底板との結合木釘は４個所で不均等に配する。底板内側には綴合せ位置をきめた刻線がある。704は側板の下部にもう１重の箍をはめた釘結合曲物である。箍の綴合せは１個所で、１列上外下内２段綴じである。側板の綴合せは２個所で、１列内２段と１列で上部が欠損して不明であるが下外３段は残る。内面の前面に縦平行線のケビキを施す。結合孔は４個所で箍のうえからあけ、内側には刻線がある。705は側板のみで、綴合せは２個所、上部が欠損していて１列下内３段と１列下外２段が残る。内面の全面に斜格子のケビキを施す。３個所の結合孔が

確認できる。706は箍である。幅2.6cmの薄板を２重に回し、綴じ部分は３重になる。綴合せは綴じ部分が２個所で、そのほか対面上２個所の計４個所となる。綴じ部分は１列内１段と１列外３段で外側２枚を綴じる。対面上２個所は１列内１段である。内面の一部に縦平行線のケビキと斜めの１本が入る。結合孔は確認できない。707・708は側板の部分である。707の綴合せは２個所で、残っている部分で１列内１段と１列上外３段確認でき、内面に縦平行線のケビキがわずかにはいる。708は１個所の綴合せで、１列下内２段確認できる。木釘孔がそれぞれ１・２個所ある。709～712も側板の部分である。709は３個所の綴じがあり、内面に一部斜平行線のケビキを施す。710は側板と箍の結合部分である。箍は２個所綴じで１列内１段と１列外２段で、側板と樺皮紐で結合される。側板の内面には縦平行線と一部斜平行線のケビキが入り、箍のうえから結合孔が１個所穿たれる。712には樺皮紐１個所、結合孔１個所があり、713と同様内面に縦平行線のケビキが引かれる。713・714は箍である。樺皮紐・木釘・木釘孔がある。

底板（第96～99図715～745）、52点出土し、31点図示した。

52点の底板の径を比較すると、Ａ（35cm前後）、Ｂ（25cm前後）、Ｃ（18cm前後）、Ｄ（12cm前後）、Ｅ（10cm以下）の５つに分けられる。その内訳は、Ａ：２点（3.9％）、Ｂ：５点（9.6％）、Ｃ：28点（53.8％）、Ｄ：16点（30.7％）、Ｅ：１点（2.0％）となり、18cm前後のものが半数以上を占める。また細部を観察すると、深い刃痕が残るもの（716）、細かい刃痕が無数に残るもの（724・732・745）、焼け焦げがあるもの（718・745）などがある。特に745はまな板に転用されたものである。また円板が完形のものは16点で、木釘孔の数は３個所２点、４個所10点、５個所３点、７個所１点で、側板と４個所で結合するのが多いことがわかる。

**④曲物柄杓**（第99図746）

円形曲物を身にして棒状の柄を取り付けたもので、側板部分が１点出土した。２個所綴じのすぐ横に円形の柄孔をあける。

**⑤折敷**（第99・100図747～755、図版14）

折敷の側板、底板が12点出土し、９点図示した。747～750は側板で、樺皮紐、結合孔、縦平行線のケビキなどが認められる。751～755は底板で、751・755は楕円形曲物、753は長方形曲物と考えられる。754は無数の刃痕があり、まな板に転用されたものである。

**⑥把手**（第100図756～759、図版14）

容器類の把手に想定できるもので、４点出土した。両端にほぞ孔をあけたもの（756）、両端をカギ状にしたもの（757）、両端を出ほぞ風に細めたもの（758・759）がある。

**⑦蓋板**（第101図760～768、図版14）

土器類などの容器の蓋として使用されたと想定されるもので、出土した９点は曲物の底板を転用したものとやや厚みのある円板状のものとがある。760～764は円板の中央に孔をあけ、紐ないし棒材を固定して把手をつけたと考えられる。765～768は断面形が台形に整形されている。767・768は周縁に樺皮を巻き木釘で留めている。

**⑧箱**（第101図769～772）

板材を方形に組み合わせて、木釘等で結合、固定したもので、４点出土した。769・772は板材の短辺に木釘孔があり、長辺木口面にも底板と結合するための木釘孔がある。770は板材短辺をＬ字形に

切り欠きを入れてほぞを作り、釘孔をあける。長辺上辺には斜めの切り欠きを入れ木釘孔をあける。771は板材の両短辺対角にＬ字形に切り欠きを入れてほぞをつくり、木釘孔をあける。木口面にも木釘孔がある。

**（９）食事具**

食事具は箸がある。

**①箸**（第102図773～801、第103図802～816）

一次分類での総数は724本で、そのうち完形品は84本（11％）にすぎなかった。長さは、16～42cmと幅があり、数量的には26cm前後が一番多い。幅は、0.3～1.0cmである。全般的にそれほど丁寧な加工ではなく、断面形は丸棒状・角棒状を呈する。頭部は平坦なもの・三角形状のもの・面取りするもの、先端は細く尖るもの・丸くなるものなど様々な形態を有する。また分類上箸に含めたが、斎串や串に分類可能なものもある。

**(10) 祭祀具**

祭祀具は、斎串と人、馬・鳥などの動物、刀などの器財などを象った形代で、86点出土している。これらは奈良時代から平安時代にかけてのいわゆる「律令制祭祀」の祭料と考えられる遺物で、中谷地遺跡の性格を位置づける資料である。

**①斎串**（第103～105図817～853、図版14）

斎串とは、祭祀具の中の一つで、細長い薄板の上端を圭頭状に、あるいは両端を小さく斜めに、あるいは片側から斜めに切り落とし、下端を尖らせた串状の木製品である。薄板を使うのが一般的であるが、角棒を使う場合もある。側面には切り込み（削りかけ）などが施される。その用途については本来的な性格として「神を請い降ろす神の招代、すなわち神の依るという『神聖な木』」としての役割があり、具体的な用途としては「他地と聖域と区別するしるし」や「『斎串』を立てて神への献げ物として」の「しるし」が考えられている[註8]。これらの用途を念頭に置きながら、奈良国立文化財研究所『木器集成図録―近畿古代篇―』や黒崎直氏『斎串考』[註8]の分類を援用し、分類をおこなった。なお斎串に分類した点数は54点で、37点図示した。

Ａ類：上端が圭頭状で、下端は両側から鋭く尖らすもので、切り込みの入り方で３つに細分した。

Ａ1：上端から側面に沿って縦に切り込みを入れるもの（第103図817～821）。817は棒状で短く、818は細長い。819～821は薄い板状である。

Ａ2：上端から板目方向に縦に切り込みを入れるもの（第103図822）。下端は細くなり、上端圭頭部分に２ヶ所の切り込みを入れる。

Ａ3：切り込みを入れないもの（第103図823）。やや棒状に近く、全体的に荒い削りをしていて下端は深い角度で尖らす。裏面には２ヶ所の削りかけが入る。

Ｂ類：薄板の上端が平坦で、下端は両端から鋭く尖らす。すべて上端木口から縦に切り込みを入れるもので、側面に切り込みの有無で２分した。

Ｂ1：上端部両側側面にＶ字状の切り込みを入れる（第103図824・825）。やや幅広の形態で、ほぼ中央に上端部からの切り込みが入る。

Ｂ2：切り込みを入れないもの（第104図826～830）。828・830は上端が欠損しているが板幅からＢ2にした。いずれも下端を鋭く尖らせる。826は２ヶ所の切り込み、ほかは中央に１ヶ所の切り

込みが入る。また829は一側面に削りかけが入る。

Ｃ類：上端が圭頭状で、下端は両側から鋭く尖らす。途中にくびれをもち、くびれ部分に削りかけを入れる（第104図831～838）。完形品はないが、832と837を結合したのがおおよその形になると想定される。なお836は側面に沿って縦に切り込みが入る。

Ｄ類：上端の側面が圭頭状で、下端を尖らす（第104図839～841）。いずれも断面形が四角で、上端を側面が圭頭状になるように削り、839は下端を鋭く尖らす。

Ｅ類：上端を斜めに切り落とし、側面を三角形状にしたもので、切り込みを入れるものと入れないものがある。

Ｅ1：上端木口から切り込みを入れるもの（第104図842）。

Ｅ2：切り込みを入れないもの（第104図843）。

Ｆ類：下端を圭頭状に尖らすもので、側面に削りかけを入れるものと入れないものに２分した。

Ｆ1：側面に削りかけを入れるもの（第104図844）。非常に薄い板で下端はあまり山の高くない圭頭形である。一側面のみに切り込みが入る。

Ｆ2：削りかけを入れないもの（第105図845～849）。846・847は薄い板で、848・849はやや厚めの板である。また845・846・848・849はあまり鋭くない圭頭形で、847は鋭く尖らす。

Ｇ類：Ａ～Ｆの分類に入らないもの（第105図850～853）。850は一側面が波形で、851は一側面に波形があり、その下は細くなりながら圭頭状に尖る。850と同じ形態か。852は両側面にＶ字状の切り欠きが入り、その下が尖ってくる。853は途中で段がついて細くなり、両側面の所々に切り込みを入れる。

**②形代**

形代とは実際の人間や動物あるいは器物等を模したものであり、祭祀の場においてその都度用いられたものと考えられている。本遺跡からは、人形、馬形、鳥形、刀形、刀子形、鏃形等の形代を出土している。人形は一撫一吻し、川や溝に流すことにより罪穢や悪気を祓い流すものであり、馬形や鳥形は穢を負わせた人形を他界へと運び、刀形や鏃形は武器として災いや鬼を追い払う役割を果たしたと考えられている。したがって前掲の斎串と合わせてこれらの遺物の大半が河川跡から出土しているので、この場で祭祀が行われ川に投げ込まれたものであろうと推測される。

ａ：人形（第105図854、図版14）

人形は１点出土した。薄板状のもので左側頭部の一部、両手、左足が欠損している。刃物による浅い線刻で、眉・目・口を表現する。

ｂ：馬形（第105図855～859、図版15）

５点出土した。いずれも一枚の板材から馬の側面形をかなりデフォルメした形で頭・胴・尾を表す。なおすべて鞍を乗せない裸馬の形態である。855は鬣を切り込みによって表現し、両耳も切り込みによって表現している。856も855と同じ形態であるが口の部分が欠損している。857と858は頭部が尖るタイプで、鬣は表現されている。859は両側が欠損している。なお855・857・858の腹部側面に小孔があり、ここに細棒を刺して祭祀時に地上に挿し立てたものと考えられる。(註9) 立てるときのバランスを考慮すると馬形のほぼ中央に棒を刺すので、855は後部が欠損していることになる。

ｃ：鳥形（第106図860～862、図版15）

３点出土した。いずれも一枚の板材から鳥の側面形をデフォルメして表現したものである。860は形態的には前掲の馬形と類似するが、頭部が尖ること、馬形のように足が２対にならないことから鳥の飛翔する姿と推測される。腹部側面に小孔がある。

ｄ：刀形（第106・107図863～880、図版15）

刀形は18点出土し、その形態により３つに分類した。

Ａ類：刀身と柄と鍔をリアルに表現したもの（863・864）で、863は刀身に鍔がはめ込まれたもので、柄頭は圭頭式で両側が四角く刳り抜かれ懸緒孔がある。刀身は先端が欠損する。864は鍔のみで863のように柄にはめ込まれていたと考えられる。両長辺の一端にＶ字状の切り欠きがある。

Ｂ類：棒状で刀身と柄を表現したもの（865・866）で、刀身の大部分を欠損する。いずれも円頭式の柄頭をもつ。

Ｃ類：板状で刀身と柄を表現したもの（867～880）である。867はほぼ完形の刀形である。刀身と柄をはっきり区別し、鍔はつけない。柄元の幅を広くし柄間の内側に孤型の刳り込みを入れ、頭椎風の柄頭をつくるが、柄頭の外側は欠損する。刀身は切先から切刃造りである。868～871・873は867と類似する。872・874は柄頭を円頭形に、875は頭椎形にあらわす。869・876・877・878・879は切刃造りの刀身をもつ。880は両刃状の刀身である。

ｅ：刀子形（第107図881～883、図版15）

３点出土した。刀形と比較し小型のものを刀子形とした。881は枝状のイヌガヤの約半分を刀身にあて、柄の部分は樹皮をとりさる程度の整形にとどまる。柄との間には段をつけ身と柄を明瞭に区別している。882は本遺跡出土の刀子の形に近く、実用の鉄刀子をかなり忠実に模している。883は刀身のみで、漆が付着している。

ｆ：鏃形（第107図884・885、図版15）

２点出土した。884は棒状で、頭部を有頭状に削り出している。断面は円形を呈する。885は薄板状で三角形の頭部と先細りの茎部をもつ。

ｇ：不明形代（第107図886～897、図版15）

比較的薄い板を使用し、何かを形どっているものを形代として集めた。これらは、それ自体が何らかの製品あるいは製品の部材として使用される可能性は低い形と考えられる。

886は法具の錫杖形を呈する。887・888は板状で先端が尖る。889・890はイヌガヤの枝の張り出しを利用して整形されたもので、889は衣笠に似る。傘の張り出す部分まで丁寧な削りが施され、下端は丸く尖る。枝は４本張り出す。890は樹皮をとりさる程度の整形にとどまり、６本張り出した枝は被熱で炭化している。891・892は楕円形と三角形をかたどり、893は非常に薄い板の上辺を波状に切り欠く。894～897は一端あるいは両端を細く削り込んでいて動物の形代をイメージする。

**（９）建築部材**

ＳＬ17・27河川跡からは建物の建築部材として使用されていたと考えられる柱状材、板状材などが出土した。これらの建築部材は河川跡全体から出土するのではなく、所々にまとまって出土することから建物ごとで近い場所への廃棄が考えられる。

**①柱状材**（第108～111図898～924、図版16）

断面が長方形で板材より厚みのあるものを柱状材とした。確認された掘立柱建物跡の柱の遺材は円柱であるので建物の柱とは異なる。細部の加工法の違いにより４つに細分した。

Ａ：厚みのあまりない板材状のもの（898～902）。幅10～20cm、厚さ３～６cm程で、先端を三角形状に削り出すもの（898・902）、山形状に削り出すもの（899・901）、チョウナ痕が残るもの（900・902）などがある。

Ｂ：先端が剣先状に加工されたもの（903～913）。板材状のもの（903・909・910）、矢板状のもの（905）、角材状のもの（911～913）、チョウナ痕が残るもの（906・909）などがある。912はチョウナのようなものでの大きな切り込みが入っている。また906～909・911はＳＬ17河川跡に突き刺さった状態で出土したもの（第37図参照）で、堰材に転用されたと考えられる。(註10)

Ｃ：四角形孔があるもの（914～921）。孔のある柱状材は17点確認したが、ＳＬ27河川跡からは２点のみで他はすべてＳＬ17河川跡からの出土である。板材状のもの（914・920・921）、角材状のもの（917～919）、先端が尖るもの（921）などがある。四角形孔の法量は、914が９×38cm、916が３×５cmで、他はほぼ６×９cmと規格性がある。また孔が穿かれる個所は遺存する部分を観察するかぎりでは２個所までで、その間隔は22cm前後と33cm前後の２種類ある。この孔のある柱状材は柵柱と考えられる。(註11) また917～919・920は前述の906～909・911同様ＳＬ17河川跡にまとまって突き刺さった状態で出土したもので、堰材に転用されたと考えられる。(註12)

Ｄ：角材状のもの（922～924）。922は幅6.0×4.3cmの細い角材で、一面に幅12.5cm程の浅い溝状の削りを３個所入れる。924は254.9cmと長く全面が被熱で炭化している。本類の角材は最大でも幅が10cm前後と細く横架材の可能性もある。

**②板状材**（第112～116図925～960、図版16）

一次分類で209点の板状材を選別したが、その大部分が欠損・折損・腐蝕等で原形を留めるものは少なかった。925はほぼ原形を留め、371.0cmと最長の板材である。右側縁部に４個所、左側縁部に１個所の小孔があり、一番上と上から三番目と一番下が等間隔になる。この小孔あたりが屋根を載せる桁に当たる部分とすれば屋根板と考えることができる。(註13) 926は下端が腐蝕しており、この部分が壁より外にあり風化したものと考えれば屋根板の可能性がある。927・928は、長さ262×幅14×厚さ３cmとほぼ同一の法量をもつ板材で、このサイズが屋根板としての一規格と考えられる。そのほか長さをみれば193cmのものが３点あり、これも一規格と考えられる。また幅に関しては８cm・15cm・20cm前後とまとまる傾向がみられる。926・929・930・933～936・940・942・945は上端のほぼ中央にやや大きめの四角形状の穿孔が１個所ある。943・946には２個所の穿孔がある。932は無数の刃痕があり、部分的に被熱で炭化する。947～950は下端を斜めに切り落としたもの、951・952は側面が三角形状になるよう、954は山形状に削り出したもので杭などに転用したものと推測される。953は下端の中央のそれぞれ反対側から三角形状に削り出している。955・957～960は長方形に加工したものでやはり転用材である。

**③橋脚**（第116図961、図版16）

ＳＬ27河川跡最西端で検出された。ＳＬ27の確認面より若干下位で上端が検出され、垂直に地中に突き刺さっていた。長さは177.4cmあり、四面より鋭く先端を尖らす。チョウナ痕が明瞭に残っている。

### (10) 土木材

土木材として取り上げるのは、杭と矢板である。

**①杭**（第117～119図962～998、図版16）

幅が10cm未満で先端が尖るものを形態上から杭とした。したがって縦に地中に刺さった状態で出土したものと河川跡に廃棄されたものも杭に含めた。流路の岸に護岸の意味で打ち込んだものや堰材として使用されたと考えられる。中型のものとやや小型のものに大別される。

・中型のもの（962～984）で、角材状のもの、板状のもの、丸棒状のもの、丸太材（982）などがあり、先端の加工法は鉛筆状のもの、山形状のもの、三角形状のものなどがある。979はＳＬ27河川跡調査区西側部分に突き刺さっていたものである。

・小型のもの（985～998）で、Ａ：角棒状で先端が一方向から切断されるもの、Ｂ：角棒状で先端が剣先状に尖るもの、Ｃ：板状で先端が一方向から切断されたもの、Ｄ：板状で山形状に尖るもの、Ｅ：板状で側面が三角形状になるよう尖らせたものに細分した。

**②矢板**（第119・120図999～1005、図版16）

矢板は土砂の崩壊や水の進入を防ぐために打ち込む先端が三角状に尖る板状の杭で、中谷地遺跡では主にＳＡ57杭列から出土し、護岸の意味で打ち込んだものと推測される。形状は板状のもの（999・1000）、やや厚めのもの（1001・1002）があり、先端は山形状のものと一方向から切り落としたものとがある。

### (11) 用途不明木製品（第120～130図、図版17）

用途の特定できないもの、他の部材と組合わさって製品を構成すると思われるもの（建築材も含む）をここに集めた。１点しかみられない形状のものもあるが、同一形状で複数個体が出土したものもある。複数個体あるものはまとめて取り扱った。

・串状木製品（1006～1087）

中谷地遺跡からは杭よりは細く小型で先端が尖るものが多量に出土した。形状・形態により５つに細分した。

Ａ：最長でも20cm前後で、両端を尖らせるもの（1006～1017）、丸棒状で先端を鋭く斜めに切るもの（1006・1007）、一端を扁平に広く削り出したもの（1012・1013・1017）などがある。後者は篦として使用された可能性もある。

Ｂ：20～30cm前後で、一端あるいは両端を尖らせるもの（1018～1041）、箸状のもの（1020・1028～1030・1033）、小孔のあるもの（1025）などがある。1034～1040は上端は細く尖り胴部にやや膨らみをもちながら下端が急激に尖る形態である。部分的に炭化しているのが２点認められる。Ｂ類は箸、斎串の可能性も考えられる。

Ｃ：角棒状のもの（1042～1048）。

Ｄ：丸棒状のもので、細いもの（1049～1054）、中程度のもの（1055～1067）、太いもの（1068～1071）がある。

Ｅ：板状のもの（1073～1087）などがある。

・1088は５×2.5cmの橋状の木製品で中央に四角い孔が穿かれている。台座状のものか。

・1089は圭頭状の頭部をもち途中両側に肩状に広がりその幅のまま先端に至る。先端は片刃状に削り

込む。肩部分の中央に2.3×0.8cmの四角孔がある。篦の可能性もある。

・1090は頭部木口に十字の削り込みをもち、先端は針状に鋭く尖らす。全面に丁寧な削りを施す。

・1091は上部の断面形は三角形であるが先端部分は四角形にして尖らせる。1092は断面形が隅丸方形で丸くなる先端部を両面から細くしている。1093は断面形が扁平の六角形で丸味をもつ先端は細くなる。この３点は楔として使用された可能性もある。

・1094は長さ14cmの把手状の製品である。

・1095・1096はそれぞれ断面形が四角と丸で両先端を鉛筆状に尖らせる。

・1097は断面形が円形で一端に出ホゾ状の突起をもつ。

・1098～1100は両端を丸くあるいは細くなるよう削り出した小製品である。楔状である。

・1101・1102は一端を三角形にかたどる薄板で、1101は両端に５対の小孔、1102は中央に１孔をあける。1103は中央部に木釘の残った小孔があり、そのほかに２孔あくがこれにも木釘が打ち込まれた可能性がある。1105は貫通しない小孔がほぼ１cm間隔でならぶ。

・1107～1111は板状のもので、1107は両長端が面取りされ刀形の可能性がある。1108・1109は両短端がきれいに面取りされる。1101はＶ字状の切り欠きをもつ。

・1112は鉤状のもので屈曲する部分は片側のみ面取りされ、楕円形の孔が穿かれている。

・1113は樺皮巻棒で、径2.1cmの丸棒に幅約１cmの樺皮を棒に沿わせ、幅４mmの樺皮を巻いている。

・1114～1118は先端に切り込みをもつもので、1114はＶ字状、1115はＵ字状、1116～1118はやす状の切り込みをもつ。糸を巻くための道具か。

・1119は断面形が凸レンズ状で両面を丁寧に削り込んでいる。上端は丸く加工されている。

・1120・1121は同種の木製品で、断面形は丸形で中央部台形状に削り込んだ部分には四角いホゾ穴をあける。類似するものが奈良国立文化財研究所『木器集成図録―近畿古代篇―』では、紡織具糸巻の大型の枠木に分類されているが、ホゾ穴が一つと予想されること、残存長でそれぞれ49.5cm、39.6cmあり枠木にしてはあまりに大きいことから糸巻枠木とは考えにくい。(註14)

・1122・1123は薄板の円形状のもので、1122はケビキのような線が入る。

・1124・1125は板状で先端が山形状に削り込んだ櫂状の木製品である。

・1126は細い角棒状で、材の側面に鋸歯を刻む。

・1127は上端の四隅が残るように側面を半円形に削り込み木口から9.1cmの円形の茎孔をあける。工具の柄が想定される。

・1128は上端の木口が内側に向かって四面からの削りが入る。

・1130は下端に向かって太くなる棒状のもので下端は細かな面取りが施される。擂粉木が想定されるが下端に擦痕がほとんどない。

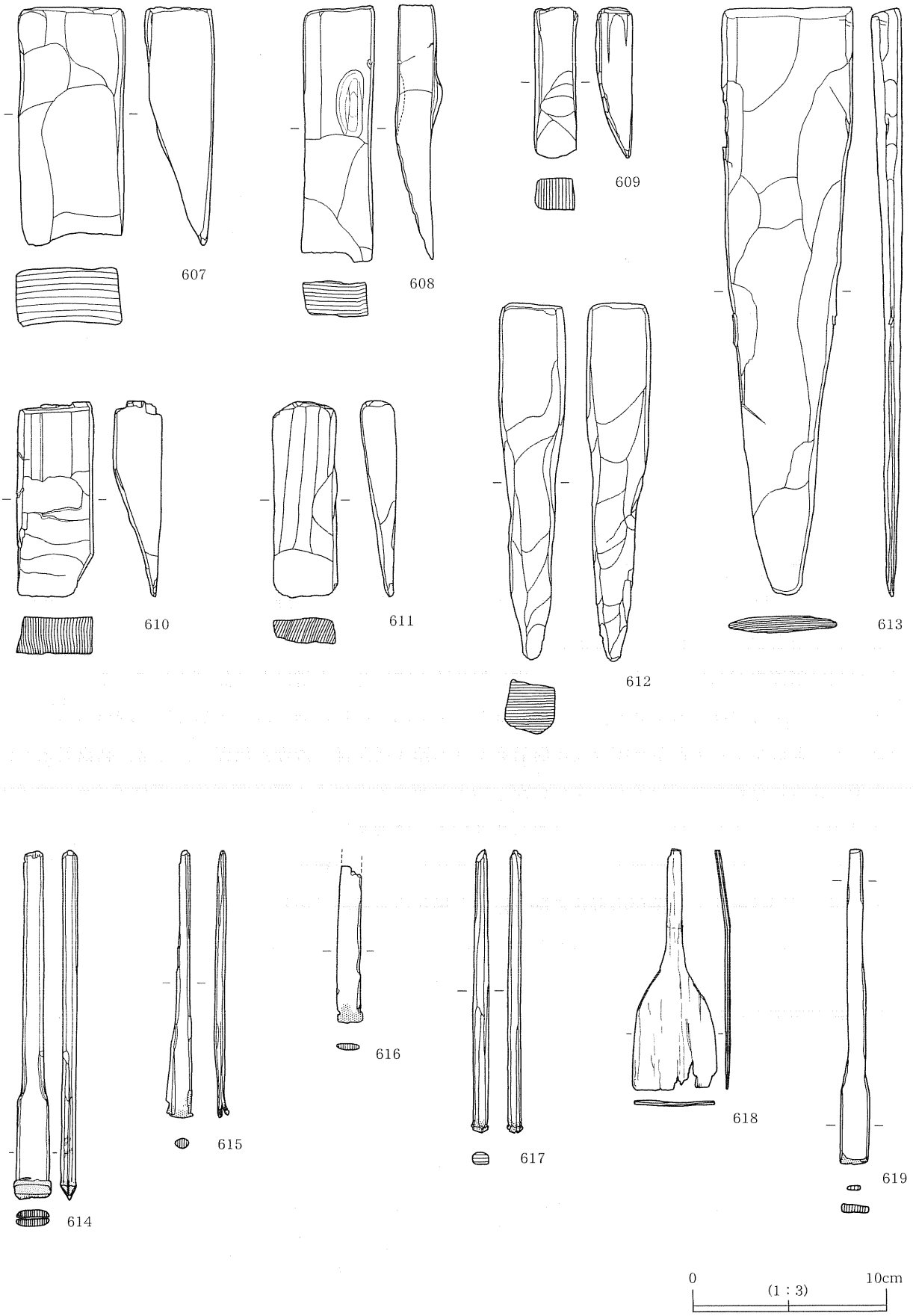
・1132は材の側面に「レ」字状の切り込みを２個所入れる。

・1134～1137は丸棒状の一端（復元すると両端と考えられる）に切り込みが入り、溝状のくぼみがつくられる。1137で79.6cmあり天秤棒状を呈する。

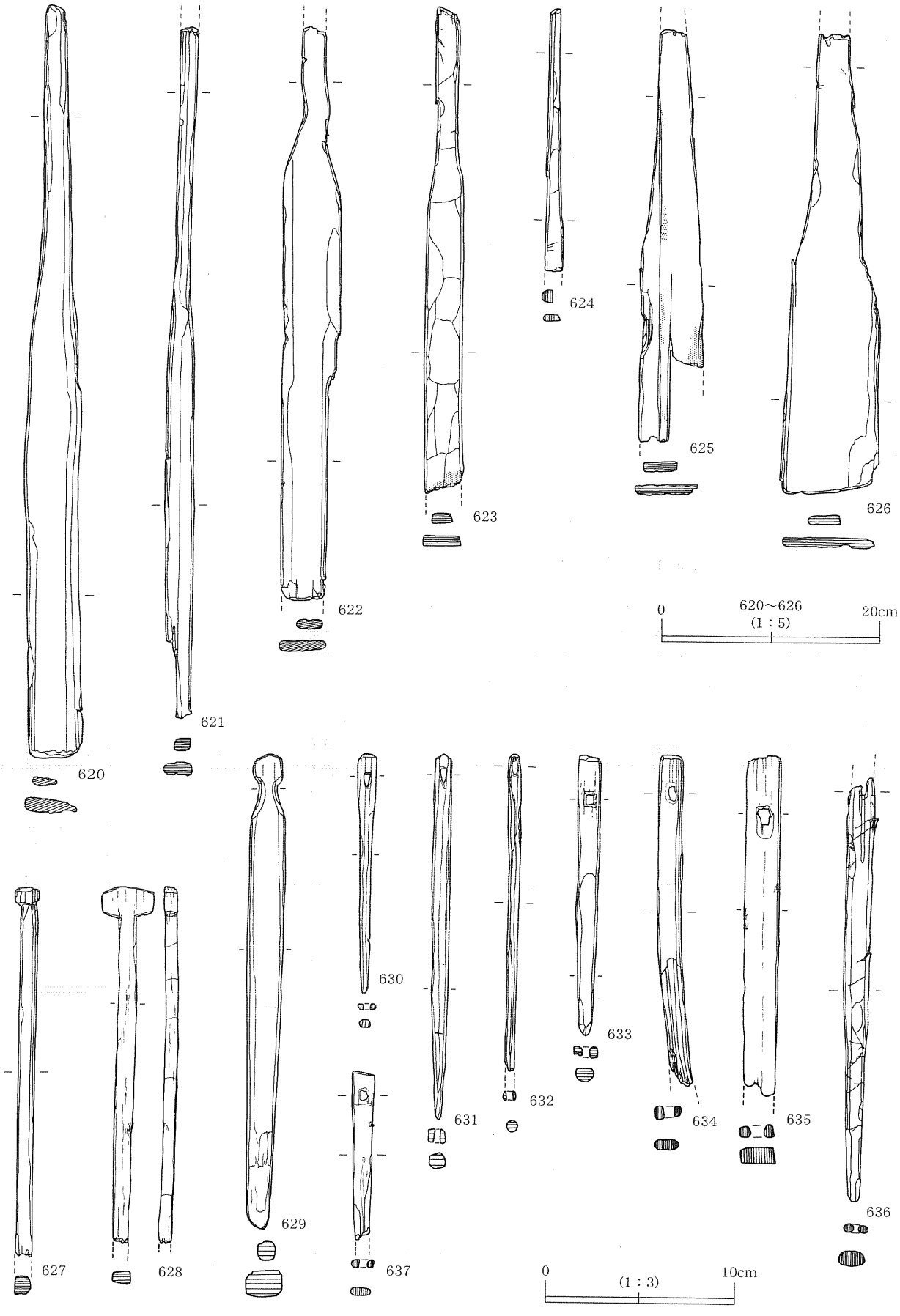
・1138～1141は一端に「コ」字状の切り込みをもつ。

・1142・1143は小孔、1144は四角い孔をもつ。

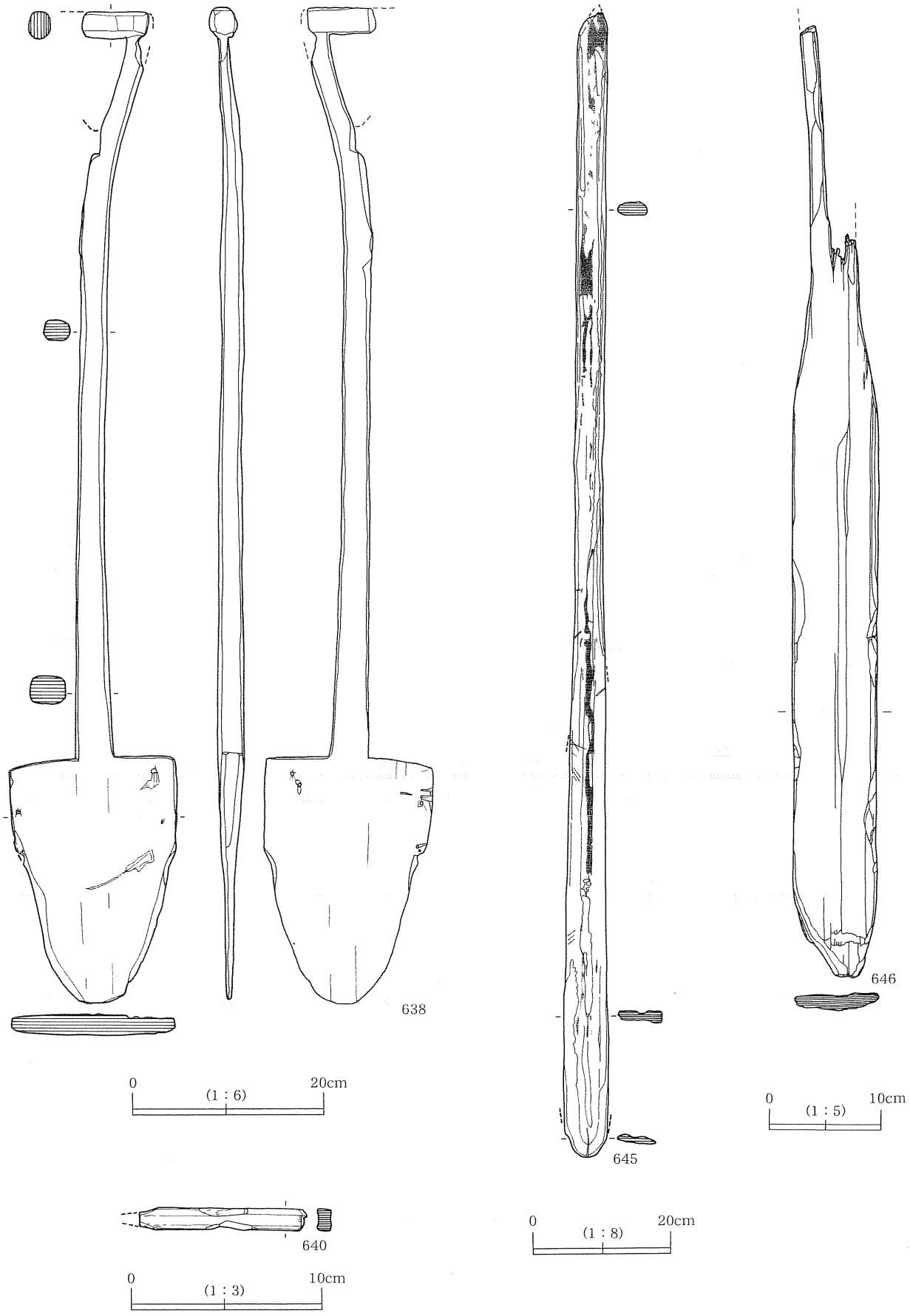
・1145は板状の両短辺のほぼ中央から対角に斜めに削り込む。板状材953の先端部と同様である。細



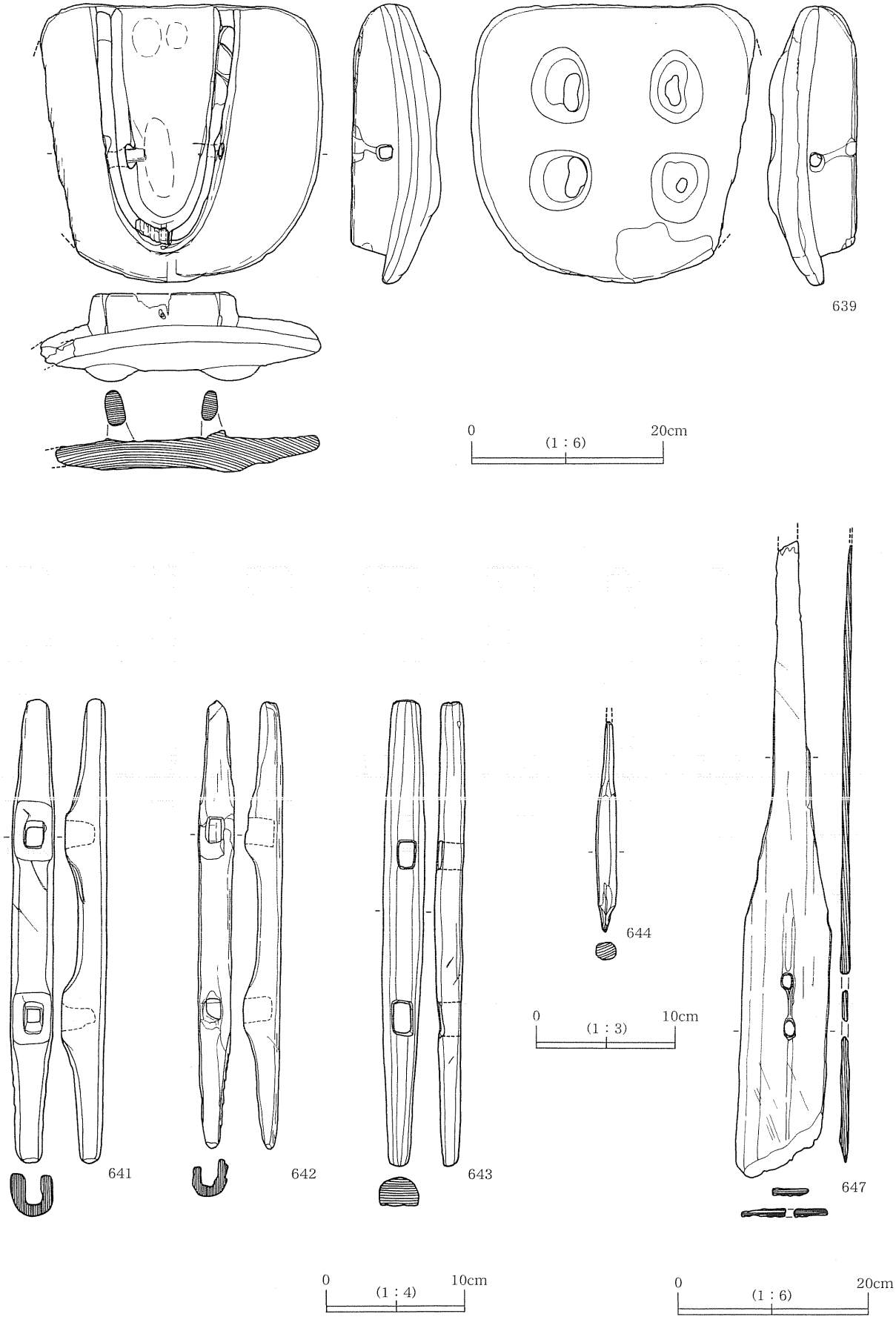

第84図　出土木製品（１）


620
621
622
623
624
625
626
0
620～626
(1：5)
20cm
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
0
(1：3)
10cm

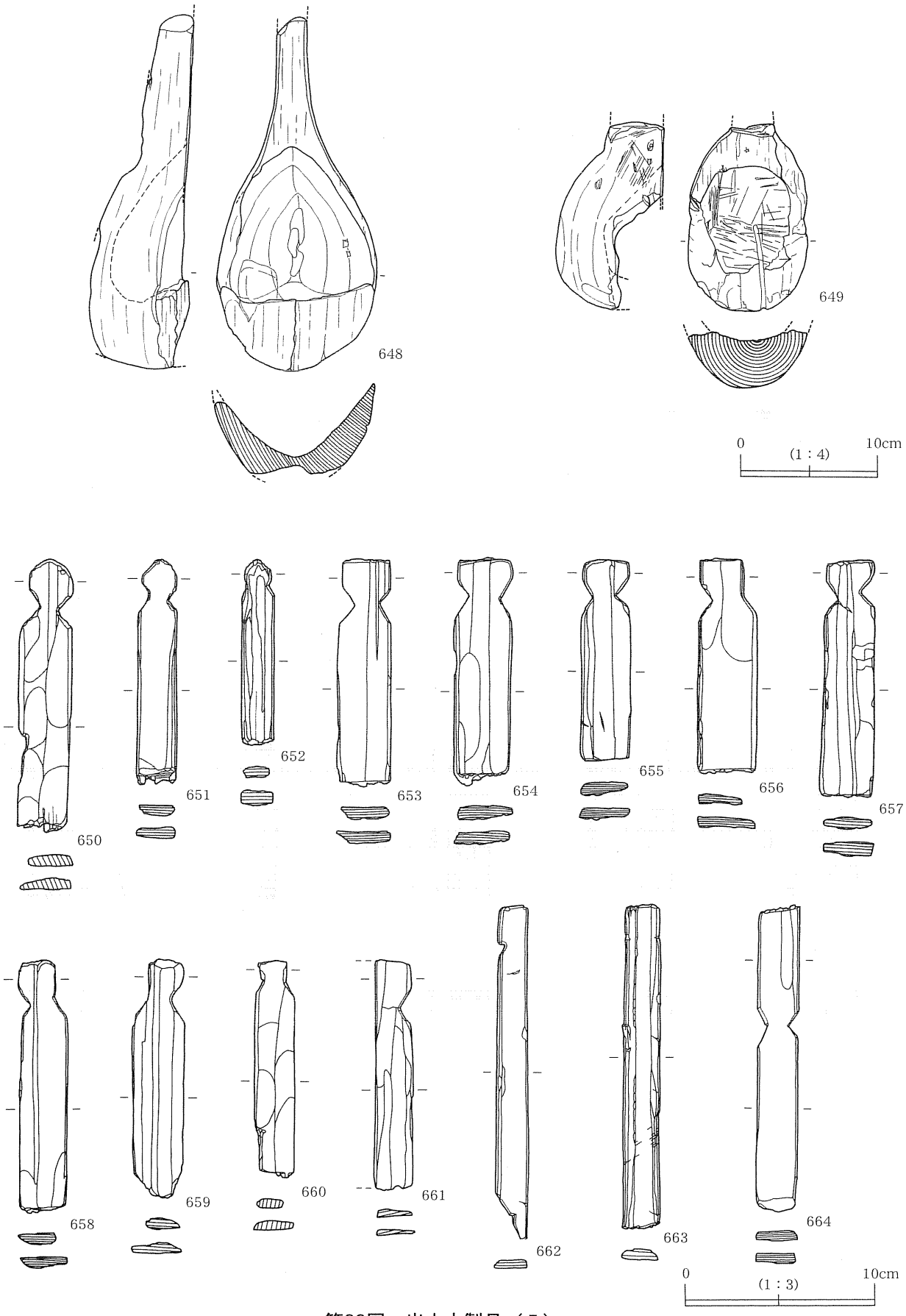
第85図　出土木製品（２）



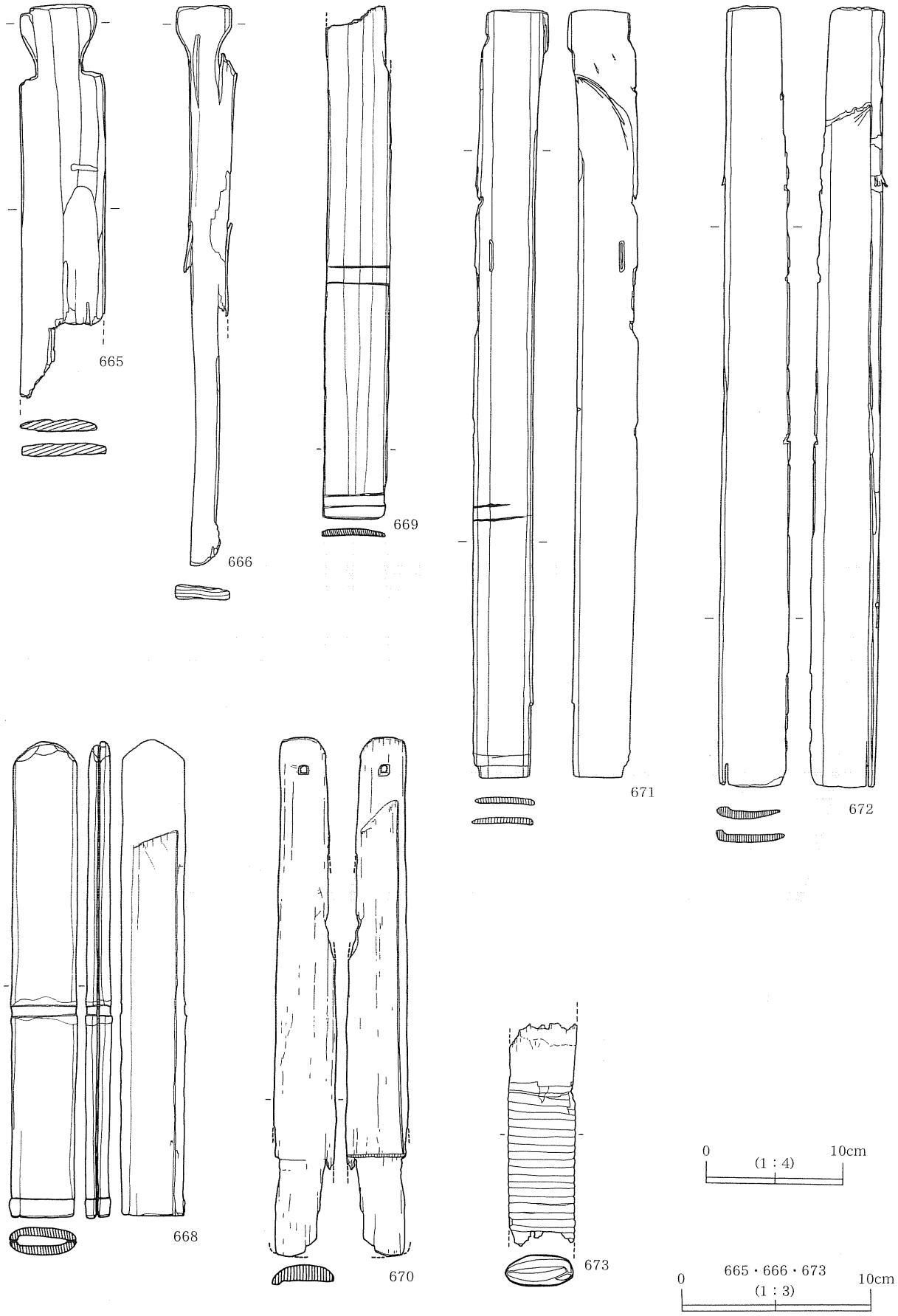

第86図　出土木製品（３）



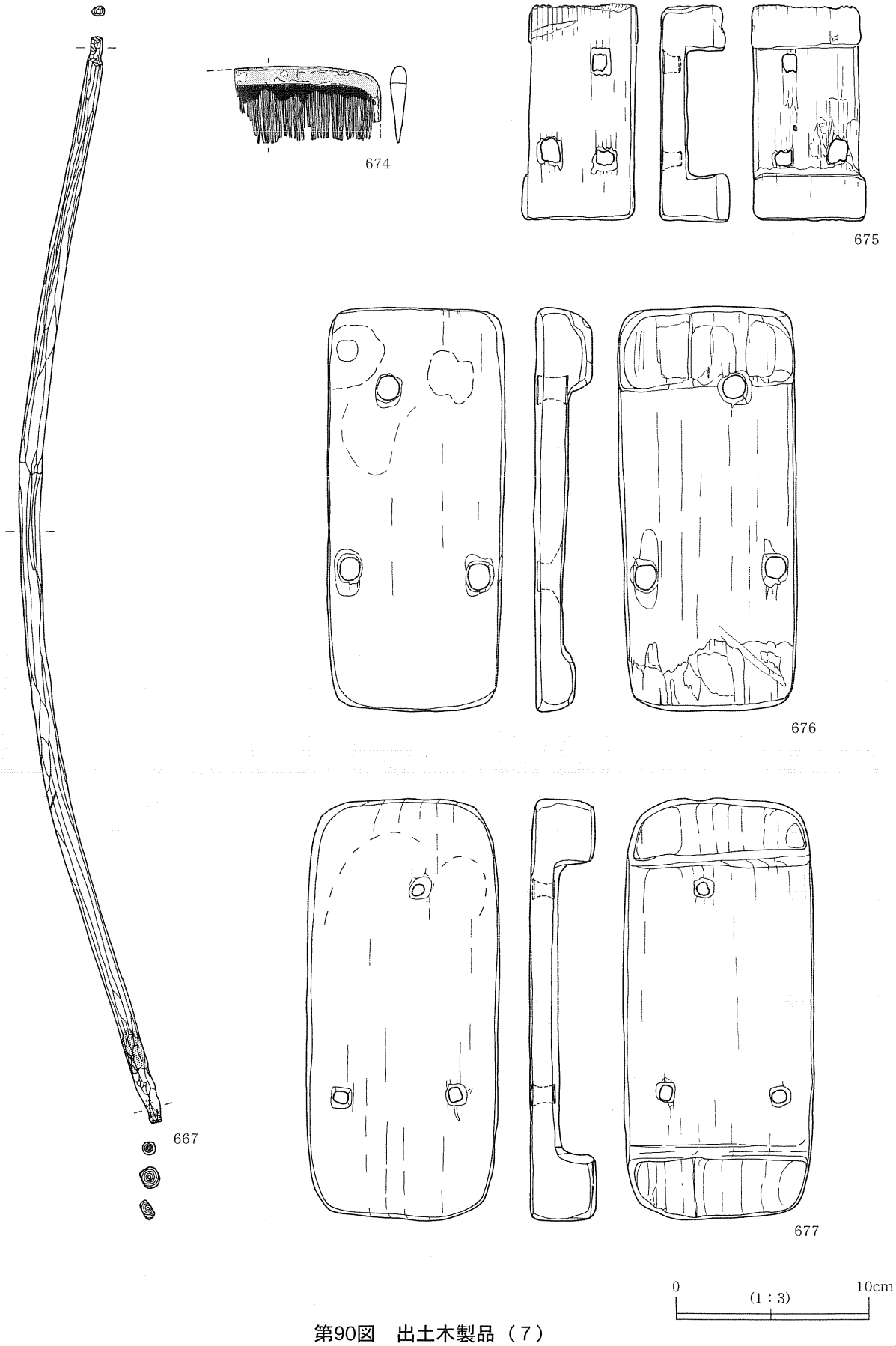

第87図　出土木製品（４）


648
649
0
(1：4)
10cm
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
0
(1：3)
10cm

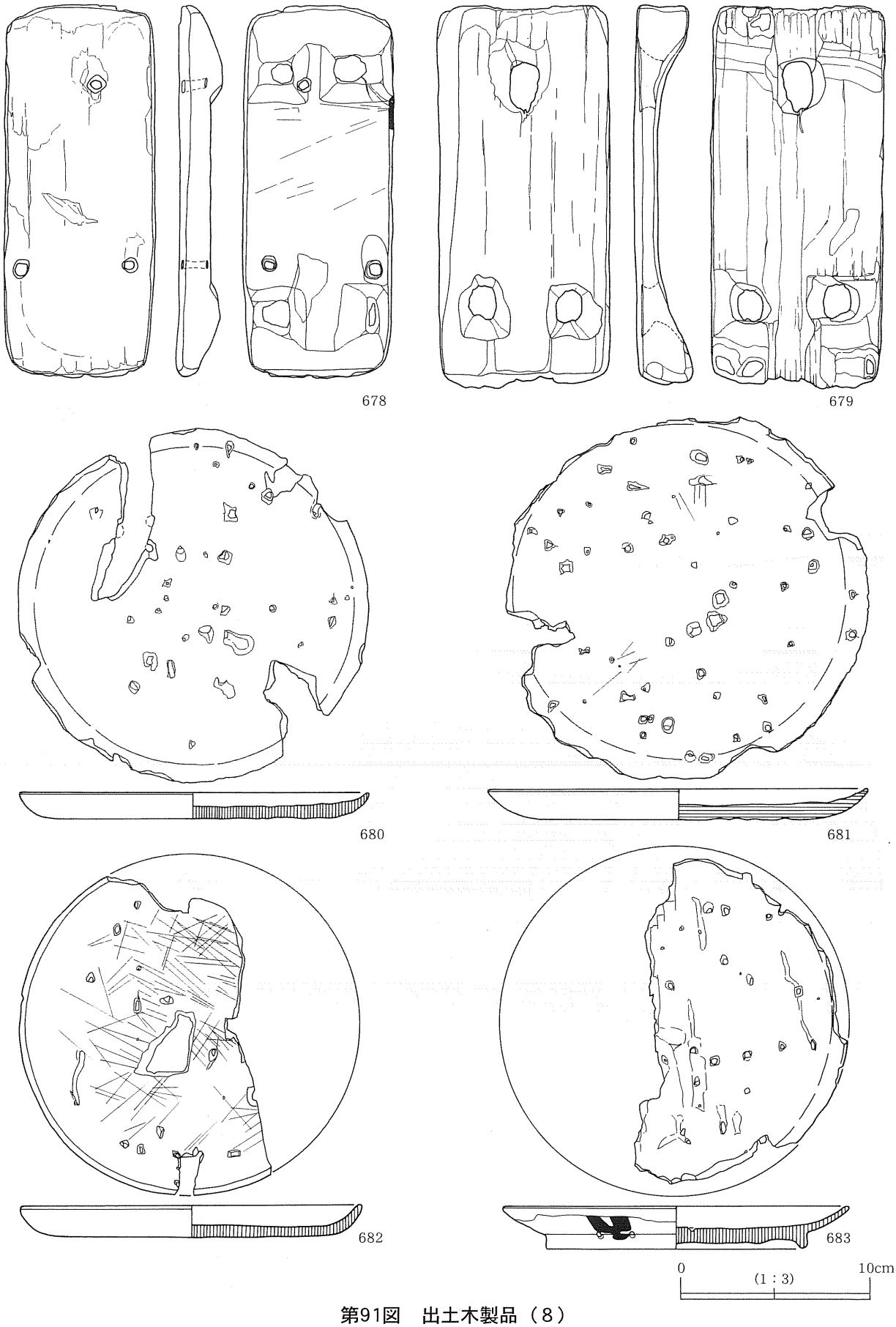
第88図　出土木製品（５）



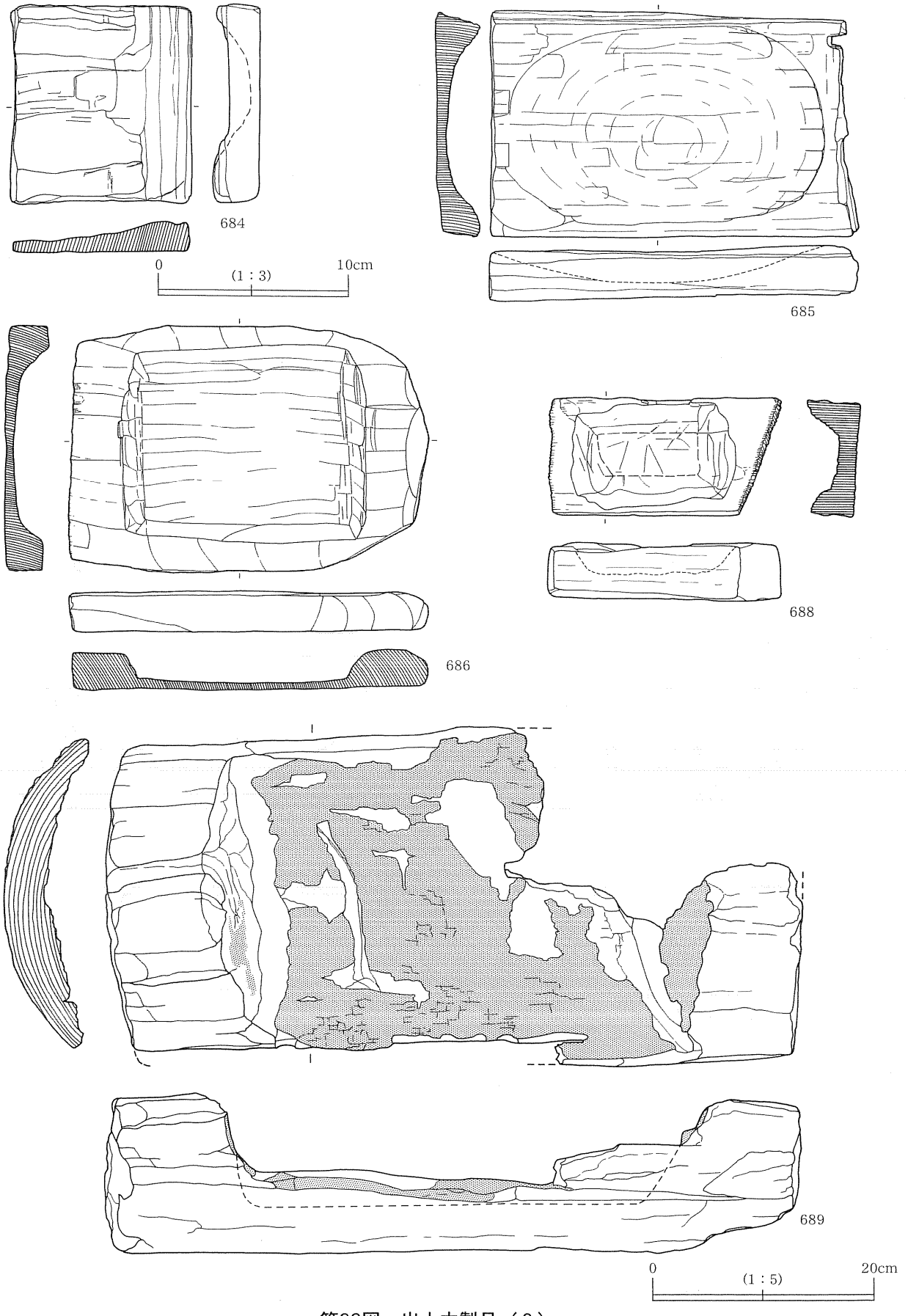

第89図　出土木製品（６）



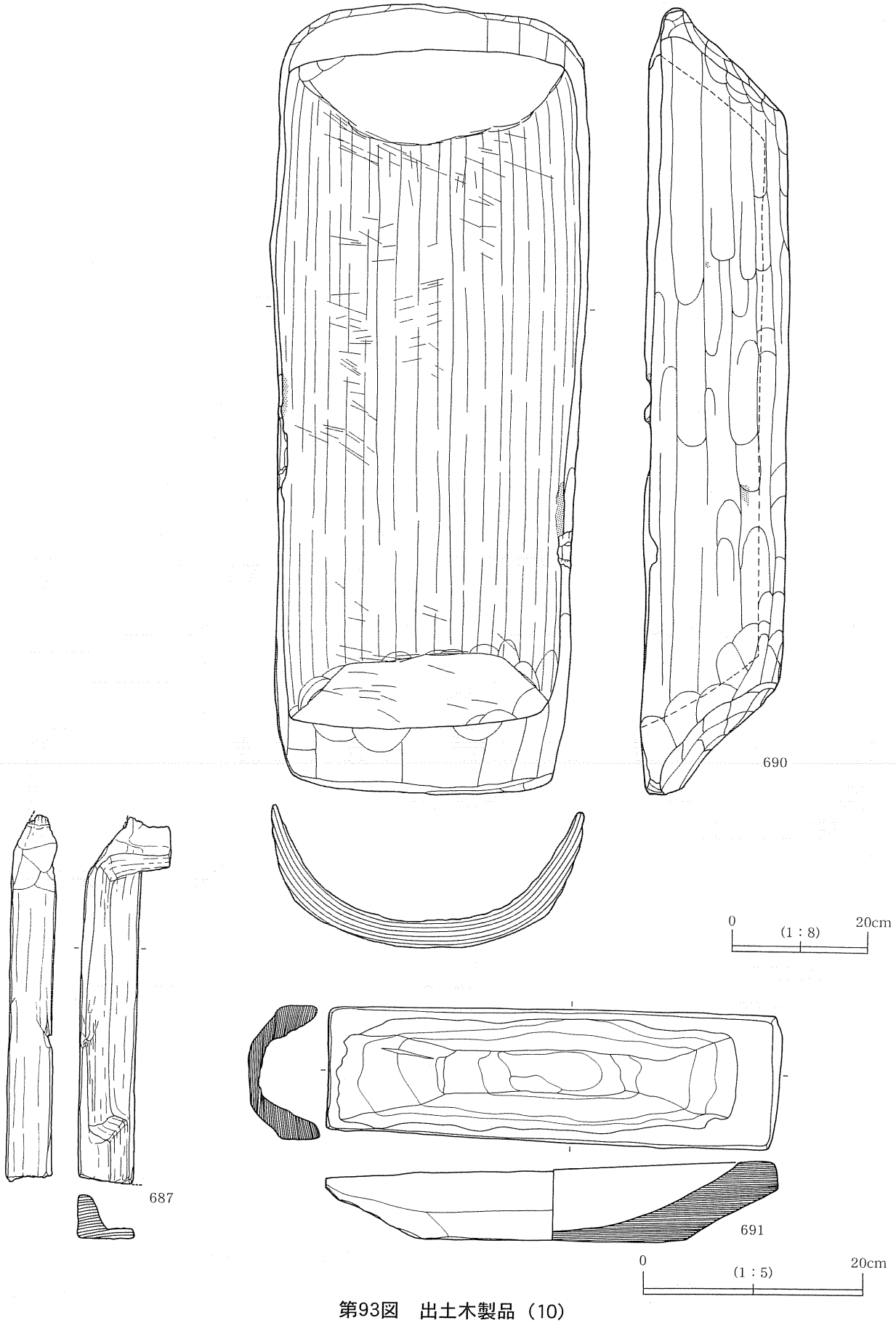

第90図　出土木製品（７）



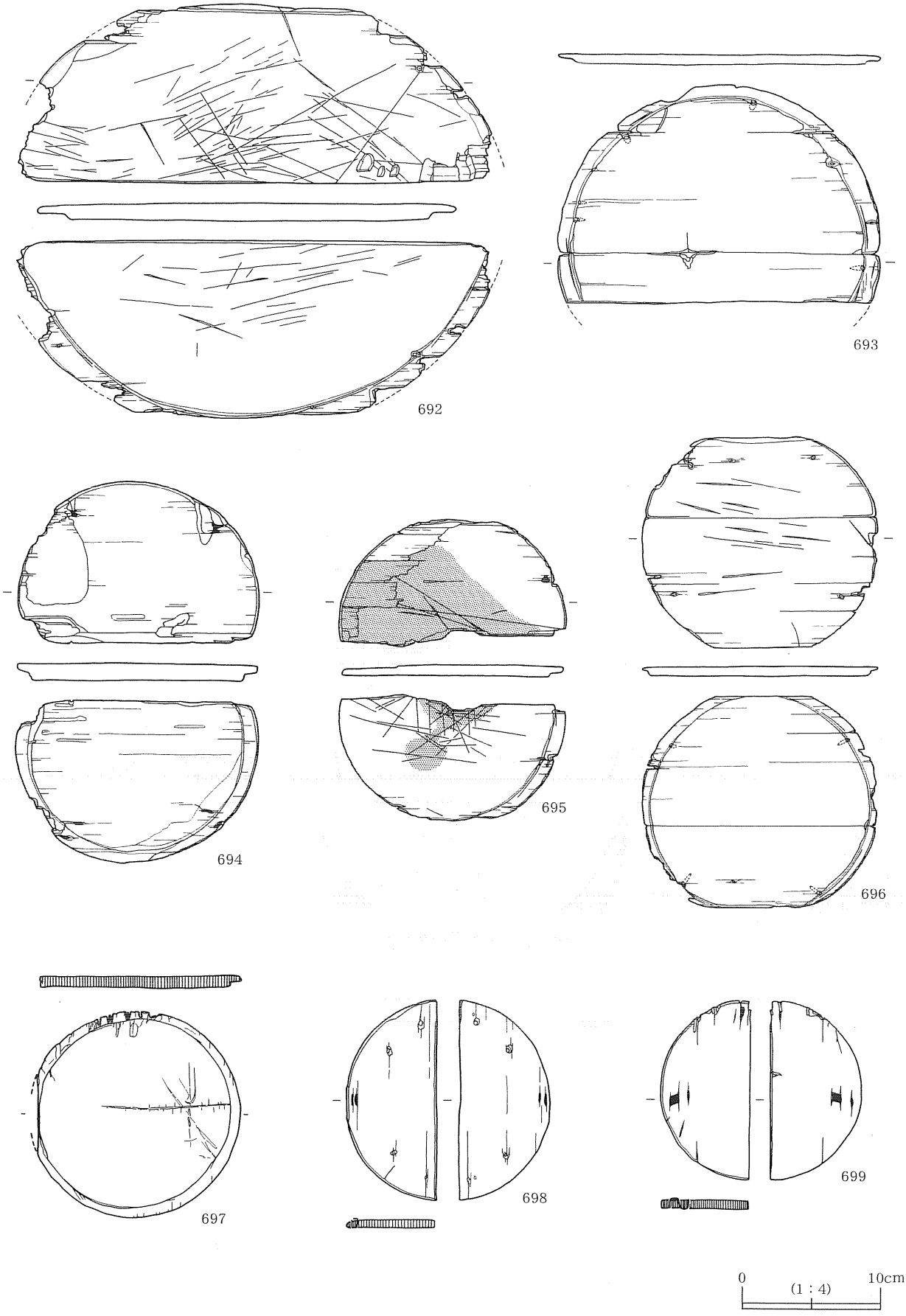

第91図　出土木製品（８）



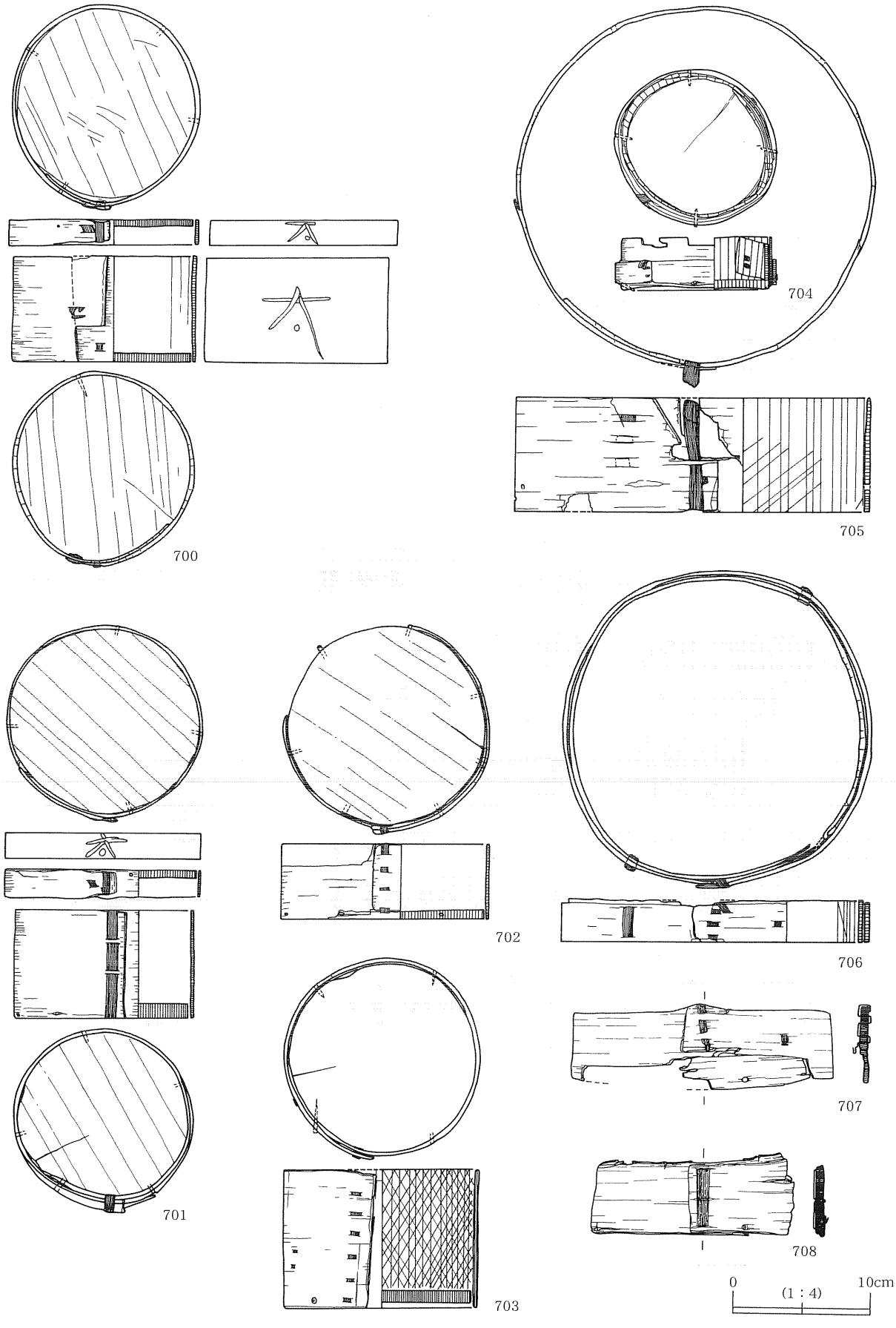

第92図　出土木製品（９）



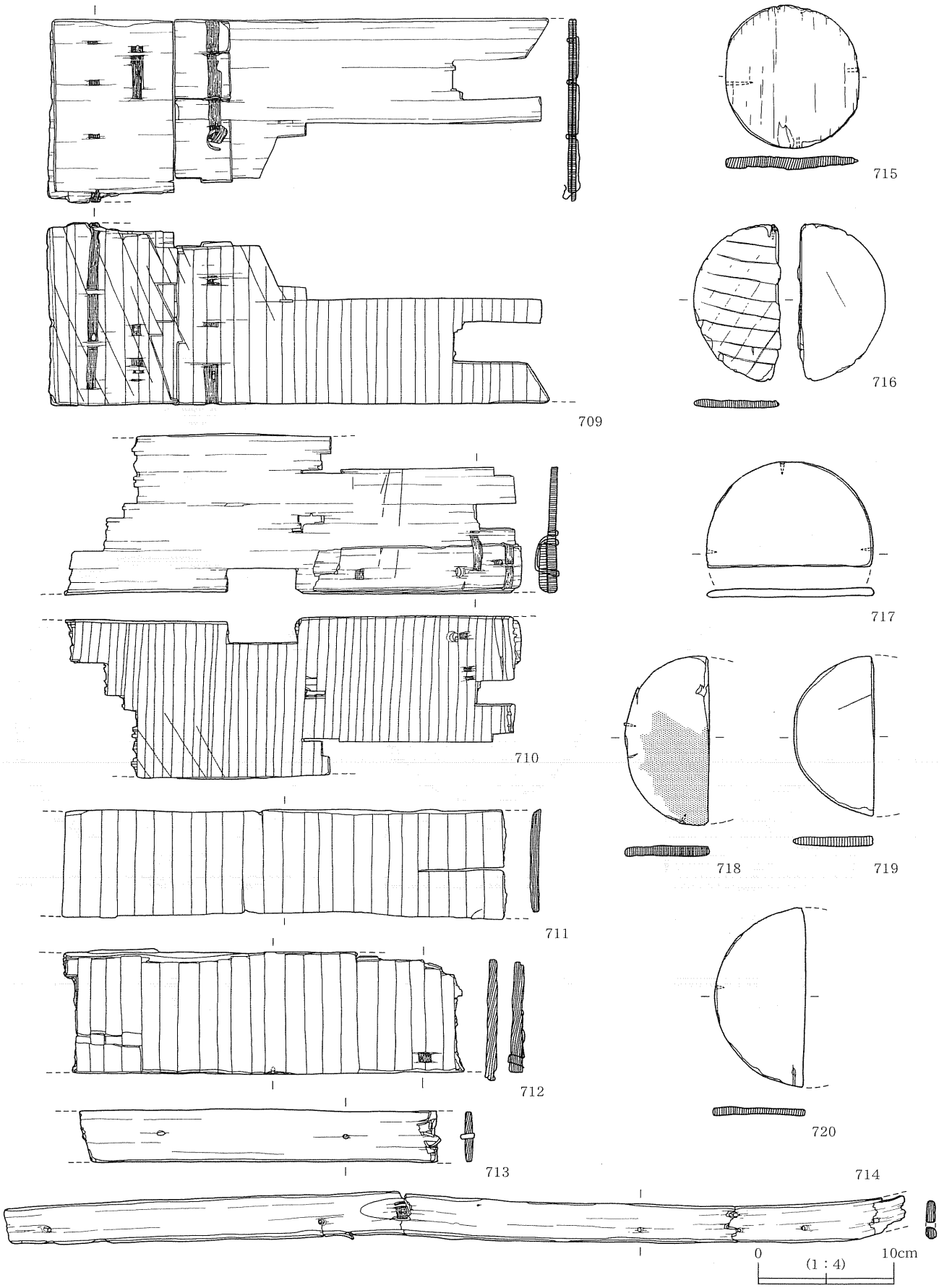

第93図　出土木製品（10）



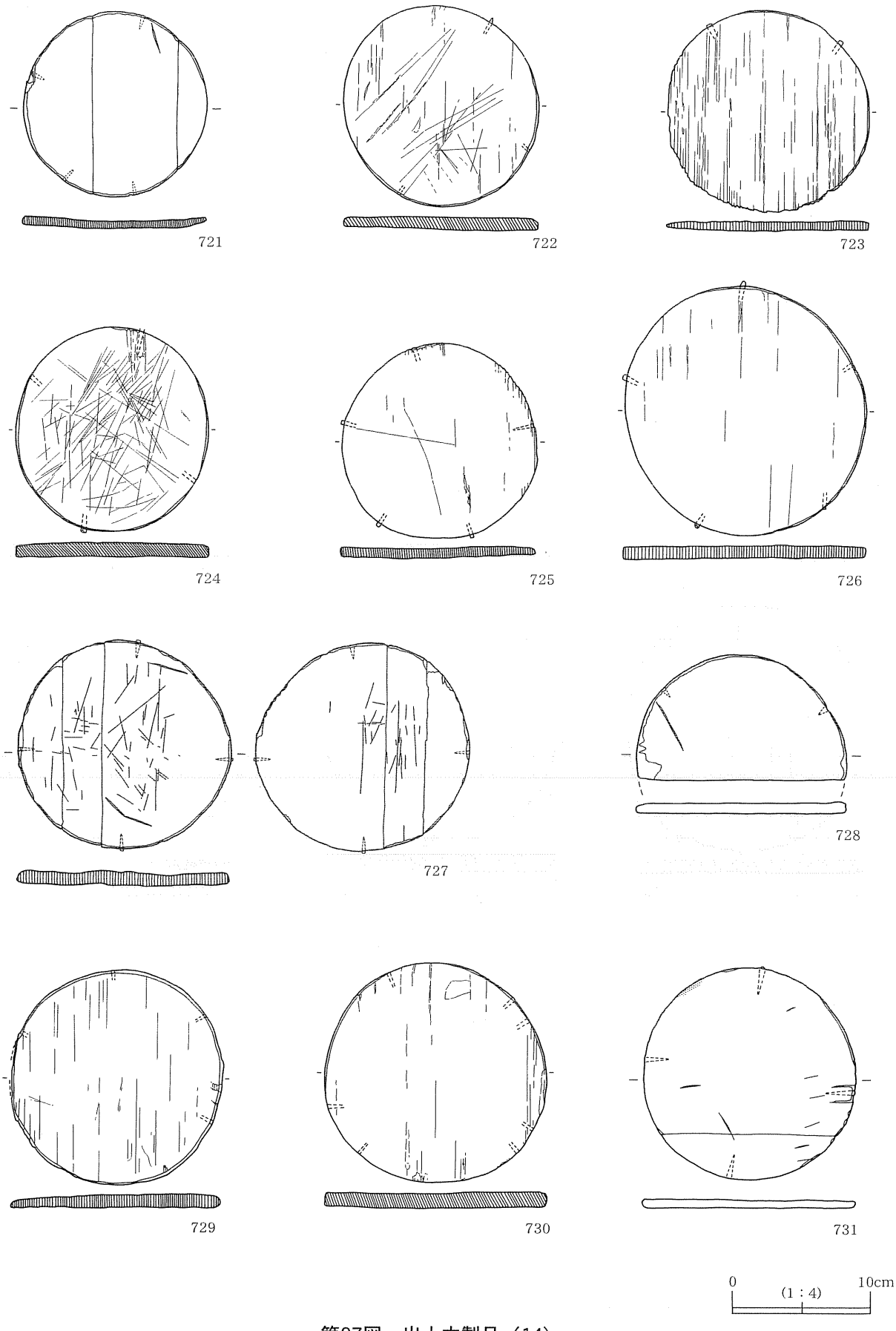

第94図　出土木製品（11）



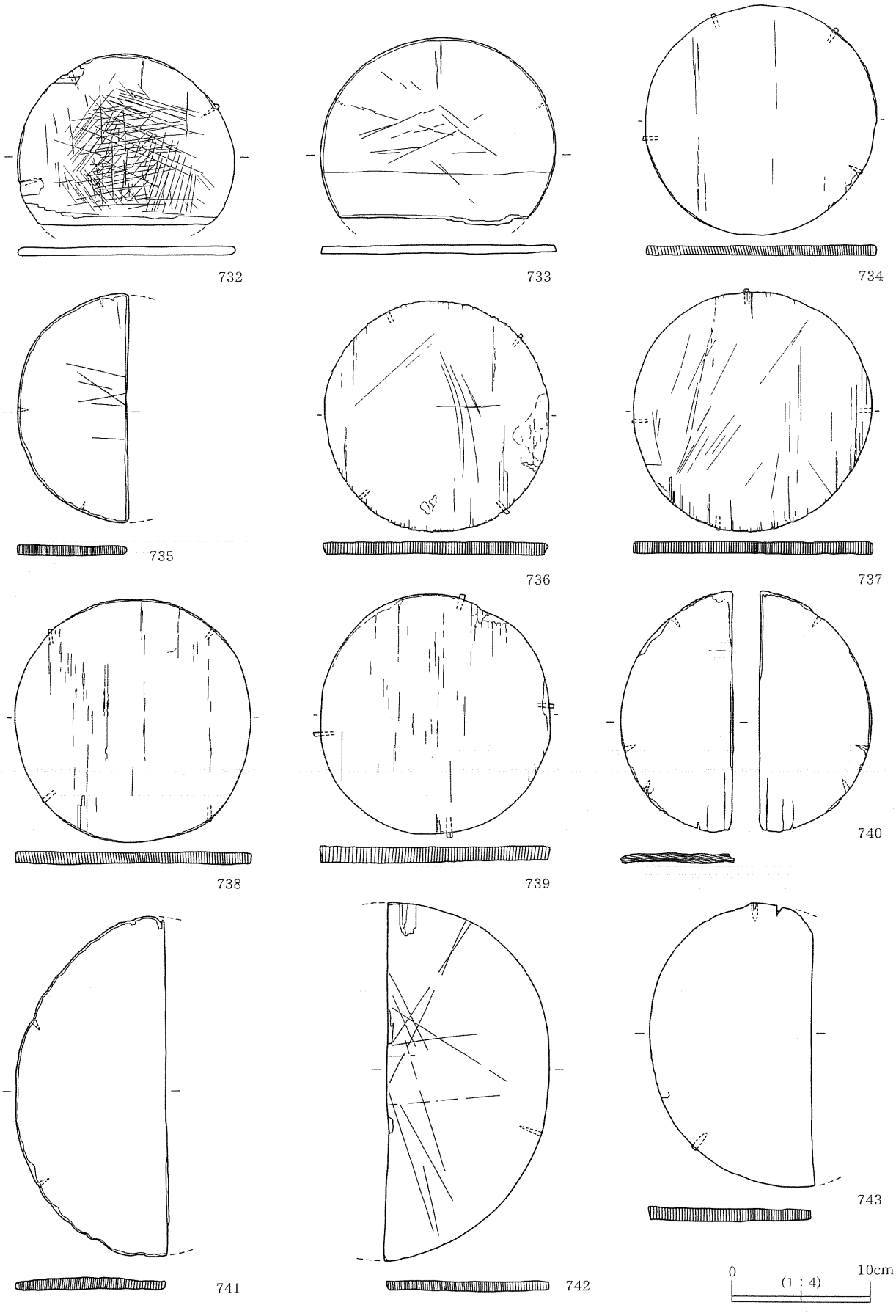

第95図　出土木製品（12）



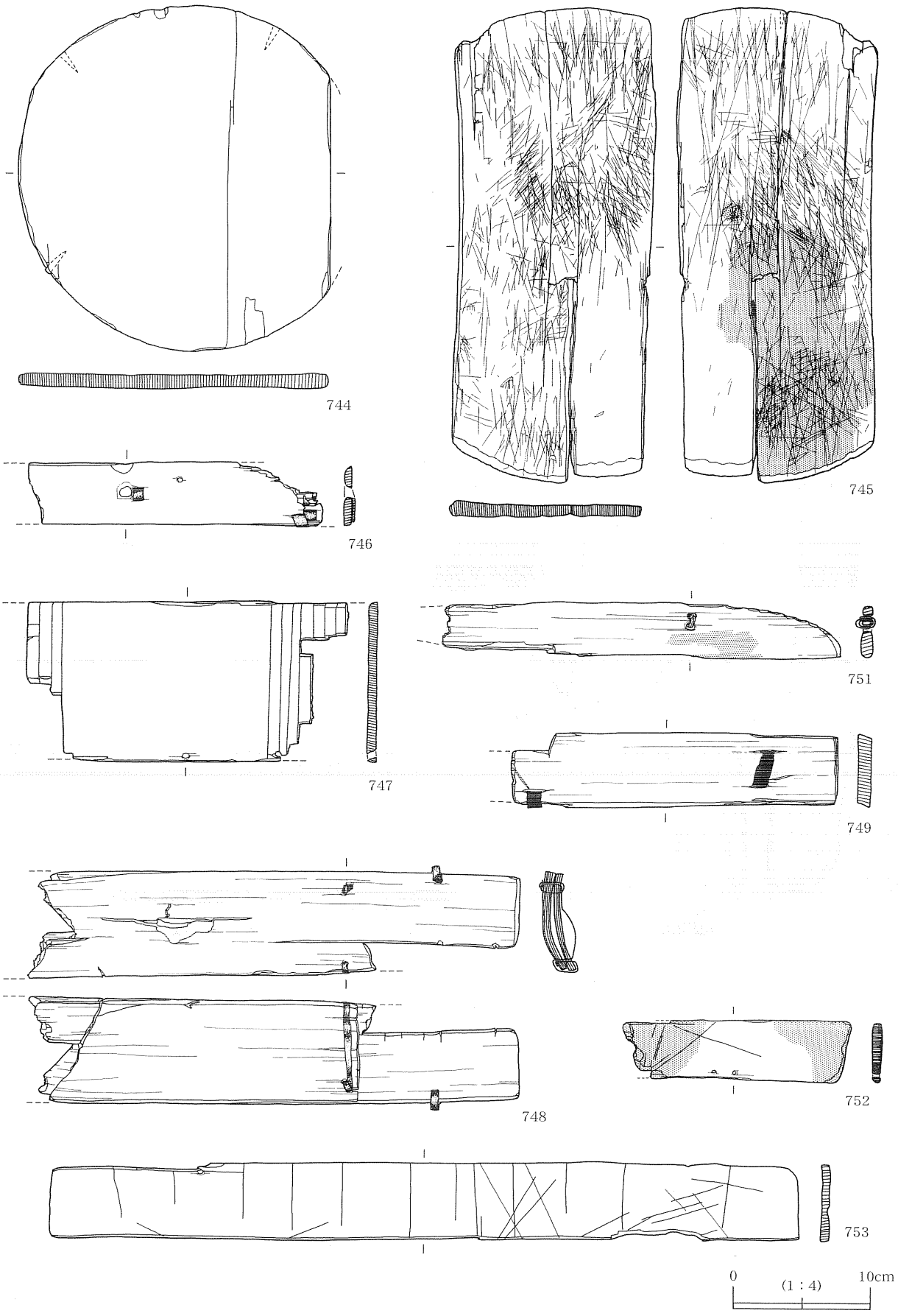

第96図　出土木製品（13）



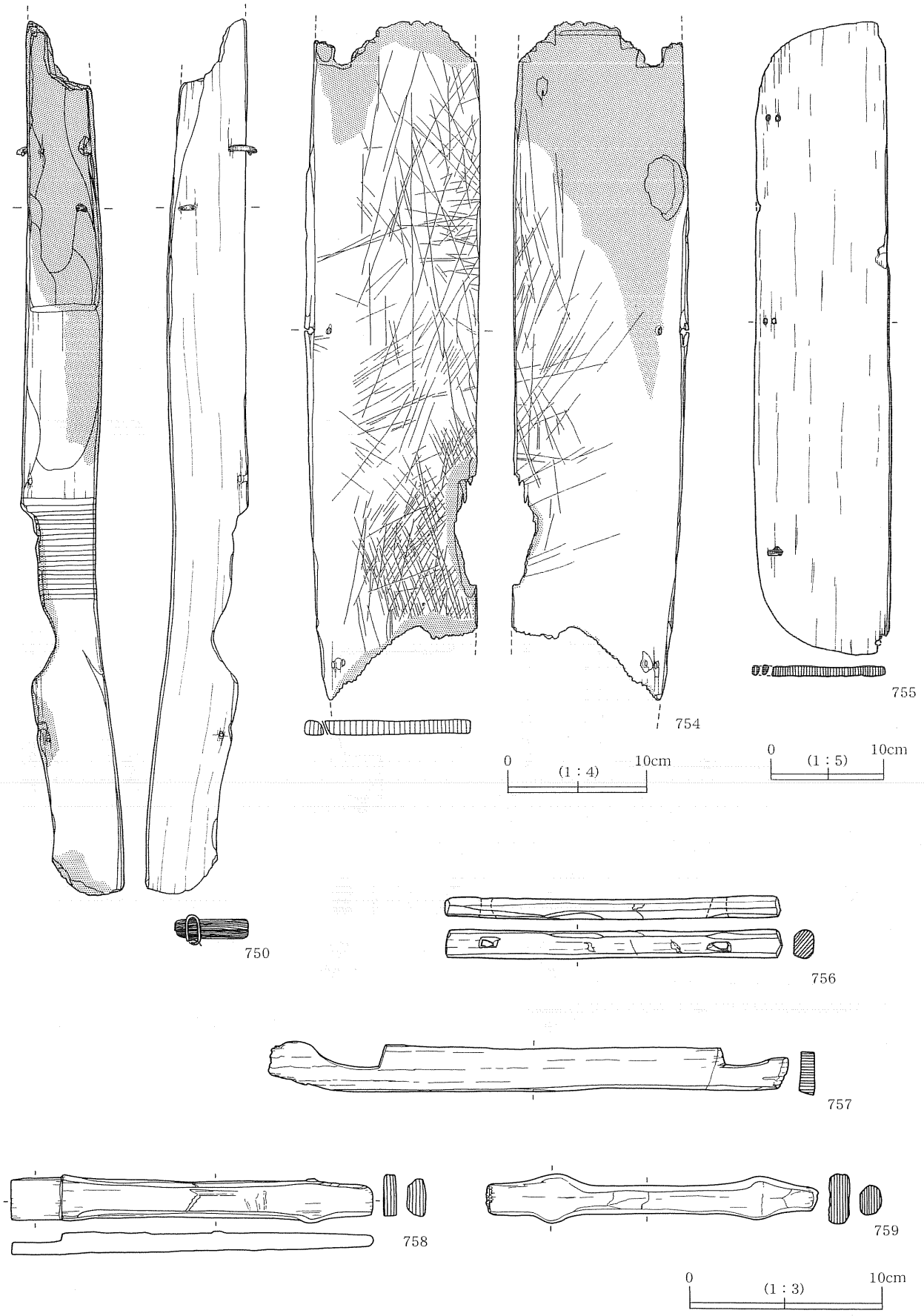

第97図　出土木製品（14）



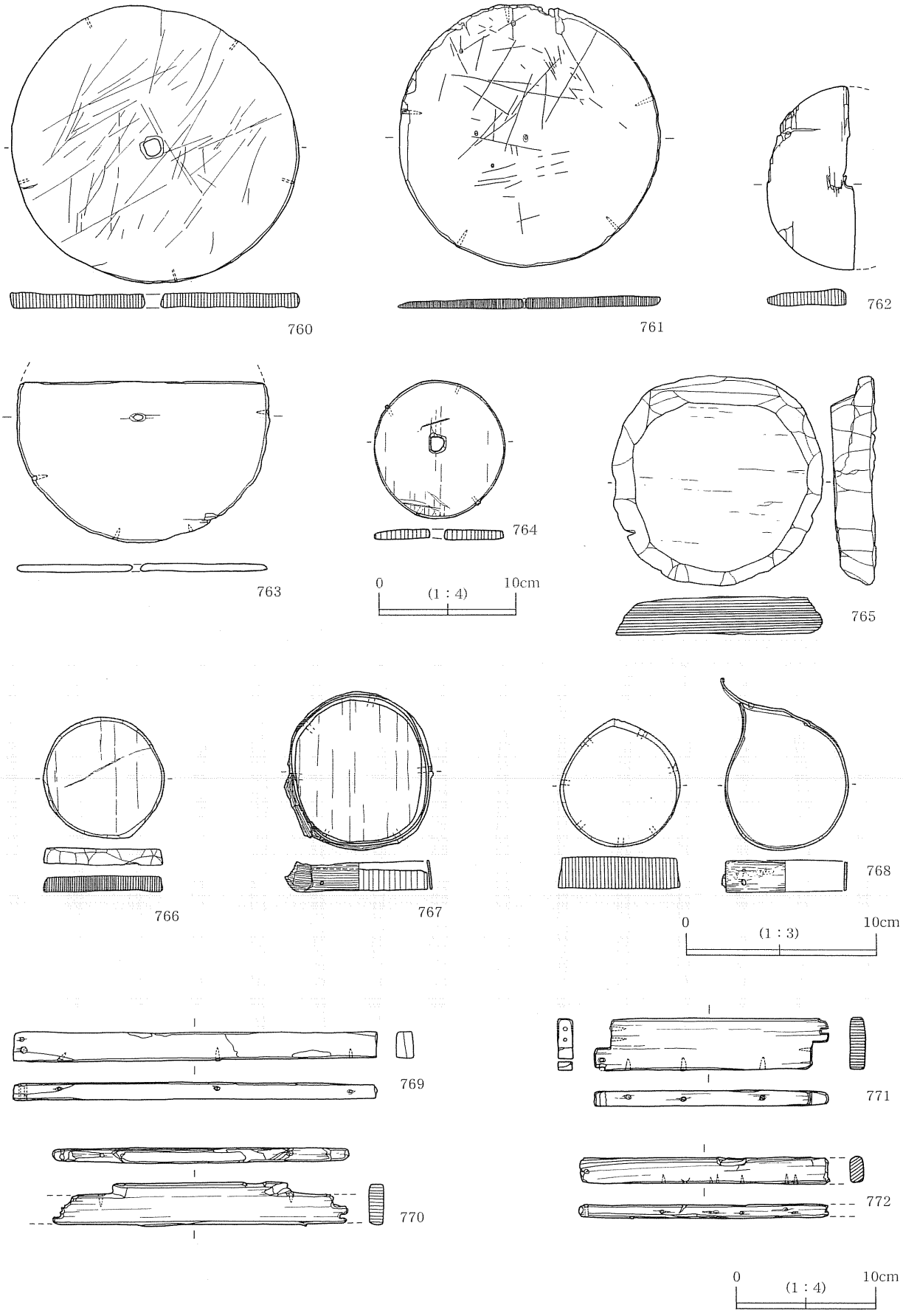

第98図　出土木製品（15）



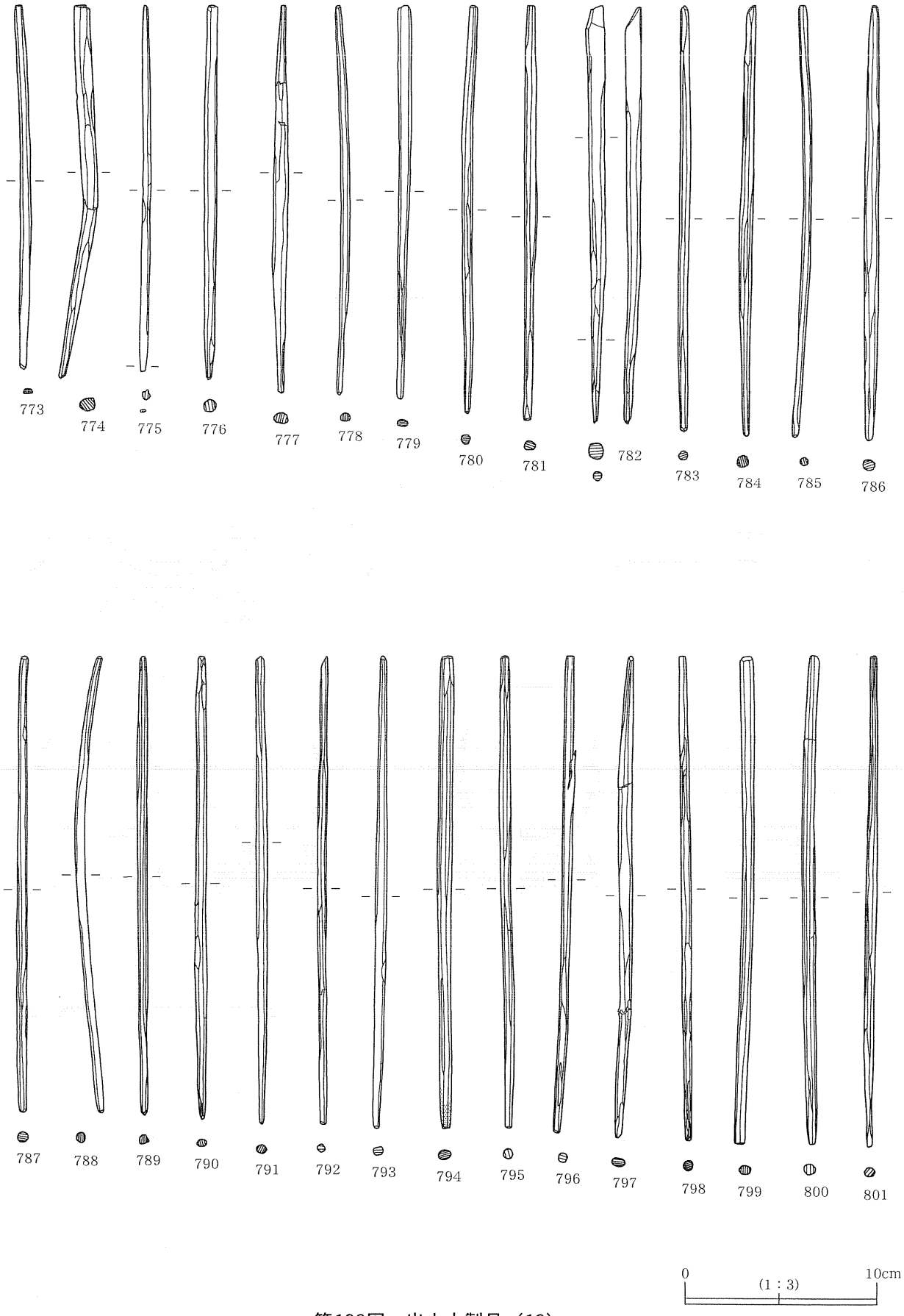

第99図　出土木製品（16）



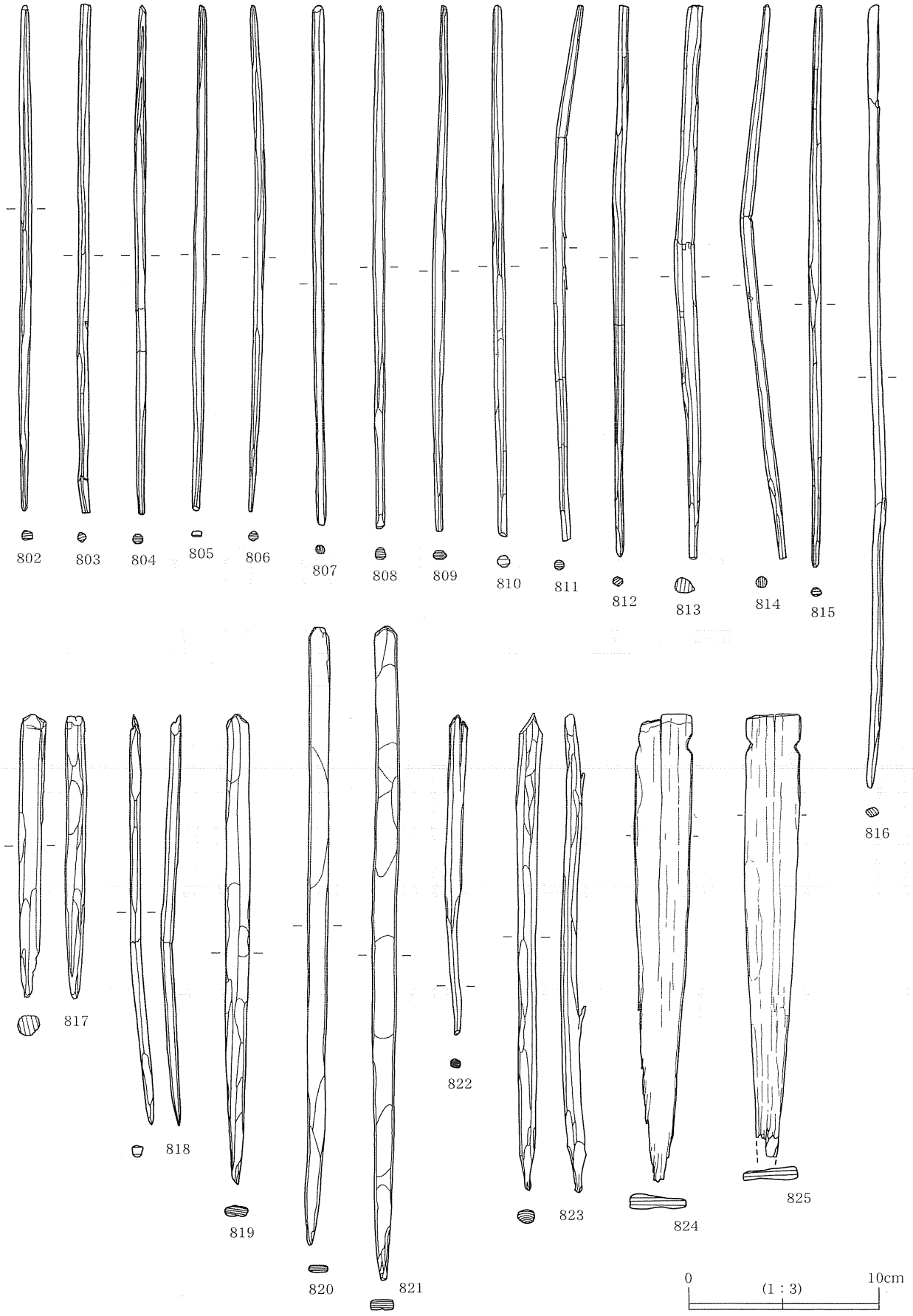

第100図　出土木製品（17）



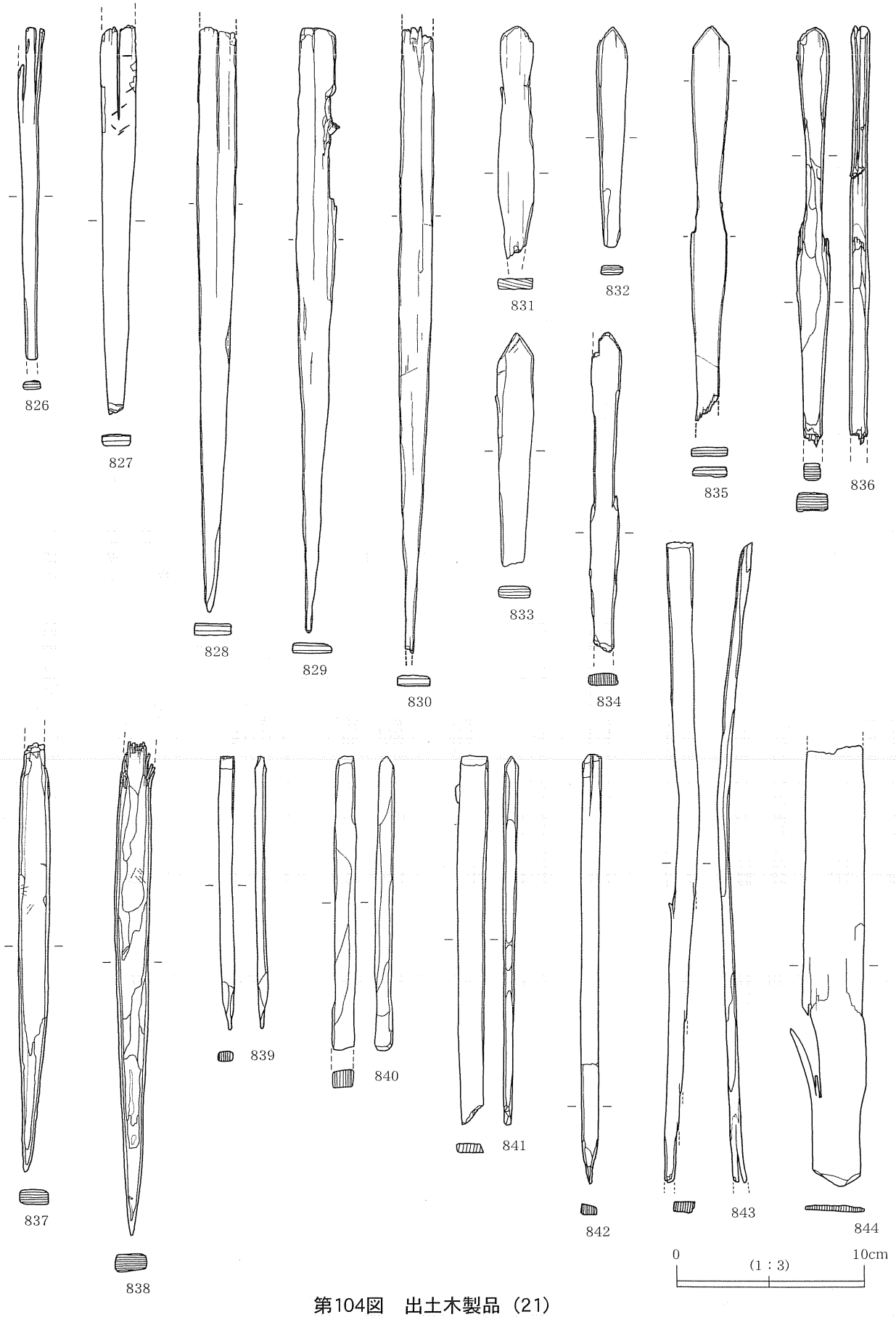

第101図　出土木製品（18）



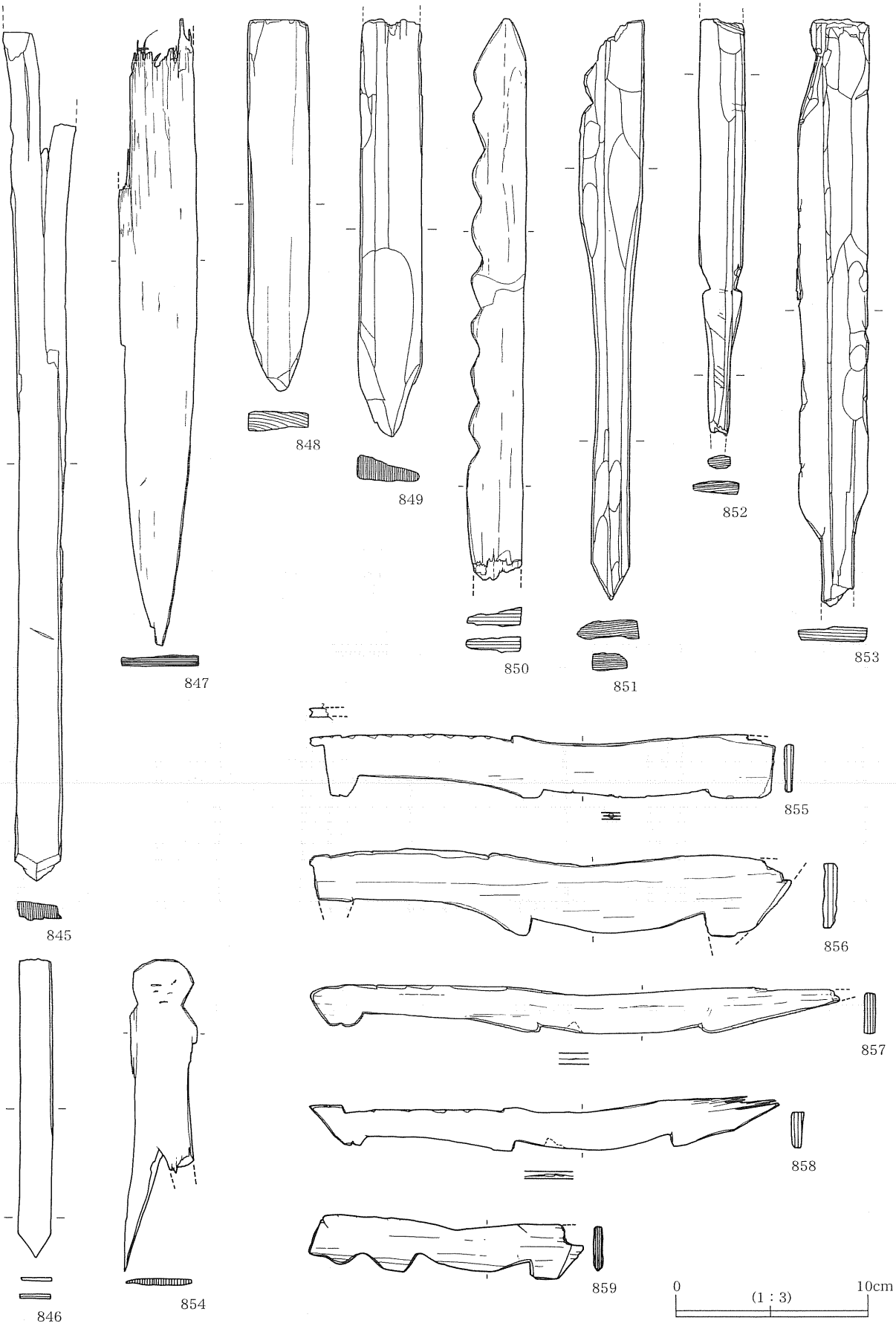

第102図　出土木製品（19）



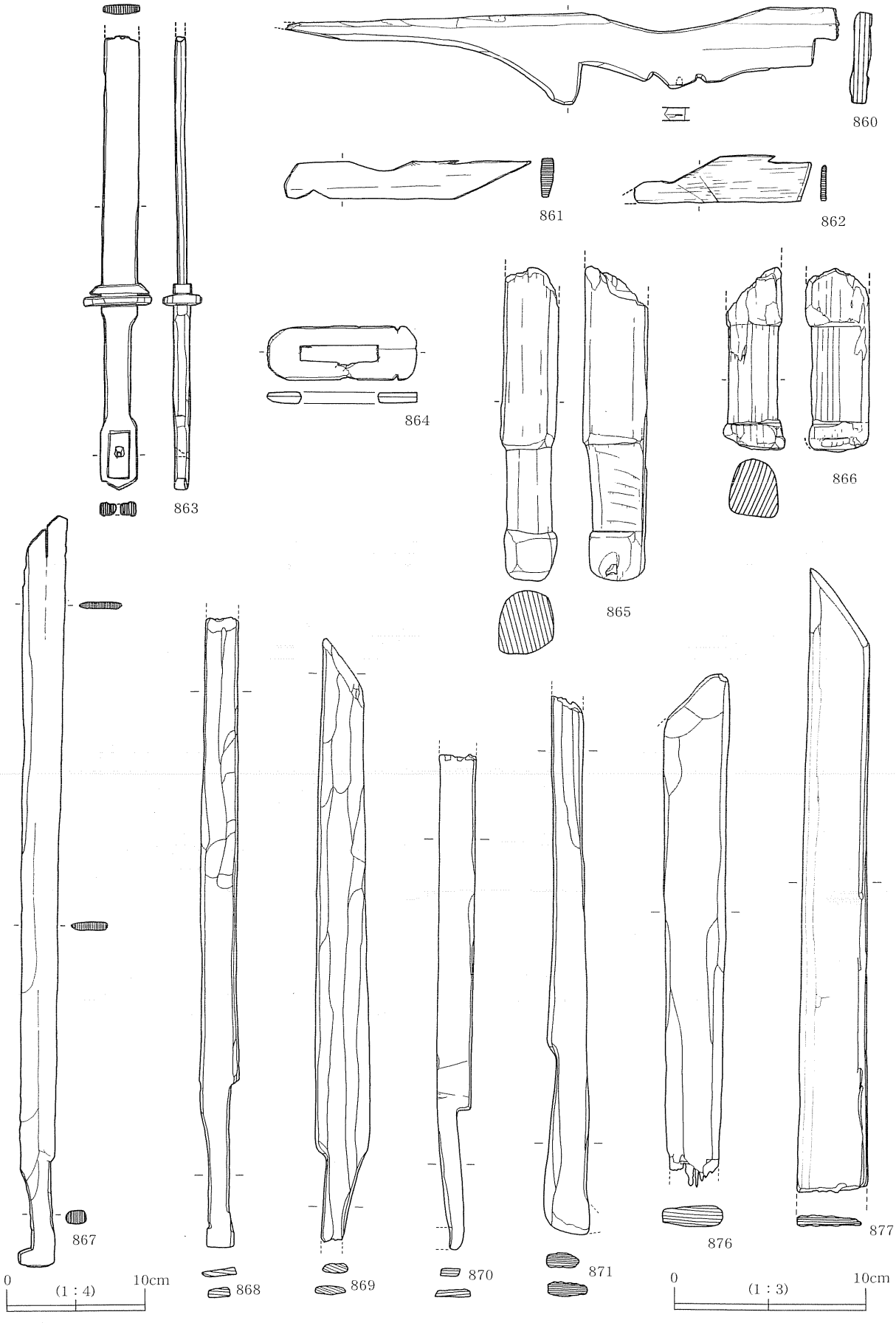

第103図　出土木製品（20）



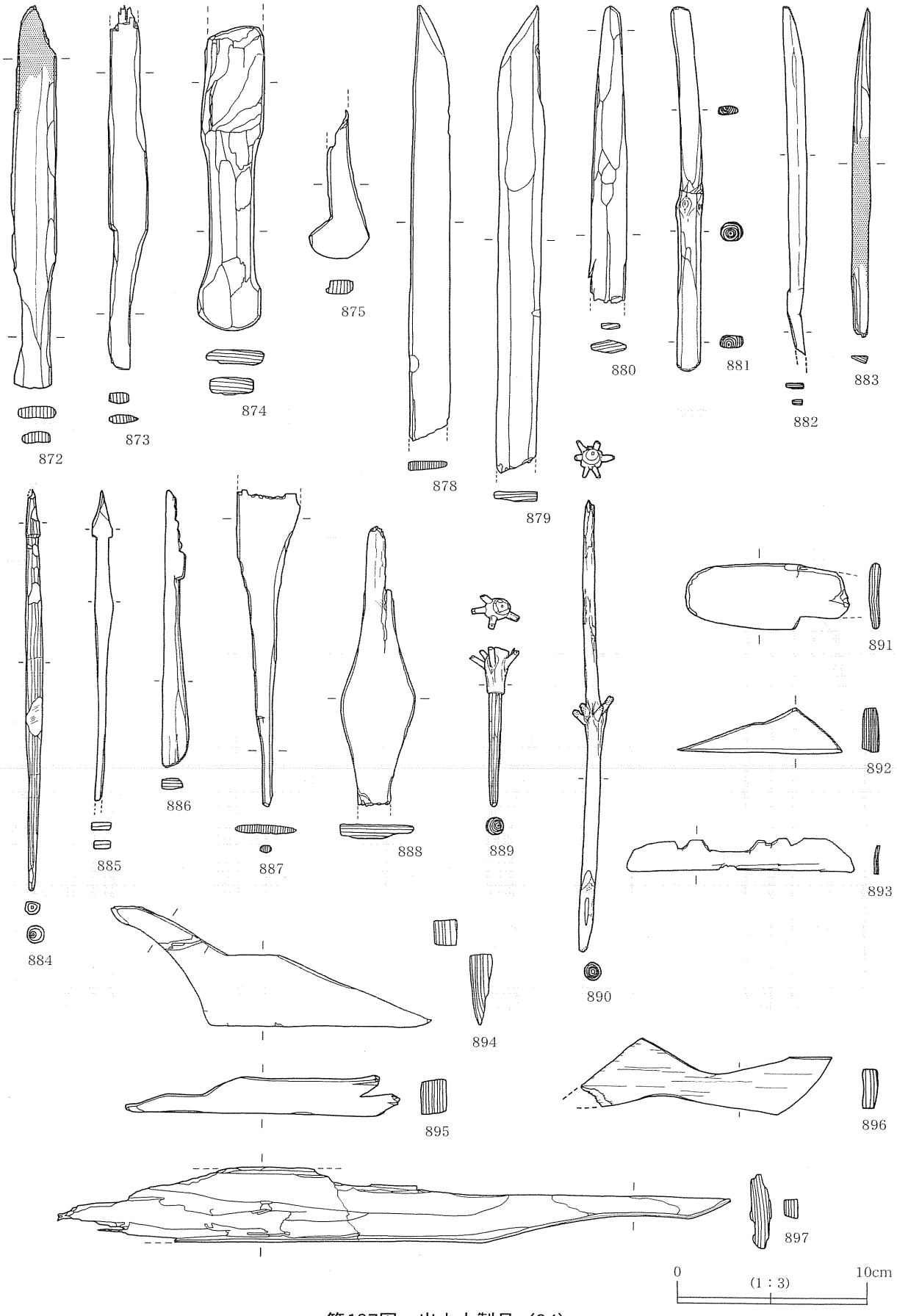

第104図　出土木製品（21）



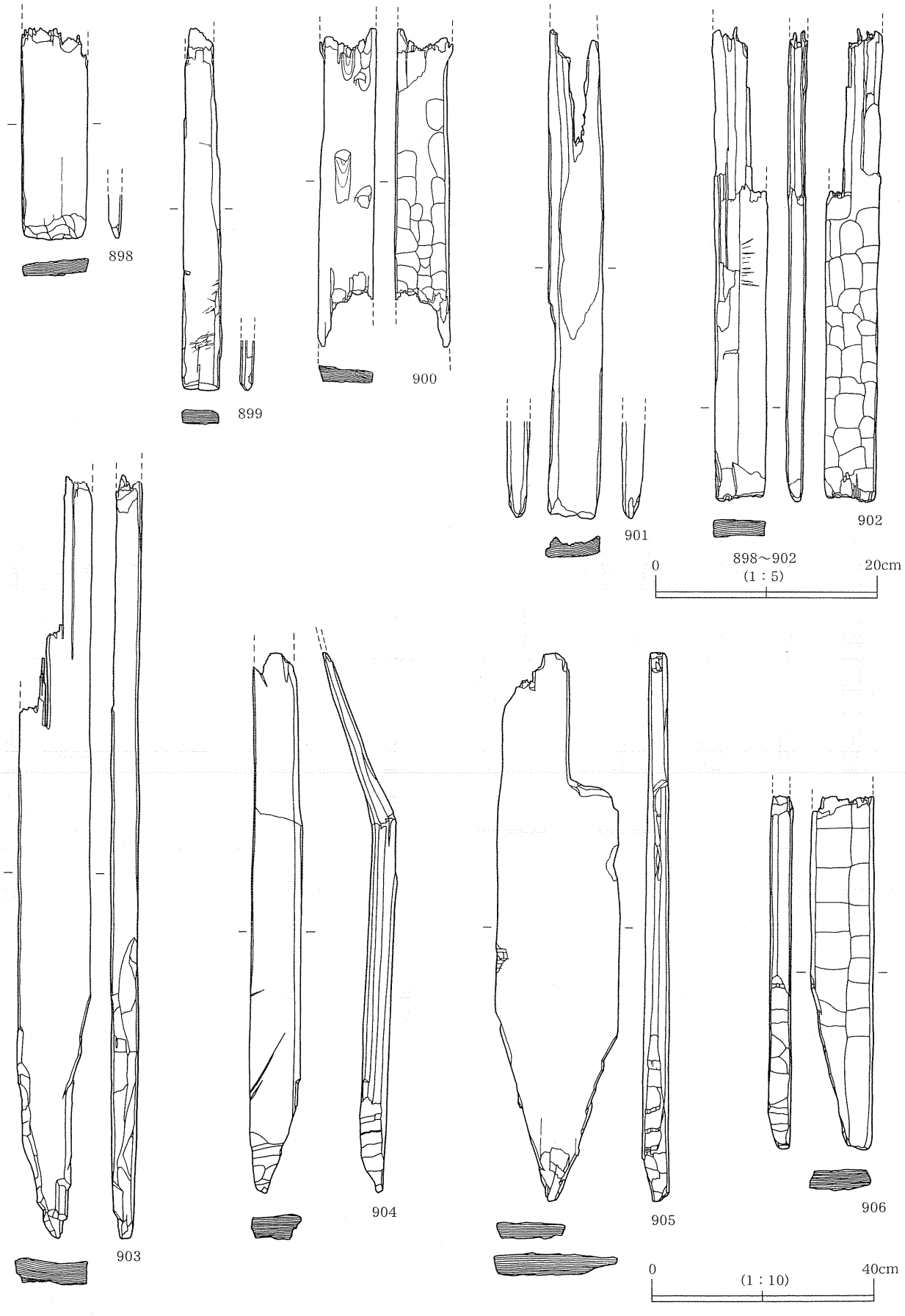

第105図　出土木製品（22）



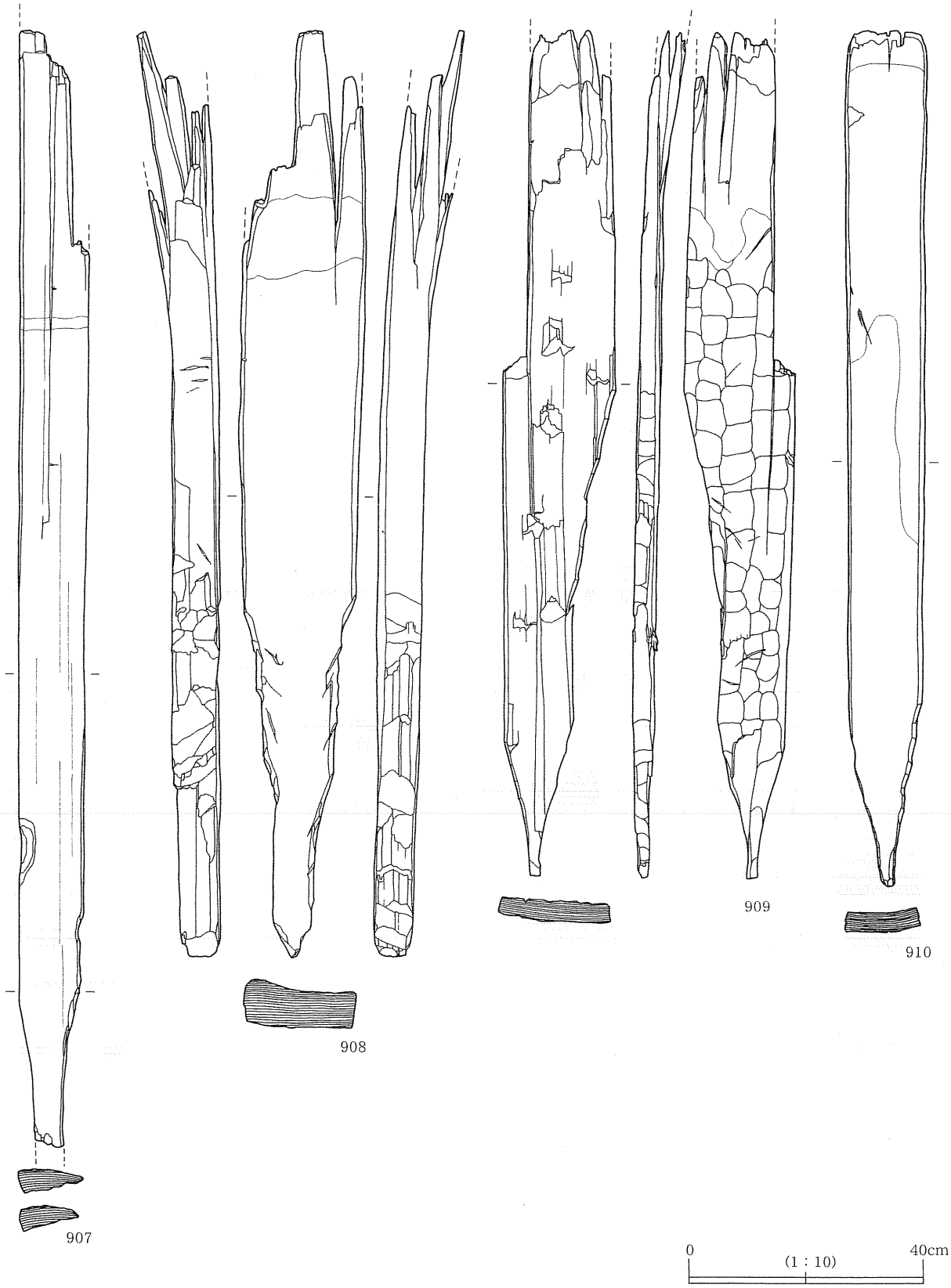

第106図　出土木製品（23）



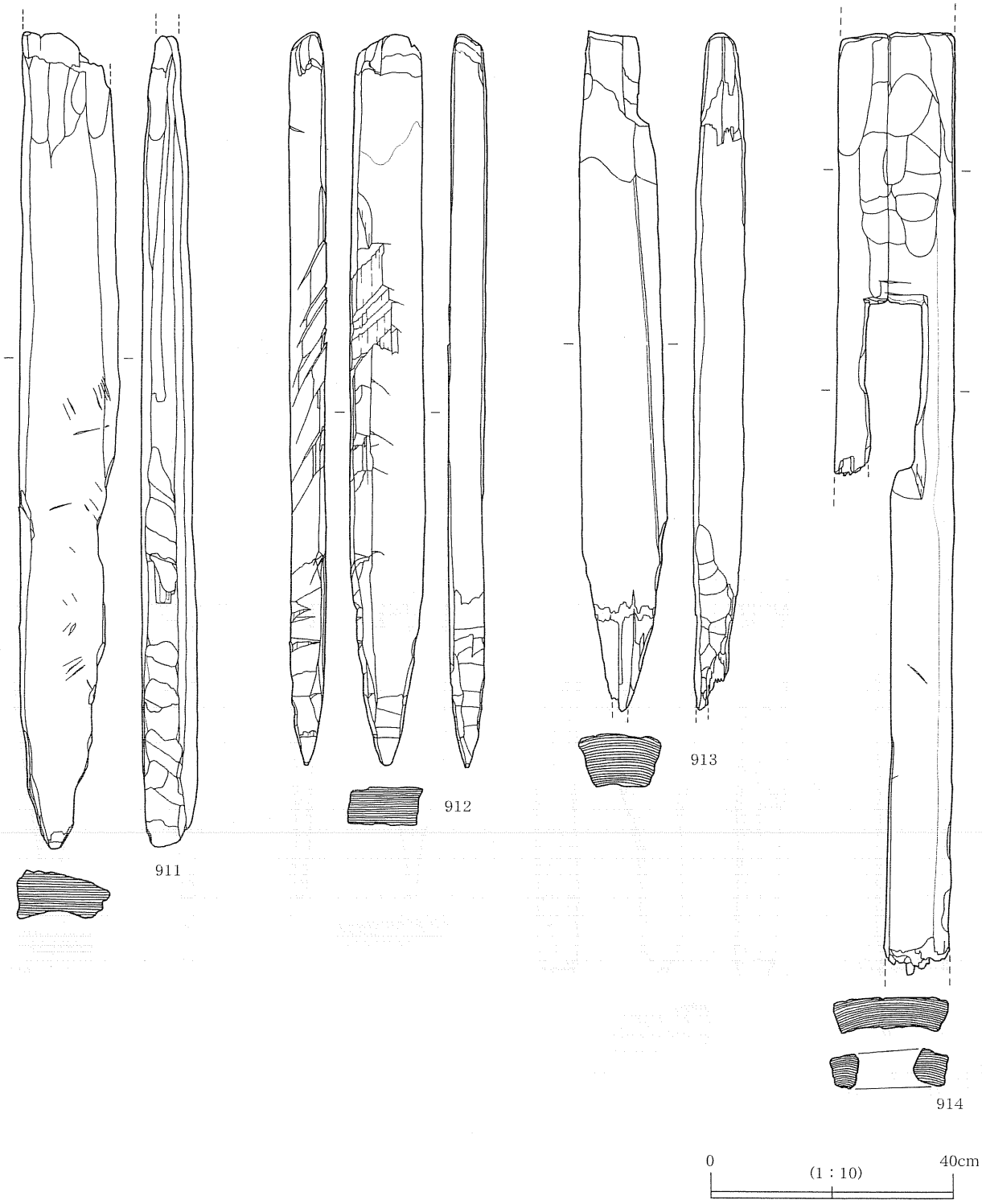

第107図　出土木製品（24）



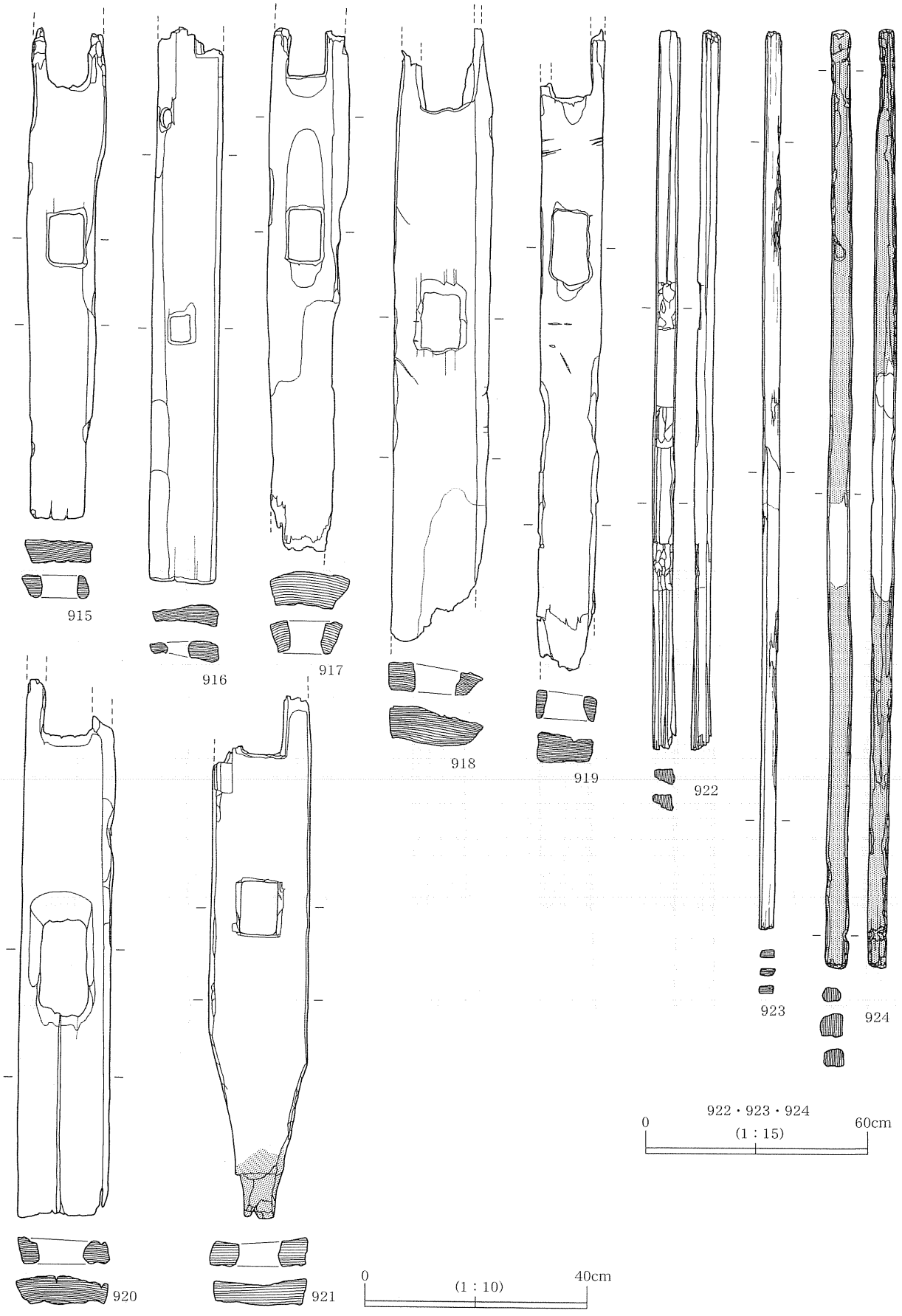

第108図　出土木製品（25）



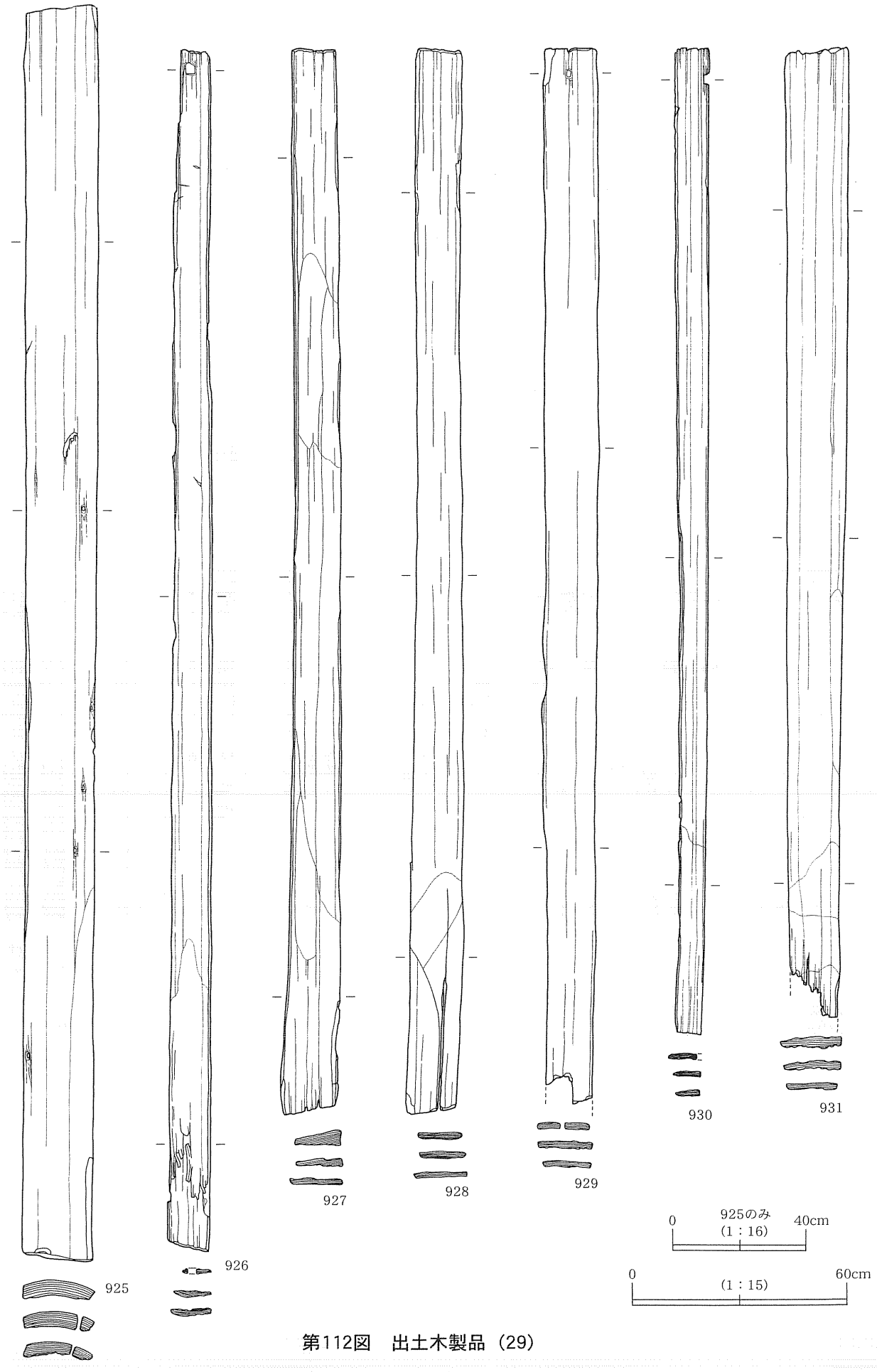

第109図　出土木製品（26）



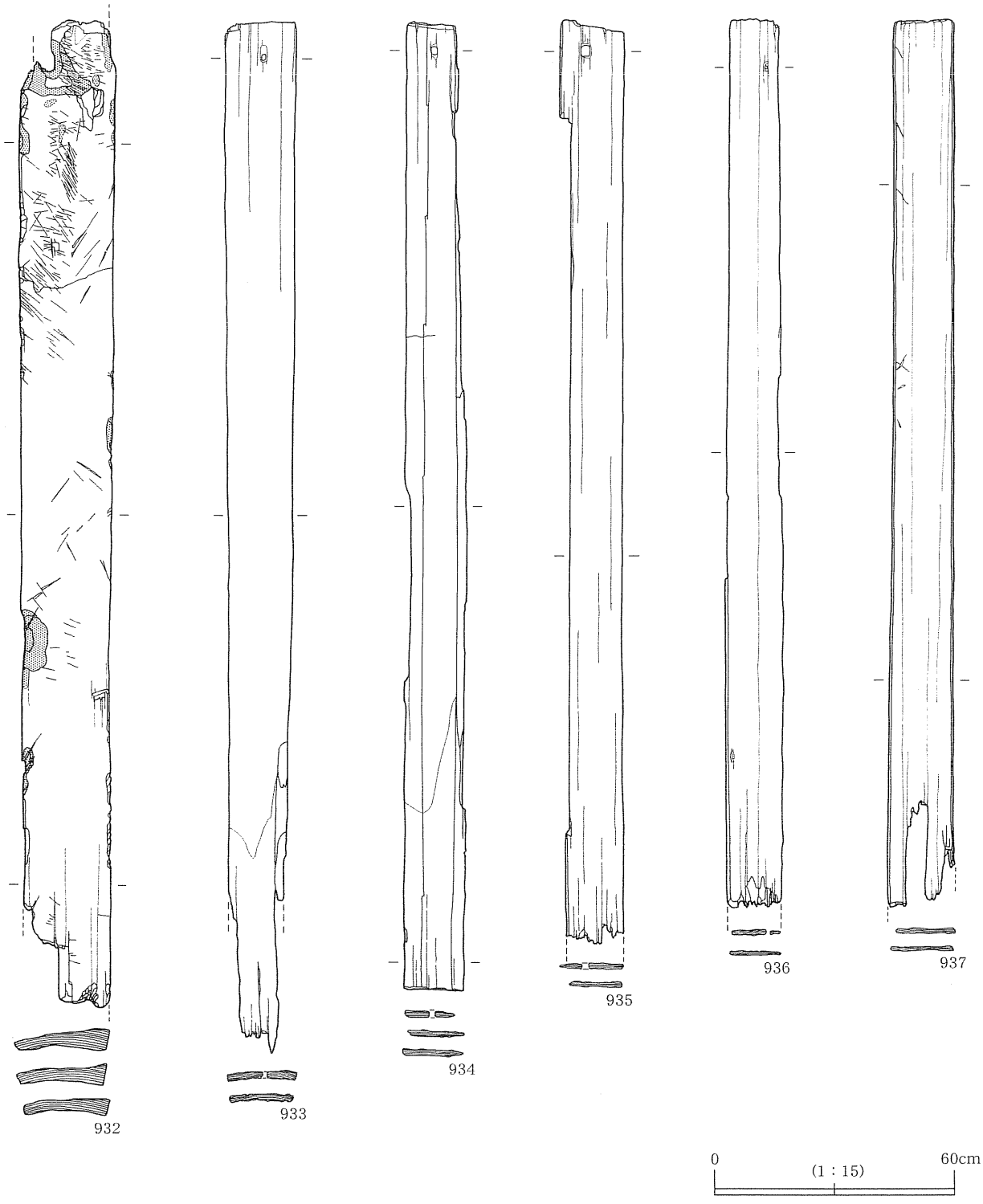

第110図　出土木製品（27）



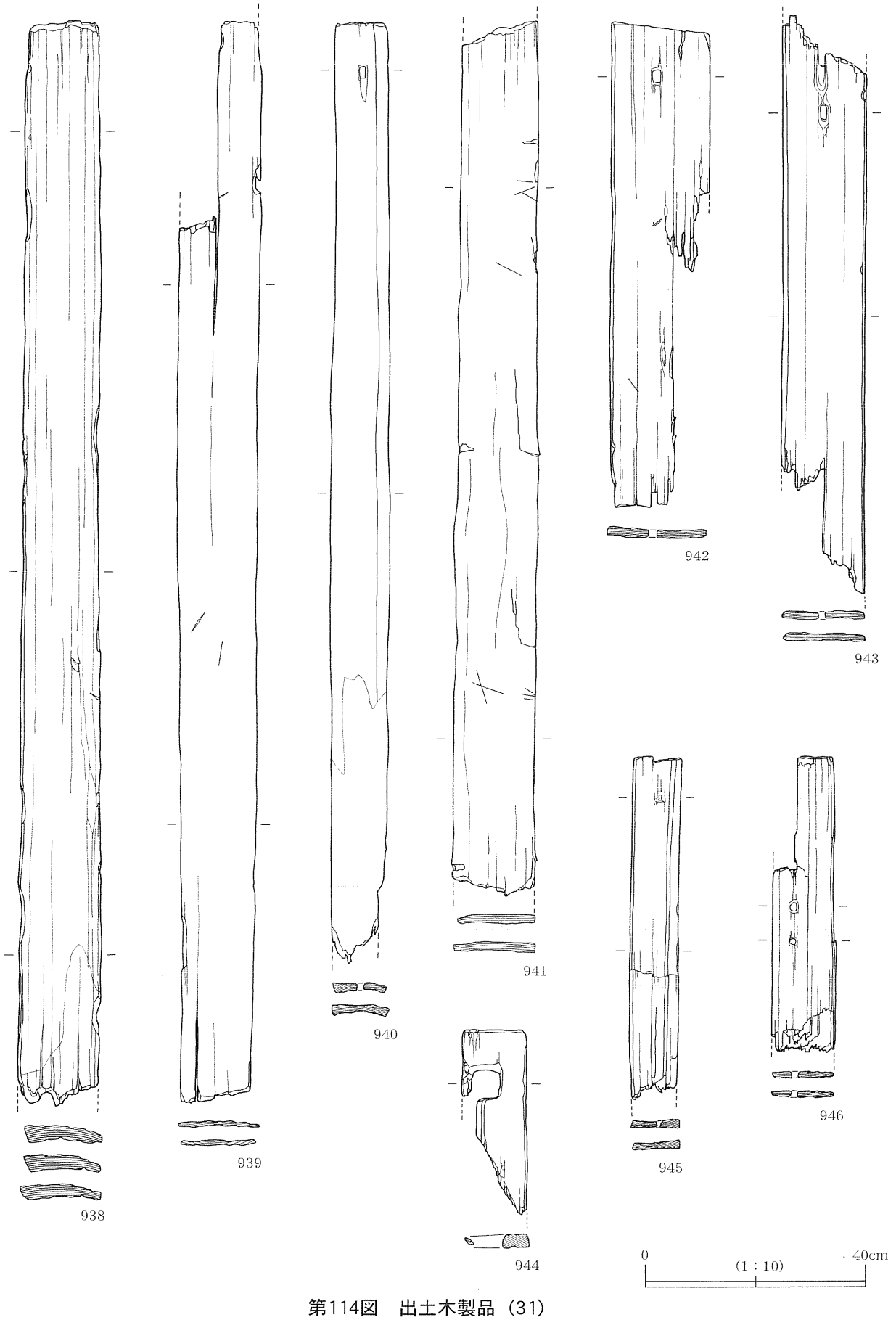

第111図　出土木製品（28）



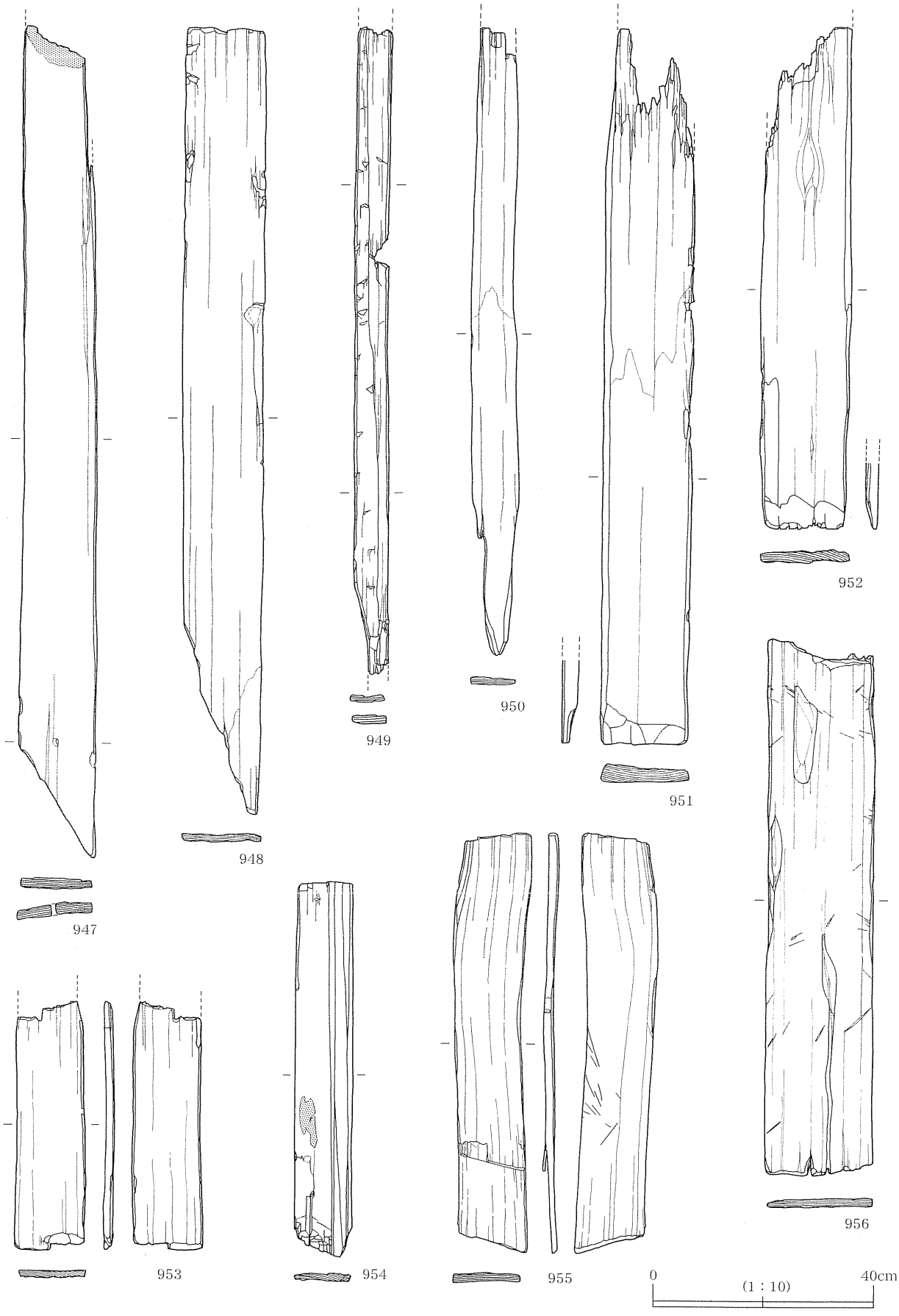

第112図　出土木製品（29）



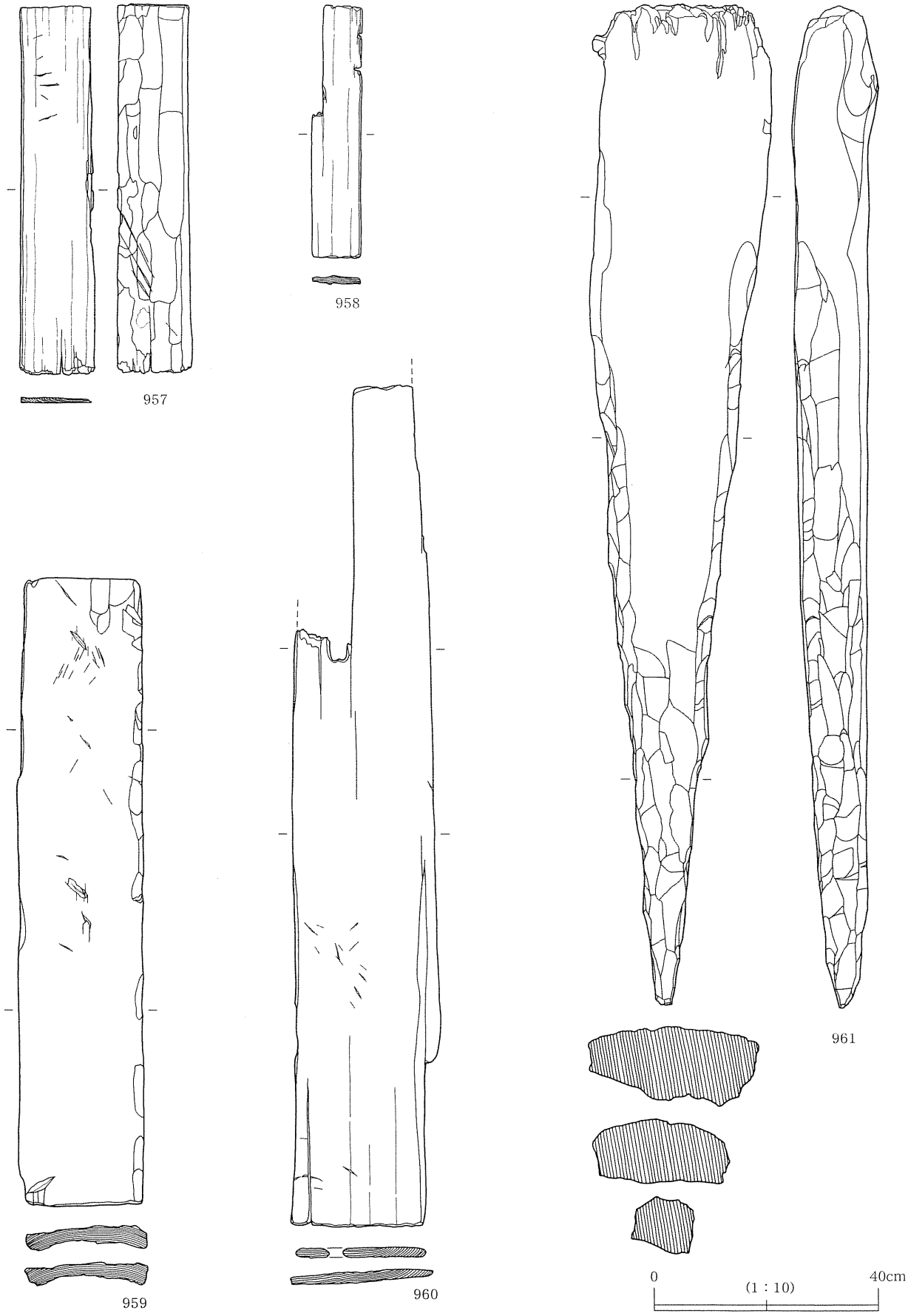

第113図　出土木製品（30）



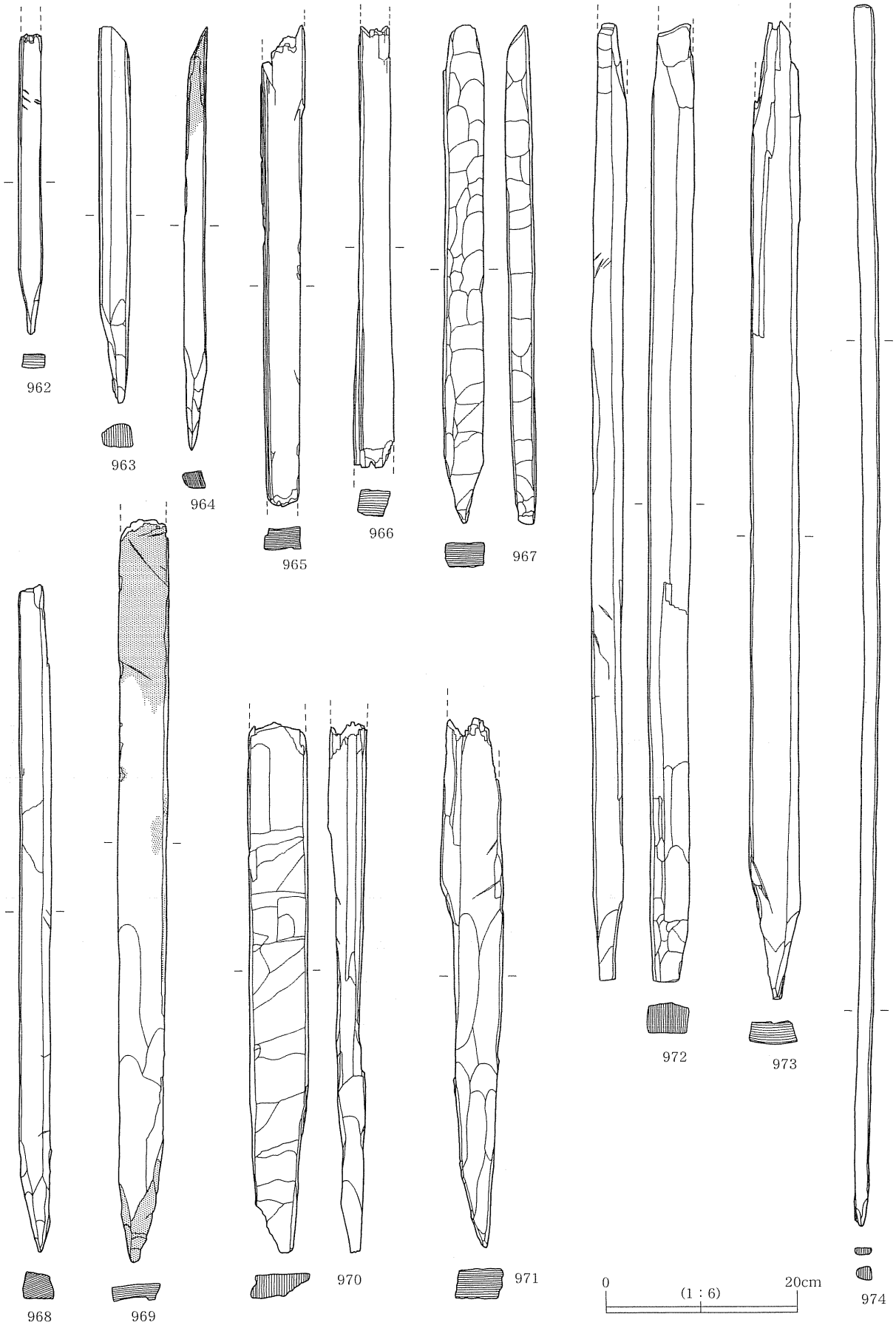

第114図　出土木製品（31）



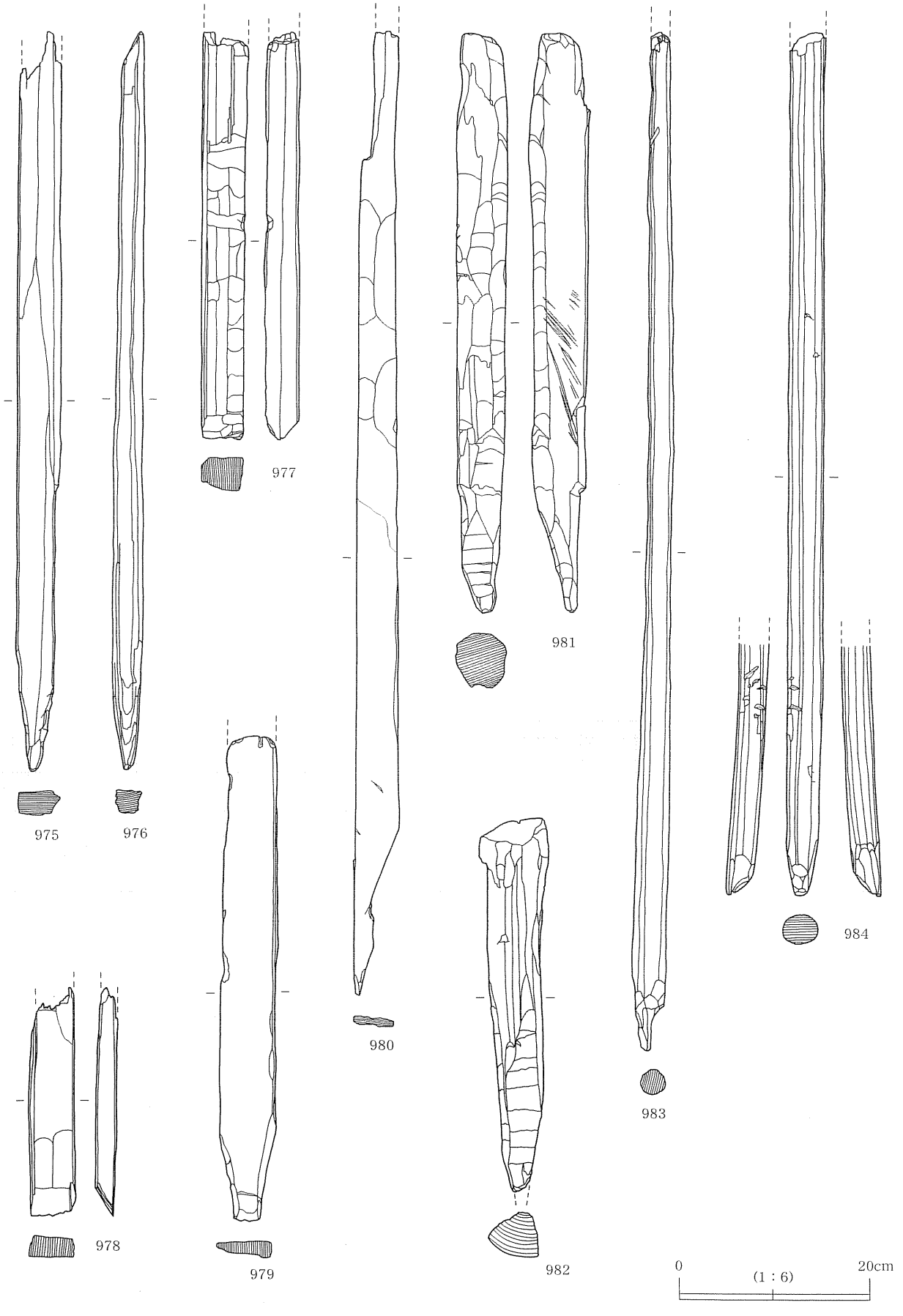

第115図　出土木製品（32）



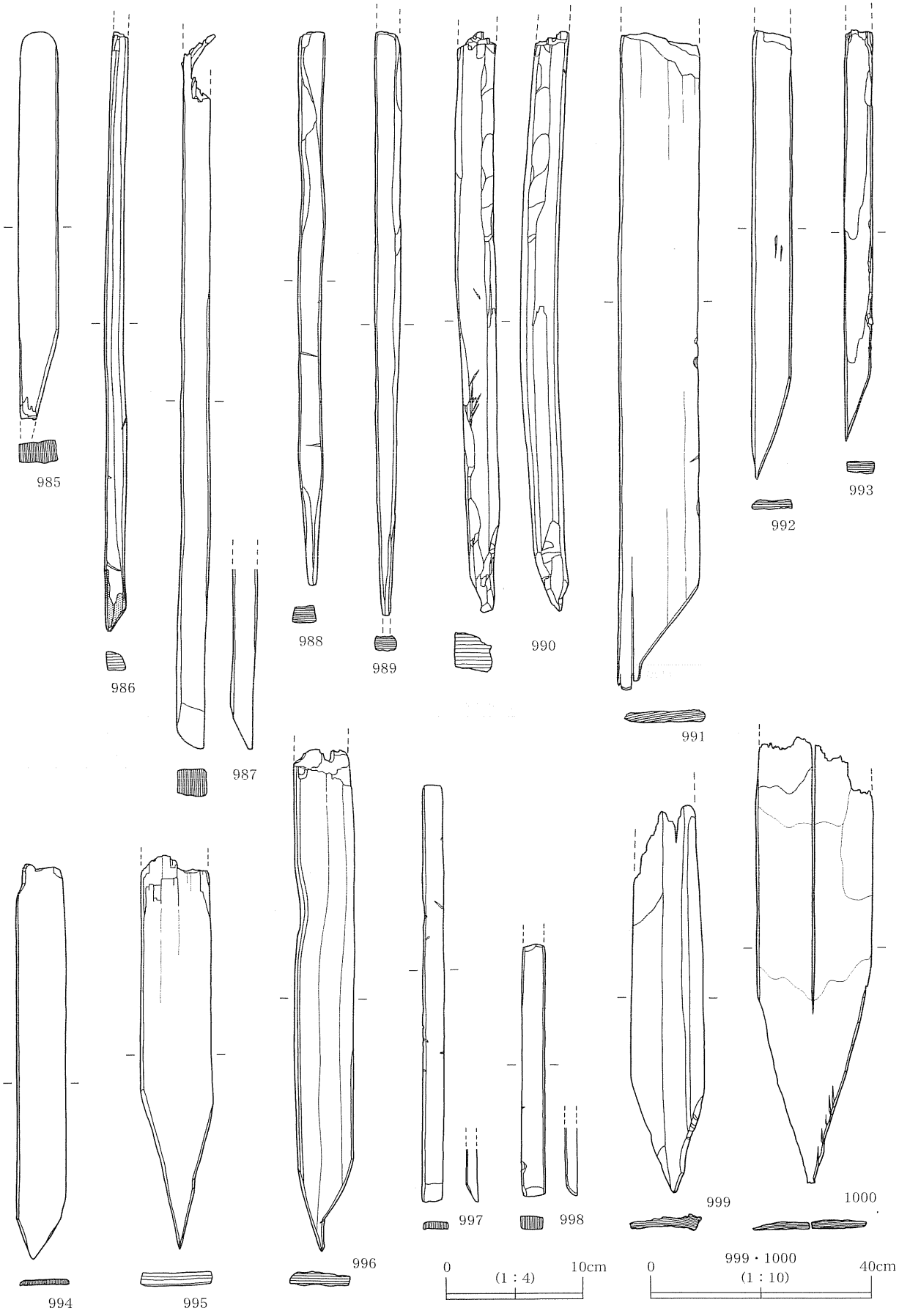

第116図　出土木製品（33）



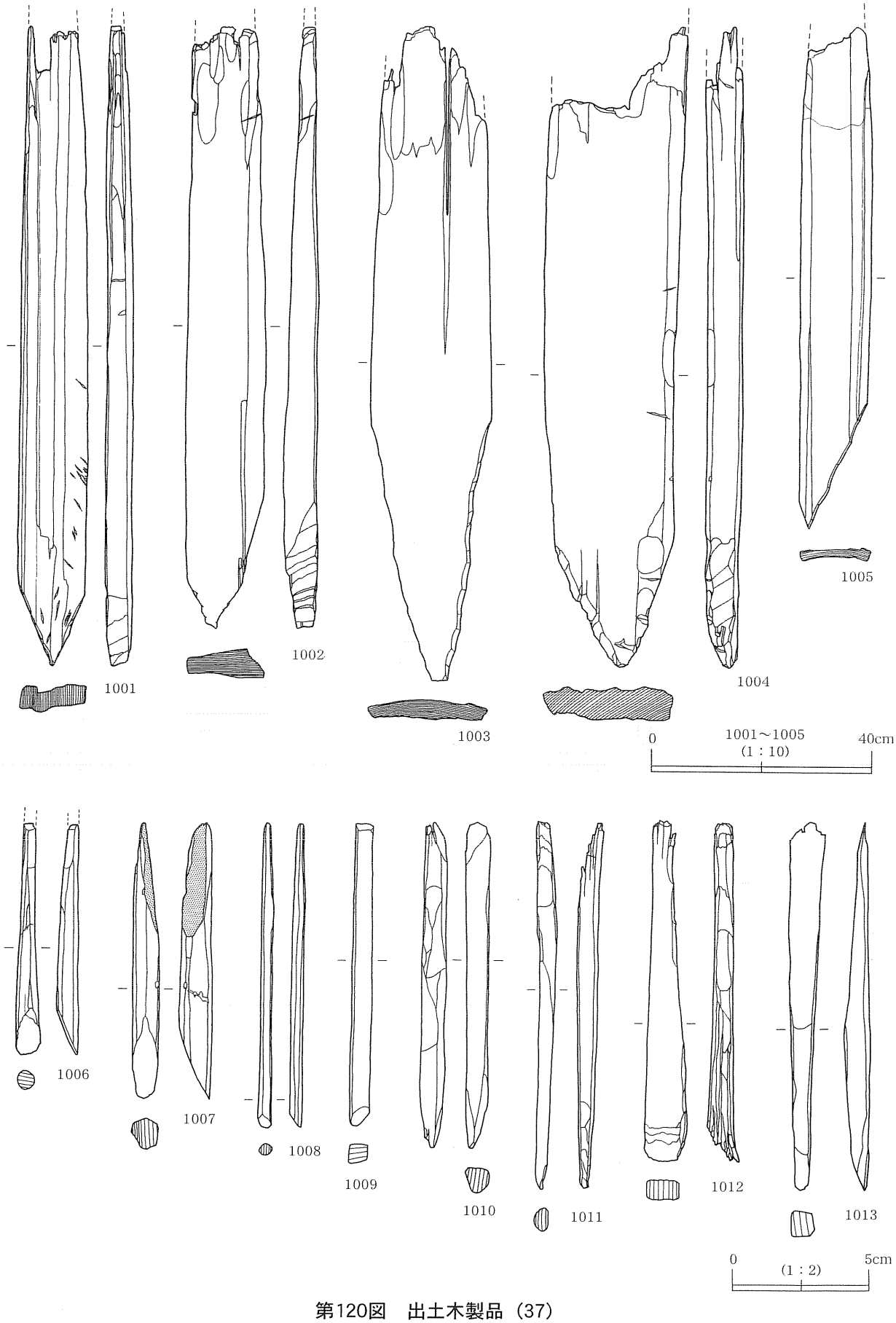

第117図　出土木製品（34）



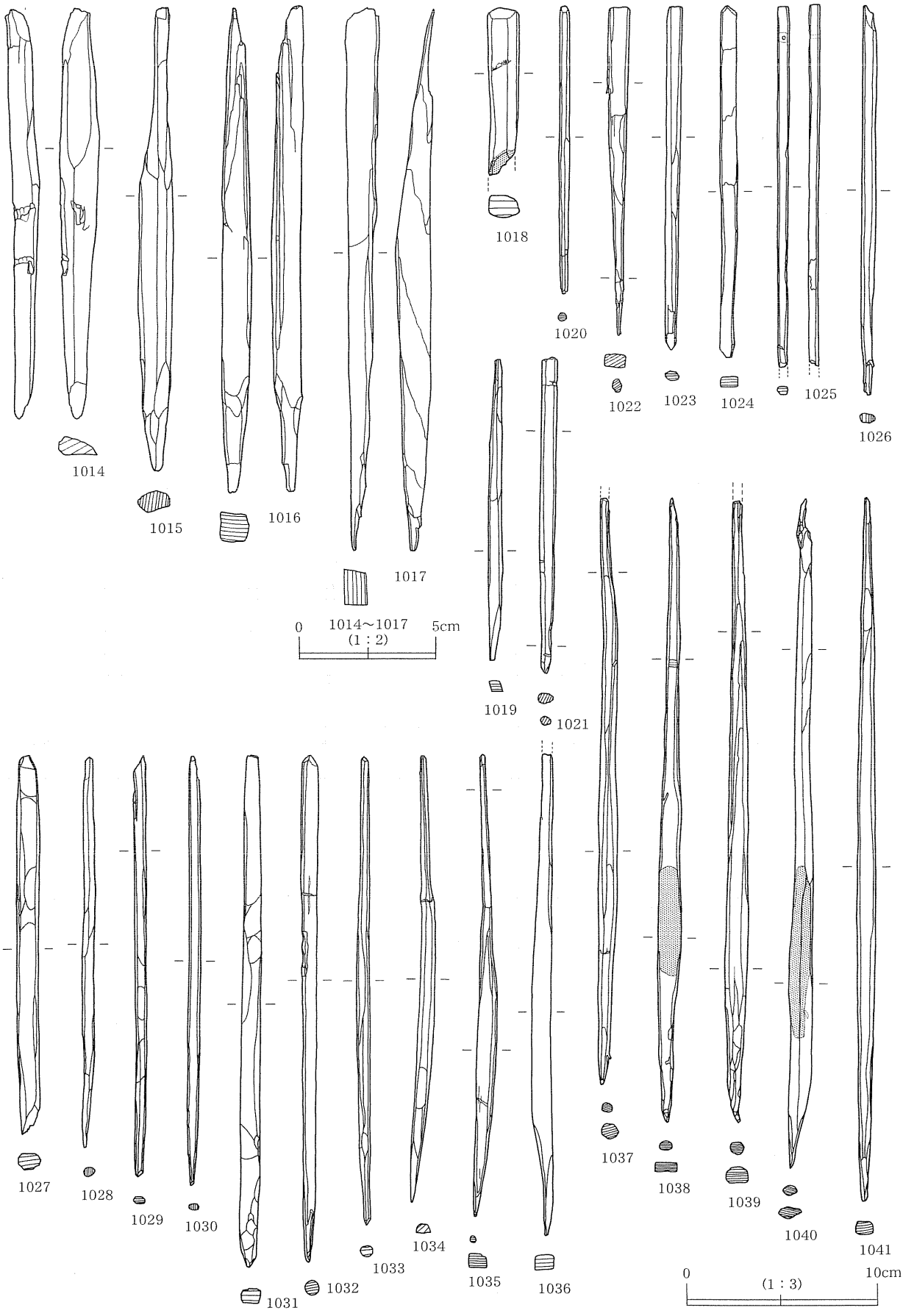

第118図　出土木製品（35）



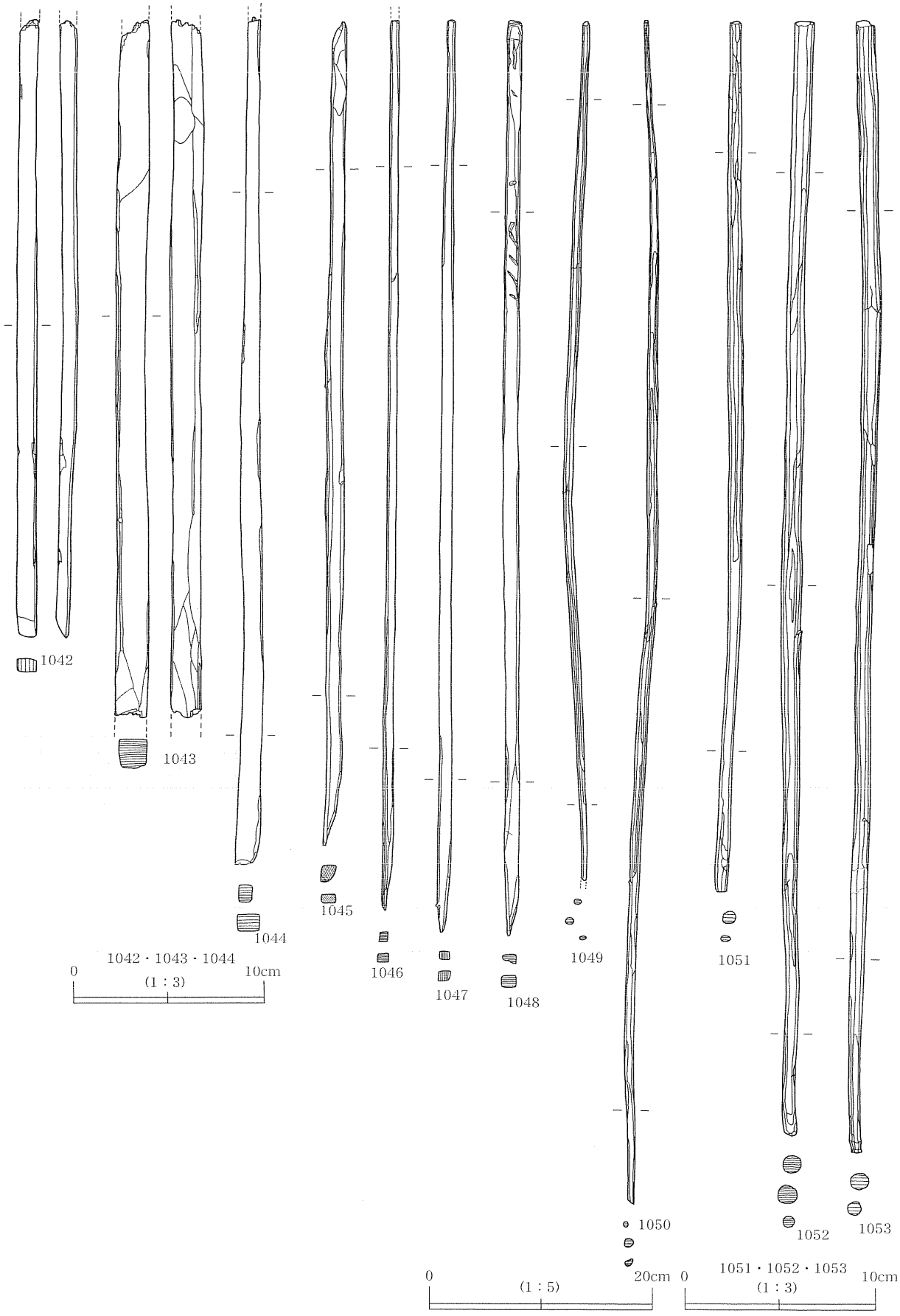

第119図　出土木製品（36）



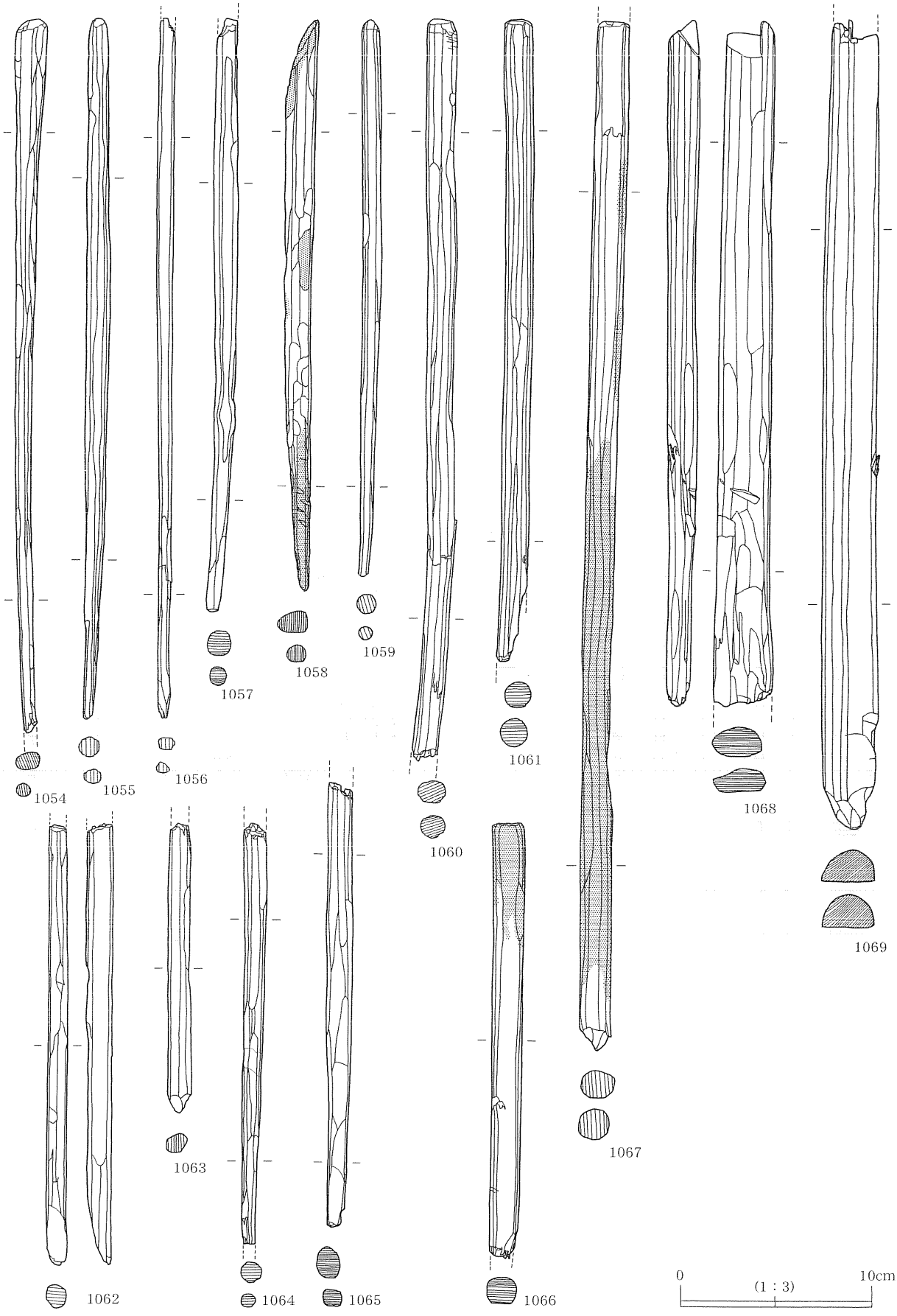

第120図　出土木製品（37）



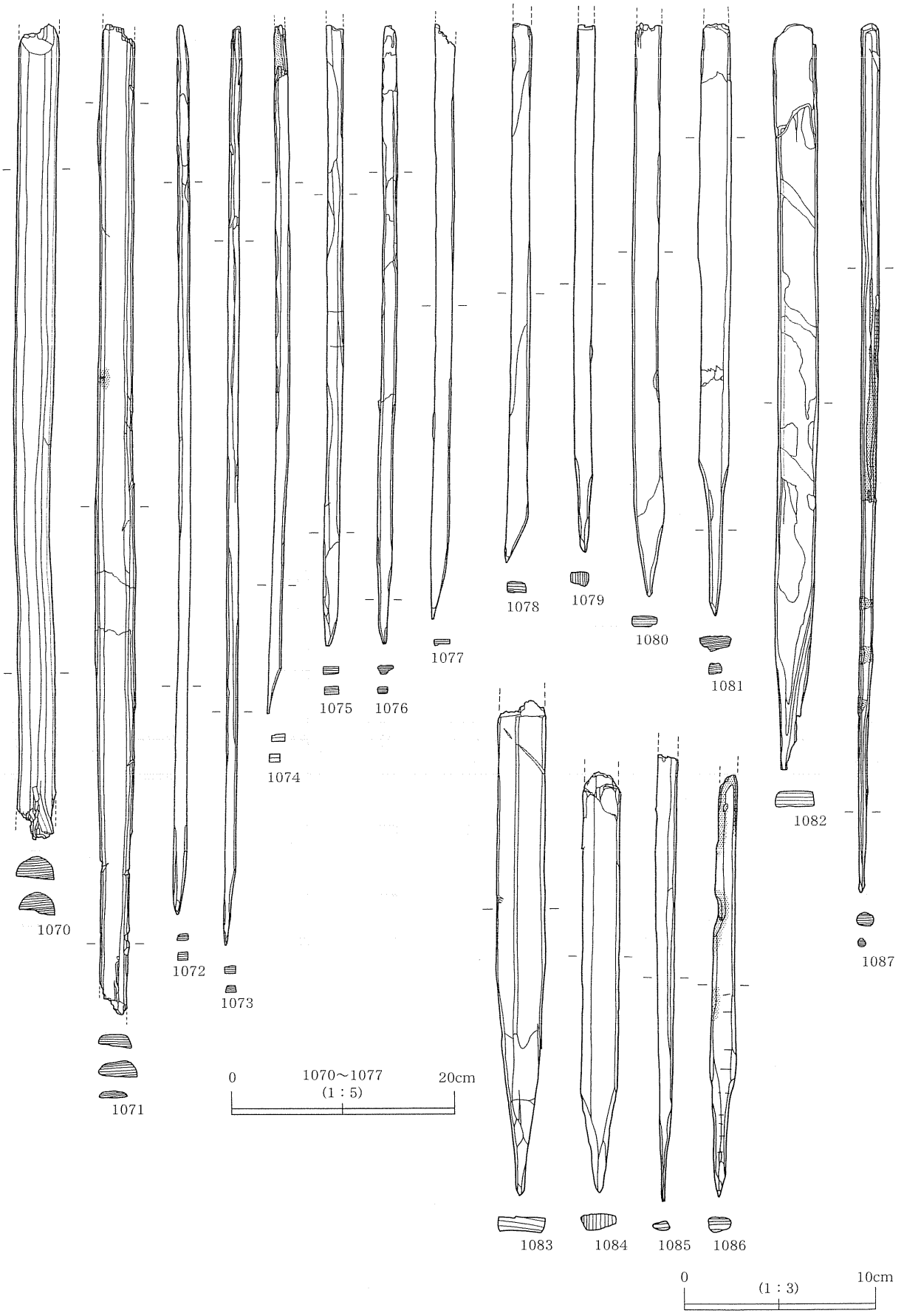

第121図　出土木製品（38）



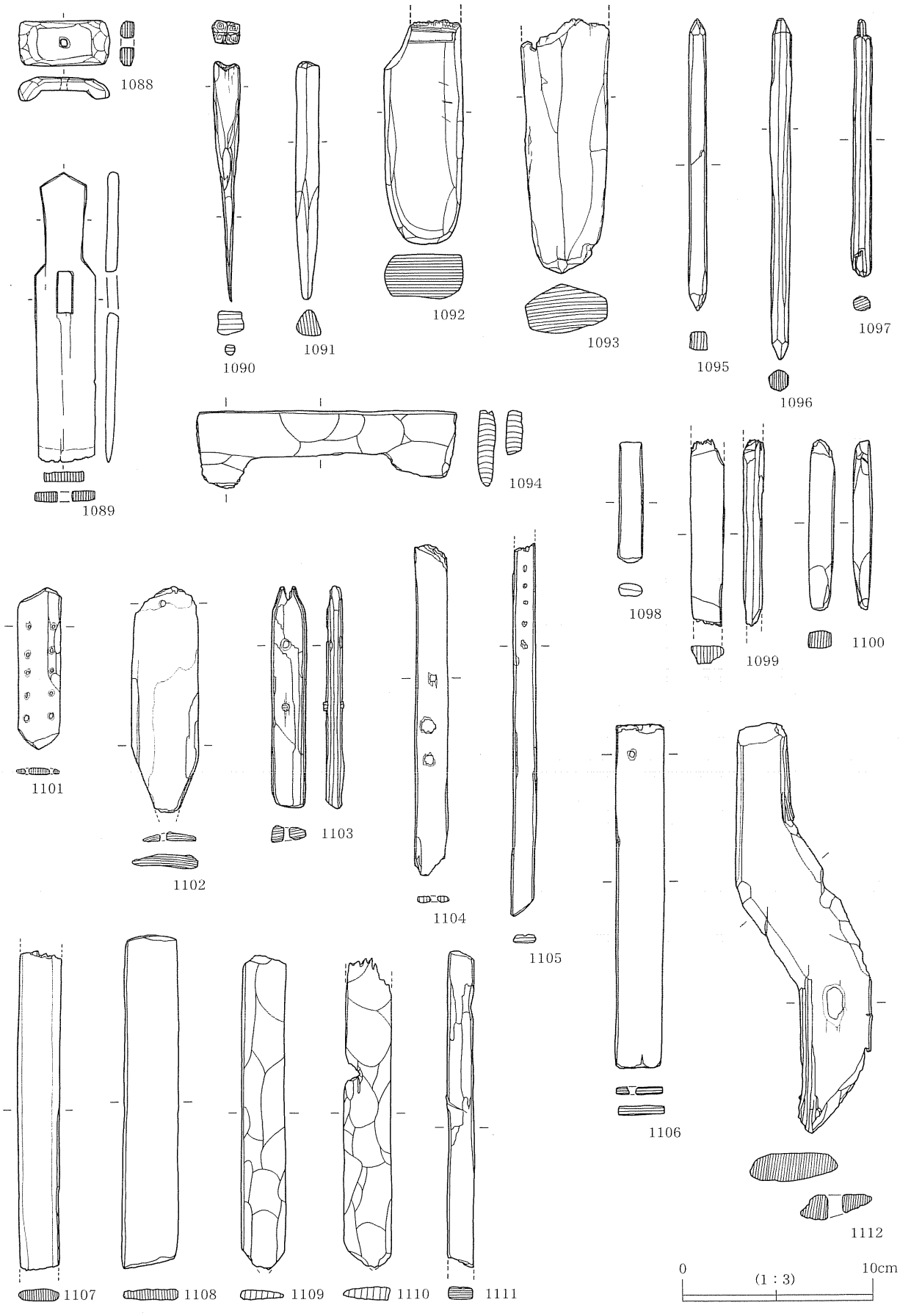

第122図　出土木製品（39）



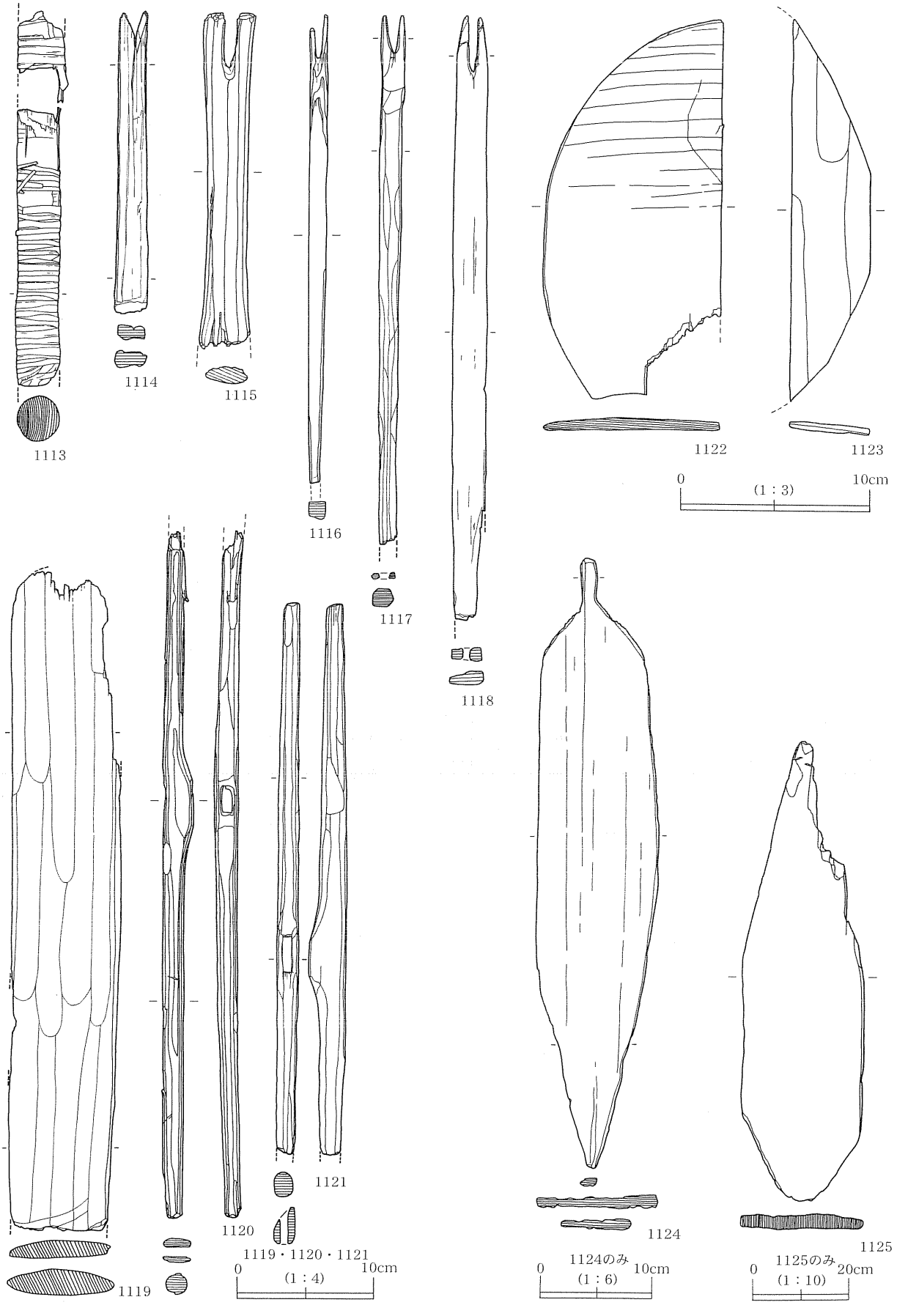

第123図　出土木製品（40）



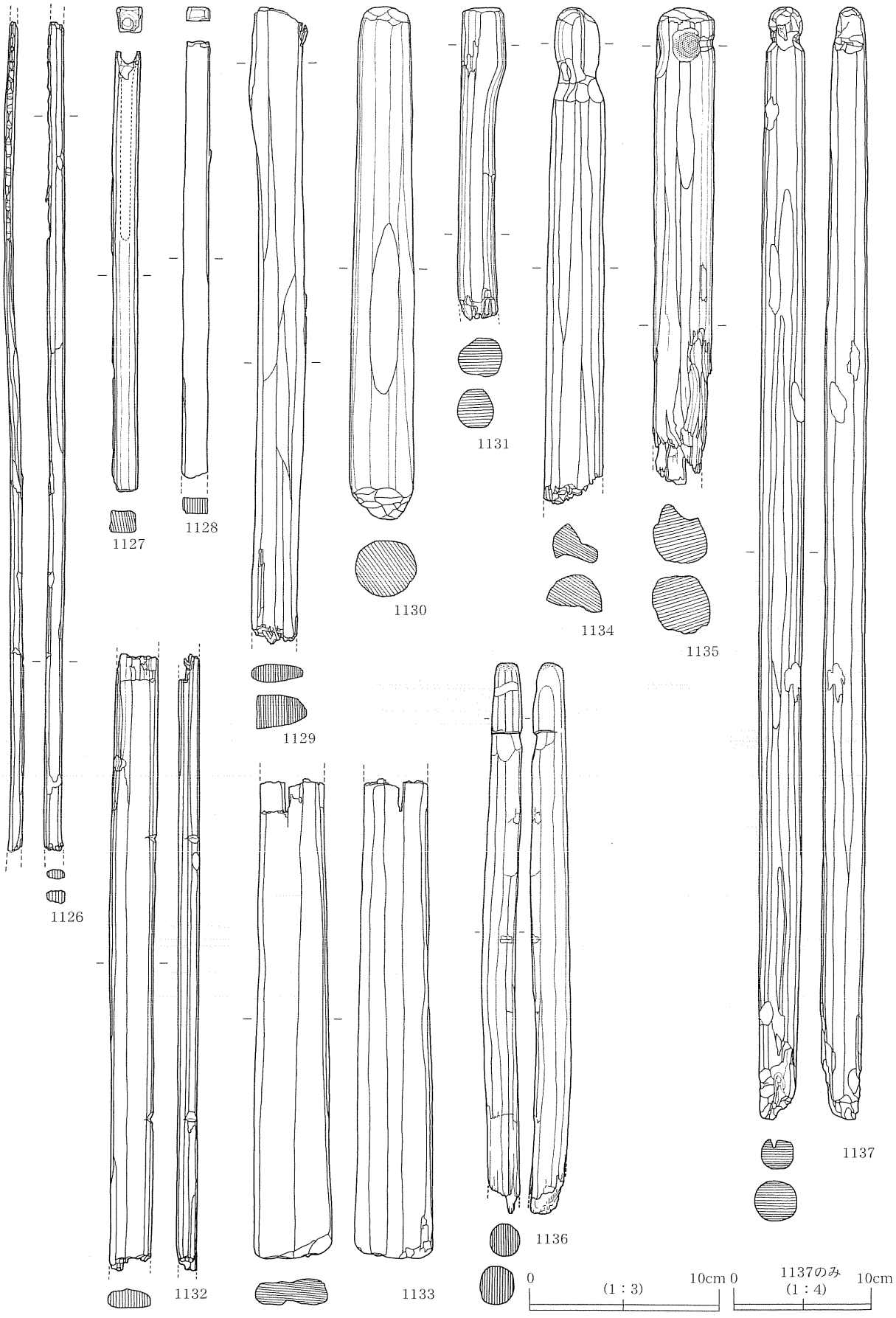

第124図　出土木製品（41）



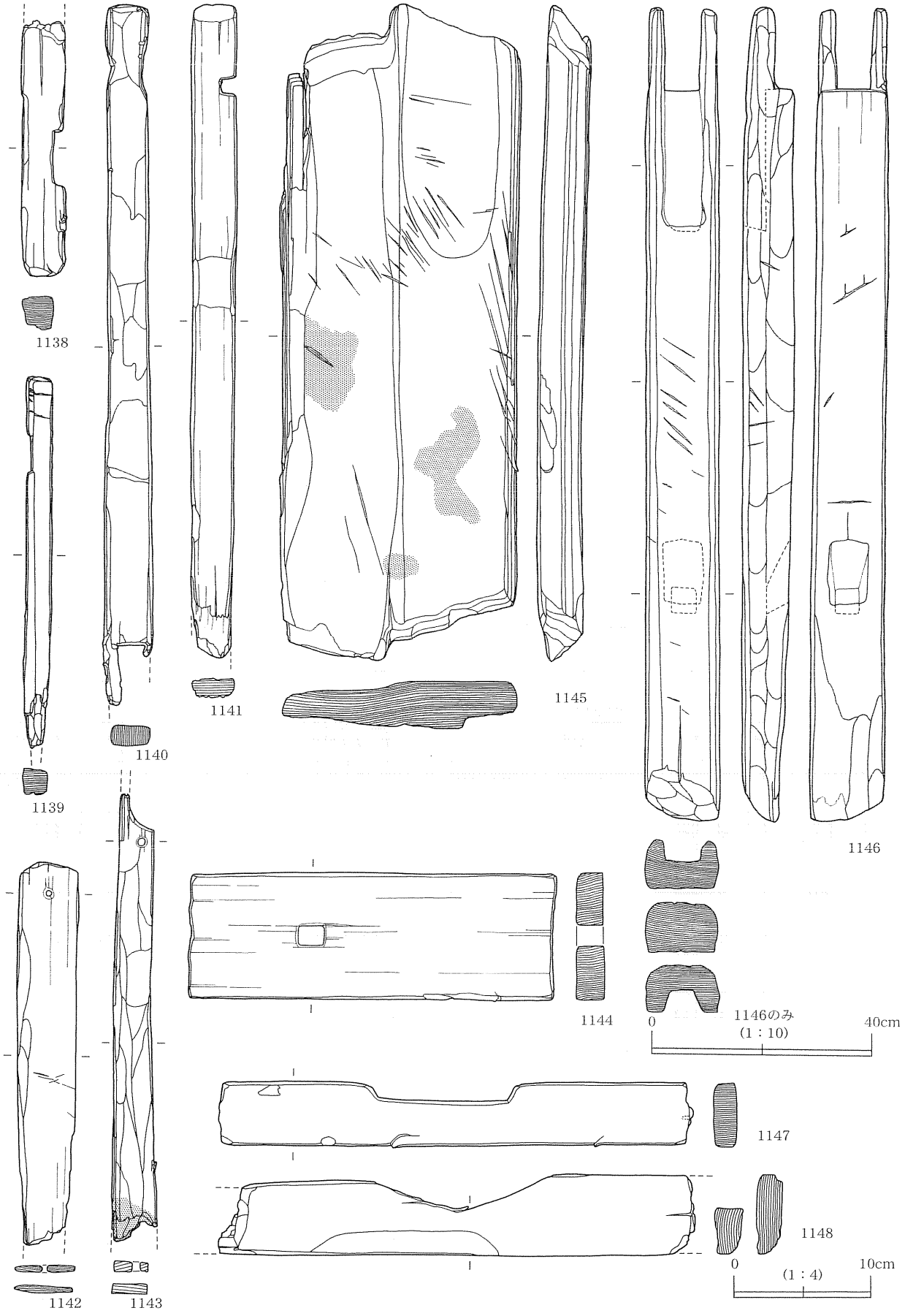

第125図　出土木製品（42）



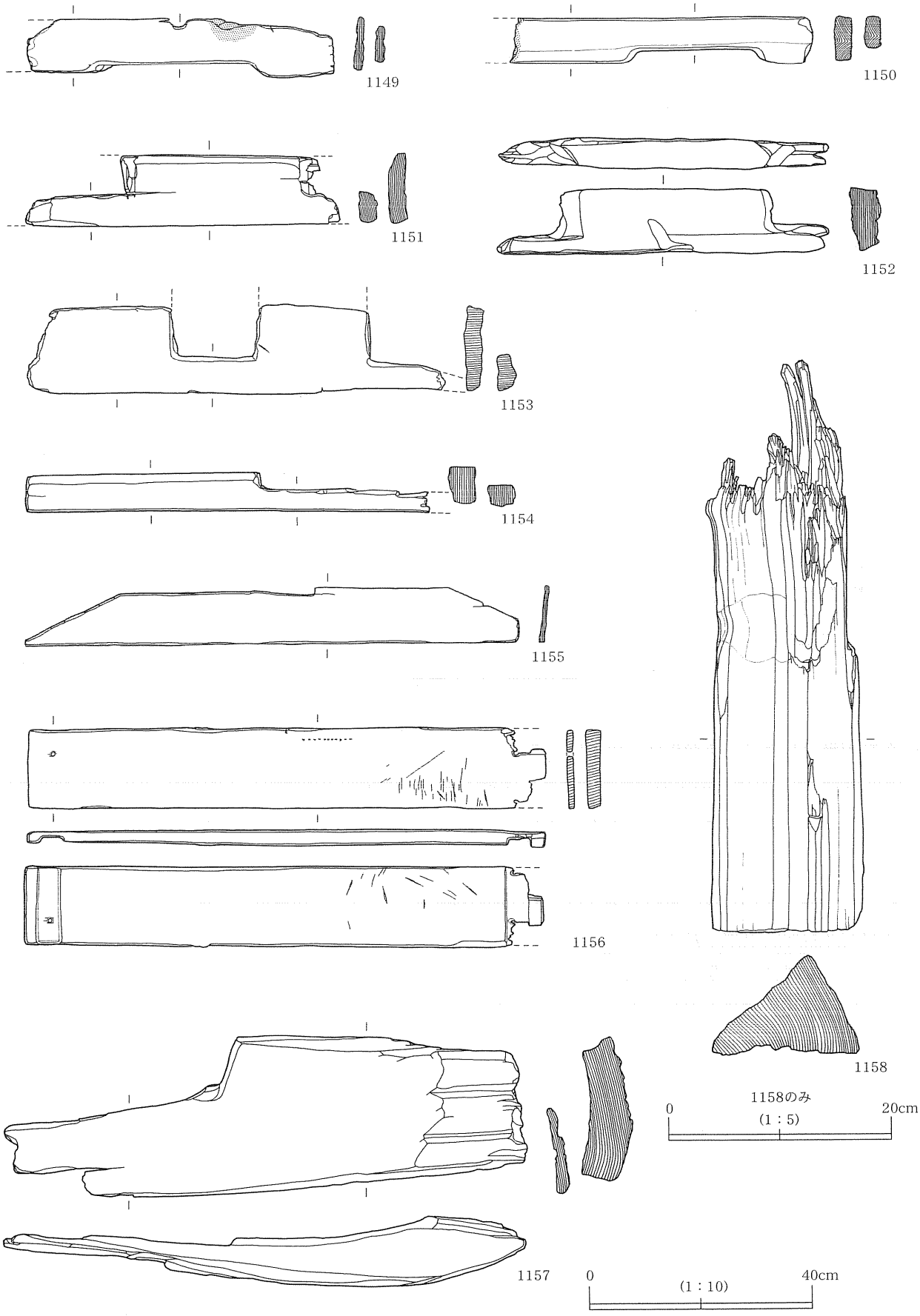

第126図　出土木製品（43）



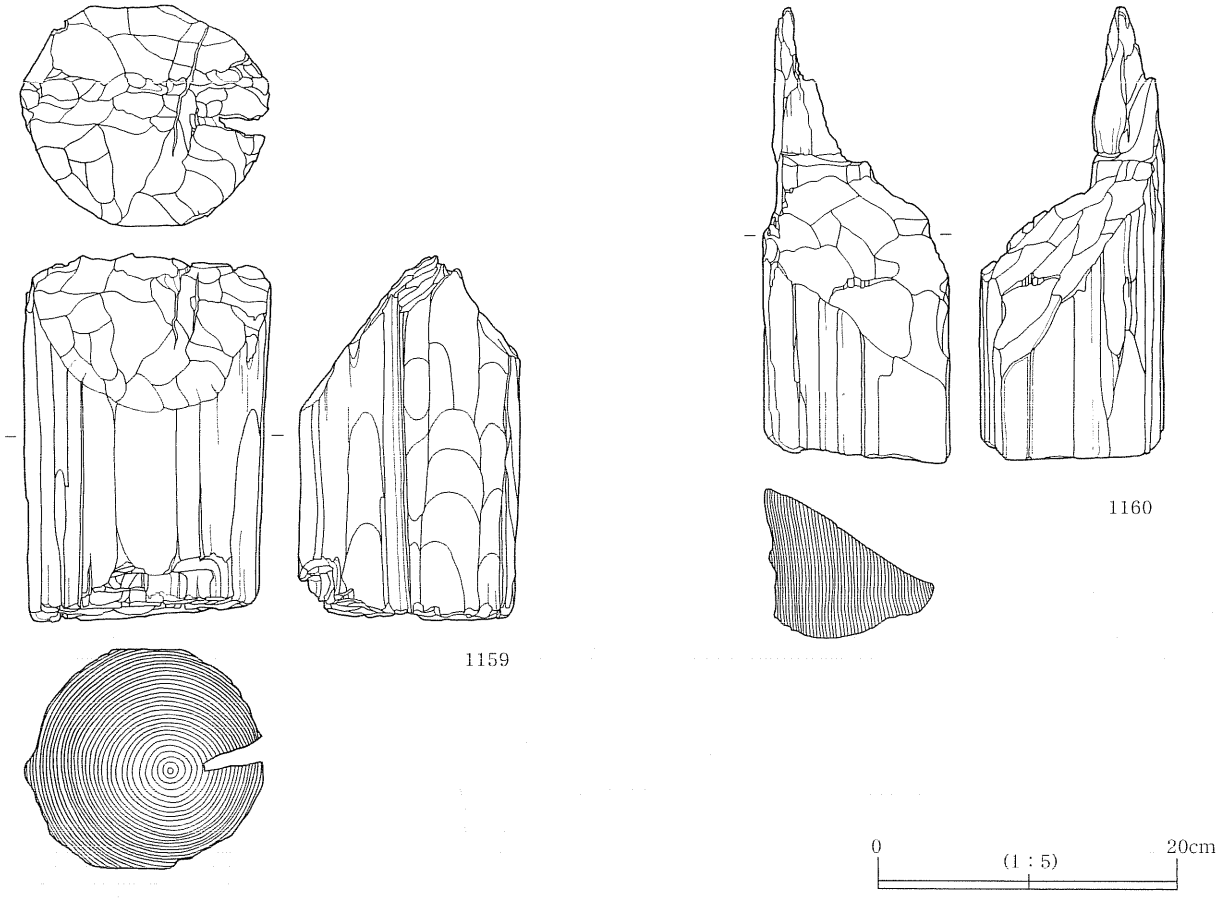

第127図　出土木製品（44）




第128図　出土木製品（45）




第129図　出土木製品（46）




第130図　出土木製品（47）

かな刃痕と被熱による炭化部分が確認できる。

・1146は全長146.2cmの大型の部材である。上端は両短辺を棒状に突き出し、その間に幅6.7cmの溝状の刳り込みを施す。刳り込みの先端部は内側に入る。下端は溝がある面から斜めに削り出される。裏面下端寄りには上場10.6×７cm、下場3.7×4.9cmの斜めの刳り込みがある。両面ともに大きな刃跡がある。下端を突き刺し、斜めの刳り込みには別の部材を差し込み、紡織機の可能性がある。(註15)

・1147～1154は方形、長方形、「V」字状などの切り欠きがある。

・1155は切妻部分の屋根下の板材に似る。

・1156は両端に溝状の切り欠きをもち、他の部材と組み合わせると考えられる。

・1157は表裏面とも緩いカーブを描くように加工されていて、舟の船首に似る。

・1158～1160は円柱状で、1158は６分割程度のもの、1159は多角形状に加工され、一方の木口は三角形状に尖る。1160は非常に大きな材を割断したもので、一方の木口にはチョウナ痕が残る。

註１　静岡県埋蔵文化財調査研究所　『瀬名遺跡Ⅲ（遺物編Ⅰ）　静清バイパス（瀬名地区）埋蔵文化財調査報告書３』
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第47集　1994（平成６）年

註２　奈良国立文化財研究所　『木器集成図録―近畿古代篇―』の分類による

註３～７　註２に同じ

註８　黒崎直　「斎串考」『日本考古学論集３』　吉川弘文館　1986（昭和61）年

註９　山形県教育委員会　『俵田遺跡第２次発掘調査報告書』　山形県埋蔵文化財調査報告書第77集　1984（昭和59）年

註10　宮本長二郎氏のご教示による

註11　秋田県教育委員会　『胡桃館埋没建物遺跡発掘調査概報』　秋田県文化財調査報告書第14集　1968（昭和43）年

註12・13　註10に同じ

註14　山形県西沼田遺跡でも類似するものが出土しているが不明木製品と報告されている。

山形県教育委員会　『西沼田遺跡発掘調査報告書』　山形県埋蔵文化財調査報告書第101集　1986（昭和61）年

註15　註10に同じ

引用・参考文献

奈良国立文化財研究所　『木器集成図録―近畿古代篇―』　奈良国立文化財研究所史料第27冊　1984（昭和59）年

静岡県埋蔵文化財調査研究所　『瀬名遺跡Ⅲ（遺物編Ⅰ）静清バイパス（瀬名地区）埋蔵文化財調査報告書３』
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第47集　1994（平成６）年

佐助ヶ谷遺跡発掘調査団　『佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）発掘調査報告書』　鎌倉市　1993（平成５）年

静岡県埋蔵文化財調査研究所　『瀬名遺跡Ⅴ（遺物編Ⅱ）静清バイパス（瀬名地区）埋蔵文化財調査報告書５』
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第79集　1996（平成８）年

宮城県教育委員会　『山王遺跡Ⅲ―仙塩道路建設関係遺跡発掘調査報告書―』　宮城県文化財調査報告書第170集　1996（平成８）年

## ３　土製品

土製品には、土玉・紡錘車・羽口がある。

**①土玉**（第29図35、図版11）

土玉はＳＫ47より１点出土した。長径1.3cm、短径1.1cmで、径0.3cmの孔があけられている。

**②紡錘車**（第29図44、第134図1206・1207、図版11）

土製の紡錘車がＳＫ62土坑より１点、ＳＬ17河川跡より１点、遺構外より１点出土した。いずれも断面形は台形で、中央の孔はほぼ垂直にあけられている。

**③羽口**（第28図15・16、第83図606）

鞴の羽口がＳＢ58掘立柱建物跡Ｐ１から２点（同一個体であろう）とＳＬ27河川跡から１点出土している。調査区内にはまったく焼土を伴った生産遺構がないことから持ち込まれたものと推測される（調査区外の生産遺構の存在は考えられる）。15は先端部で、高温により発泡している。16は反対側吸気部の破片と考えられる。606は一端が高温により発泡している。

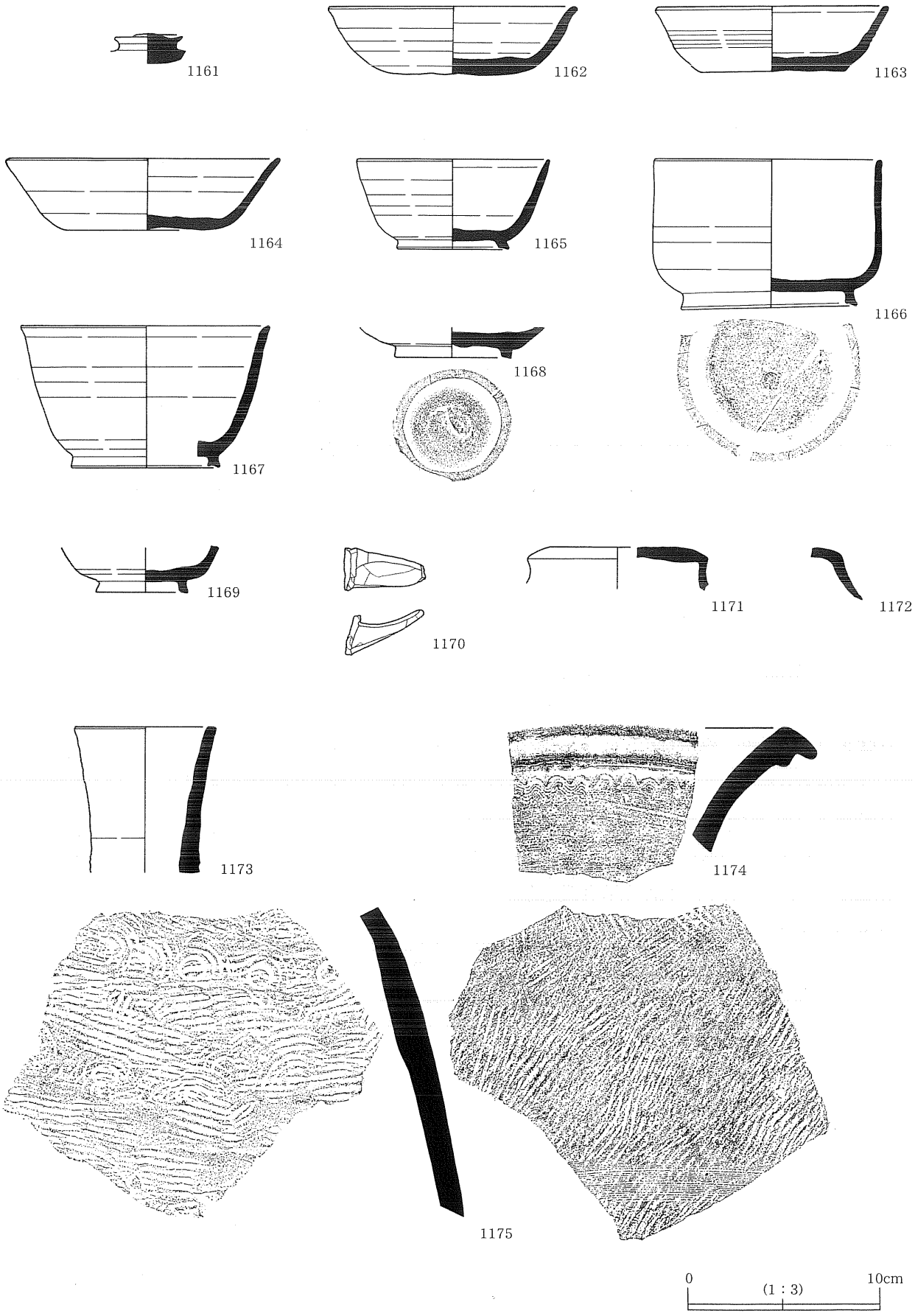
## ４　石製品

石製品には、勾玉・紡錘車がある。

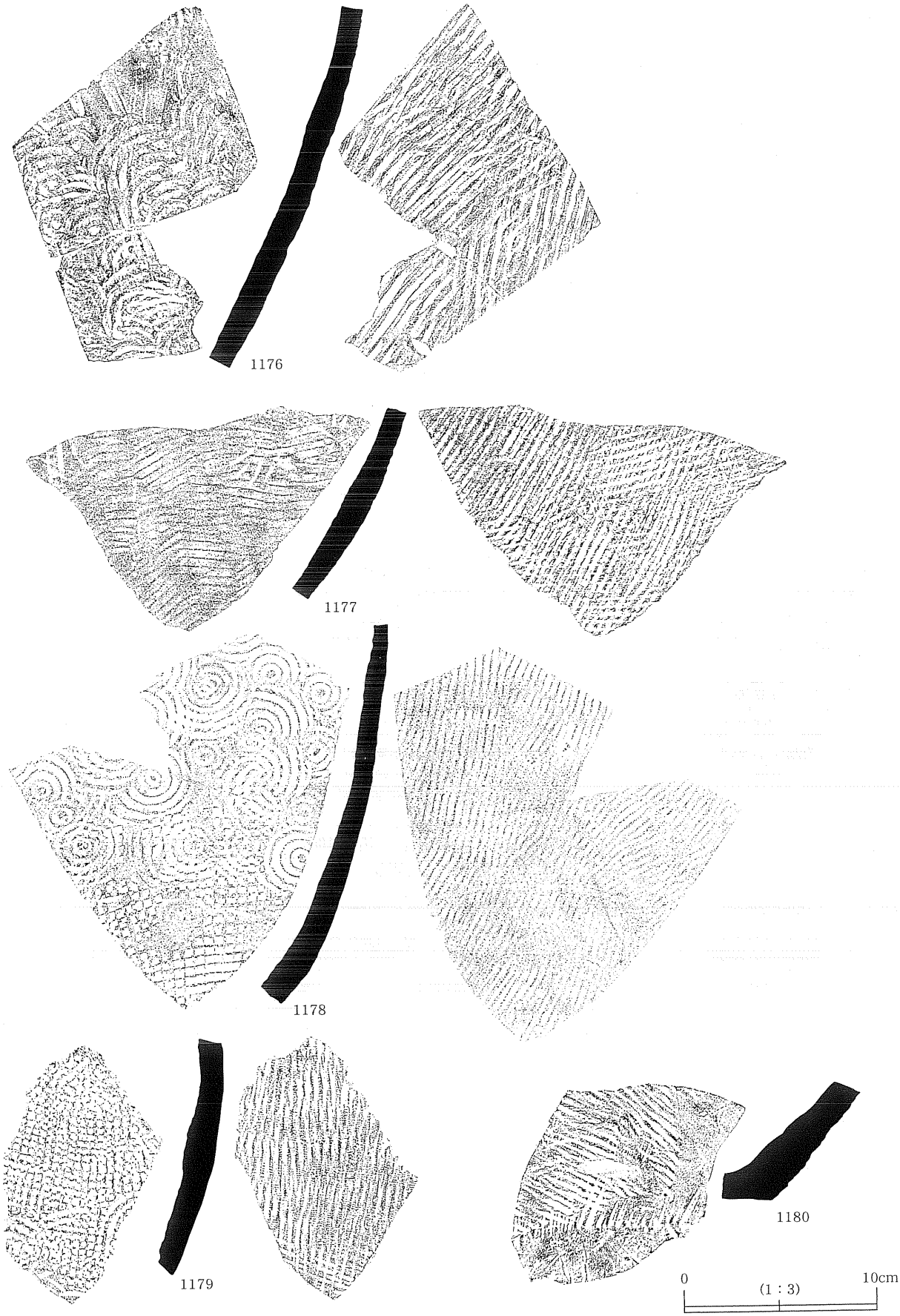
**①勾玉**（第28図29、図版11）

勾玉は、ＳＫ44の確認面より１点出土した。先端部が欠損しているが、全体が緩やかに曲がるＬ字状を呈する。残存長は2.5cmで、屈曲する部分で1.6cmを計る。屈曲側に径３～４mmの小孔があり、屈曲部側面には浅い小溝が２条施されている。

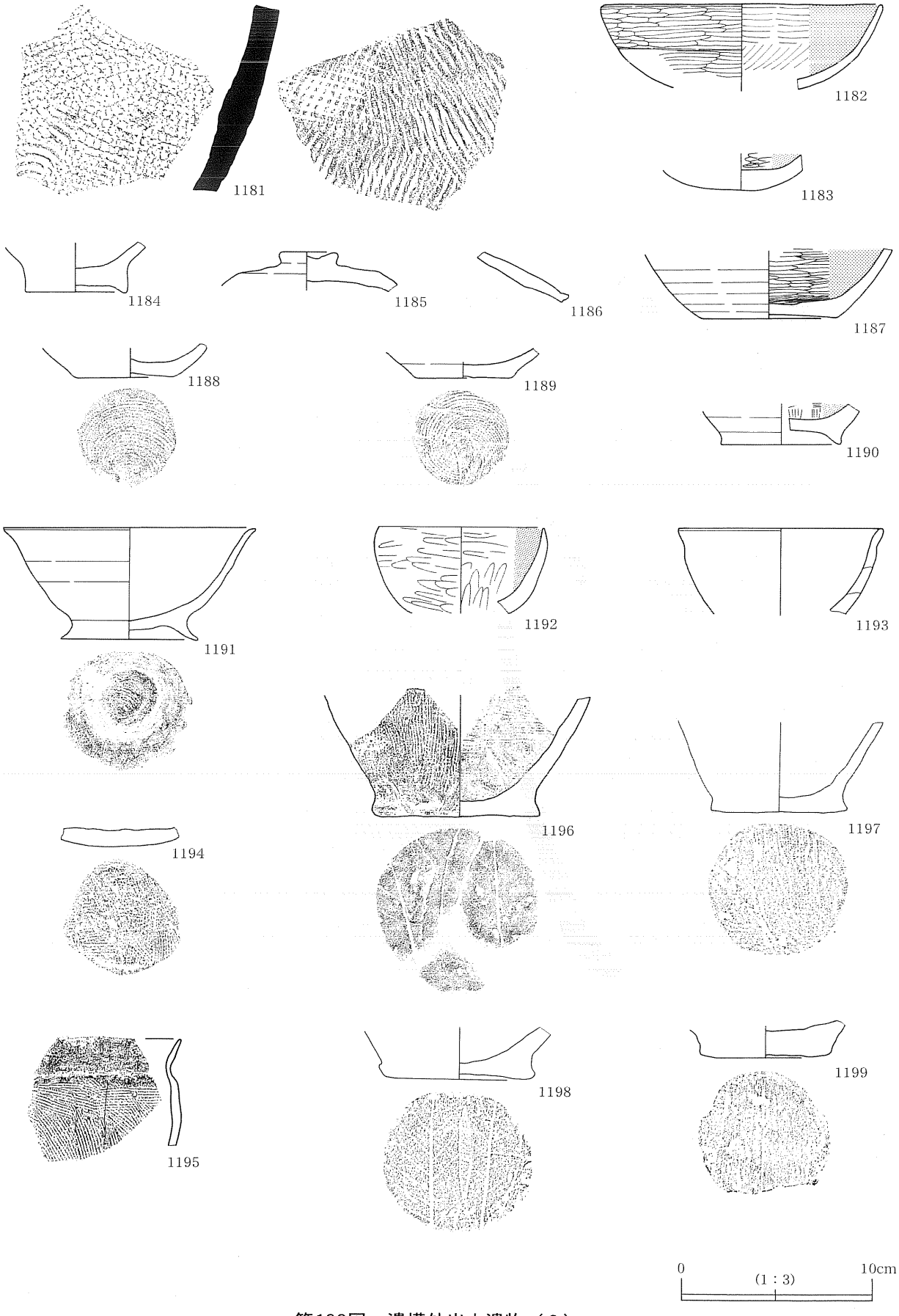
**②紡錘車**（第134図1204・1205、図版11）



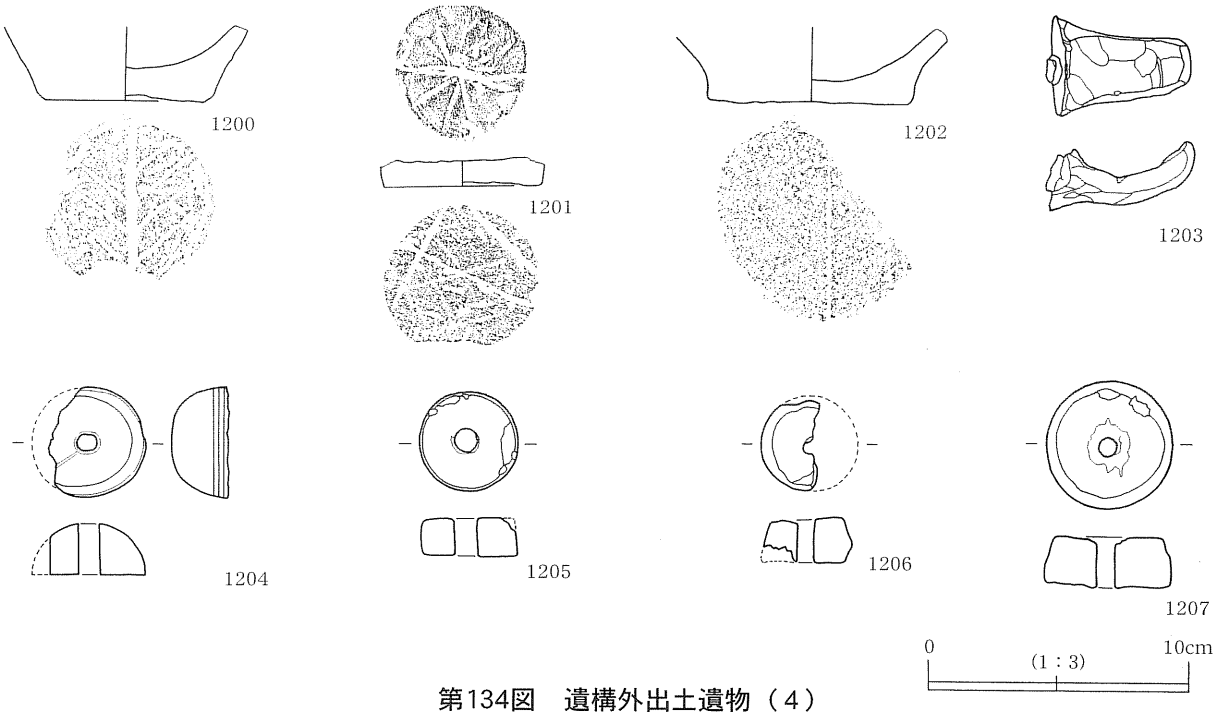

第131図　遺構外出土遺物（１）




第132図　遺構外出土遺物（２）




第133図　遺構外出土遺物（３）

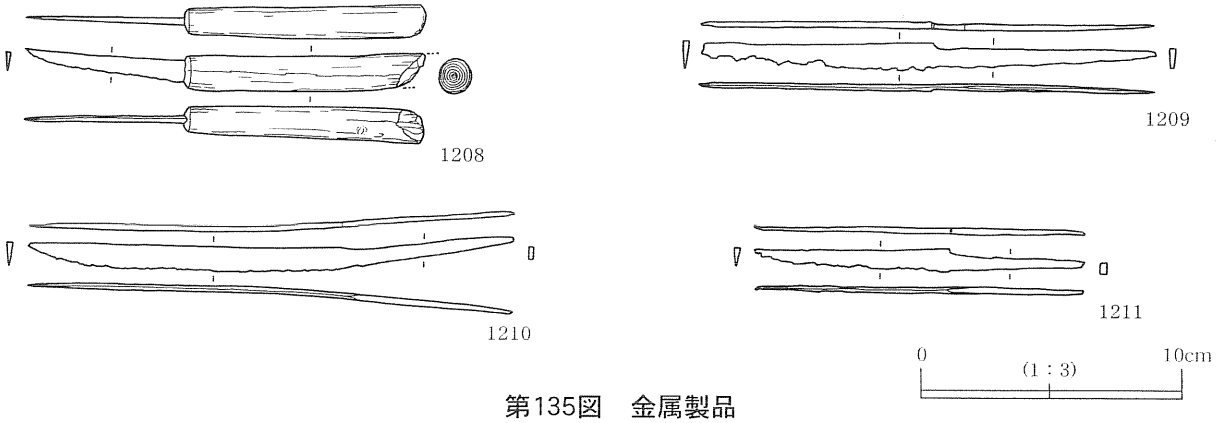



第134図　遺構外出土遺物（４）

石製の紡錘車が遺構外より２点出土した。1204は半球形で側面には平行の刻線が３本めぐる。1205は断面形は長方形で、中央の孔はほぼ垂直にあけられている。全面に擦痕が残る。

５　金属製品

鉄製品の刀子が４点（第135図1208～1211、図版11）、すべてＳＬ17河川跡から出土した。柄付きのものが１点で、他の３点は刀身部から茎部までほぼ残存する。刀身部はいずれも平棟・平造りである。




第135図　金属製品

６　文字資料

中谷地遺跡では、墨書土器78点・漆書土器１点・ヘラ書土器10点・漆紙文書１点が出土した。その大半はＳＬ17河川跡からの出土で、他の遺構はＳＬ27河川跡、ＳＢ58掘立柱建物跡、ＳＫ09・13土坑、ＳＴ63捨て場と遺構外からである。

**①墨書土器**（第136～140図1212～1288、図版７・18・19）

墨書土器は、ＳＬ17河川跡69点、ＳＬ27河川跡１点、ＳＫ09・13土坑からそれぞれ１点、遺構外６点の計78点出土した。種別は須恵器71点・土師器７点で、器種は坏73点・高台付坏２点・蓋２点・不明１点である。墨書字数は、１点に１字が76点で２字が２点となる。坏の墨書部位は体部が32点で底部が44点となり、体部に墨書されたものの方位は正位が24点、倒位が６点、不明が２点である。墨書名は「不」20点・「×」９点・「木ヵ」８点・「井」４点・「又」３点・「工」３点・「手」３点・「木」３点・「大」３点・「玉」１点・「石」１点・「凡ヵ」１点、不明21点である。

**②漆書土器**（第30図49、図版19）

須恵器坏の外面底部に「×」（×字状）と漆で書かれた土器がＳＴ63捨て場より１点出土した。

**③ヘラ書土器**（第141図1289～1295、図版19）

焼成前にヘラ状の工具で書かれたヘラ書土器が10点ある。ヘラ書は「×」（×字状のヘラ書）９点、「－」（一本線）１点とすべて１字のものである。記入部位はすべて外面の底部に施されている。機種、器形は須恵器坏６点、須恵器高台付坏１点、須恵器高台付皿１点、土師器台付坏１点、土師器椀１点である。

**④漆紙文書**（第141図1296、図版19）

漆紙文書は土師器坏の内面に付着した状態でＳＬ17河川跡から出土した。この土師器坏はロクロ調整で糸切り後体部下半から底部にかけてヘラケズリを施している。まったく同じ器形・同じ調整の土器がほかに２点出土している。また器形がまったく同じであるが底部の切り離しがヘラケズリで体部下半から底部にかけてヘラケズリの施さない土器が４点出土している。漆紙は、残存部分は長径8.9㎝、短径8.2㎝で、一部が大きく欠損している。文字は４行にわたって確認でき、１行目と３行目、２行目と４行目は同じ文書であるが、１・３行目と２・４行目は別文書の可能性がある。この４行の中に文字は10または11字確認できる。

## 第４節　中世・近世の遺構

中谷地遺跡では、中世の遺構は検出されなかった。近世の遺構は溝跡が３条確認されたのみである。

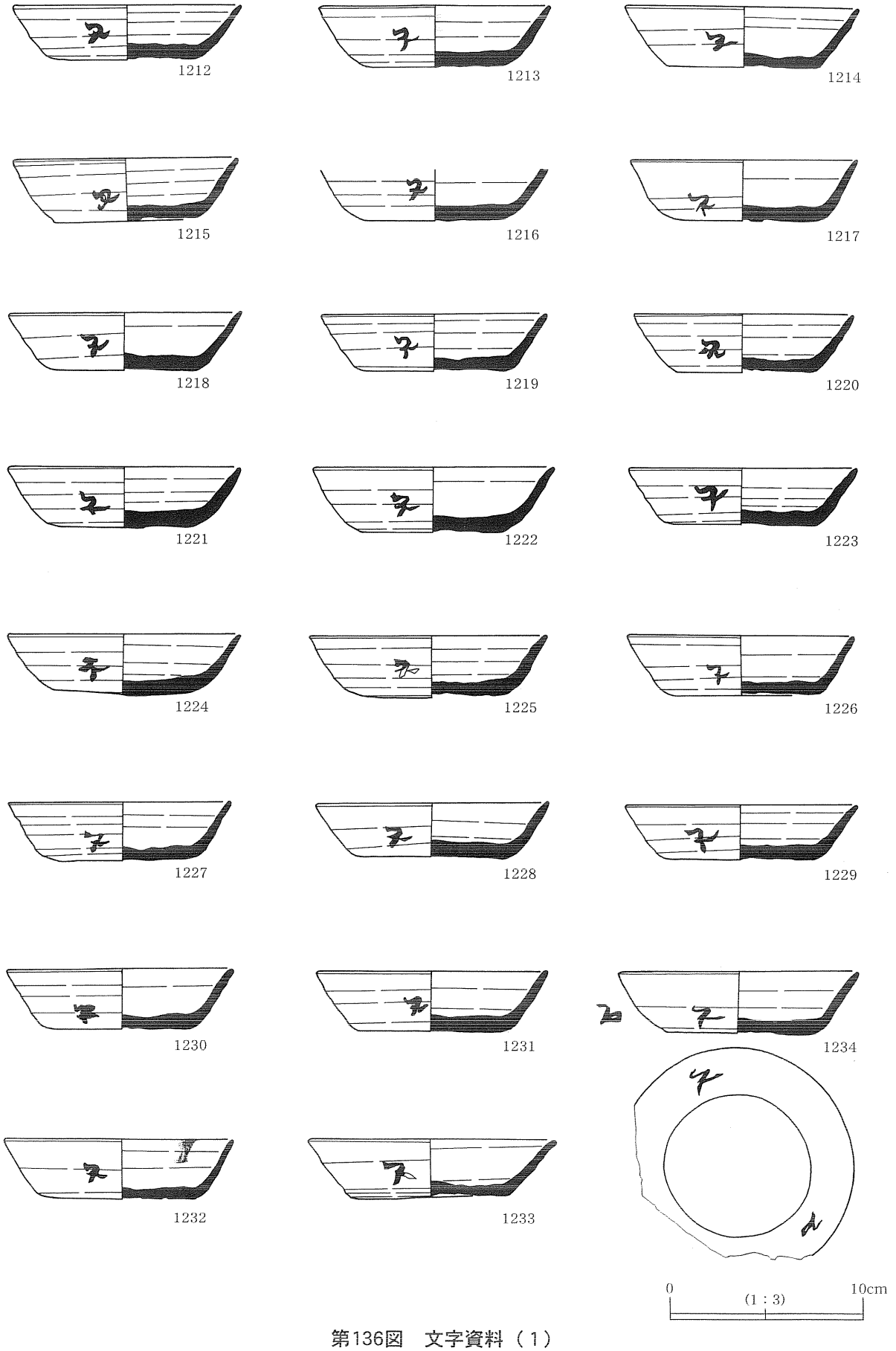
### １　溝跡

**ＳＤ12溝跡**（第142図）

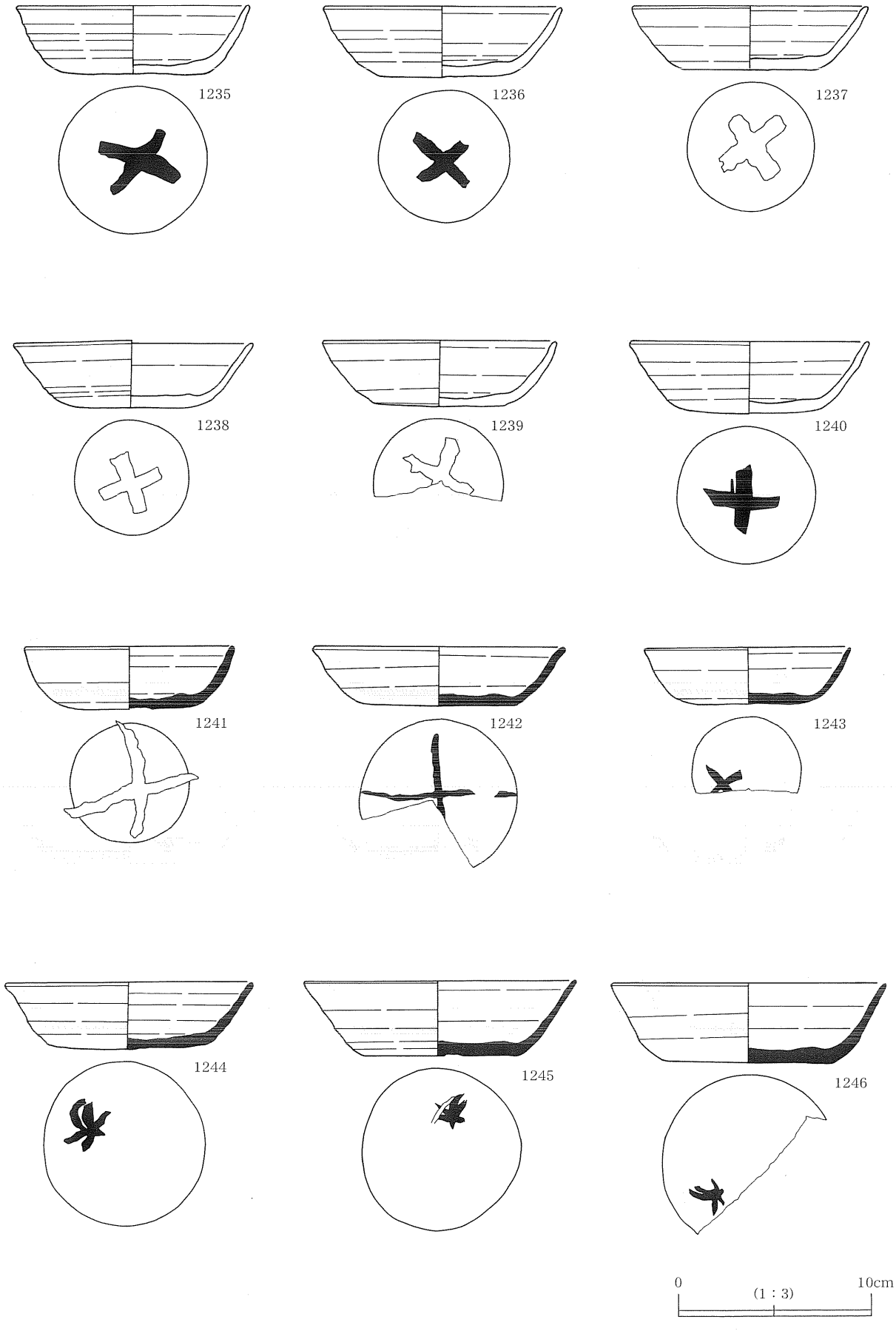
《位置》ＭＲ66、ＭＳ61～ＭＳ66グリッドに位置する。《確認》地山面で確認した。《規模・平面形》遺跡北側から南側へ「く」の字状に延び、検出した長さは20.1ｍを測る。幅は、北側で広く最大幅１ｍ、南側で狭く最小幅は0.48ｍである。深さは地山面より0.15ｍである。《埋土》２層に分かれた。

**ＳＤ14溝跡**（第143図）

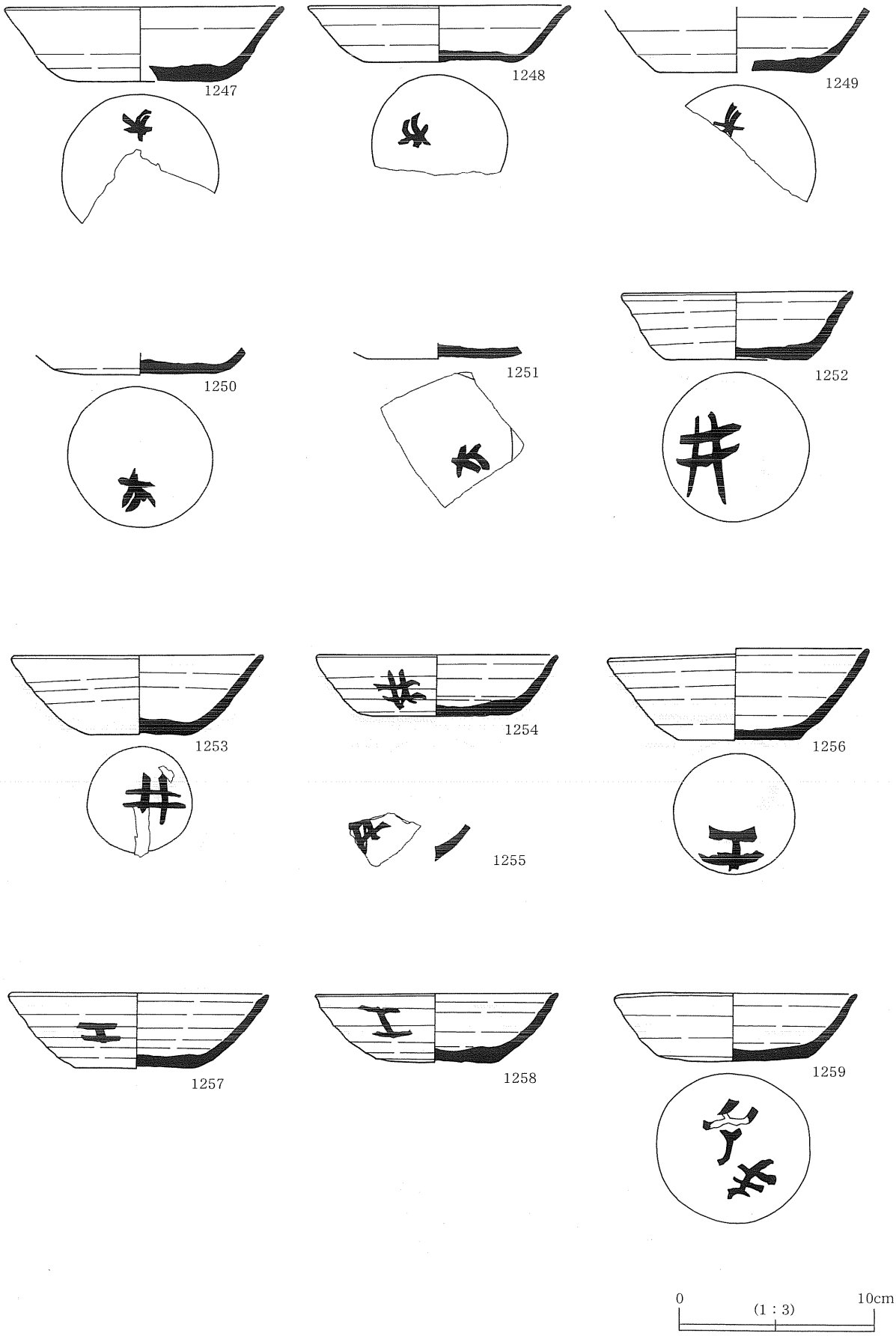
《位置》遺跡中央やや北寄りに位置する。《確認》地山面で確認した。《重複》ＳＬ17河川跡とＳＬ27河川跡を掘り込んでいる。《規模・平面形》遺跡西側から東側へ直線的に延び、検出した長さは88ｍを測る。最大幅は1.9ｍで最小幅は1.1ｍを測る。深さは地山面より0.25ｍである。《埋土》単一層であった。《その他》本遺構西側ＳＬ27河川跡に近いところで立杭が乱立しているのが確認された


1212
1213
1214
1215
1216
1217
1218
1219
1220
1221
1222
1223
1224
1225
1226
1227
1228
1229
1230
1231
1234
1232
1233
0
(1：3)
10cm

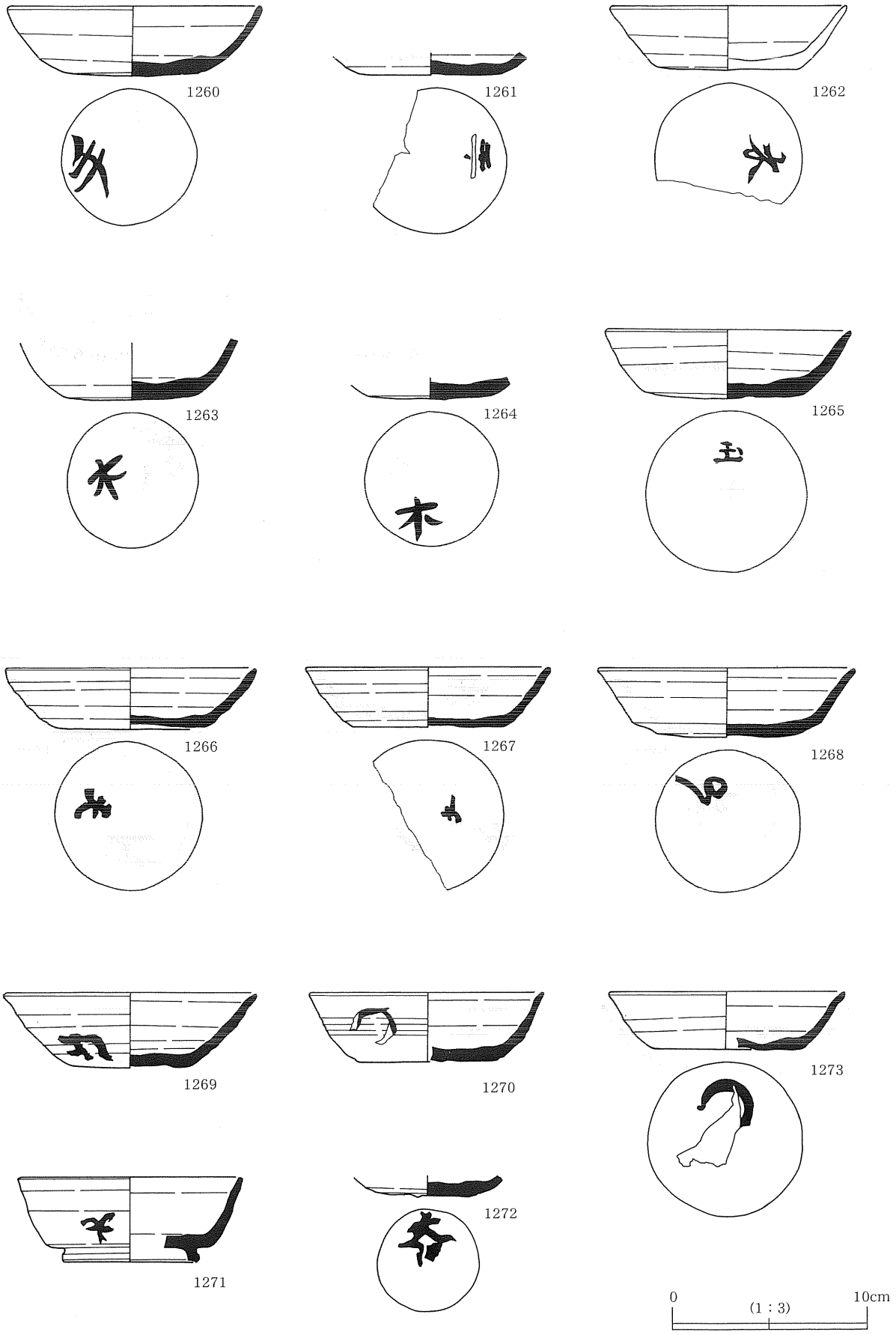
第136図　文字資料（１）


1235
1236
1237
1238
1239
1240
1241
1242
1243
1244
1245
1246
0
(1：3)
10cm

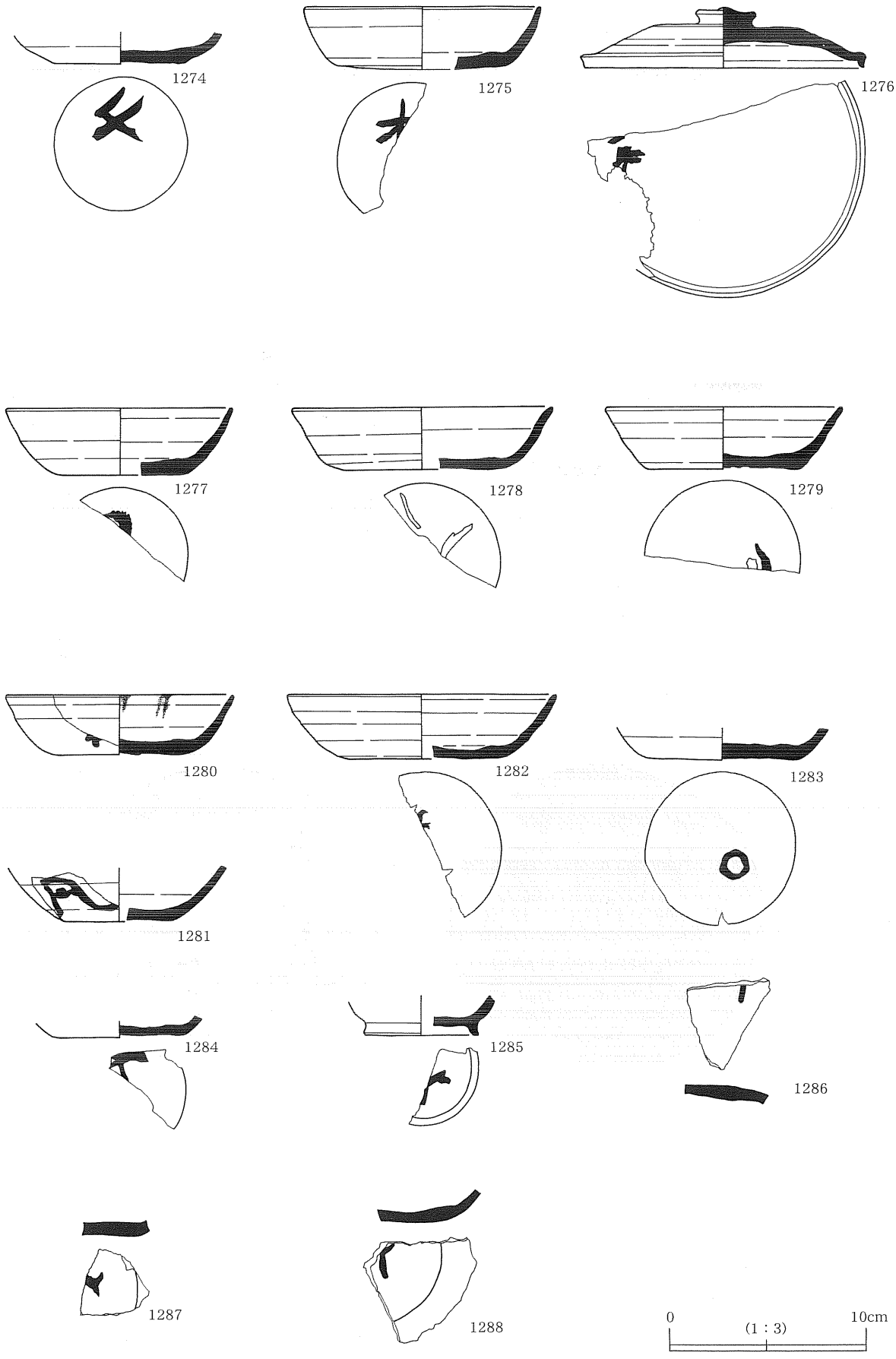
第137図　文字資料（２）


1247
1248
1249
1250
1251
1252
1253
1254
1255
1256
1257
1258
1259
0
(1：3)
10cm

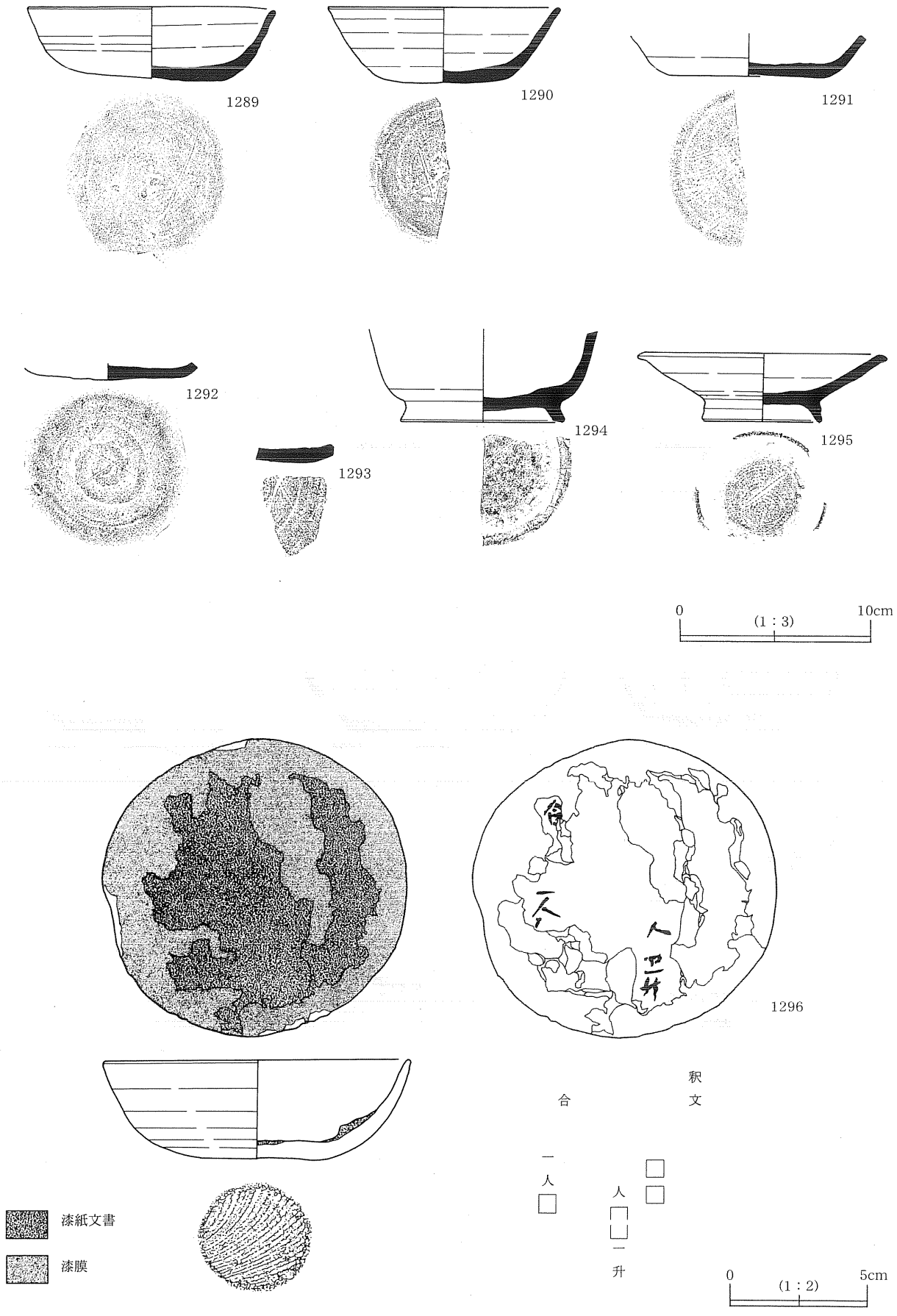
第138図　文字資料（３）


1260
1261
1262
1263
1264
1265
1266
1267
1268
1269
1270
1271
1272
1273
0
(1：3)
10cm

第139図　文字資料（４）


1274
1275
1276
1277
1278
1279
1280
1282
1283
1281
1284
1285
1286
1287
1288
0
(1：3)
10cm

第140図　文字資料（５）


1289
1290
1291
1292
1293
1294
1295
0
(1：3)
10cm
1296
釈文
合
一
人
□
人
□
□
一
升
□
□
漆紙文書
漆膜
0
(1：2)
5cm

第141図　文字資料（６）

(拡大図)。橋脚と推測される。《出土遺物》埋土より土師器坏・甕破片、須恵器坏・甕破片、下駄(第145図1312)、木彫像(1318)などが出土した。

**ＳＤ19溝跡**(第142図)

《位置》遺跡南西隅に位置する。《確認》精査中に地山面で確認した。《規模と平面形》遺跡南側から南東方向へ直線的に延び、検出した長さは42mを測る。幅は、0.4m前後であり、深さは地山面より0.13mである。《埋土》単一層であった。《出土遺物》埋土より土師器坏・甕破片、須恵器坏破片、寛永通寶(第145図1319)などが出土した。

## 第５節　中世・近世の出土遺物

遺構内外より出土した遺物は、陶磁器・木製品・銭貨がある。以下それぞれの項目ごとに概述する。

### １　陶磁器

出土した陶磁器は、中国陶磁器と国産陶磁器に分けられる。

**(１) 中国陶磁器**

14世紀の龍泉窯系の青磁、14世紀の天目茶碗(第144図1301)が出土した。1297～1299は、端反碗で、1300は盤である。

**(２) 国産陶磁器**

出土した陶磁器は、近世陶磁器が多くその産地は肥前系がほとんどで瀬戸・美濃系が若干認められる。図示した10点はすべて肥前系陶磁器で、1305は皿、1303は碗、1304～1307は唐津焼の皿である。1308～1311は染付の碗である。

### ２　木製品

木製品は、下駄４点、漆器２点、木彫像１点である。

**(１) 下駄**(第145図1312～1315)

ＳＤ14溝跡から１点、遺構外から３点出土した。1312と1313は連歯下駄で規模・鼻緒孔の位置も非常によく似るので一足の可能性がある。1314と1315も同じく連歯下駄である。

**(２) 漆器**(第145図1316・1317)

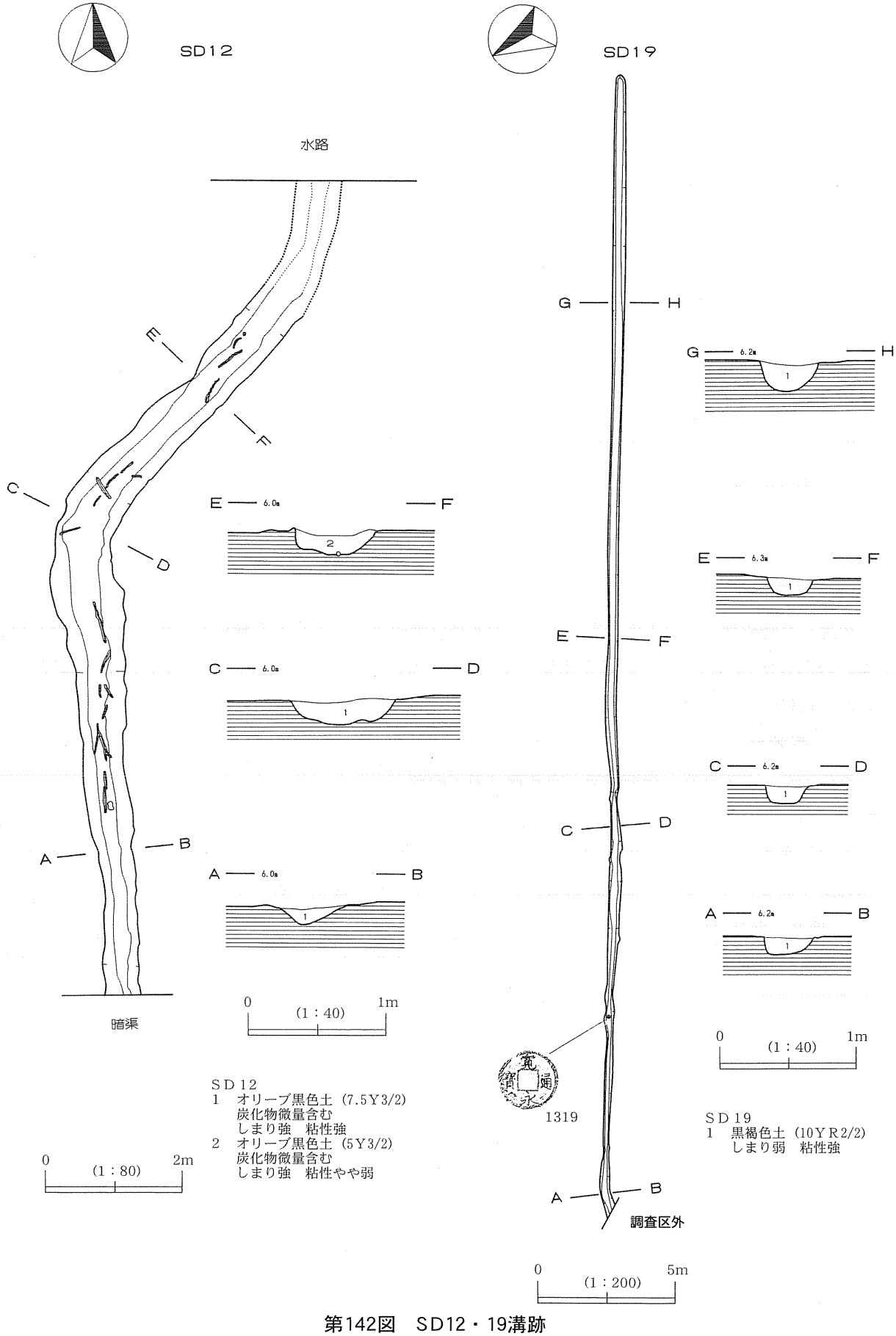
漆塗り椀が２点遺構外から出土した。1316は低い高台をもつもの、1317は小片、いずれも内外面とも赤色漆が塗られている。

**(３) 木彫像**(第145図1318)

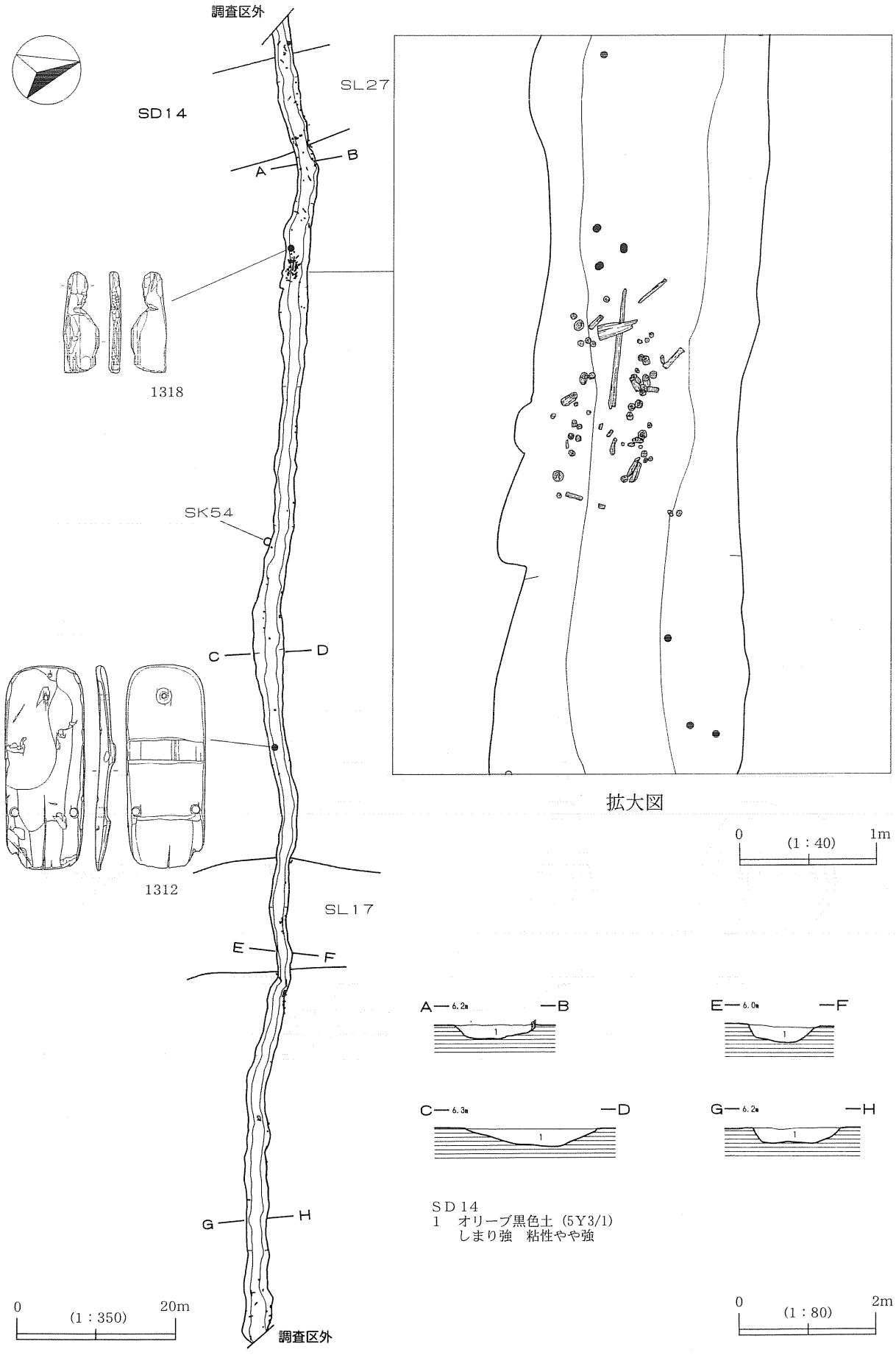
ＳＤ14溝跡から出土した。頭部から上半身にかけての側面像を板材から粗く彫り上げたものである。

### ３　銭貨

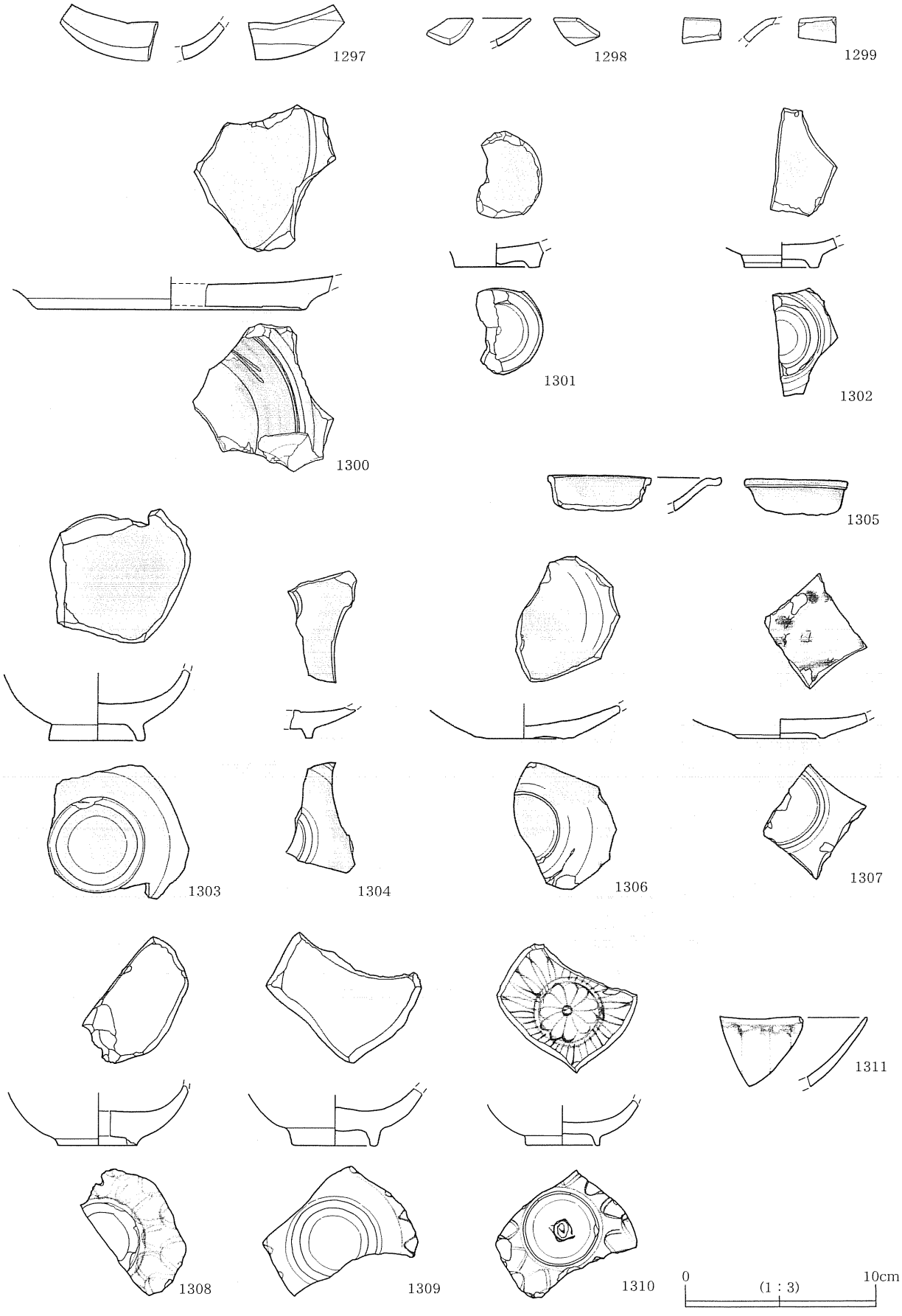
銭貨(第145図1319)は、ＳＤ19溝跡より「寛永通寶」が１枚出土した。



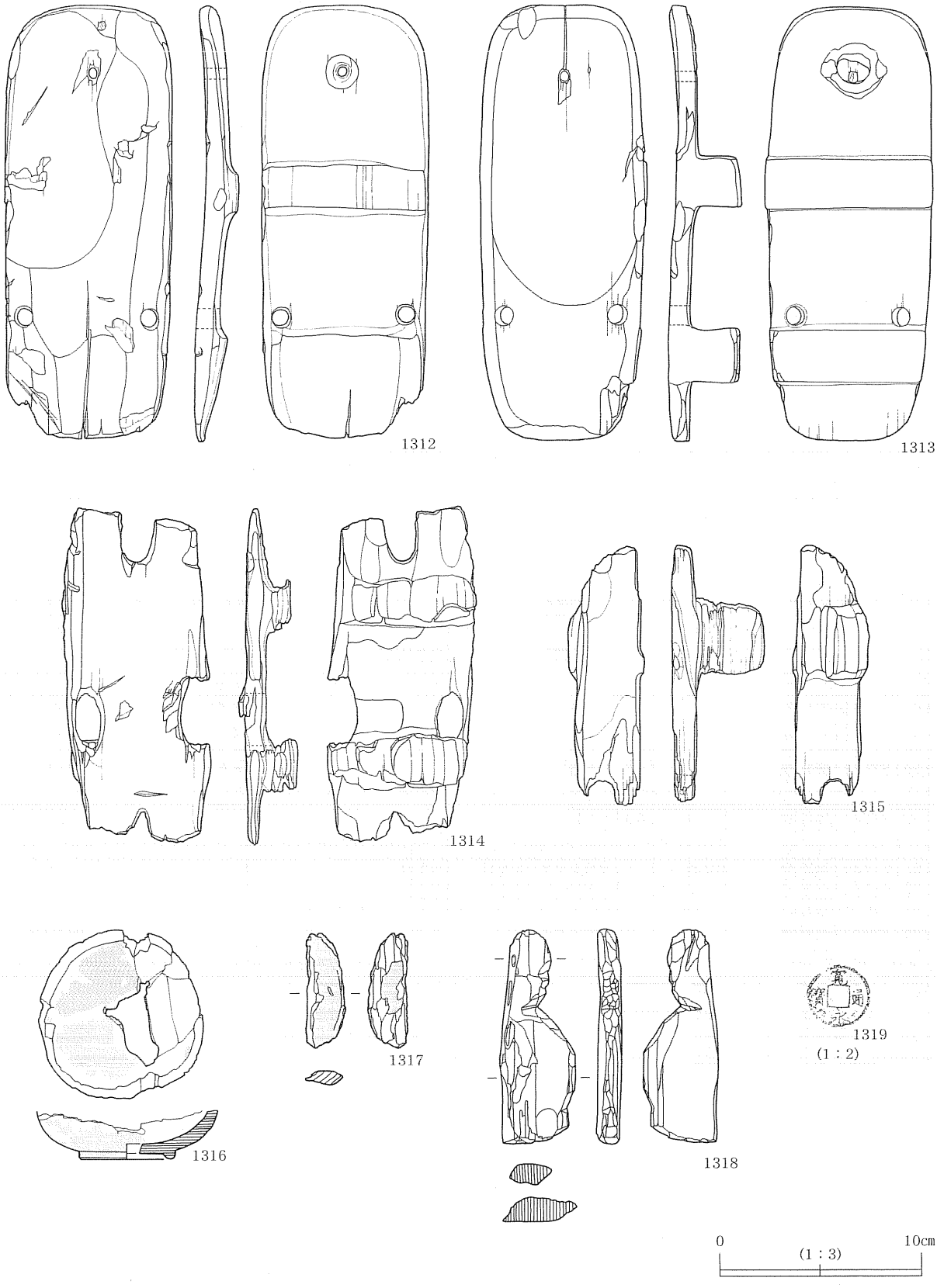

第142図　SD12・19溝跡




第143図　SD14溝跡


1297
1298
1299
1300
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307
1308
1309
1310
1311
0
(1：3)
10cm

第144図　出土遺物（１）




第145図　出土遺物（２）

第２表　遺構内出土遺物観察表(第28～32図)　　単位(cm)

| 番号 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 外面調整 | 内面調整 | 底面調整 | 分類 | 図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14 | SB58 | 須恵器 | 坏 | 13.3 | 4.2 | 8.0 | ロクロ調整、火襷 | ロクロ調整、火襷 | 回転ﾍﾗ切り→ﾅﾃﾞ、ﾍﾗ書「×」 | | 19 |
| 15 | SB58 | | 鞴羽口 | 3.9 | | | | | | | |
| 16 | SB58 | | 鞴羽口 | | | | | | | | |
| 17 | SK09 | 須恵器 | 坏 | | | 7.6 | ロクロ調整 | ロクロ調整 | 回転ヘラ切り→ナデ、墨書 | | |
| 18 | SK13 | | 箸 | | (15.1) | (0.7) | | | | | |
| 19 | SK13 | | 箸 | | (19.2) | (0.6) | | | | | |
| 20 | SK13 | | 箸 | | (17.7) | (0.6) | | | | | |
| 21 | SK13 | | 曲物(側板) | (4.8) | (20.6) | (4.5) | | | | | |
| 22 | SK13 | | 樺皮 | | | | | | | | |
| 23 | SK13 | | 樺巻 | | | | | | | | |
| 24 | SK13 | | 樺巻 | | | | | | | | |
| 25 | SK21 | 須恵器 | 坏 | (12.2) | 3.0 | (7.8) | ロクロ調整 | ロクロ調整 | 回転ヘラ切り→ナデ | ＩＢ | |
| 26 | SK21 | 土師器 | 甕 | | | 7.0 | | | 木葉痕 | | |
| 27 | SK23 | 土師器 | 甕 | | | 5.7 | ハケ目 | | 木葉痕 | １Ｉ | |
| 28 | SK36 | 土師器 | 甕 | (10.0) | 7.4 | 5.7 | ロクロ調整 | ロクロ調整、煤状炭化物付着 | 回転糸切り | ２Ⅱ | |
| 29 | SK44 | | 勾玉 | 0.8 | 2.5 | 0.7 | | | | | 11 |
| 30 | SK44 | 須恵器 | 坏 | (13.6) | 2.5 | 0.7 | ロクロ調整、火襷 | ロクロ調整、火襷 | 回転ヘラ切り→ナデ | ＩＢ | |
| 31 | SK44 | 土師器 | 坏 | (14.2) | 3.5 | (9.6) | ロクロ調整→ヘラナデ | ロクロ調整 | 手持ちヘラ切り | ＩＢ | |
| 32 | SK44 | 土師器 | 鉢(?) | | | 6.4 | ハケ目 | ハケ目 | ハケ目→ヘラナデ | Ｄ | |
| 33 | SK44 | 土師器 | 甕 | (21.5) | | | ﾀﾀｷ・ｶｷ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ | カキ目、縦位のハケ目 | | ２Ｉ | 11 |
| 34 | SK44 | 土師器 | 甕 | | | | 平行タタキ | 同心円文のアテ | | ２ＩＡ1 | |
| 35 | SK47 | | 土玉 | 1.1 | 1.2 | | | | | | 11 |
| 36 | SK47 | 須恵器 | 坏 | (14.2) | 4.3 | 9.6 | ロクロ調整 | ロクロ調整、火襷 | 回転ヘラ切り→ナデ | ＩＢ | |
| 37 | SK47 | 土師器 | 高台付坏 | (9.2) | | (6.2) | ロクロ調整 | ロクロ調整 | 回転ヘラ切り→ヘラナデ | | |
| 38 | SK47 | 土師器 | 手捏 | 7.4 | 3.6 | 4.7 | | | | | 11 |
| 39 | SK47 | 土師器 | 甕 | (22.0) | | | カキ目、下半平行タタキ | ｶｷ目、下半同心円文のｱﾃ→ﾊｹ目 | | ２ＩＡ1 | 11 |
| 40 | SK53 | 土師器 | 手捏 | (4.6) | 3.0 | (2.1) | | ハケ目(?) | | | |
| 41 | SK54 | 土師器 | 甕 | | | (5.5) | カキ目 | カキ目 | | | |
| 42 | SK62 | 須恵器 | 坏 | | | 9.0 | ロクロ調整 | ロクロ調整 | 回転ヘラ切り→ナデ | | |
| 43 | SK62 | 土師器 | 甕 | | | | ヘラナデ・ハケ目 | ヘラナデ・ハケ目 | | １ＩＡ | |
| 44 | SK62 | | 紡錘車 | (4.2) | 1.9 | (5.4) | | | | | |
| 45 | SK66 | 土師器 | 椀 | (12.7) | | | ヘラナデ・ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1Ac | |
| 46 | SK66 | 土師器 | 甕 | | | 8.6 | ハケ目 | ハケ目 | 笹葉痕 | １ＩＡ | |
| 47 | SK66 | 土師器 | 甕 | | | | ロクロ調整→ヘラケズリ | ロクロ調整、ヘラナデ | 砂粒付着 | ２ＩＢ | |
| 48 | SK69 | 土師器 | 手捏 | (6.2) | 2.4 | 4.0 | | | 木葉痕 | | 11 |
| 49 | ST63 | 須恵器 | 坏 | 13.0 | 3.3 | 7.7 | ロクロ調整 | ロクロ調整 | 回転ﾍﾗ切り→ﾅﾃﾞ、漆書「×」 | ＩＢ | 19 |
| 50 | ST63 | 須恵器 | 坏 | (13.0) | 4.0 | 8.0 | ロクロ調整 | ロクロ調整 | 回転ヘラ切り→ナデ | ＩＢ | |
| 51 | ST63 | 土師器 | 坏 | 11.4 | | | ハケ目→ヘラミガキ | ヘラミガキ | | １ⅡBa | |
| 52 | ST63 | 土師器 | 高台付坏 | | | | ロクロ調整 | ロクロ調整 | 回転ヘラ切り | | |
| 53 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | 7.5 | ハケ目 | ハケ目→ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | １ＩＡ | 10 |
| 54 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | 8.4 | ハケ目 | ハケ目→ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | １ＩＡ | |
| 55 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | 7.5 | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | １ＩＣ | 10 |
| 56 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | | １ＩＡ | |
| 57 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | 8.5 | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | １Ｉ | |
| 58 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | 10.5 | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | １Ｉ | |
| 59 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | 9.2 | ハケ目 | | 木葉痕 | １Ｉ | |
| 60 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | 5.7 | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | １Ｉ | |
| 61 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | 7.3 | ハケ目 | | 木葉痕 | １Ｉ | |
| 62 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | 6.0 | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | １Ｉ | |
| 63 | ST63 | 土師器 | 甕 | 23.0 | 36.1 | | カキ目→縦位のハケ目 | ｶｷ目、胴:下半ﾊｹ目 | | ２ＩＡ2 | 11 |
| 64 | ST63 | 土師器 | 甕 | 21.9 | | | 平行ﾀﾀｷ、ｶｷ目→ﾊｹ目 | カキ目 | | ２Ｉ | 11 |
| 65 | ST63 | 土師器 | 甕 | (22.0) | | | 平行タタキ→カキ目 | カキ目 | | ２Ｉ | |
| 66 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | | カキ目、ヘラケズリ | カキ目 | | ２Ｉ | |
| 67 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | | 上半ﾍﾗｹｽﾞﾘ、平行ﾀﾀｷ | カキ目→同心円文のアテ | | ２ＩＡ1 | |
| 68 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | | ハケ目 | ハケ目 | | ２ＩＡ2 | |
| 69 | ST63 | 土師器 | 甕 | | | | 平行タタキ | アテ | | ２ＩＡ1 | |

第３表　ＳＬ17河川跡出土遺物観察表(第44～81図)　　単位(cm)

| 番号 | 種別 | 器形 | 特　　徴 | 口径 | 底径 | 器高 | 底径指数 | 高径指数 | 外傾度 | 分類 | 図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 70 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整、内面柿渋 | 18.1 | | 4.5 | | | | A | |
| 71 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整 | (13.7) | | 2.9 | | | | A | |
| 72 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整、内面柿渋 | (16.0) | | 3.3 | | | | A | |
| 73 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整 | 14.2 | | 3.1 | | | | A | 7 |
| 74 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整、内面柿渋 | 13.0 | | 3.1 | | | | A | |
| 75 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整 | (14.7) | | 3.6 | | | | A | |
| 76 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整 | 17.0 | | | | | | B | |
| 77 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整 | (15.4) | | | | | | B | |
| 78 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整 | 14.3 | | 3.3 | | | | B | 7 |
| 79 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整→ヘラケズリ | 14.7 | | 3.3 | | | | B | 7 |
| 80 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整→ヘラケズリ、内面柿渋、外面火襷 | (13.7) | | 3.1 | | | | B | |
| 81 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整 | 15.8 | | 3.1 | | | | B | 7 |
| 82 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整、内面柿渋 | 15.5 | | | | | | B | |
| 83 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整 | 15.5 | | | | | | B | |
| 84 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整 | | | | | | | B | |
| 85 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整 | | | | | | | | |
| 86 | 須恵器 | 坏蓋 | ロクロ調整 | | | | | | | | |
| 87 | 須恵器 | 坏 | 体部下端ヘラケズリ、回転ヘラ切り→ナデ | 12.4 | 7.8 | 3.1 | 0.629 | 25.0 | 34° | ＩＡ | 7 |
| 88 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.1 | 7.3 | 3.6 | 0.557 | 27.4 | 31° | ＩＡ | |
| 89 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.8 | 8.0 | 3.4 | 0.579 | 24.6 | 24° | ＩＡ | |
| 90 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 11.9 | 6.3 | 3.8 | 0.529 | 31.9 | 22° | ＩＡ | 7 |
| 91 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.7 | 7.8 | 3.7 | 0.614 | 29.1 | 22° | ＩＡ | |
| 92 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.2 | 7.2 | 3.6 | 0.545 | 27.3 | 30° | ＩＡ | |
| 93 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.5 | 9.7 | 4.3 | 0.718 | 31.8 | 25° | ＩＡ | 7 |
| 94 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.4) | 9.0 | 3.6 | 0.671 | 26.8 | 25° | ＩＡ | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 95 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.2 | 8.0 | 3.6 | 0.606 | 27.2 | 24° | ＩＡ | |
| 96 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (13.1) | (8.8) | 3.5 | 0.670 | 26.7 | 28° | ＩＡ | |
| 97 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (12.8) | (7.6) | 3.4 | 0.593 | 26.6 | 34° | ＩＡ | |
| 98 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.6 | 7.1 | 3.5 | 0.561 | 28.1 | 29° | ＩＡ | |
| 99 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.5 | 8.2 | 3.5 | 0.656 | 28.0 | 26° | ＩＡ | |
| 100 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、油煙 | 13.6 | 9.0 | 3.4 | 0.661 | 25.0 | 33° | ＩＡ | 8 |
| 101 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (13.2) | (8.2) | 3.4 | 0.621 | 25.8 | 29° | ＩＡ | |
| 102 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.4 | 9.8 | 3.3 | 0.731 | 24.6 | 32° | ＩＡ | 7 |
| 103 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (13.6) | (8.8) | 3.5 | 0.647 | 25.7 | 28° | ＩＡ | |
| 104 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (14.0) | 8.3 | 3.7 | 0.592 | 26.4 | 33° | ＩＡ | |
| 105 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.1 | 7.1 | 3.6 | 0.541 | 27.5 | 31° | ＩＡ | |
| 106 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (12.4) | 7.8 | 3.4 | 0.629 | 27.4 | 29° | ＩＡ | |
| 107 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.5 | 7.1 | 3.4 | 0.568 | 27.2 | 30° | ＩＡ | 7 |
| 108 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.7 | 7.7 | 3.4 | 0.606 | 26.7 | 33° | ＩＡ | |
| 109 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.0 | 7.9 | 3.3 | 0.607 | 25.4 | 31° | ＩＡ | 7 |
| 110 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (11.8) | (7.4) | 3.0 | 0.627 | 25.4 | 28° | ＩＡ | |
| 111 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.0) | 7.7 | 3.2 | 0.592 | 24.6 | 32° | ＩＡ | |
| 112 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.1 | 7.2 | 3.3 | 0.549 | 25.1 | 30° | ＩＡ | |
| 113 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋、油煙 | 12.6 | 7.0 | 3.5 | 0.555 | 27.7 | 34° | ＩＡ | |
| 114 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.6 | 8.8 | 4.2 | 0.647 | 31.3 | 29° | ＩＡ | |
| 115 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.0 | 7.4 | 3.4 | 0.573 | 26.2 | 31° | ＩＡ | |
| 116 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (13.0) | (9.0) | 3.3 | 0.692 | 25.3 | 23° | ＩＢ | |
| 117 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.2 | 7.6 | 3.5 | 0.575 | 26.5 | 31° | ＩＢ | |
| 118 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.8 | 8.3 | 3.5 | 0.648 | 27.0 | 25° | ＩＢ | |
| 119 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.3 | 7.0 | 3.1 | 0.569 | 25.2 | 28° | ＩＢ | |
| 120 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 11.6 | 6.2 | 3.6 | 0.534 | 31.0 | 31° | ＩＢ | |
| 121 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (12.0) | (6.2) | 3.5 | 0.516 | 29.2 | 28° | ＩＢ | |
| 122 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.6 | 6.9 | 3.6 | 0.547 | 29.0 | 30° | ＩＢ | |
| 123 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (13.7) | 7.5 | 3.9 | 0.547 | 28.5 | 31° | ＩＢ | |
| 124 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋、底部に墨痕 | 13.4 | 8.3 | 3.3 | 0.619 | 24.6 | 37° | ＩＢ | 7 |
| 125 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.3 | 7.1 | 3.2 | 0.533 | 24.1 | 35° | ＩＢ | |
| 126 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (13.4) | 7.4 | 3.7 | 0.552 | 27.6 | 27° | ＩＢ | |
| 127 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.4) | (7.5) | 3.6 | 0.559 | 26.8 | 29° | ＩＢ | |
| 128 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (12.2) | (7.3) | 3.8 | 0.598 | 31.1 | 30° | ＩＢ | |
| 129 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.5 | 7.7 | 3.5 | 0.570 | 25.9 | 21° | ＩＢ | |
| 130 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (14.0) | (8.0) | 4.1 | 0.628 | 29.2 | 30° | ＩＢ | |
| 131 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (13.0) | (8.6) | 3.6 | 0.661 | 27.7 | 29° | ＩＢ | |
| 132 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.0 | 8.1 | 3.3 | 0.623 | 25.3 | 31° | ＩＢ | |
| 133 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.6 | 7.5 | 2.9 | 0.595 | 23.4 | 33° | ＩＢ | |
| 134 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.0 | 7.7 | 3.6 | 0.592 | 27.7 | 28° | ＩＢ | |
| 135 | 須恵器 | 坏 | 回転ﾍﾗ切り→ﾅﾃﾞ、内面柿渋、口縁油煙、内面底部に漆 | 13.1 | 8.2 | 3.3 | 0.625 | 25.2 | 26° | ＩＢ | 8 |
| 136 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.3 | 7.0 | 3.5 | 0.569 | 28.4 | 28° | ＩＢ | |
| 137 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.4 | 7.0 | 3.6 | 0.564 | 29.0 | 29° | ＩＢ | |
| 138 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.7 | 7.6 | 3.2 | 0.598 | 25.1 | 30° | ＩＢ | |
| 139 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋、口縁全体油煙 | 12.6 | 7.5 | 3.1 | 0.595 | 24.6 | 31° | ＩＢ | 7・8 |
| 140 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.3 | 7.4 | 3.5 | 0.602 | 28.5 | 19° | ＩＢ | |
| 141 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.6 | 8.0 | 3.5 | 0.634 | 27.8 | 31° | ＩＢ | |
| 142 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋、両面火襷 | 12.9 | 7.0 | 3.3 | 0.543 | 25.6 | 31° | ＩＢ | |
| 143 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.6 | 8.1 | 3.2 | 0.642 | 25.3 | 33° | ＩＢ | |
| 144 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.8 | 8.5 | 3.4 | 0.616 | 24.6 | 35° | ＩＢ | |
| 145 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 14.3 | 8.1 | 3.6 | 0.566 | 25.2 | 34° | ＩＢ | |
| 146 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (11.8) | (6.8) | 3.4 | 0.576 | 28.8 | 28° | ＩＢ | |
| 147 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 14.3 | 8.8 | 3.6 | 0.615 | 25.1 | 33° | ＩＢ | |
| 148 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.6 | 6.9 | 3.5 | 0.507 | 25.7 | 39° | ＩＢ | |
| 149 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.5 | 7.4 | 3.5 | 0.548 | 25.9 | 32° | ＩＢ | |
| 150 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.0) | (7.2) | 3.5 | 0.553 | 27.3 | 31° | ＩＢ | |
| 151 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋、内外油煙 | (13.6) | (9.0) | 3.4 | 0.661 | 25.0 | 28° | ＩＢ | |
| 152 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋、内外油煙 | 12.3 | 7.6 | 3.1 | 0.617 | 25.2 | 32° | ＩＢ | |
| 153 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.9 | 7.9 | 3.3 | 0.612 | 25.5 | 32° | ＩＢ | |
| 154 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.1 | 7.5 | 3.6 | 0.572 | 27.4 | 34° | ＩＢ | |
| 155 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.9 | 8.2 | 3.3 | 0.590 | 25.6 | 35° | ＩＢ | |
| 156 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (12.6) | (8.0) | 3.3 | 0.634 | 26.2 | 28° | ＩＢ | |
| 157 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (13.0) | (8.0) | 3.4 | 0.615 | 26.1 | 31° | ＩＢ | |
| 158 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋、両面火襷 | 12.7 | 7.4 | 3.4 | 0.582 | 26.8 | 33° | ＩＢ | |
| 159 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、両面火襷 | 13.4 | 8.4 | 3.7 | 0.626 | 27.6 | 29° | ＩＢ | |
| 160 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.3 | 8.7 | 2.9 | 0.654 | 21.8 | 33° | ＩＢ | 7 |
| 161 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋、内外油煙 | 12.9 | 8.3 | 3.1 | 0.643 | 24.0 | 23° | ＩＢ | |
| 162 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.6 | 8.7 | 3.2 | 0.639 | 23.9 | 36° | ＩＢ | |
| 163 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.9 | 8.6 | 2.9 | 0.666 | 22.4 | 37° | ＩＢ | 7 |
| 164 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.2 | 8.5 | 3.3 | 0.643 | 25.0 | 35° | ＩＢ | |
| 165 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.3 | 7.6 | 3.1 | 0.571 | 22.9 | 35° | ＩＢ | 7 |
| 166 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.0 | 8.9 | 3.5 | 0.684 | 26.9 | 33° | ＩＢ | |
| 167 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.1 | 8.1 | 3.3 | 0.618 | 25.1 | 40° | ＩＢ | |
| 168 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.9 | 6.4 | 3.1 | 0.480 | 24.0 | 35° | ＩＢ | |
| 169 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (14.6) | (9.0) | 3.8 | 0.616 | 26.0 | 33° | ＩＢ | |
| 170 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.5 | 7.9 | 3.5 | 0.632 | 28.0 | 34° | ＩＢ | |
| 171 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (14.0) | (9.2) | 3.4 | 0.657 | 24.3 | 31° | ＩＢ | |
| 172 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (12.8) | (8.7) | 3.6 | 0.679 | 28.1 | 25° | ＩＢ | |
| 173 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、両面火襷 | (13.6) | (8.9) | 3.5 | 0.654 | 25.7 | 24° | ＩＢ | |
| 174 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (15.0) | (9.8) | 3.4 | 0.653 | 22.7 | 34° | ＩＢ | |
| 175 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.6) | (7.6) | 3.3 | 0.558 | 24.2 | 33° | ＩＢ | |
| 176 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 14.1 | 8.0 | 3.3 | 0.567 | 23.4 | 38° | ＩＢ | |
| 177 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.7 | 8.5 | 3.0 | 0.669 | 23.6 | 26° | ＩＢ | |
| 178 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (12.6) | (8.5) | 3.1 | 0.674 | 24.6 | 30° | ＩＢ | |
| 179 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.9 | 8.2 | 3.0 | 0.589 | 21.5 | 35° | ＩＢ | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 180 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.8 | 8.0 | 3.1 | 0.579 | 22.4 | 35° | ⅠB | |
| 181 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.9 | 7.7 | 3.0 | 0.554 | 21.6 | 37° | ⅠB | 7 |
| 182 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.9 | 7.8 | 3.8 | 0.604 | 29.4 | 33° | ⅠB | |
| 183 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.8 | 9.0 | 3.3 | 0.703 | 25.7 | 30° | ⅠB | |
| 184 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (12.4) | 8.3 | 3.2 | 0.669 | 24.2 | 30° | ⅠB | |
| 185 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.0) | (7.4) | 3.3 | 0.569 | 25.4 | 38° | ⅠB | |
| 186 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.3 | 7.5 | 3.4 | 0.564 | 25.6 | 35° | ⅠB | |
| 187 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.4 | 7.8 | 3.4 | 0.629 | 27.4 | 32° | ⅠB | 7 |
| 188 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (14.2) | (7.7) | 3.0 | 0.542 | 21.1 | 42° | ⅠB | |
| 189 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.1 | 7.7 | 3.6 | 0.587 | 27.4 | 28° | ⅠC | |
| 190 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (11.8) | 7.6 | 3.8 | 0.644 | 32.2 | 23° | ⅠC | |
| 191 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (13.4) | (8.3) | 4.3 | 0.619 | 32.1 | 23° | ⅠC | |
| 192 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 14.2 | 8.4 | 3.8 | 0.591 | 26.8 | 33° | ⅠC | 7 |
| 193 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.4) | (7.1) | 3.2 | 0.529 | 23.8 | 29° | ⅠC | |
| 194 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (12.4) | (6.9) | 3.7 | 0.556 | 29.8 | 26° | ⅠC | |
| 195 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.8 | 8.1 | 3.4 | 0.632 | 26.6 | 31° | ⅠC | |
| 196 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.3 | 7.7 | 3.0 | 0.578 | 22.5 | 40° | ⅠC | |
| 197 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.6) | 8.1 | 3.4 | 0.595 | 25.0 | 31° | ⅠC | |
| 198 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.0) | (8.0) | 3.5 | 0.615 | 26.9 | 25° | ⅠC | |
| 199 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.0) | (8.0) | 3.6 | 0.615 | 27.6 | 28° | ⅠC | |
| 200 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (13.3) | 7.5 | 3.5 | 0.563 | 26.3 | 29° | ⅠC | |
| 201 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (14.0) | (8.8) | 3.3 | 0.628 | 23.6 | 37° | ⅠC | |
| 202 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋、両面火襷 | 13.3 | 7.4 | 3.4 | 0.556 | 25.6 | 36° | ⅠC | |
| 203 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (12.0) | (7.5) | 3.3 | 0.625 | 27.5 | 30° | ⅠC | |
| 204 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (12.0) | (6.9) | 3.5 | 0.575 | 29.2 | 21° | ⅠC | |
| 205 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.4 | 7.8 | 3.5 | 0.629 | 28.2 | 28° | ⅠC | |
| 206 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.4 | 8.5 | 3.7 | 0.634 | 27.6 | 31° | ⅠC | |
| 207 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.6 | 8.0 | 3.7 | 0.588 | 27.2 | 27° | ⅠC | |
| 208 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋、外面火襷 | 13.0 | 7.7 | 4.0 | 0.592 | 30.8 | 25° | ⅠC | |
| 209 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (14.0) | 8.0 | 4.0 | 0.571 | 28.5 | 26° | ⅠC | |
| 210 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.9) | 8.3 | 3.5 | 0.597 | 25.1 | 32° | ⅠC | |
| 211 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.2 | 6.6 | 3.4 | 0.500 | 25.7 | 30° | ⅠC | |
| 212 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.6 | 7.3 | 3.3 | 0.536 | 24.2 | 36° | ⅠC | |
| 213 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.4) | (7.8) | 4.3 | 0.582 | 32.1 | 22° | ⅡA | |
| 214 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 13.6 | 6.7 | 3.9 | 0.492 | 28.6 | 41° | ⅡA | |
| 215 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.8 | 5.5 | 4.1 | 0.429 | 32.0 | 40° | ⅡA | 7 |
| 216 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.5 | 5.7 | 4.1 | 0.456 | 32.8 | 35° | ⅡA | 7 |
| 217 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | (15.0) | (8.0) | 4.5 | 0.533 | 30.0 | 33° | ⅡA | |
| 218 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、内面柿渋 | 12.9 | 7.6 | 3.9 | 0.589 | 30.2 | 27° | ⅡA | |
| 219 | 須恵器 | 坏 | 回転糸切り、内面柿渋 | 13.4 | 7.6 | 4.5 | 0.567 | 33.5 | 41° | ⅡB | 7 |
| 220 | 須恵器 | 坏 | 回転糸切り | 13.8 | 7.5 | 4.3 | 0.543 | 31.1 | 36° | ⅡB | |
| 221 | 須恵器 | 坏 | 回転糸切り | (12.4) | 5.5 | 4.0 | 0.443 | 32.3 | 34° | ⅡB | |
| 222 | 須恵器 | 坏 | 回転糸切り、内面柿渋 | (14.0) | 6.6 | 4.2 | 0.471 | 30.0 | 36° | ⅡB | |
| 223 | 須恵器 | 坏 | 回転糸切り、内面柿渋 | 13.2 | 6.1 | 3.7 | 0.462 | 28.0 | 38° | ⅡB | |
| 224 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り | (14.4) | (8.0) | 3.4 | | | | A | 7 |
| 225 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋、底部に墨痕 | (12.8) | (7.6) | 4.9 | | | | A | 7 |
| 226 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.4 | 7.4 | 4.7 | | | | B | 7 |
| 227 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋、底部に墨痕 | 12.2 | 5.9 | 4.4 | | | | B | 7 |
| 228 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋 | 13.2 | 8.0 | 4.2 | | | | B | |
| 229 | 須恵器 | 高台付坏 | 体部下端～底部にﾍﾗｹｽﾞﾘ、回転ﾍﾗ切り、外面自然釉 | 12.6 | 7.8 | 5.2 | | | | B | |
| 230 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋、底部に墨痕 | 13.0 | 8.8 | 4.8 | | | | B | 7 |
| 231 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋 | (13.0) | (7.8) | 4.4 | | | | B | |
| 232 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋 | (14.0) | 8.0 | 4.5 | | | | B | |
| 233 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋 | (11.8) | (6.4) | 4.1 | | | | B | |
| 234 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋、底部に墨痕 | 12.1 | 7.0 | 4.2 | | | | B | 7 |
| 235 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋 | 12.7 | 7.5 | 4.8 | | | | B | |
| 236 | 須恵器 | 高台付坏 | 体部下端～底部にヘラケズリ、回転ヘラ切り | | | | | | | B | |
| 237 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋 | (10.3) | (5.7) | 5.0 | | | | C | |
| 238 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋、油煙、底部に墨痕 | (10.1) | (5.2) | 5.7 | | | | C | |
| 239 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り | 10.0 | 5.6 | 5.0 | | | | C | |
| 240 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋 | 11.5 | 6.5 | 4.7 | | | | C | |
| 241 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り | (9.8) | 5.0 | 5.3 | | | | C | |
| 242 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り→ナデ、底部に墨痕 | (11.6) | (6.7) | 4.5 | | | | C | |
| 243 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋、底部に墨痕 | (10.0) | (6.4) | 5.0 | | | | C | |
| 244 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り | 10.2 | 6.4 | 5.1 | | | | C | |
| 245 | 須恵器 | 高台付坏 | 体部下端～底部にﾍﾗｹｽﾞﾘ、回転ﾍﾗ切り、内面自然釉 | 10.0 | 7.2 | 4.8 | | | | C | 7 |
| 246 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋、底部に墨痕 | 16.0 | 8.2 | 7.7 | | | | D | |
| 247 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り | 15.1 | 6.9 | 7.2 | | | | D | 7 |
| 248 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転糸切り | 14.9 | 8.3 | 6.7 | | | | D | |
| 249 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り | (15.3) | | | | | | D | |
| 250 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋 | | 8.0 | | | | | | |
| 251 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋 | | 7.9 | | | | | | |
| 252 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、底部に墨痕 | (10.6) | 8.3 | | | | | | |
| 253 | 須恵器 | 高台付坏 | 体部下端～底部にヘラケズリ、内面柿渋 | | 6.4 | | | | | | |
| 254 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋 | | 6.3 | | | | | | |
| 255 | 須恵器 | 高台付坏 | 回転ヘラ切り | | 8.0 | | | | | | |
| 256 | 須恵器 | 高台付皿 | 回転ヘラ切り、底部に墨痕 | | 4.8 | | | | | | |
| 257 | 須恵器 | 高台付皿 | 回転ヘラ切り | | 7.3 | | | | | | |
| 258 | 須恵器 | 高台付皿 | 回転糸切り、内面柿渋、底部に墨痕 | 13.4 | 5.7 | 3.5 | | | | A | 7 |
| 259 | 須恵器 | 高台付皿 | 回転糸切り | | (7.1) | | | | | A | |
| 260 | 須恵器 | 高台付皿 | 回転糸切り、内面柿渋、内外油煙 | | | | | | | A | |
| 261 | 須恵器 | 高台付皿 | 回転糸切り | | 5.9 | | | | | A | |
| 262 | 須恵器 | 高台付皿 | 回転糸切り、内面柿渋 | 13.4 | 4.1 | 2.4 | | | | A | |
| 263 | 須恵器 | 高台付皿 | 回転糸切り | | 6.6 | | | | | A | |
| 264 | 須恵器 | 高台付皿 | 回転糸切り | | 6.5 | | | | | B | |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 外面調整 | 内面調整 | 底面調整 | 分類 | 図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 265 | 須恵器 | 長頸壺 | | | 12.1 | ロクロ調整、タタキ→ナデ、ヘラケズリ | ロクロ調整 | | | 8 |
| 266 | 須恵器 | 長頸壺 | | | | ロクロ調整、ナデ | ロクロ調整、ナデ | | | 8 |
| 267 | 須恵器 | 長頸壺 | | | | ロクロ調整、ナデ、自然釉 | ロクロ調整、ナデ | | | 8 |
| 268 | 須恵器 | 長頸壺 | | | | ロクロ調整、自然釉 | ロクロ調整 | | | |
| 269 | 須恵器 | 長頸壺 | | | | ロクロ調整、体部下ヘラケズリ | ロクロ調整 | | | |
| 270 | 須恵器 | 短頸壺 | | | | ロクロ調整 | ロクロ調整、ハケ目 | | | |
| 271 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、タタキ→ナデ、ヘラケズリ | ロクロ調整、ナデ→ハケ目 | | | |
| 272 | 須恵器 | 甕 | 21.0 | | | (口縁)ロクロ調整、平行タタキ→ナデ<br>(胴部)ロクロ調整、平行タタキ | (口縁)ロクロ調整、ナデ<br>(胴部)ロクロ調整、同心円文のアテ | | | 8 |
| 273 | 須恵器 | 甕 | (21.8) | | | (口縁)ロクロ調整、ナデ<br>(胴部)ロクロ調整、平行タタキ→ﾊｹ目 | (口縁)ロクロ調整、ナデ<br>(胴部)ロクロ調整、同心円文のアテ | | | |
| 274 | 須恵器 | 甕 | (17.4) | | | (口縁)ロクロ調整、ハケ目→ナデ<br>(胴部)ロクロ調整、平行タタキ | (口縁)ロクロ調整、ナデ<br>(胴部)ロクロ調整、平行アテ | | | |
| 275 | 須恵器 | 甕 | (58.0) | | | (口縁)ﾛｸﾛ調整、ﾊｹ目→櫛描波状文<br>(胴部)ロクロ調整、平行タタキ→ﾊｹ目 | (口縁)ロクロ調整、ナデ<br>(胴部)ロクロ調整、同心円文のアテ | | | 8 |
| 276 | 須恵器 | 甕 | | | | (口縁)ロクロ調整、タタキ→ナデ<br>(胴部)ロクロ調整、平行タタキ | (口縁)ロクロ調整、ナデ<br>(胴部)ロクロ調整、円形のアテ | | | |
| 277 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、ハケ目→横ナデ | ロクロ調整、横ナデ | | | |
| 278 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、タタキ→ナデ | ロクロ調整、ナデ | | | |
| 279 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、ナデ | ロクロ調整、ナデ | | | |
| 280 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、ナデ | ロクロ調整、ナデ | | | |
| 281 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、タタキ→ハケ目 | ロクロ調整、同心円文のアテ | | | |
| 282 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、平行タタキ | ロクロ調整、平行アテ | | | |
| 283 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、タタキ | ロクロ調整、アテ | | | |
| 284 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、平行タタキ | ロクロ調整、円形のアテ | | | |
| 285 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、タタキ | ロクロ調整、同心円文のｱﾃ、自然釉 | | | |
| 286 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、タタキ | ロクロ調整、同心円文のアテ | | | |
| 287 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、タタキ→(一部ハケ目) | ロクロ調整、平行アテ | | | |
| 288 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、平行タタキ | ロクロ調整 | | | |
| 289 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整 | ロクロ調整 | | | |
| 290 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、タタキ→ハケ目 | ロクロ調整、アテ→ハケ目 | | | |
| 291 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、タタキ→ハケ目 | ロクロ調整、アテ→ハケ目 | | | |
| 292 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、タタキ | ロクロ調整、同心円文のアテ→ﾊｹ目 | | | |
| 293 | 須恵器 | 甕 | | | | ロクロ調整、タタキ→(一部ハケ目) | ロクロ調整、アテ→ハケ目 | | | |
| 294 | 土師器 | 高坏 | 10.4 | 5.8 | 7.1 | 坏部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、脚部ﾍﾗｹｽﾞﾘ | ヘラミガキ→黒色処理 | | | 8 |
| 295 | 土師器 | 高坏 | 9.4 | 3.6 | 5.6 | ナデ→ヘラケズリ | ナデ | | | 8 |
| 296 | 土師器 | 高坏 | | | 4.1 | ハケ目→ナデ | ナデ | | | |
| 297 | 土師器 | 坏 | 18.3 | 5.8 | | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠAa | 8 |
| 298 | 土師器 | 坏 | 15.9 | 4.2 | | ﾊｹ目→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠAa | 8 |
| 299 | 土師器 | 坏 | 14.7 | 3.8 | 6.9 | ナデ→ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠAb | 8 |
| 300 | 土師器 | 坏 | 11.9 | 3.3 | | 横ナデ、ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠAb | 8 |
| 301 | 土師器 | 坏 | 14.9 | 3.3 | 7.0 | 横ナデ、ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠAc | 8 |
| 302 | 土師器 | 坏 | 12.8 | 3.2 | 6.6 | 横ナデ、ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠAc | 8 |
| 303 | 土師器 | 坏 | (10.6) | (3.2) | | ﾊｹ目→横ﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠAc | 8 |
| 304 | 土師器 | 坏 | 12.4 | 4.1 | | ﾊｹ目→横ﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠAc | 8 |
| 305 | 土師器 | 坏 | (11.0) | 3.6 | (5.8) | ﾊｹ目→横ﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ | ヘラミガキ | | 1ⅠAc | |
| 306 | 土師器 | 坏 | (11.8) | (3.3) | | 横ナデ、ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠAc | |
| 307 | 土師器 | 坏 | (14.0) | | | ハケ目→ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠAd | |
| 308 | 土師器 | 坏 | 14.5 | 4.2 | | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠBa | 8 |
| 309 | 土師器 | 坏 | (13.6) | (3.7) | | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠBa | |
| 310 | 土師器 | 坏 | 13.8 | 4.3 | | ﾊｹ目→横ﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠBb | 8 |
| 311 | 土師器 | 坏 | 14.6 | 4.3 | | ナデ、ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠBb | 8 |
| 312 | 土師器 | 坏 | 13.7 | 4.2 | | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠBb | 8 |
| 313 | 土師器 | 坏 | 10.1 | 2.9 | 4.6 | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠBb | 8 |
| 314 | 土師器 | 坏 | 10.2 | 3.2 | 6.6 | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅠBb | 8 |
| 315 | 土師器 | 坏 | 10.6 | 4.6 | 6.2 | ヘラミガキ、ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡA | 9 |
| 316 | 土師器 | 坏 | 11.3 | 5.1 | | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡA | 9 |
| 317 | 土師器 | 坏 | 11.7 | 5.1 | 4.6 | ヘラミガキ、ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡA | 9 |
| 318 | 土師器 | 坏 | 13.1 | 4.5 | | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡA | 9 |
| 319 | 土師器 | 坏 | 11.3 | 4.1 | | ハケ目→ナデ、ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡA | 9 |
| 320 | 土師器 | 坏 | (12.3) | (4.1) | | ハケ目→ナデ、ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡA | 9 |
| 321 | 土師器 | 坏 | 12.9 | 4.7 | | ヘラミガキ、ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡBa | 9 |
| 322 | 土師器 | 坏 | 15.4 | 5.9 | 6.0 | ヘラミガキ、ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡBb | 9 |
| 323 | 土師器 | 坏 | 15.4 | 5.8 | 5.9 | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡBb | 9 |
| 324 | 土師器 | 坏 | 13.1 | 4.8 | 5.1 | ハケ目 | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡBb | 9 |
| 325 | 土師器 | 坏 | (13.5) | (4.2) | (6.7) | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡBb | 9 |
| 326 | 土師器 | 坏 | 10.3 | 4.2 | 5.3 | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡBb | 9 |
| 327 | 土師器 | 坏 | 10.2 | 4.3 | 5.0 | ヘラミガキ | ﾍﾗﾐｶﾞｷ→黒色処理、漆付着 | | 1ⅡBb | 9 |
| 328 | 土師器 | 坏 | 10.8 | 3.6 | | ヘラミガキ、ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡBb | 9 |
| 329 | 土師器 | 坏 | | | 5.5 | ヘラミガキ、ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡBb | |
| 330 | 土師器 | 坏 | 15.0 | 6.5 | | ヘラミガキ、赤色塗彩 | ヘラミガキ、赤色塗彩 | | 1ⅡBb | 9 |
| 331 | 土師器 | 高台付坏 | | | 6.0 | | ヘラミガキ→黒色処理 | | | |
| 332 | 土師器 | 坏蓋 | 12.4 | 1.8 | | ロクロ調整→ヘラケズリ | ロクロ調整 | | Ⅱ | |
| 333 | 土師器 | 坏蓋 | | | | ロクロ調整→ヘラケズリ | ロクロ調整 | | | |

| 番号 | 種別 | 器形 | 特徴 | 口径 | 底径 | 器高 | 底径指数 | 高径指数 | 外傾度 | 分類 | 図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 334 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.0 | 6.2 | 3.9 | 0.516 | 32.5 | 22° | 2ⅠA | 9 |
| 335 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 10.9 | 6.5 | 3.7 | 0.6 | 33.9 | 22° | 2ⅠA | |
| 336 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 10.9 | 6.5 | 3.6 | 0.596 | 33.0 | 29° | 2ⅠA | |
| 337 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り、内面油煙 | 11.0 | 6.2 | 3.6 | 0.563 | 32.7 | 24° | 2ⅠA | 9 |
| 338 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り、体部下半ヘラケズリ | 10.6 | 4.6 | 3.8 | 0.433 | 35.8 | 20° | 2ⅠA | 9 |
| 339 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り、体部下半ヘラケズリ | 11.5 | 5.2 | 3.6 | 0.452 | 31.3 | 27° | 2ⅠA | |
| 340 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (12.2) | 7.0 | 3.9 | 0.573 | 31.9 | 27° | 2ⅠB | |
| 341 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.8 | 7.0 | 3.6 | 0.547 | 28.3 | 33° | 2ⅠB | |
| 342 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (12.3) | 6.5 | 3.9 | 0.528 | 31.7 | 29° | 2ⅠB | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 343 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 13.2 | 8.2 | 3.5 | 0.62 | 26.5 | 28° | 2ＩＢ | |
| 344 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り、内面柿渋 | (12.4) | (7.8) | 4.0 | 0.629 | 32.3 | 24° | 2ＩＢ | |
| 345 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り、外面剥落、内面柿渋 | (11.4) | 5.7 | 3.6 | 0.5 | 31.6 | 28° | 2ＩＢ | |
| 346 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.5 | 6.8 | 3.5 | 0.544 | 28.0 | 26° | 2ＩＢ | |
| 347 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.5 | 6.8 | 3.7 | 0.624 | 29.6 | 30° | 2ＩＢ | |
| 348 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.4 | 7.8 | 3.5 | 0.629 | 28.2 | 23° | 2ＩＢ | |
| 349 | 土師器 | 坏 | 内外剥落 | 12.7 | 7.3 | 3.7 | 0.575 | 29.1 | 31° | 2ＩＢ | |
| 350 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.6 | 7.4 | 3.7 | 0.587 | 29.7 | 32° | 2ＩＢ | |
| 351 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋 | (13.0) | (9.0) | 3.5 | 0.692 | 26.9 | 27° | 2ＩＢ | |
| 352 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り、内面柿渋 | 14.3 | 8.4 | 3.9 | 0.587 | 27.3 | 39° | 2ＩＢ | |
| 353 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り、全面アメ色 | (13.7) | (8.0) | 3.2 | 0.583 | 23.4 | 34° | 2ＩＢ | |
| 354 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 12.3 | 6.2 | 4.1 | 0.504 | 33.3 | 30° | 2ＩＢ | |
| 355 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | 14.1 | 9.1 | 3.6 | 0.645 | 25.5 | 33° | 2ⅡＡ | |
| 356 | 土師器 | 坏 | 回転ヘラ切り→ナデ | (13.0) | 6.5 | 4.5 | 0.5 | 34.6 | 26° | 2ⅡＡ | |
| 357 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り、内面ナデ | (11.6) | (5.3) | 4.4 | 0.456 | 37.9 | 29° | 2ⅡＢ | |
| 358 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り、全体的に摩滅が激しい | (12.9) | 5.3 | 5.2 | 0.41 | 40.3 | 31° | 2ⅡＢ | |
| 359 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | (13.6) | (6.2) | 5.1 | 0.456 | 37.5 | 29° | 2ⅡＢ | |
| 360 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り、内面柿渋 | 12.2 | 6.7 | 4.0 | 0.549 | 32.8 | 27° | 2ⅡＢ | |
| 361 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り(太目) | 11.6 | 5.2 | 3.8 | 0.448 | 32.7 | 30° | 2ⅡＢ | |
| 362 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 12.8 | 6.9 | 3.9 | 0.539 | 30.5 | 32° | 2ⅡＢ | 9 |
| 363 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | (11.9) | (6.2) | 3.5 | 0.521 | 29.4 | 33° | 2ⅡＢ | |
| 364 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 11.9 | 5.2 | 4.0 | 0.44 | 33.6 | 33° | 2ⅡＢ | |
| 365 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 11.9 | 5.5 | 3.7 | 0.462 | 31.1 | 30° | 2ⅡＢ | |
| 366 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 11.6 | 5.8 | 4.1 | 0.5 | 35.3 | 28° | 2ⅡＢ | 9 |
| 367 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り、内面油煙 | 13.6 | 6.6 | 3.7 | 0.485 | 27.2 | 38° | 2ⅡＢ | |
| 368 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 14.0 | 5.7 | 4.5 | 0.407 | 40.7 | 42° | 2ⅡＢ | 9 |
| 369 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り、内面油煙、柿渋 | 11.9 | 5.8 | 3.9 | 0.487 | 32.8 | 32° | 2ⅡＢ | |
| 370 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 12.8 | 6.9 | 3.9 | 0.539 | 30.5 | 36° | 2ⅡＢ | |
| 371 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り、内面ナデ | (12.2) | 5.1 | 4.1 | 0.418 | 33.6 | 28° | 2ⅡＢ | |
| 372 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り(太目)、体部下半ヘラケズリ | (11.4) | (5.4) | 4.2 | 0.473 | 36.8 | 25° | 2ⅡＢ | |
| 373 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 12.5 | 5.1 | 4.3 | 0.408 | 34.4 | 44° | 2ⅡＢ | |
| 374 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 14.0 | 6.9 | 4.3 | 0.492 | 31.0 | 37° | 2ⅡＢ | |
| 375 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 13.2 | 5.5 | 4.7 | 0.416 | 35.6 | 35° | 2ⅡＢ | 9 |
| 376 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 12.6 | 6.0 | 4.6 | 0.476 | 36.5 | 31° | 2ⅡＢ | |
| 377 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 11.6 | 4.6 | 5.5 | 0.396 | 47.4 | 26° | 2ⅡＢ | |
| 378 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 13.1 | 5.8 | 5.2 | 0.442 | 40.1 | 30° | 2ⅡＢ | |
| 379 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り、内面丁寧なナデ | (13.6) | 5.4 | 4.9 | 0.397 | 36.0 | 33° | 2ⅡＢ | |
| 380 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 13.4 | 5.3 | 5.0 | 0.395 | 37.3 | 30° | 2ⅡＢ | |
| 381 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り | 13.6 | 6.0 | 4.7 | 0.441 | 34.6 | 36° | 2ⅡＢ | |
| 382 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り→ヘラ(?) | 12.9 | 6.3 | 4.7 | 0.488 | 36.4 | 33° | 2ⅡＢ | |
| 383 | 土師器 | 坏 | 回転糸切り、ヘラミガキ→黒色処理 | 14.1 | 5.9 | 5.0 | 0.418 | 35.4 | 29° | 2ⅡＢ | 9 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 外面調整 | 内面調整 | 底面調整 | 分類 | 図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 384 | 土師器 | 高台付坏 | 15.9 | 5.7 | 7.2 | ロクロ調整 | ロクロ調整、ヘラミガキ→黒色処理 | 回転糸切り、ヘラ書き「×」 | | 9・19 |
| 385 | 土師器 | 高台付坏 | | | 6.1 | ロクロ調整 | ロクロ調整、ヘラミガキ→黒色処理 | 回転糸切り | | |
| 386 | 土師器 | 高台付坏 | (13.0) | 4.3 | (7.5) | ロクロ調整 | ロクロ調整 | 回転ヘラ切り | | |
| 387 | 土師器 | 高台付坏 | 11.9 | 5.7 | 6.0 | ロクロ調整 | ロクロ調整 | 回転ヘラ切り | | |
| 388 | 土師器 | 高台付皿 | | | 6.0 | ロクロ調整 | ロクロ調整 | 回転ヘラ切り | | 9 |
| 389 | 土師器 | 高台付皿 | (13.7) | (3.1) | | ロクロ調整 | ロクロ調整、ヘラミガキ→黒色処理 | | | |
| 390 | 土師器 | 高台付皿 | | | 6.8 | ロクロ調整 | ロクロ調整、ヘラミガキ | 回転ヘラ切り | | |
| 391 | 土師器 | 高台付皿 | | | (9.0) | ロクロ調整 | ロクロ調整 | 回転ヘラ切り | | |
| 392 | 土師器 | 椀 | 15.2 | 7.4 | | 横ナデ、ヘラケズリ | ﾍﾗﾐｶﾞｷ、ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ→黒色処理 | | 1Ａａ | 9 |
| 393 | 土師器 | 椀 | 13.4 | 7.4 | | ヘラミガキ、ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1Ａａ | 9 |
| 394 | 土師器 | 椀 | 11.8 | 5.6 | 5.5 | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1Ａｂ | 9 |
| 395 | 土師器 | 椀 | (12.9) | | | 横ナデ、ヘラケズリ | ハケ目 | | 1Ａｃ | |
| 396 | 土師器 | 椀 | (10.5) | | | ハケ目 | ハケ目 | | 1Ａｃ | |
| 397 | 土師器 | 椀 | (11.6) | | | 横ナデ、ヘラケズリ | 横ナデ、ヘラ状工具によるナデ | | 1Ａｃ | |
| 398 | 土師器 | 椀 | 9.0 | | | ハケ目→横ナデ、ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1Ａｃ | |
| 399 | 土師器 | 椀 | (9.8) | | | ハケ目→ヘラミガキ、ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1Ｂａ | |
| 400 | 土師器 | 椀 | 13.7 | 7.3 | 5.8 | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1Ｂｂ | 9 |
| 401 | 土師器 | 椀 | (19.1) | (6.0) | | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1Ｂｂ | |
| 402 | 土師器 | 椀 | (16.5) | | | ヘラミガキ、ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1Ｂｂ | |
| 403 | 土師器 | 椀 | (13.8) | | | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | | 1Ｂｂ | |
| 404 | 土師器 | 椀 | | | | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ→黒色処理 | | 1Ｂｂ | |
| 405 | 土師器 | 椀 | | | 5.4 | 横ナデ、ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1Ｂｃ | 9 |
| 406 | 土師器 | 椀 | | | 5.3 | | | ヘラ書き「×」 | 1Ｂｃ | 19 |
| 407 | 土師器 | 椀 | 11.7 | 6.3 | (5.6) | 横ナデ | 横ナデ、ヘラミガキ→黒色処理 | ケズリ | 2 | 9 |
| 408 | 土師器 | 椀 | 15.1 | 6.2 | (7.2) | 体部下端ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | 回転糸切り | 2 | 9 |
| 409 | 土師器 | 鉢 | 23.6 | 13.7 | (9.1) | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | ケズリ | Ａａ | 9 |
| 410 | 土師器 | 鉢 | 20.7 | 10.0 | (8.3) | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | ケズリ | Ａａ | 9 |
| 411 | 土師器 | 鉢 | 14.2 | (8.6) | (9.2) | ハケ目→ヘラミガキ | ヘラケズリ→黒色処理 | | Ａａ | 9 |
| 412 | 土師器 | 鉢 | 12.8 | 11.2 | (7.2) | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | Ａｂ | 9 |
| 413 | 土師器 | 鉢 | 20.4 | 8.6 | 9.9 | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | 木葉痕 | Ｂａ | 9 |
| 414 | 土師器 | 鉢 | 13.8 | 7.1 | 6.5 | ヘラミガキ、体部下端ヘラケズリ | ヘラミガキ→黒色処理 | | Ｂｂ | 9 |
| 415 | 土師器 | 鉢 | 14.6 | 6.8 | | 横ナデ、ヘラケズリ | ヘラケズリ→黒色処理 | 笹葉痕 | Ｃ | 9 |
| 416 | 土師器 | 鉢 | 14.9 | 8.1 | 9.6 | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ | 木葉痕 | Ｂｃ | 9 |
| 417 | 土師器 | 鉢 | | | 11.0 | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | ハケ目 | Ｄ | |
| 418 | 土師器 | 鉢 | | | 10.8 | ハケ目→ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | 木葉痕 | Ｄ | |
| 419 | 土師器 | 鉢 | | | | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | ハケ目 | Ｄ | |
| 420 | 土師器 | 不明 | | | 3.1 | | | | | |
| 421 | 土師器 | 甕 | 17.5 | 22.7 | 6.5 | ヘラミガキ | ヘラ状工具によるナデ | | 1ＩＡ | 10 |
| 422 | 土師器 | 甕 | 19.4 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ＩＡ | |
| 423 | 土師器 | 甕 | 18.8 | | | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾊｹ目→ﾐｶﾞｷ | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ＩＡ | |
| 424 | 土師器 | 甕 | 18.4 | | | 口:ﾅﾃﾞ、胴:上平行ﾀﾀｷ→ﾅﾃﾞ・下ｹｽﾞﾘ | ハケ目 | | 1ＩＡ | |
| 425 | 土師器 | 甕 | 18.0 | | | 口:ハケ目→ナデ、胴:ハケ目 | 胴:ﾊｹ目→ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ＩＡ | |
| 426 | 土師器 | 甕 | 17.2 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ＩＡ | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 427 | 土師器 | 甕 | 19.2 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠA | |
| 428 | 土師器 | 甕 | 21.0 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 429 | 土師器 | 甕 | 21.0 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 430 | 土師器 | 甕 | 18.2 | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 431 | 土師器 | 甕 | 17.4 | | | 口:ハケ目→横ナデ | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 432 | 土師器 | 甕 | 15.1 | | | 口:横ナデ、胴:ナデ | 口:横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠA | |
| 433 | 土師器 | 甕 | 17.0 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 434 | 土師器 | 甕 | 14.0 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠA | |
| 435 | 土師器 | 甕 | 11.8 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠA | |
| 436 | 土師器 | 甕 | 18.6 | | | 口:ハケ目→横ナデ | 口:横ナデ | | 1ⅠA | |
| 437 | 土師器 | 甕 | 16.8 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 胴:ﾊｹ目→ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠA | |
| 438 | 土師器 | 甕 | 14.1 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ヘラ状工具ナデ | | 1ⅠA | |
| 439 | 土師器 | 甕 | 16.2 | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ | | 1ⅠA | |
| 440 | 土師器 | 甕 | 16.2 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 441 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 胴:ﾊｹ目→ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠA | |
| 442 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 胴:ﾊｹ目→ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠA | |
| 443 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 444 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 445 | 土師器 | 甕 | | | | ハケ目 | ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 446 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ヘラ状工具ナデ、胴:ハケ目 | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾊｹ目(ﾓﾐ痕) | | 1ⅠA | |
| 447 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 448 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠA | |
| 449 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目→櫛描波状文 | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 450 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目→櫛描波状文 | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 451 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目→櫛描波状文 | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠA | |
| 452 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ヘラミガキ | 口:ナデ、胴:ヘラ状工具ナデ | | 1ⅠA | |
| 453 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠA | |
| 454 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ﾅﾃﾞ、胴:ﾊｹ目→ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠA | |
| 455 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠA | |
| 456 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ナデ、胴:ヘラ状工具ナデ | | 1ⅠA | |
| 457 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠA | |
| 458 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠA | |
| 459 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ヘラ状工具ナデ、胴:ハケ目 | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠA | |
| 460 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ﾊｹ目、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠA | |
| 461 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ | | 1ⅠA | |
| 462 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ | | 1ⅠA | |
| 463 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠA | |
| 464 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠA | |
| 465 | 土師器 | 甕 | 21.6 | 21.3 | 8.4 | 口:ハケ目、胴:ハケ目 | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | 木葉痕 | 1ⅠB | 10 |
| 466 | 土師器 | 甕 | 15.9 | | | 口:横ナデ、胴:ヘラケズリ | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠB | 10 |
| 467 | 土師器 | 甕 | 14.9 | 19.0 | 9.5 | 口:横ﾅﾃﾞ、胴:ﾊｹ目(非常に細かい) | 口:横ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠB | 10 |
| 468 | 土師器 | 甕 | 16.4 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ヘラ状工具によるナデ | | 1ⅠB | 10 |
| 469 | 土師器 | 甕 | 11.9 | 8.7 | 4.9 | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 胴:ﾊｹ目→ﾍﾗ状工具によるﾅﾃﾞ | 木葉痕 | 1ⅠB | 10 |
| 470 | 土師器 | 甕 | 8.0 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠB | |
| 471 | 土師器 | 甕 | 16.4 | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠB | |
| 472 | 土師器 | 甕 | 16.8 | | | 口:ヘラ状工具ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ﾅﾃﾞ、胴:ﾊｹ目→ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠB | |
| 473 | 土師器 | 甕 | 17.4 | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ | | 1ⅠB | |
| 474 | 土師器 | 甕 | 13.2 | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠB | |
| 475 | 土師器 | 甕 | 16.8 | | | 口:横ナデ、胴:ヘラ状工具ナデ | 口:横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠB | |
| 476 | 土師器 | 甕 | 13.8 | | | 口:横ナデ、胴:ヘラ状工具ナデ | 口:横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠB | |
| 477 | 土師器 | 甕 | 14.6 | | | 口:横ナデ、胴:ナデ | 口:横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠB | |
| 478 | 土師器 | 甕 | 14.0 | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠB | |
| 479 | 土師器 | 甕 | 9.9 | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目(細かい) | 口:横ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠB | |
| 480 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠB | |
| 481 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠB | |
| 482 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠB | |
| 483 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1ⅠB | |
| 484 | 土師器 | 甕 | 15.9 | | | 口:ヘラ状工具ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠC | 10 |
| 485 | 土師器 | 甕 | 14.1 | 16.5 | 7.6 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目、胴:ハケ目 | ヘラケズリ | 1ⅠC | 10 |
| 486 | 土師器 | 甕 | 16.4 | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目(細かい) | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠC | |
| 487 | 土師器 | 甕 | 20.2 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠC | |
| 488 | 土師器 | 甕 | 12.2 | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ | | 1ⅠC | |
| 489 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ヘラ状工具ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠC | |
| 490 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目(細かい) | 口:横ナデ、胴:一部ハケ目 | | 1ⅠC | |
| 491 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目、胴:ハケ目 | | 1ⅠC | |
| 492 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠC | |
| 493 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠC | |
| 494 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ナデ | 口:指オサエ、胴:ハケ目 | | 1ⅠC | |
| 495 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | | 1ⅠC | |
| 496 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ナデ | 口:横ナデ、胴:ナデ | | 1ⅠC | |
| 497 | 土師器 | 甕 | 13.7 | 20.0 | 6.8 | 口:横ナデ、胴:ヘラケズリ | 口:横ナデ、胴:ナデ | ヘラケズリ | 1Ⅱ | 10 |
| 498 | 土師器 | 甕 | 14.6 | 16.1 | (8.3) | 口:横ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 口:横ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1Ⅱ | 10 |
| 499 | 土師器 | 甕 | 11.2 | | | 口:横ナデ、胴:ヘラケズリ | 口:横ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1Ⅱ | |
| 500 | 土師器 | 甕 | 19.2 | | | 口:ハケ目→横ナデ、胴:ヘラミガキ | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1Ⅱ | |
| 501 | 土師器 | 甕 | 18.4 | | | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾊｹ目→ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1Ⅱ | |
| 502 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ﾊｹ目→ﾅﾃﾞ、胴:ﾊｹ目→ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 口:横ナデ | | 1Ⅱ | |
| 503 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ハケ目→ヘラ状工具によるナデ | 口:ハケ目 | | 1Ⅱ | |
| 504 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ヘラミガキ | 口:横ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1Ⅱ | |
| 505 | 土師器 | 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | 口:ハケ目、胴:ハケ目 | | | |
| 506 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ、胴:ﾅﾃﾞ・下ｹｽﾞﾘ | 口:横ﾅﾃﾞ、胴:ﾍﾗ状工具ﾅﾃﾞ | | 1Ⅰ | |
| 507 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ﾅﾃﾞ→沈線、胴:ﾊｹ目→ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 口:横ナデ、胴:ハケ目 | | 1Ⅰ | |
| 508 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ﾊｹ目、胴:ﾊｹ目→ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 口:ハケ目、胴:ハケ目 | | 1Ⅰ | |
| 509 | 土師器 | 甕 | | | | ハケ目 | ハケ目 | | 1Ⅰ | |
| 510 | 土師器 | 甕 | | | | ハケ目 | ハケ目 | | 1Ⅰ | |
| 511 | 土師器 | 甕 | | | | ハケ目 | ハケ目 | | 1Ⅰ | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 512 | 土師器 甕 | | | | ハケ目 | ハケ目→ヘラ状工具によるナデ | | 1Ⅰ | |
| 513 | 土師器 甕 | | | | ハケ目 | ハケ目→ヘラ状工具によるナデ | | 1Ⅰ | |
| 514 | 土師器 甕 | | | | ハケ目 | ハケ目 | | 1Ⅰ | |
| 515 | 土師器 甕 | | | | ハケ目→ヘラミガキ | ヘラ状工具によるナデ | | 1Ⅱ | |
| 516 | 土師器 甕 | | | | ヘラミガキ | ハケ目→ヘラ状工具によるナデ | | 1Ⅱ | |
| 517 | 土師器 甕 | | | 8.1 | ハケ目 | ハケ目→ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | 1Ⅰ | 10 |
| 518 | 土師器 甕 | | | (7.8) | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 519 | 土師器 甕 | | | 7.4 | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 520 | 土師器 甕 | | | | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 521 | 土師器 甕 | | | (6.2) | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | 笹葉痕 | 1Ⅰ | |
| 522 | 土師器 甕 | | | 8.8 | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 523 | 土師器 甕 | | | 8.5 | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 524 | 土師器 甕 | | | 7.8 | ハケ目 | ハケ目 | 笹葉痕 | 1Ⅰ | |
| 525 | 土師器 甕 | | | 7.9 | ハケ目 | ハケ目 | 笹葉痕 | 1Ⅰ | |
| 526 | 土師器 甕 | | | 7.0 | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 527 | 土師器 甕 | | | 6.2 | ハケ目 | ハケ目 | 笹葉痕 | 1Ⅰ | |
| 528 | 土師器 甕 | | | 7.8 | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 529 | 土師器 甕 | | | 6.4 | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 530 | 土師器 甕 | | | (7.9) | ハケ目 | ハケ目 | 笹葉痕、砂粒付着 | 1Ⅰ | |
| 531 | 土師器 甕 | | | (8.0) | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | 内:ﾍﾗﾅﾃﾞ(円形)、外:ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1Ⅰ | |
| 532 | 土師器 甕 | | | 7.8 | ハケ目 | ハケ目 | 笹葉痕 | 1Ⅰ | |
| 533 | 土師器 甕 | | | 7.9 | ハケ目 | ハケ目 | 笹葉痕 | 1Ⅰ | |
| 534 | 土師器 甕 | | | 6.0 | ハケ目 | ハケ目 | 笹葉痕 | 1Ⅰ | |
| 535 | 土師器 甕 | | | 7.3 | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 536 | 土師器 甕 | | | 5.3 | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | 砂粒付着 | 1Ⅰ | |
| 537 | 土師器 甕 | | | 6.3 | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 538 | 土師器 甕 | | | (7.8) | ハケ目 | ハケ目 | 笹葉痕 | 1Ⅰ | |
| 539 | 土師器 甕 | | | 5.9 | ナデ | ナデ | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 540 | 土師器 甕 | | | 6.5 | ハケ目 | 不明 | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 541 | 土師器 甕 | | | 5.6 | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 542 | 土師器 甕 | | | 6.2 | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 543 | 土師器 甕 | | | 6.4 | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 544 | 土師器 甕 | | | 4.7 | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | 笹葉痕 | 1Ⅰ | |
| 545 | 土師器 甕 | | | 6.6 | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | | 1Ⅰ | |
| 546 | 土師器 甕 | | | 7.6 | ハケ目、アメ色 | ハケ目 | | 1Ⅰ | |
| 547 | 土師器 甕 | | | 8.2 | ヘラケズリ | ヘラ状工具によるナデ | | 1Ⅰ | |
| 548 | 土師器 甕 | | | 11.4 | ハケ目→ヘラミガキ | ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | 1Ⅱ | |
| 549 | 土師器 甕 | | | 8.4 | ヘラミガキ | ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | 1Ⅱ | |
| 550 | 土師器 甕 | | | (8.2) | ヘラミガキ | ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | 1Ⅱ | |
| 551 | 土師器 甕 | | | 9.4 | ハケ目→ナデ | ハケ目→ナデ | | 1Ⅱ | |
| 552 | 土師器 甕 | | | (7.8) | ヘラミガキ | ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | 1Ⅱ | |
| 553 | 土師器 甕 | | | 6.9 | ハケ目 | ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | 1Ⅱ | |
| 554 | 土師器 甕 | | | 9.8 | ハケ目 | ハケ目→ヘラ状工具によるナデ | ヘラケズリ | 1Ⅰ | |
| 555 | 土師器 甕 | | | (9.8) | ハケ目 | 不明 | 砂粒付着 | 1Ⅰ | |
| 556 | 土師器 甕 | | | 5.7 | 不明 | ヘラ状工具によるナデ | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 557 | 土師器 甕 | | | 6.1 | ハケ目 | ハケ目 | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 558 | 土師器 甕 | | | 4.5 | 不明 | 不明 | 木葉痕 | 1Ⅰ | |
| 559 | 土師器 甕 | (18.9) | | | 口:ﾀﾀｷ→ﾅﾃﾞ、胴:ｶｷ目→平行ﾀﾀｷ | 口:ﾅﾃﾞ、胴:ｶｷ目・ﾊｹ目→円文のｱﾃ | | 1Ⅰ | 10 |
| 560 | 土師器 甕 | 22.3 | | | 口:横ナデ、胴:ナデ・ヘラケズリ | 口:横ﾅﾃﾞ、胴:ｶｷ目・縦位のﾊｹ目 | | 1Ⅰ | 10 |
| 561 | 土師器 甕 | 20.1 | | | 口:ﾀﾀｷ→ﾅﾃﾞ、胴:上ｶｷ目・下ｹｽﾞﾘ | 口:横ﾅﾃﾞ、胴:ｶｷ目・縦位のﾊｹ目 | | 1Ⅰ | |
| 562 | 土師器 甕 | | | | 平行タタキ→横ナデ | カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 563 | 土師器 甕 | | | | 平行タタキ→ナデ | カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 564 | 土師器 甕 | | | | 平行タタキ→ナデ | カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 565 | 土師器 甕 | 20.6 | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:横ナデ、胴:カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 566 | 土師器 甕 | 12.6 | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:横ナデ、胴:カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 567 | 土師器 甕 | 14.4 | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:横ナデ、胴:カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 568 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:横ナデ、胴:カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 569 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:ｶｷ目、胴:ｶｷ目・斜位のﾊｹ目 | | 1Ⅰ | |
| 570 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:ｶｷ目、胴:ｶｷ目・斜位のﾊｹ目 | | 1Ⅰ | |
| 571 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:カキ目、胴:カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 572 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:カキ目、胴:カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 573 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:カキ目、胴:カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 574 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:カキ目→ヘラケズリ | 口:横ナデ、胴:カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 575 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:横ナデ、胴:カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 576 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:カキ目、胴:カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 577 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:カキ目、胴:カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 578 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ、胴:カキ目 | 口:カキ目、胴:カキ目 | | 1Ⅰ | |
| 579 | 土師器 甕 | | | | ヘラケズリ→平行タタキ | ハケ目→アテ | | ⅠA | |
| 580 | 土師器 甕 | | | | 平行タタキ→ヘラケズリ | カキ目・ハケ目→同心円文のアテ | | 2ⅠA1 | |
| 581 | 土師器 甕 | | | | ヘラケズリ | ハケ目 | | 2ⅠA3 | |
| 582 | 土師器 甕 | | | | カキ目→ヘラケズリ | カキ目 | | Ⅰ | |
| 583 | 土師器 甕 | 8.5 | 10.9 | 7.0 | 口:横ナデ | 口:横ナデ | 回転糸切り | 2Ⅱ | |
| 584 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ | 口:横ナデ | | 2Ⅱ | |
| 585 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ | カキ目 | | 2Ⅱ | |
| 586 | 土師器 甕 | | | | 口:横ナデ | 口:横ナデ | | 2Ⅱ | |
| 587 | 土師器 甕 | | | 8.5 | カキ目 | カキ目 | 静止糸切り | 2ⅠB | |
| 588 | 土師器 甕 | | | 8.4 | 不明 | カキ目 | 静止糸切り | 2ⅠB | |
| 589 | 土師器 甕 | | | 6.6 | カキ目 | カキ目 | 回転糸切り | 2ⅠB | |
| 590 | 土師器 甕 | | | 7.0 | ナデ | ナデ | 回転糸切り | 2ⅠB | |
| 591 | 土師器 甕 | | | (7.5) | ナデ | カキ目 | 回転糸切り | 2ⅠB | |
| 592 | 土師器 甕 | | | 7.2 | 不明 | 不明 | 回転糸切り | 2ⅠB | |
| 593 | 土師器 甕 | | | 8.2 | 不明 | 不明 | 回転糸切り | 2ⅠB | |
| 594 | 土師器 鍋 | | | | カキ目 | カキ目・斜位のハケ目 | | | |

第４表　ＳＬ27河川跡出土遺物観察表(第82・83図)　　単位(cm)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 外面調整 | 内面調整 | 底面調整 | 分類 | 図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 595 | 須恵器 | 蓋 | | | | ロクロ調整→ヘラケズリ | ロクロ調整、墨痕 | | B | |
| 596 | 須恵器 | 甕 | | | (12.0) | 平行タタキ、下部ヘラケズリ | ハケ目 | | | |
| 597 | 須恵器 | 甕 | | | | 平行タタキ、ハケ目 | 同心円文のアテ | | | |
| 598 | 須恵器 | 甕 | (23.0) | | | タタキ | 同心円文のアテ | | | |
| 599 | 土師器 | 甕 | | | | タタキ | 同心円文のアテ | | | |
| 600 | 土師器 | 坏 | | | | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 1ⅡBa | 9 |
| 601 | 土師器 | 坏 | | | | ヘラミガキ | ヘラミガキ→黒色処理 | | 2ⅡA | |
| 602 | 土師器 | 甕 | | | 7.6 | ハケ目 | | 木葉痕 | | |
| 603 | 土師器 | 甕 | | | 8.8 | ハケ目 | ハケ目 | 砂粒付着 | ⅠA | |
| 604 | 土師器 | 甕 | | | | 口:ナデ、胴:ハケ目 | 口:ナデ、胴:ヘラ状工具によるナデ | | 1ⅠA | |
| 605 | 土師器 | 甕 | | | | | | 砂粒付着 | 1Ⅰ | |
| 606 | | 羽口 | | | | | | | | |

第５表　出土木製品観察表(第84～130図)　　単位(cm)

| 番号 | 種別 | 出土地点 | 計測値 長さ | 幅 | 厚さ | RW番号 | 備考 | 分類 | 図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 607 | 楔 | ＳＬ17-2 | 12.8 | 5.4 | 3.6 | | 片刃状 | | |
| 608 | 楔 | ＳＬ17-3 | 13.5 | 3.7 | 1.8 | | 片刃状 | | |
| 609 | 楔 | ＳＬ17-2 | 7.9 | 2.2 | 1.7 | | 片刃状 | | |
| 610 | 楔 | ＳＬ17 | 10.2 | 4.1 | 2.4 | | 片刃にあたる部分に更に斜めに切り込みあり | | |
| 611 | 楔 | ＳＬ17-3 | 10.4 | 3.4 | 1.2 | | 片刃状、一端が削れている | | |
| 612 | 楔 | ＳＬ17-3 | 19.0 | 3.4 | 3.3 | | 角棒状、一端を四面から尖らせる | | |
| 613 | 楔 | ＳＬ17-3 | 31.0 | 7.0 | 1.6 | | 薄い板で片刃状 | | 12 |
| 614 | 漆刷毛 | ＳＬ17-B | 18.5 | 2.0 | 0.7 | | 平刷毛 | | 12 |
| 615 | 漆刷毛 | ＳＬ17-B | 14.0 | 1.2 | 0.7 | | 平刷毛 | | 12 |
| 616 | 漆刷毛 | ＳＬ17 | (8.4) | 1.9 | 0.4 | | 平刷毛、両端にＶ字状の切り欠き | | |
| 617 | 漆刷毛 | ＳＬ17-B | 15.0 | 0.9 | 0.7 | | 丸刷毛 | | 12 |
| 618 | 箆 | ＳＬ17-2 | 12.6 | 4.3 | 0.2 | | 撥形、両刃状の刃 | | 12 |
| 619 | 箆 | ＳＬ17-3 | 16.7 | 1.5 | 0.3 | | 先端に漆状のもの付着 | | |
| 620 | 箆状木製品 | ＳＬ17-3 | 67.5 | 4.8 | 1.1 | | 先端斜め磨滅 | | |
| 621 | 箆状木製品 | ＳＬ17-2 | (62.2) | 2.5 | 1.0 | | 先端･柄折損 | | |
| 622 | 箆状木製品 | ＳＬ27 | (51.4) | 5.2 | 0.7 | 130 | 柄折損 | | |
| 623 | 箆状木製品 | ＳＬ17-2 | (43.0) | 3.5 | 0.9 | | 両端炭化 | | |
| 624 | 箆状木製品 | ＳＬ17-B | (23.5) | (1.6) | 1.0 | | 縦に割れる、頭頂部面取り | | |
| 625 | 箆状木製品 | ＭＨ67 | (37.2) | 5.3 | 0.8 | 10 | 先端･柄折損 | | |
| 626 | 箆状木製品 | ＳＬ17-3 | (41.2) | (9.0) | 0.9 | | 先端･柄折損 | | |
| 627 | 木釘 | ＳＬ27 | (20.0) | (1.0) | 0.9 | | 丸棒状、先端欠損 | | |
| 628 | 木釘 | ＳＬ17-B | (19.2) | (頭2.8) | 0.5 | | 角棒状 | | 12 |
| 629 | 木釘 | ＳＬ17 | 25.5 | 2.0 | 1.2 | | 留針? | | 12 |
| 630 | 木針 | ＳＬ17 | 13.0 | 1.0 | 0.2 | | 丸棒状、完形、頭部円形 | | 12 |
| 631 | 木針 | ＳＬ17-3 | 19.7 | 1.0 | 0.6 | | 丸棒状、完形、圭頭状 | | 12 |
| 632 | 木針 | ＳＬ17-3 | (17.0) | 0.6 | 0.5 | | 丸棒状、先端欠損 | | |
| 633 | 木針 | ＳＬ17 | 15.0 | 1.1 | 0.5 | | 扁平 | | 12 |
| 634 | 木針 | ＳＬ17-B | (17.9) | 1.4 | 0.6 | | 扁平、先端欠損 | | |
| 635 | 木針 | ＳＬ17 | (18.3) | 1.8 | 0.8 | | 扁平、先端欠損 | | |
| 636 | 木針 | ＳＬ17-3 | (22.8) | 1.5 | 1.0 | | 扁平、頭部欠損 | | |
| 637 | 木針 | ＳＬ17 | (9.0) | 1.1 | 0.3 | | 扁平、先端欠損 | | |
| 638 | 鋤 | ＳＬ17-1 | 107.5 | 18.0 | 2.4 | 1 | 身の縁刃先状、把手三角形状 | | 12 |
| 639 | 田下駄 | ＳＬ27 | 30.0 | (30.3) | 4.8 | 35 | 隅丸方形、半球形の歯4 | | 12 |
| 640 | 木錘 | ＳＬ17-B | 1.2 | 9.0 | 0.7 | | 中央の角三面に削り | | 12 |
| 641 | 糸巻 | ＳＬ27 | 33.2 | 3.0 | 3.0 | | 背面丸形、ホゾ孔四角 | | 12 |
| 642 | 糸巻 | ＳＬ27 | 31.8 | 2.5 | 2.7 | | 背面丸形、ホゾ孔四角 | | 12 |
| 643 | 糸巻 | ＳＬ17-3 | 33.0 | 2.9 | 1.9 | | ホゾ孔背面貫通 | | 12 |
| 644 | 浮子 | ＳＬ17-2 | 11.3 | 1.1 | 0.9 | | 一端細長い、反対尖らす | | 12 |
| 645 | 櫂 | ＳＬ17-1 | 164.5 | 6.3 | 0.6 | | ほぼ完形、握りは丸く面取り | | 12 |
| 646 | 櫂 | ＳＬ17-3 | 85.0 | 7.6 | 1.4 | | 柄の部分欠損 | | |
| 647 | 櫂 | ＳＬ17 | 91.0 | 12.4 | 0.6 | | 中央丸孔2つ、刃痕あり | | 12 |
| 648 | 鐙 | ＳＬ17-3 | 25.4 | 11.3 | 7.3 | | 壺内部三角錘状に刳りぬく | | 12 |
| 649 | 鐙 | ＳＬ17-B | 13.2 | 8.6 | 3.6 | | 壺外面球状、内面台形状 | | 12 |
| 650 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-B | 14.7 | 2.2 | 0.6 | | 上端丸形 | | 12 |
| 651 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-2 | 12.0 | 2.1 | 0.5 | | 上端丸形 | | 12 |
| 652 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-B | 9.9 | 1.6 | 0.7 | | 上端丸形 | | 12 |
| 653 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-2 | 12.1 | 2.8 | 0.6 | | 上端平坦 | | 12 |
| 654 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-2 | 11.7 | 2.9 | 0.6 | | 上端平坦 | | 12 |
| 655 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-2 | 10.7 | 2.5 | 0.6 | | 上端平坦 | | 12 |
| 656 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-2 | 11.4 | 3.1 | 0.5 | | 上端平坦 | | 12 |
| 657 | 荷札状木製品 | ＳＬ17 | 12.7 | 2.8 | 0.7 | | 上端平坦 | | 12 |
| 658 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-2 | 13.4 | 2.5 | 0.6 | | 上端平坦 | | 12 |
| 659 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-2 | 12.7 | 2.7 | 0.6 | | 上端平坦、下端尖っている | | 12 |
| 660 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-2 | 11.6 | 2.1 | 0.4 | | 上端平坦 | | 12 |
| 661 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-2 | 12.3 | 1.9 | 0.3 | | 上端平坦 | | 12 |
| 662 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-2 | 17.9 | 1.7 | 0.3 | | 未完成? | | |
| 663 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-2 | 17.2 | 1.9 | 0.5 | | 未完成? | | |
| 664 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-2 | 16.2 | 2.1 | 0.5 | | 未完成? | | |
| 665 | 荷札状木製品 | ＳＬ17 | 20.9 | 4.5 | 0.6 | | 大型 | | |
| 666 | 荷札状木製品 | ＳＬ17-3 | 29.9 | 2.4 | 0.7 | | 大型 | | |
| 667 | 丸木弓 | ＳＬ17-3 | 57.9 | 1.2 | 1.2 | | 両端にホゾ状の弭、一端炭化 | | 13 |
| 668 | 刀鞘 | ＳＬ27 | 34.0 | 4.5 | 1.9 | 34 | 2枚合わせ、中央浅い溝 | | 13 |
| 669 | 刀鞘 | ＳＬ17-1 | (36.5) | 4.5 | 0.5 | | 2枚合わせ、浅い溝、結わえ痕 | | 13 |
| 670 | 刀鞘 | ＳＬ17-3 | 37.2 | 4.3 | 1.1 | | 2枚合わせ、四角の目釘穴あり | | |
| 671 | 刀鞘 | ＳＬ17-2 | 54.8 | 4.3 | 0.7 | | 2枚合わせ、浅い溝、結わえ痕 | | 13 |
| 672 | 刀鞘 | ＳＬ17-3 | 55.7 | 4.8 | 0.6 | | 2枚合わせ | | |
| 673 | 刀鞘 | ＳＬ27 | (11.8) | 3.6 | 1.6 | | 2枚合わせ、樺皮を巻く | | 13 |
| 674 | 櫛 | ＳＬ17-2 | 4.1 | 7.7 | 0.8 | | 黒漆、歯3cmあたり27本 | | 13 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 675 | 下駄 | SL17-B | 11.5 | 5.6 | 3.7 | | 小型、磨滅痕なし | | 13 |
| 676 | 下駄 | SL17 | 21.3 | 9.3 | 3.0 | | 右足用、後歯磨滅 | | 13 |
| 677 | 下駄 | SL17-B | 22.3 | 10.2 | 3.5 | | 左足用 | | 13 |
| 678 | 下駄 | SL27 | 20.0 | 8.1 | 2.9 | 36 | 4つ歯の形態 | | 13 |
| 679 | 下駄 | SL27 | 27.5 | 12.4 | 3.7 | 72 | 歯の内側面斜め台形状 | | 13 |
| 680 | 挽物皿 | SL17-2 | 19.2 | 18.9 | 0.7 | | 黒漆塗 | | |
| 681 | 挽物皿 | SL17-3 | (19.7) | (19.6) | 0.9 | | 黒漆塗 | | 13 |
| 682 | 挽物皿 | SL17-2 | (17.2) | (11.8) | 0.7 | | 黒漆塗、内外面細かな刃痕あり | | |
| 683 | 挽物高台付皿 | SL17 | (17.6) | (10.4) | 1.2 | | 黒漆塗、体部外面不明文字焼印、低い高台が付く | | 13 |
| 684 | 刳物盤 | SL17-3 | 14.2 | 13.1 | 3.8 | | 半分腐蝕欠損 | | |
| 685 | 刳物盤 | SL17-B | 20.5 | 33.2 | 4.5 | | 楕円形に浅く刳り込む | | 13 |
| 686 | 刳物盤 | SL17 | 22.0 | 32.1 | 3.8 | | 一短辺の角を丸く落とした形 | | 13 |
| 687 | 刳物盤 | SL17 | 33.3 | 5.1 | 4.0 | | 大半欠損 | | 13 |
| 688 | 刳物槽 | SL17-B | 10.6 | 20.8 | 5.3 | | 平面形が台形状 | | 13 |
| 689 | 刳物槽 | SL17-2 | 14.0 | 31.1 | 7.2 | | 内面全面に焼けこげ跡、腐蝕 | | 13 |
| 690 | 刳物槽 | SL17-3 | 115.2 | 45.6 | 20.0 | | 両口縁部の一部焼け焦げ跡 | | |
| 691 | 刳物槽 | SL17-3 | 41.0 | 12.3 | 7.0 | | 台形状に刳りぬかれる | | 13 |
| 番号 | 種　別 | 出土地点 | 計測値 | | RW | 備　考 | | 分　類 | 図　版 |
| | | | 径 | 高さ | 番号 | | | | |
| 692 | 曲物蓋 | SL17-1 | (33.5) | 1.3 | | 周縁あり、木釘穴1、外面が刃痕 | | A1 | |
| 693 | 曲物蓋 | SL17 | 23.0 | 0.7 | | 周縁あり、木釘3、木釘穴2 | | A1 | |
| 694 | 曲物蓋 | SL17-3 | 17.3 | 1.3 | | 周縁あり、樺皮紐2 | | A2 | |
| 695 | 曲物蓋 | SL17-3 | 16.1 | 0.7 | | 周縁あり、樺皮紐1、外面炭化、刃痕 | | A2 | |
| 696 | 曲物蓋 | SL17-3 | 16.7 | 0.7 | | 周縁あり、木釘4 | | A1 | |
| 697 | 曲物蓋 | SL17-3 | (14.8) | 0.8 | 37 | 周縁あり | | A1 | 13 |
| 698 | 曲物蓋 | SL17-3 | 14.4 | 0.5 | | 木釘穴4、樺皮1、内面漆(?) | | B1 | 13 |
| 699 | 曲物蓋 | SL17-1 | 12.8 | 0.5 | 4 | 樺皮紐2、内面漆(?) | | B2 | |
| 700 | 曲物蓋 | SL17-1 | 13.5 | 1.8 | 1 | 釘結合曲物、木釘4ヵ所、側面「太」焼印 | | | 14 |
| | 身 | | 12.8 | 7.6 | | 1列内3段綴じ、縦のケビキ、側面「太」焼印 | | | |
| 701 | 曲物蓋 | SL17-1 | 14.0 | 1.8 | 3 | 釘結合曲物、木釘4ヵ所、蓋側面「太」焼印 | | | 14 |
| | 身 | | 12.4 | 7.8 | | 1列外3段綴じ、底板との結合木釘5ヵ所 | | | |
| 702 | 曲物 | SL17-3 | 14.7 | 5.4 | | 釘結合曲物、木釘7ヵ所、底板外側炭化 | | | 14 |
| 703 | 曲物 | SL17-2 | 14.0 | 9.9 | | 釘結合曲物、木釘4ヵ所、斜格子のケビキ | | | 14 |
| 704 | 曲物 | SL17-3 | 11.5 | 3.7 | | 釘結合曲物、箍をはめる | | | 14 |
| 705 | 曲物 | SL17-3 | 25.6 | 8.2 | | 3ヵ所結合孔あり、斜格子のケビキ | | | 14 |
| 706 | 曲物箍 | SL17-3 | 22.1 | 3.0 | | 箍 | | | 14 |
| 707 | 曲物側板 | SL17-1 | | | | 縦平行線のケビキあり | | | |
| 708 | 曲物側板 | SL17-1 | | | | 木釘穴あり | | | |
| 709 | 曲物側板 | SL17-3 | | | | 一部斜め平行線のケビキあり | | | |
| 710 | 曲物側板 | SL17-3 | | | | 側板と箍の結合部 | | | |
| 711 | 曲物側板 | SL17-1・2 | | | | 縦平行線のケビキあり | | | |
| 712 | 曲物側板 | SL17-2 | | | | 樺皮紐1ヵ所、結合孔1ヵ所 | | | |
| 713 | 曲物箍 | SL17-2 | | | | 樺皮紐、木釘・木釘穴あり | | | |
| 714 | 曲物箍 | SL17 | | | | 樺皮紐、木釘・木釘穴あり | | | |
| 715 | 曲物底板 | LL43-Ⅱ | 10.4 | 0.9 | | 木釘3 | | D | |
| 716 | 曲物底板 | SL17-3 | 11.5 | 0.6 | | 木釘1、木釘穴1、片面に深い刃痕 | | D | |
| 717 | 曲物底板 | SL17-3 | 12.3 | 0.6 | | 木釘1、木釘穴2 | | D | |
| 718 | 曲物底板 | SL17-2 | 12.4 | 0.8 | | 木釘2、片面若干炭化 | | D | |
| 719 | 曲物底板 | SL17-3 | 11.8 | 0.7 | | 刃痕あり | | D | |
| 720 | 曲物底板 | SL17-2 | 13.2 | 0.6 | | 木釘1、木釘穴1 | | D | |
| 721 | 曲物底板 | SL17-1・2 | 13.2 | 0.7 | | 木釘2、木釘穴2 | | D | |
| 722 | 曲物底板 | SL17-3 | 14.3 | 0.9 | | 木釘3、片面刃痕 | | C | |
| 723 | 曲物底板 | SL17-3 | 14.4 | 0.7 | | 木釘4 | | C | |
| 724 | 曲物底板 | SL17-3 | 14.5 | 1.0 | | 木釘4、両面刃痕 | | C | 14 |
| 725 | 曲物底板 | SL17-3 | 13.9 | 0.7 | | 木釘3、木釘穴2、両面刃痕 | | D | |
| 726 | 曲物底板 | SL17-1 | 17.8 | 0.9 | | 木釘5 | | C | 14 |
| 727 | 曲物底板 | SL17-3 | 15.1 | 0.9 | | 木釘4、漆(?)付着、両面刃痕 | | C | |
| 728 | 曲物底板 | SL17-1 | 15.1 | 0.8 | | 木釘1、木釘穴1 | | C | |
| 729 | 曲物底板 | SL27 | 15.3 | 0.9 | 37 | 木釘5 | | C | |
| 730 | 曲物底板 | SL17-3 | 15.8 | 1.0 | | 木釘7、片面刃痕 | | C | |
| 731 | 曲物底板 | SL17-3 | 15.2 | 0.6 | | 木釘4、縁の一部炭化 | | C | |
| 732 | 曲物底板 | SL17-3 | 15.7 | 0.6 | | 木釘1、木釘穴2、片面刃痕 | | C | |
| 733 | 曲物底板 | SL17-A | 16.8 | 0.6 | | 木釘1、木釘穴1、片面刃痕、側縁は斜めに加工 | | C | |
| 734 | 曲物底板 | SL17-3 | 16.6 | 0.7 | | 木釘4 | | C | |
| 735 | 曲物底板 | SL27 | 16.5 | 0.7 | | 木釘1、木釘穴2、片面刃痕 | | C | |
| 736 | 曲物底板 | SL17-3 | 16.6 | 0.8 | | 木釘2、木釘穴2、片面刃痕 | | C | |
| 737 | 曲物底板 | SL17-3 | 17.3 | 0.8 | | 木釘4、片面刃痕 | | C | |
| 738 | 曲物底板 | SL27 | 17.5 | 0.8 | 171 | 木釘4、片面細い刃痕 | | C | |
| 739 | 曲物底板 | SL17-3 | 17.3 | 1.2 | | 木釘4 | | C | |
| 740 | 曲物底板 | SL17-3 | 17.5 | 0.6 | | 木釘穴2 | | C | |
| 741 | 曲物底板 | SL17-3 | 24.5 | 0.9 | | 木釘1、木釘穴1 | | C | |
| 742 | 曲物底板 | SL27 | 25.8 | 0.8 | 125 | 木釘1、木釘穴1、両面刃痕 | | B | |
| 743 | 曲物底板 | SL17-1 | 20.6 | 1.0 | | 木釘2 | | B | |
| 744 | 曲物底板 | SL17-2 | 24.8 | 1.1 | | 木釘1、木釘穴2 | | B | |
| 745 | 曲物底板 | SL17-3 | 34.2 | 1.1 | | 木釘1、木釘穴1、両面刃痕、片面炭化 | | A | |
| 746 | 曲物柄杓側板 | SL17-3 | | | | 樺皮綴じ、φ8mmの孔 | | | |
| 747 | 折敷側板 | SL27 | | | 154 | 結合孔2ヵ所、縦のケビキ | | | |
| 748 | 折敷側板 | SL27 | | | 25 | 1列上外2段綴じ、樺皮1 | | | |
| 749 | 折敷側板 | SL17-3 | 23.3 | 1.0 | | 樺皮2 | | | |
| 750 | 折敷側板 | SL17-2 | | | | 樺皮2、縦のケビキ、炭化 | | | |
| 751 | 折敷底板 | SL17-1 | | | | 樺皮1、炭化 | | | |
| 752 | 折敷底板 | SL17-3 | | | | 結合孔1ヵ所、片面刃痕、炭化 | | | |
| 753 | 折敷底板 | SL27 | | | 26 | 木釘痕2、片面刃痕 | | | |
| 754 | 折敷底板 | SL17-2 | | | | 結合孔2ヵ所、両面刃痕、炭化 | | | |
| 755 | 折敷底板 | SL17-3 | | | | 楕円形曲物、結合孔3ヵ所 | | | 14 |

| 番号 | 種別 | 出土地点 | 計測値 長さ | 幅 | 厚さ | RW番号 | 備考 | 分類 | 図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 756 | 把手 | SL17-2 | 17.9 | 1.5 | 1.1 | | 両端にホゾ孔 | | 14 |
| 757 | 把手 | SL17-1 | 27.6 | 2.5 | 0.8 | | 両端鉤状 | | 14 |
| 758 | 把手 | SL17-3 | 19.3 | 2.4 | 0.9 | | 両端を出ホゾ風に細める | | 14 |
| 759 | 把手 | SL17-2 | 17.6 | 2.7 | 1.1 | | 両端を出ホゾ風に細める | | |
| 760 | 蓋 | SL17-3 | 20.7 | | 0.9 | 120 | 木釘2、木釘穴3、中央に孔、片面刃痕 | | 14 |
| 761 | 蓋 | SL27 | 18.9 | | 0.7 | | 木釘5、中央に孔、片面刃痕 | | |
| 762 | 蓋 | SL17-3 | 13.2 | | 1.1 | | 中央に孔 | | |
| 763 | 蓋 | SL17-1 | 18.0 | | 0.5 | | 木釘2、木釘穴2、中央に孔 | | |
| 764 | 蓋 | SL17-2 | 9.7 | | 0.7 | | 木釘4、中央に孔 | | |
| 765 | 蓋 | SL17-3 | 11.1 | | 1.9 | | 断面形が台形 | | |
| 766 | 蓋 | SL17-2 | 6.4 | | 0.8 | | 断面形が台形 | | 14 |
| 767 | 蓋 | SL17-1 | 8.4 | | 1.5 | | 木釘6、樺皮を周囲に巻く | | |
| 768 | 蓋 | SL17-2 | 6.8 | | 1.6 | | 木釘7、樺皮を周囲に巻く | | |
| 769 | 箱 | LM44 | (25.9) | 2.1 | 1.1 | | 木釘4、木釘穴1 | | |
| 770 | 箱 | LS36 | (21.2) | 3.1 | 1.1 | | 木釘1、木釘穴3 | | |
| 771 | 箱 | SL17-B | 16.9 | 3.6 | 1.1 | | 木釘6、木釘穴3 | | |
| 772 | 箱 | LQ47 | 17.7 | 1.7 | 0.9 | | 木釘7 | | |
| 773 | 箸 | SL17-3 | 19.5 | 0.5 | 0.2 | | | | |
| 774 | 箸 | SL17-3 | 20.2 | 0.8 | 0.7 | | | | |
| 775 | 箸 | SL17-3 | 19.7 | 0.4 | 0.5 | | | | |
| 776 | 箸 | SL17-3 | 20.2 | 0.7 | 0.7 | | | | |
| 777 | 箸 | SL17-3 | 20.9 | 0.7 | 0.7 | | | | |
| 778 | 箸 | SL17-3 | 20.9 | 0.5 | 0.4 | | | | |
| 779 | 箸 | SL17-3 | 21.2 | 0.7 | 0.3 | | | | |
| 780 | 箸 | SL17-3 | 21.9 | 0.6 | 0.5 | | | | |
| 781 | 箸 | SL17-3 | 22.3 | 0.6 | 0.4 | | | | |
| 782 | 箸 | SL17-3 | 22.3 | 1.0 | 0.9 | | | | |
| 783 | 箸 | SL17-3 | 22.9 | 0.5 | 0.5 | | | | |
| 784 | 箸 | SL17-3 | 23.2 | 0.6 | 0.6 | | | | |
| 785 | 箸 | SL17-3 | 23.2 | 0.4 | 0.4 | | | | |
| 786 | 箸 | SL17-3 | 23.4 | 0.7 | 0.6 | | | | |
| 787 | 箸 | SL17-3 | 24.1 | 0.5 | 0.5 | | | | |
| 788 | 箸 | SL17-3 | 24.6 | 0.5 | 0.5 | | | | |
| 789 | 箸 | SL17-3 | 24.8 | 0.6 | 0.5 | | | | |
| 790 | 箸 | SL17-3 | 25.2 | 0.6 | 0.4 | | | | |
| 791 | 箸 | SL17-3 | 25.1 | 0.6 | 0.4 | | | | |
| 792 | 箸 | SL17-3 | 25.2 | 0.5 | 0.4 | | | | |
| 793 | 箸 | SL17-3 | 25.4 | 0.6 | 0.4 | | | | |
| 794 | 箸 | SL17-3 | 25.4 | 0.7 | 0.6 | | | | |
| 795 | 箸 | SL17-3 | 25.3 | 0.5 | 0.5 | | | | |
| 796 | 箸 | SL17-3 | 25.6 | 0.6 | 0.5 | | | | |
| 797 | 箸 | SL17-3 | 25.9 | 0.7 | 0.4 | | | | |
| 798 | 箸 | SL17-3 | 26.1 | 0.5 | 0.5 | | | | |
| 799 | 箸 | SL17-3 | 26.2 | 0.7 | 0.5 | | | | |
| 800 | 箸 | SL17-3 | 26.3 | 0.6 | 0.5 | | | | |
| 801 | 箸 | SL17-3 | 26.4 | 0.6 | 0.5 | | | | |
| 802 | 箸 | SL17-3 | 27.1 | 0.6 | 0.5 | | | | |
| 803 | 箸 | SL17-3 | 27.3 | 0.5 | 0.5 | | | | |
| 804 | 箸 | SL17-3 | 27.2 | 0.6 | 0.5 | | | | |
| 805 | 箸 | SL17-3 | 26.9 | 0.6 | 0.3 | | | | |
| 806 | 箸 | SL17-3 | 27.2 | 0.5 | 0.5 | | | | |
| 807 | 箸 | SL17-3 | 27.8 | 0.5 | 0.4 | | | | |
| 808 | 箸 | SL17-3 | 28.0 | 0.7 | 0.5 | | | | |
| 809 | 箸 | SL17-3 | 28.3 | 0.7 | 0.5 | | | | |
| 810 | 箸 | SL17-3 | 28.5 | 0.7 | 0.6 | | | | |
| 811 | 箸 | SL17-3 | 28.7 | 0.6 | 0.5 | | | | |
| 812 | 箸 | SL17-3 | 29.5 | 0.6 | 0.4 | | | | |
| 813 | 箸 | SL17-3 | 29.7 | 1.1 | 0.8 | | | | |
| 814 | 箸 | SL17-3 | 29.6 | 0.7 | 0.5 | | | | |
| 815 | 箸 | SL17-3 | 30.0 | 0.6 | 0.5 | | | | |
| 816 | 箸 | SL17-3 | 41.9 | 0.7 | 0.5 | | | | |
| 817 | 斎串 | SL17-3 | 15.1 | 0.8 | 0.6 | | 縦に切り込み | A1 | |
| 818 | 斎串 | SL17-3 | 22.1 | 0.7 | 0.6 | | 縦に切り込み | A1 | |
| 819 | 斎串 | LP53 | 25.3 | 1.7 | 0.6 | | 完形、縦に切り込み、薄い板状 | A1 | 14 |
| 820 | 斎串 | LP53 | 33.0 | 1.0 | 0.3 | | 完形、縦に切り込み、薄い板状 | A1 | |
| 821 | 斎串 | LP53 | 35.1 | 1.3 | 0.5 | | 完形、縦に切り込み、薄い板状 | A1 | |
| 822 | 斎串 | SL17-2 | 17.1 | 0.8 | 0.5 | | 2ヵ所の切り込み | A2 | |
| 823 | 斎串 | SL17-3 | 25.6 | 1.0 | 0.8 | | 2ヵ所の削りかけ | A3 | 14 |
| 824 | 斎串 | LN47 | 25.0 | 2.9 | 0.7 | | 上端背部両側側面にV字状の切り込み | B1 | 14 |
| 825 | 斎串 | LN47 | (23.7) | 3.0 | 0.7 | | 上端背部両側側面にV字状の切り込み | B1 | 14 |
| 826 | 斎串 | SL17 | (18.1) | 1.0 | 0.4 | | 下端折損、上端から切り込み、2ヵ所切り込み | B2 | |
| 827 | 斎串 | SL27 | (21.2) | 1.9 | 0.6 | | 上下端折損、上端から切り込み、中央1ヵ所の切り込み | B2 | |
| 828 | 斎串 | LN47 | (31.8) | 2.0 | 0.6 | | 中央1ヵ所の切り込み | B2 | 14 |
| 829 | 斎串 | LN47 | 32.8 | 2.1 | 0.5 | | 一側面削りかけ | B2 | 14 |
| 830 | 斎串 | LN47 | (34.0) | 1.8 | 0.5 | | 両端折損 | B2 | 14 |
| 831 | 斎串 | SL17-3 | 12.6 | 1.9 | 0.6 | | 下端折損、両側に切り込み | C | |
| 832 | 斎串 | SL17-2 | 12.0 | 1.6 | 0.5 | | 下端折損、圭頭状 | C | |
| 833 | 斎串 | SL17-3 | 12.7 | 1.9 | 0.6 | | 下端折損、圭頭状 | C | |
| 834 | 斎串 | SL17-2 | (17.4) | 1.5 | 0.6 | | 下端折損、両側に削りかけ | C | |
| 835 | 斎串 | SL17-B | (21.5) | 2.0 | 0.5 | | 両側に削りかけ | C | 14 |
| 836 | 斎串 | SL17-3 | (22.5) | 1.8 | 0.9 | | 側面に沿って縦の切り込み | C | 14 |
| 837 | 斎串 | SL17 | (23.3) | 1.6 | 0.7 | | 上端折損 | C | |
| 838 | 斎串 | SL17-3 | (26.9) | 1.5 | 1.0 | | 上端折損、両側に削りかけ | C | 14 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 839 | 斎串 | ＳＬ17-3 | 14.9 | 0.8 | 0.5 | | 側面が圭頭状 | D | |
| 840 | 斎串 | ＳＬ17-2 | (16.0) | 1.2 | 0.9 | | 下端折損、側面を圭頭状 | D | |
| 841 | 斎串 | ＳＬ17-3 | 20.2 | 1.5 | 0.5 | | 下端折損、側面を圭頭状 | D | |
| 842 | 斎串 | ＳＬ17-1 | 23.5 | 0.8 | 0.6 | | 完形、切り込み | E1 | 14 |
| 843 | 斎串 | ＳＬ17-1 | (34.9) | 1.5 | 0.6 | | 上端を斜めに切り落とし | E2 | |
| 844 | 斎串 | ＳＬ17-3 | 23.9 | 3.2 | 0.3 | | 上端折損、圭頭状 | F1 | |
| 845 | 斎串 | ＳＬ17-2 | (44.7) | 3.2 | 1.0 | | 上端折損、圭頭状 | F2 | |
| 846 | 斎串 | ＳＬ17-3 | 15.9 | 0.9 | 0.2 | | 圭頭状 | F2 | |
| 847 | 斎串 | ＬＴ58 | (33.4) | 4.1 | 0.5 | | 上端折損、剣先状 | F2 | 14 |
| 848 | 斎串 | ＳＬ17-3 | 19.6 | 3.1 | 1.1 | | 圭頭状 | F2 | |
| 849 | 斎串 | ＳＬ17 | (22.2) | 3.5 | 1.2 | | 上端折損、圭頭状 | F2 | |
| 850 | 斎串 | ＳＬ17-2 | (29.9) | 2.9 | 0.9 | | 波形、上端折損、下圭頭状、片側に三角の切り欠き | G | 14 |
| 851 | 斎串 | ＳＬ17-2 | 30.8 | 3.3 | 1.0 | | 上端折損、両側に深い切り欠き | G | 14 |
| 852 | 斎串 | ＳＬ17-3 | (22.3) | 1.5 | 0.7 | | 下端折損、Ｖ字状の切り込みあり | G | 14 |
| 853 | 斎串 | ＳＬ17-A | (31.1) | 3.6 | 0.7 | | 下端折損 | G | |
| 854 | 人形 | ＳＬ17 | 16.6 | 3.4 | 0.4 | | 薄板状、浅い線刻で、眉・目・口を表現 | | 14 |
| 855 | 馬形 | ＳＬ27 | 24.6 | 2.7 | 0.5 | | 後部欠損、腹小孔 | | 15 |
| 856 | 馬形 | ＳＬ17 | 25.6 | 3.5 | 0.7 | | 口部欠損 | | 15 |
| 857 | 馬形 | ＳＬ17-2 | 28.2 | 2.1 | 0.5 | | 頭部尖る、腹小孔 | | 15 |
| 858 | 馬形 | ＳＬ17 | 25.0 | 1.9 | 0.6 | | 頭部尖る、腹小孔 | | 15 |
| 859 | 馬形 | ＳＬ17-2 | 14.5 | 2.4 | 0.5 | | 両側欠損 | | 15 |
| 860 | 鳥形 | ＳＬ17-2 | 29.7 | 4.9 | 0.9 | | 頭部尖る、腹小孔 | | 15 |
| 861 | 鳥形 | ＳＬ17 | 13.3 | 2.0 | 0.6 | | 背の部分が窪む | | 15 |
| 862 | 鳥形 | ＳＬ17-3 | 9.6 | 1.9 | 0.3 | | 頭部欠損、刃痕あり | | |
| 863 | 刀形 | ＳＬ17-3 | (24.2) | 3.6 | 2.0 | | 刀身に鍔をはめ込む、圭頭式の柄頭 | | 15 |
| 864 | 刀形 | ＳＬ17-3 | 8.0 | 2.8 | 0.6 | | 鍔、Ｖ字状切り欠き | | 15 |
| 865 | 刀形 | ＳＬ27 | (16.8) | 3.0 | 3.4 | | 円頭形の柄 | | 15 |
| 866 | 刀形 | ＳＬ27 | (9.8) | 2.5 | 3.1 | | 円頭形の柄 | | 15 |
| 867 | 刀形 | ＳＬ27 | (53.8) | 3.1 | 0.8 | | 完形、頭椎風の柄頭 | | 15 |
| 868 | 刀形 | ＳＬ17-3 | (33.7) | 1.9 | 0.2 | | 刀身先端部折損 | | 15 |
| 869 | 刀形 | ＳＬ17-2 | (32.3) | 1.6 | 0.5 | | 柄先端折損、刀身のみ | | 15 |
| 870 | 刀形 | ＳＬ17-3 | (26.5) | 1.9 | 0.4 | | 柄から刀身にかけて | | |
| 871 | 刀形 | ＳＬ17-3 | (28.8) | 2.4 | 0.7 | | 柄から刀身にかけて | | |
| 872 | 刀形 | ＳＬ17-3 | 20.6 | 2.3 | 0.6 | | 刀身部炭化、円頭形 | | |
| 873 | 刀形 | ＳＬ17-3 | (19.5) | 2.1 | 0.6 | | 柄から刀身にかけて | | |
| 874 | 刀形 | ＳＬ17-B | (16.2) | 3.3 | 0.9 | | 円頭形の柄 | | |
| 875 | 刀形 | ＳＬ27 | (7.9) | 3.2 | 0.7 | | 頭椎形の柄 | | |
| 876 | 刀形 | ＳＬ17-3 | (27.1) | 3.5 | 1.1 | | 切り刃造り、刀身のみ | | |
| 877 | 刀形 | ＳＬ17-2 | (33.4) | 3.5 | 0.6 | | 切り刃造り、刀身のみ | | 15 |
| 878 | 刀形 | ＳＬ17-3 | (23.4) | 2.1 | 0.5 | | 切り刃造り、刀身のみ | | |
| 879 | 刀形 | ＳＬ17-3 | (25.1) | 2.2 | 0.5 | | 切り刃造り、刀身のみ | | |
| 880 | 刀形 | ＳＬ17-2 | (16.0) | 1.9 | 0.6 | | 両刃状 | | |
| 881 | 刀子形 | ＳＬ17-2 | 19.6 | 1.2 | 1.0 | | 約半分が刀身 | | 15 |
| 882 | 刀子形 | ＳＬ17-2 | (18.7) | 0.9 | 0.3 | | 鉄刀子状 | | 15 |
| 883 | 刀子形 | ＳＬ17-3 | 17.7 | 0.8 | 0.4 | | 漆付着 | | 15 |
| 884 | 鏃形 | ＳＬ17 | 21.6 | 0.9 | 1.0 | | 棒状、頭部を有頭状に | | 15 |
| 885 | 鏃形 | ＳＬ17 | (16.7) | 1.1 | 0.4 | | 薄板状、三角形の頭部 | | 15 |
| 886 | 不明形代 | ＳＬ17-2 | 14.9 | 1.1 | 0.6 | | 法具の錫杖形 | | 15 |
| 887 | 不明形代 | ＳＬ17-3 | (17.0) | 3.1 | 0.5 | | 板状、先端尖る | | |
| 888 | 不明形代 | ＳＬ17-1 | (15.0) | 3.9 | 0.7 | | 板状、先端尖る | | |
| 889 | 不明形代 | ＳＬ17-2 | 8.6 | 0.9 | 0.9 | | 衣笠に似る、枝4本 | | 15 |
| 890 | 不明形代 | ＳＬ17-B | (24.5) | 0.7 | 0.9 | | 枝6本、炭化している | | 15 |
| 891 | 不明形代 | ＳＬ17-3 | (8.8) | 3.5 | 0.5 | | 部材(?)、楕円形 | | |
| 892 | 不明形代 | ＳＬ17-1 | 8.8 | 2.4 | 0.8 | | 鳥形(?)、三角形 | | |
| 893 | 不明形代 | ＳＬ17-1 | 12.3 | 1.7 | 0.2 | | 薄板を波状に | | |
| 894 | 不明形代 | ＳＬ17-2 | 17.2 | 3.8 | 1.1 | | 直線的な部分は薄くなる | | |
| 895 | 不明形代 | ＳＬ17-3 | (14.7) | 1.9 | 1.3 | | 鳥形? | | |
| 896 | 不明形代 | ＳＬ17-B | (13.6) | 2.1 | 0.8 | | 先端欠損 | | |
| 897 | 不明形代 | ＳＬ17-3 | (36.2) | 4.0 | 1.1 | | 上部一側面断裂 | | |
| 898 | 柱状材 | ＳＬ17-3 | (58.4) | 19.2 | 3.5 | | 先端三角形状 | A | |
| 899 | 柱状材 | ＳＬ27 | (99.3) | 10.2 | 3.5 | 49 | 先端山形状 | A | |
| 900 | 柱状材 | ＳＬ17-3 | (87.5) | 15.0 | 4.7 | | チョウナ痕あり | A | |
| 901 | 柱状材 | ＳＬ27 | (135.5) | 14.5 | 5.7 | 5 | 先端山形状 | A | |
| 902 | 柱状材 | ＳＬ17-3 | (127.5) | (14.5) | 4.3 | | 先端三角形状、チョウナ痕あり | A | |
| 903 | 柱状材 | ＳＬ17-3 | (135.6) | 13.1 | 4.2 | | 板材状 | B | 16 |
| 904 | 柱状材 | ＳＬ17-3 | (97.8) | 8.9 | 4.2 | | 剣先状 | B | |
| 905 | 柱状材 | ＳＬ17-1 | (98.3) | 21.1 | 4.5 | 25 | 矢板状 | B | |
| 906 | 柱状材 | ＳＬ17-2 | (63.1) | 11.1 | 3.5 | | チョウナ痕あり | B | |
| 907 | 柱状材 | ＳＬ17-2 | (186.5) | 11.5 | 4.0 | | 剣先状 | B | |
| 908 | 柱状材 | ＳＬ17-2 | (161.5) | 20.5 | 6.2 | 17 | 剣先状 | B | 16 |
| 909 | 柱状材 | ＳＬ17-2 | (139.5) | 19.0 | 3.3 | | 板材状、チョウナ痕明瞭 | B | 16 |
| 910 | 柱状材 | ＳＬ17-3 | (143.7) | 12.9 | 3.1 | | 板材状 | B | |
| 911 | 柱状材 | ＳＬ17-2 | (131.8) | (16.8) | 8.1 | | 角材状 | B | |
| 912 | 柱状材 | ＳＬ27 | 117.7 | 11.5 | 5.7 | 212 | 角材状、大きな刃痕あり | B | 16 |
| 913 | 柱状材 | ＳＬ17-3 | 110.7 | 14.1 | 7.6 | | 角材状 | B | |
| 914 | 柱状材 | ＳＬ27 | (153.2) | 19.2 | 5.8 | 50.64 | 27.4×10.2㎝(推定)程の欠損あり、孔9×38㎝、板材状 | C | |
| 915 | 柱状材 | ＳＬ17-B | (87.5) | 13.7 | 3.6 | | 四角形孔(内1つ欠損)孔間22.5㎝、孔6×9㎝ | C | |
| 916 | 柱状材 | ＳＬ17-2 | (98.7) | 12.0 | 3.4 | | 四角形孔、丸穴1、直線上に並ばず、孔3×5㎝ | C | |
| 917 | 柱状材 | ＳＬ17-2 | 92.5 | 14.1 | 6.0 | | 四角形孔(内1つ欠損)、孔間23.3㎝、孔6×9㎝、角材状 | C | |
| 918 | 柱状材 | ＳＬ17-2 | (107.8) | 17.2 | 4.9 | | 四角形孔(内1つ欠損)、孔間32.6㎝、孔7×9㎝、角材状 | C | 16 |
| 919 | 柱状材 | ＳＬ17-3 | (112.5) | 10.8 | 4.4 | | 四角形孔(内1つ欠損)、孔間20.3㎝、孔6×12㎝、角材状 | C | 16 |
| 920 | 柱状材 | ＳＬ27 | (96.0) | 16.5 | 4.8 | 15 | 四角形孔(内1つ欠損)、孔間32.8㎝、孔8×15㎝、板材状 | C | |
| 921 | 柱状材 | ＳＬ17-2 | (92.5) | 17.1 | 4.9 | 8 | 四角形孔(内1つ欠損)、孔間22.2㎝、孔6×9㎝、板材状 | C | 16 |
| 922 | 柱状材 | ＳＬ27 | (196.3) | 6.0 | 4.3 | 40 | 切り込み、12.5㎝程溝状3ヵ所、刃痕あり | D | |
| 923 | 柱状材 | ＳＬ27 | (244.5) | 4.5 | 2.0 | 128 | | D | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 924 | 柱状材 | ＳＬ27 | (254.9) | 5.8 | 5.7 | 46 | 全体的炭化、端部著しい | D | |
| 925 | 板状材 | ＳＬ17 | 371.0 | 21.0 | 4.2 | 26 | 右側縁部4ヵ所、左側縁部1ヵ所、小孔あり | | |
| 926 | 板状材 | ＳＬ17-B | 328.0 | (10.4) | 1.4 | | 一端片側腐蝕、ホゾ穴(2.5×2.5cm)あり | | |
| 927 | 板状材 | ＳＬ27 | 261.8 | 14.3 | 3.1 | 176 | 規格サイズか(?) | | |
| 928 | 板状材 | ＳＬ27 | 262.5 | 14.2 | 2.3 | 121 | 927とほぼ同サイズ | | |
| 929 | 板状材 | ＳＬ17-1 | (298.0) | 14.9 | 1.5 | 3 | 先端折損、ホゾ穴(1.4×1.0cm)あり | | |
| 930 | 板状材 | ＳＬ27 | 270.5 | (8.5) | 1.3 | 204 | ホゾ穴あり | | |
| 931 | 板状材 | ＳＬ17-1 | (267.2) | 16.9 | 2.3 | 17 | 先端腐蝕 | | |
| 932 | 板状材 | ＳＬ17-1 | (244.5) | 24.0 | 4.5 | | 刃痕あり、部分的炭化 | | |
| 933 | 板状材 | ＳＬ17-1 | (249.8) | 16.7 | 1.8 | 7 | 先端腐蝕、ホゾ穴(1.7×1.1cm)あり | | |
| 934 | 板状材 | ＳＬ27 | 234.5 | 15.0 | 1.3 | 139 | ほぼ完形、ホゾ穴(1.3×1.0cm)あり | | |
| 935 | 板状材 | ＳＬ17-B | (222.3) | 15.8 | 1.4 | | 一端折損、ホゾ穴(2.3×1.7cm)あり | | |
| 936 | 板状材 | ＳＬ17-B | (214.4) | (12.3) | 0.9 | | 一端腐蝕、φ1.0cmホゾ穴あり | | |
| 937 | 板状材 | ＳＬ17-B | (212.7) | 14.5 | 1.3 | | 一端折損 | | |
| 938 | 板状材 | ＳＬ27 | (196.8) | 14.8 | 3.0 | 113 | 片端折損 | | |
| 939 | 板状材 | ＳＬ17-3 | 194.2 | 14.2 | 1.2 | | ホゾ穴あり | | |
| 940 | 板状材 | ＳＬ17-1 | (170.8) | 10.0 | 2.2 | | 先端腐蝕、ホゾ穴(2.0×1.1cm)あり | | |
| 941 | 板状材 | ＳＬ17-3 | (157.0) | 15.4 | 1.3 | | 一端折損 | | |
| 942 | 板状材 | ＳＬ17-1 | (87.8) | 17.8 | 1.5 | 10 | 先端腐蝕、ホゾ穴(1.8×1.4cm)、一部炭化 | | |
| 943 | 板状材 | ＳＬ17-B | (95.7) | 15.2 | 1.4 | | 両端折損、ホゾ穴2個有り | | 16 |
| 944 | 板状材 | ＳＬ17-3 | (33.6) | (11.4) | 2.0 | | 一端折損、ホゾ穴(5.3×5.0cm)あり | | |
| 945 | 板状材 | ＳＬ17-2 | (62.1) | 8.6 | 1.3 | | 一端折損、ホゾ穴(1.5×1.2cm)あり | | 16 |
| 946 | 板状材 | ＳＬ17-B | (53.2) | (11.6) | 1.1 | | ホゾ穴2個あり | | |
| 947 | 板状材 | ＳＬ17-2 | (144.3) | 14.0 | 2.0 | 4 | 一端折損、一端三角状に切断、丸いホゾ穴あり | | 16 |
| 948 | 板状材 | ＳＬ17-3 | 140.7 | 14.6 | 1.6 | | 一端三角状に切断 | | |
| 949 | 板状材 | ＳＬ17-2 | (115.4) | (6.1) | 1.2 | | 一端三角状に切断、無数の刃痕あり | | |
| 950 | 板状材 | ＳＬ17-B | (112.1) | (8.5) | 1.5 | | 一端三角状に切断 | | |
| 951 | 板状材 | ＳＬ17-3 | (127.6) | 15.7 | 2.4 | | 一端腐蝕、三角形状 | | |
| 952 | 板状材 | ＳＬ17-3 | (90.0) | 16.4 | 1.6 | | 三角形状 | | |
| 953 | 板状材 | ＳＬ17-3 | (43.4) | 12.1 | 1.1 | | 反対方向から三角形状 | | |
| 954 | 板状材 | ＳＬ27 | (67.5) | 10.1 | 1.1 | 76 | 下端を杭状に尖らす(2次利用)一部炭化 | | |
| 955 | 板状材 | ＳＬ17-2 | (75.0) | 12.1 | 1.2 | | 一端を斜め切断(2次利用) | | |
| 956 | 板状材 | ＳＬ27 | (96.0) | 19.0 | 1.3 | 110 | 一端腐蝕 | | |
| 957 | 板状材 | ＳＬ17-2 | (65.8) | (13.3) | 1.2 | | 両端切断(2次利用)、刃痕あり | | |
| 958 | 板状材 | ＳＬ17-2 | (44.9) | (8.8) | 1.0 | | 両端切断(2次利用)、切り込みあり | | |
| 959 | 板状材 | ＲＱ54 | 111.7 | 22.5 | 3.7 | 1 | 丸太の表面近くを使用 | | |
| 960 | 板状材 | ＳＬ17-B | 149.3 | 25.4 | 1.7 | | 二又になるも一方が欠損 | | |
| 961 | 橋脚 | ＳＬ27 | (177.4) | 27.5 | 13.3 | 71 | 三面にチョウナ痕あり | | 16 |
| 962 | 杭 | ＳＬ27 | (35.3) | 2.9 | 1.5 | | 三面から尖らせる | | |
| 963 | 杭 | ＳＬ17-B | 44.6 | 3.4 | 2.7 | | 三面から尖らせる、内一面は段状 | | |
| 964 | 杭 | ＳＬ17-2 | 50.1 | 2.6 | 1.9 | | 両端とも多面から尖らせる、一端炭化 | | |
| 965 | 杭 | ＳＬ27 | (56.6) | 5.2 | 2.6 | | 一端に切り込み | | |
| 966 | 杭 | ＳＬ27 | (52.4) | 4.0 | 2.9 | | Ｖ字状に逆方向に切り込み | | |
| 967 | 杭 | ＳＬ17-2 | 59.1 | 4.8 | 3.1 | | 一端Ｖ字状、他端一面から尖らせる | | 16 |
| 968 | 杭 | ＳＬ17-1 | (79.6) | 3.7 | 2.9 | | 三面から尖らせる | | |
| 969 | 杭 | ＳＬ27 | (88.1) | 5.7 | 2.4 | 17 | Ｖ字状に尖らせる、先端炭化 | | 16 |
| 970 | 杭 | ＳＬ17-1 | (63.1) | 7.3 | 3.2 | | 片面から段状に尖らせる | | |
| 971 | 杭 | ＳＬ17-1 | (62.5) | 6.9 | (3.5) | | 片面から段状に尖らせる | | |
| 972 | 杭 | ＳＬ17-2 | 113.6 | 5.0 | 3.5 | 5 | 角状 | | |
| 973 | 杭 | ＳＬ17-1 | (117.1) | 5.9 | 2.5 | | Ｖ字状に尖らせる | | |
| 974 | 杭 | ＳＬ17-3 | 144.7 | 2.3 | 1.4 | | 多面から尖らせる | | |
| 975 | 杭 | ＳＬ27 | (88.4) | 5.2 | 2.8 | 17 | Ｖ字・段状に尖らせる | | |
| 976 | 杭 | ＳＬ17-2 | 88.3 | 3.4 | 2.8 | | 一端四面・他端は一面から尖らせる | | |
| 977 | 杭 | ＳＬ17-3 | (48.4) | 5.0 | 4.2 | | 二面から尖らせる | | |
| 978 | 杭 | ＳＬ17-1 | (27.3) | 5.3 | 2.5 | | 片面から尖らせる | | |
| 979 | 杭 | ＳＬ27 | 58.0 | 6.4 | 2.4 | 69 | 二面から尖らせる | | |
| 980 | 杭 | ＳＬ17-B | (115.4) | 5.1 | 1.0 | | 片方から段状に尖らせる | | |
| 981 | 杭 | ＳＬ17-2 | 69.8 | | φ0.6 | | 多面から尖らせる | | 16 |
| 982 | 杭 | ＳＬ17-3 | 45.0 | | φ6.5 | | 四面から尖らせる、丸太の表面部分 | | |
| 983 | 杭 | ＳＬ27 | (122.4) | | φ3.9 | 142 | 多面から串状に尖らせる | | |
| 984 | 杭 | ＳＬ17-2 | (103.0) | | φ4.0 | 13 | 三面から尖らせる | | |
| 985 | 杭 | ＳＬ17-2 | (27.9) | 2.8 | 1.5 | | 上部焼失 | A | |
| 986 | 杭 | ＳＬ17-2 | (43.1) | 1.7 | 1.2 | | 先端炭化 | A | |
| 987 | 杭 | ＳＬ17-2 | (51.7) | 2.0 | 2.0 | | 上部折損 | A | |
| 988 | 杭 | ＳＬ17-1 | (33.9) | 2.0 | 1.5 | | 上部折損 | B | |
| 989 | 杭 | ＳＬ17-1 | (42.0) | 1.9 | 1.1 | | 上部折損 | B | |
| 990 | 杭 | ＳＬ17-2 | (41.7) | 2.6 | 2.6 | | 上端折損、先端四面切断 | B | |
| 991 | 杭 | ＳＬ17-2 | (47.2) | 5.7 | 0.7 | | 上部折損 | C | |
| 992 | 杭 | ＳＬ17-2 | (32.4) | 2.8 | 0.6 | | 上部折損 | C | |
| 993 | 杭 | ＳＬ17-2 | (29.6) | 2.0 | 1.0 | | 上部折損、刃痕あり | C | |
| 994 | 杭 | ＳＬ17-3 | (28.5) | 3.5 | 0.6 | | 板状 | D | |
| 995 | 杭 | ＳＬ17-3 | (28.9) | 5.2 | 1.0 | | 上部折損、刃痕あり | D | |
| 996 | 杭 | ＳＬ27 | (36.1) | 4.3 | 0.9 | 6 | 上部折損 | D | |
| 997 | 杭 | ＳＬ17-3 | (30.1) | 1.5 | 0.9 | | 上部折損 | E | |
| 998 | 杭 | ＳＬ17-3 | (18.2) | 1.7 | 0.9 | | 上部折損 | E | |
| 999 | 矢板 | ＳＡ57 | (69.4) | 13.2 | 2.6 | 4 | Ｖ字状、段状 | | |
| 1000 | 矢板 | ＬＰ53 | (80.4) | (20.9) | 1.7 | 3 | Ｖ字状 | | 16 |
| 1001 | 矢板 | ＳＡ57 | (114.7) | 12.4 | 3.8 | 9 | Ｖ字状 | | |
| 1002 | 矢板 | ＳＡ57 | (107.3) | 14.5 | 6.0 | 10 | Ｖ字状、厚め | | |
| 1003 | 矢板 | ＳＡ57 | (118.2) | 21.3 | 3.3 | 7 | Ｖ字状、丸太の表面部分 | | |
| 1004 | 矢板 | ＳＡ57 | (116.1) | 24.7 | 5.6 | 12 | Ｖ字状、丸太の表面部分 | | |
| 1005 | 矢板 | ＳＡ57 | (90.3) | 12.7 | 2.1 | 2 | 先端Ｖ字状、一方が他方より長い | | |
| 1006 | 串 | ＳＬ17-2 | (8.4) | 0.8 | 0.9 | | 先端折損、先端を一方向より切断 | A | 17 |
| 1007 | 串 | ＳＬ17-3 | (10.0) | 1.1 | 1.0 | | 先端焼失 | A | 17 |
| 1008 | 串 | ＳＬ17-3 | 11.1 | | 0.5 | | 先端を一方向より切断 | A | |